

JICA ボランティア事業の流れ

JICAが実施するボランティア事業の流れの概要は以下のとおり。
なお、今回の委託業務は「6」に該当する。

1 要望調査

国際約束に基づき開発途上国にてボランティア派遣の要望を調査。

2 要請受付・取りまとめ

上記調査を受けて当該開発途上国から提出されたボランティア派遣要望を取りまとめる（これを各国からの「要請」という）。

3 要請情報公開・募集

年2回の募集期（春・秋）に、各国の要請を各種媒体（ウェブ、冊子等）で公開し、各要請に対応できる開発途上国への派遣者を募集する。

募集時期には募集説明会、これに係る広報及び、通年でJICA ボランティアセミナーを実施する。これらの業務が今回委託する業務にあたる。

4 募集受付・選考

規定の必要書類提出により、一次選考（書類審査及び健康診断）を実施し、二次選考（面接など）を経て合格者を決定する。

5 技術補完研修

合格レベルには達しているものの、技術が若干の範囲において不足している合格者に対し、当該技術の補完研修を実施する。

6 派遣前訓練／研修

原則として全合格者を対象に、現地語、国際協力の意義等、海外協力活動に不可欠な技術・知識を習得させる。

7 派遣前諸業務

訓練／研修修了者について、派遣手続及び各人の所在地の地方自治体等への出発報告（表敬）等を行なう。

8 派遣・海外協力活動

訓練／研修修了者を開発途上国に派遣する。派遣されたボランティアは当初の要請内

容に基づきながらも現実の状況に対処して、海外協力活動を実施する。JICA は各派遣国の在外事務所を窓口として、ボランティアの活動を支援する。

9 帰国後諸業務

帰国したボランティアを対象に、ボランティア経験の社会還元や進路についてのガイダンスを実施する。また、全国に23名の進路カウンセラーを配置し、進路開拓を支援する。

10 社会還元・啓発業務

JICA ボランティア事業の目的の一つであるボランティア経験の社会還元を支援するとともに、ボランティア事業について広報を行ない、新たな参加者を確保するための啓発を行なう。

11 企画調査員（ボランティア）関係業務

企画調査員（ボランティア）はJICA との契約に基づいてボランティア派遣国に派遣され、JICA の在外事務所にてボランティア関係業務を職員とともに担当する。かかる企画調査員（ボランティア）を国内にて募集、選考、研修のうえ派遣する。

2014 年 4 月
国際協力機構 (JICA)
青年海外協力隊事務局

2014(平成 26)年度ボランティア派遣前訓練実施方針

-青年海外協力隊及びシニア海外ボランティア(長期派遣者)用-

第1章 総則

1. ボランティア事業の目的

青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、日系社会青年ボランティア、日系社会シニア・ボランティア(以下、「JICA ボランティア」又は「ボランティア」という。)事業は、独立行政法人国際協力機構法第 13 条第 1 項第 4 号の「開発途上地域の住民を対象として当該開発途上地域の経済及び社会の開発又は経済の復興に協力することを目的とする国民等の協力活動を促進し、及び助長する」に基づき展開している事業である。

JICA ボランティア活動の基本姿勢は「現地の人々と共に」という言葉に集約され、JICA ボランティアは派遣された国々の人々と共に生活し、彼らの言葉を話し、相互理解を深め、彼らの自助努力を促す形で協力活動を行うことを目的としている。

2. 本実施方針の対象

JICA ボランティア事業における 4 ボランティアのうち、本実施指針の対象は青年海外協力隊およびシニア海外ボランティアの長期派遣者とする(ただし、語学免除者は除く)。ここで対象としない語学免除者および短期ボランティアの研修、さらに日系社会ボランティアの派遣前訓練については、別途定める。

3. 訓練の目的

青年海外協力隊(以下、「JOCV」という。)及びシニア海外ボランティア(以下、「SV」という。)は、日本とは異なる自然・社会条件のもとで、現地の人々と協力活動を展開するために、「JICA ボランティアに必要な能力・適性を身に付ける」必要がある。

JICA は、応募者の選考を行い、①ボランティアとしての適性、②心身の健康、③技術・技能、ならびに④語学訓練を受けるために必要な素養を有していると認められた者(以下、「ボランティア候補者」又は「候補者」という。)に対し、派遣前訓練を実施する。ボランティア候補者は派遣前訓練を通じ、「JICA ボランティアに必要な能力・適性を身に付ける」ものとする。具体的には、“青年海外協力隊精神”の理解および実践力、異文化(他者)理解・適応力、社会人基礎能力とマネジメント力、危機管理能力を身に付けることとする。

4. 訓練の方法

(1) 集団合宿制訓練

上記 2. の目的を達成するため、集団合宿制による集中的、効率的な訓練を実施する。

集団合宿制訓練の実施により以下の訓練効果が期待される。

- 1) 任国で必要となる言語の習慣化及び規則正しい生活
- 2) 集団生活による相互研鑽を通じた人間関係の構築、ボランティアに相応しい姿勢

(2) 合同訓練

訓練は JOCV と SV が合同で行うこととする。合同訓練実施の背景及び目的は、以下のとおり。

2 つのボランティア事業は、その成り立ちが違うことから、制度上の違いはあるが、その目的とするところは同じである。すなわち、開発途上地域の住民と一体となって当該国の経済及び社会の発展、復興に協力したいという奉仕の精神を持ち、協力活動に参加することである。

派遣前訓練を通じ、開発途上地域でボランティア活動を行う者同士、寝食を共にして、訓練期間中に相互に良い意味での刺激を受け、切磋琢磨することで訓練効果の向上、更には、在外での協働作業がより円滑になることが期待できるため、合同で訓練を実施する。

第2章 派遣前訓練

1. 訓練の実施場所

派遣前訓練の実施場所は、原則として二本松及び駒ヶ根の青年海外協力隊訓練所とする。なお、派遣前訓練の実施にあたってはその一部を外部に委託する。

2. 訓練日程(訓練日程表は別添 1 参照のこと)

(1) JOCV: 70 日間

隊次	訓練期間
1 次隊	平成 26 年 4 月 10 日(木) ～ 平成 26 年 6 月 18 日(水)
2 次隊	平成 26 年 7 月 10 日(木) ～ 平成 26 年 9 月 17 日(水)
3 次隊	平成 26 年 10 月 9 日(木) ～ 平成 26 年 12 月 17 日(水)
4 次隊 ^{注1}	平成 27 年 1 月 6 日(火) ～ 平成 27 年 3 月 16 日(月)

(2) SV: 35 日間

隊次	訓練期間
1 次隊	平成 26 年 4 月 10 日(木) ～ 平成 26 年 5 月 14 日(水)
2 次隊	平成 26 年 7 月 10 日(木) ～ 平成 26 年 8 月 13 日(水)
3 次隊	平成 26 年 10 月 9 日(木) ～ 平成 26 年 11 月 12 日(水)
4 次隊 ^{注1}	平成 27 年 1 月 6 日(火) ～ 平成 27 年 2 月 10 日(火)

3. 訓練の構成

派遣前訓練は以下の 6 つのコースから構成される。各コースの概要・目的は以下のと

おりであり、この目的を達成するために、それぞれのコースの下に「単元」、そして、その下に必要な「講座」を設けている。派遣前訓練の講座一覧表は別添 2、各コースを構成する単元の目的、講座のシラバス(講座の達成目標、内容を定めたもの)は別添 5 参照のこと。

注 2: コースは派遣前訓練を構成する講座群の大きなまとまりを指し、コースの下に単元、単元の下に最少単位である講座という構成になる。

コース	概要・目的
A. 語学	任地で活動するために必要となる語学の基礎的知識と実践力を身に付ける。
B. 活動手法	現地で活動する際に活用できる手法を学び、学んだ内容をグループワークや所外活動等で実践することで、現地で活用できるようになることを目指す。
C. 健康管理・安全管理	任地での活動の基礎となる体力、健康管理と安全管理に関する知識を身に付ける。
D. 社会的多様性理解・活用力	ボランティアに必要な心構えを身に付けると同時に、任地の事情を理解し、現場に適応できるようになることを目指す。
E. 生活班活動	派遣前訓練での共同生活を通して、ボランティアに必要な態度や心構えを身に付ける。
F. 各種オリエンテーション	訓練所の概要や規則、手続きを理解する。赴任手続き、赴任前に行う各種行事の説明などを行い、赴任の準備を整える。

4. 訓練修了評価

(1) JOCV

1) 評価項目

評価は、JICA ボランティア事業の理念に則り、派遣国におけるボランティア活動の実施の可否の観点から、訓練中の能力向上の度合い、必要な知識の習得状況等を語学、ボランティア適性の各項目により評価する。具体的には語学、ボランティア適性、講座テスト、レポートについて、所定のレベルに到達した者を訓練修了とする。

2) 訓練修了評価項目及び基準

評価項目及び修了基準は以下のとおりである。

① 語学

語学の修了基準については、原則としてレベル 7(ボランティアとして派遣するのに必要な基礎力を備えたレベル)以上とする。詳細は、「派遣前語学訓練実施指針」、「最終試験ガイドライン」及び「ポートフォリオ評価ガイドライン」により定める。

評価項目	修了基準
1. 語学	レベル 1～7

② ボランティア適性

ボランティアに求められる行動特性をボランティア適性として定めて評価する。評価の項目および JICA ボランティアに求められる能力・適性は以下とおりである。

項目	JICA ボランティアに求められる能力・適性
1.青年海外協力隊精神の理解および実践力	1-1.JICA ボランティアとしての使命感
	1-2.国際協力及びボランティア事業の理解
2.ボランティア基礎力	2-1.主体性
	2-2.協調性
3.ボランティア実務能力	3-1.発信力
	3-2.マネジメント力
4.異文化(他者)理解・適応力	4-1.日本人理解力
	4-2.異文化理解の適応
5.危機管理能力	5-1.健康管理能力
	5-2.安全管理能力

なお、詳細な評価項目、評価配点、評価の手段、評価のポイント、修了基準等の詳細は、別添 3 のとおり。

③ 講座テスト

単元	参考講座等
1. JICA ボランティア基礎講座(100点) ・ボランティア事業の概要、事業理念、目標などについて ・ODA の形態、分類、構造、JICA 事業について ・JICA の人間の安全保障(概念、視点など)について ・環境、ジェンダー、HIV/エイズ	「JICA ボランティア事業の理念と目標」「国際関係と日本の国際協力」「JICA 事業概要」、JICA-Net による事前学習など
2. 社会的多様性理解(100点) ・講座「異文化適応概論」「世界の宗教理解」他応用問題	「異文化適応概論」「世界の宗教理解」など

<p>3. 健康管理(50点) ・狂犬病、予防接種、経口感染症、マ ラリア、デング熱、破傷風、精神衛 生、日本人の疾病動向、生活習慣 病</p> <p>4. 安全管理(50点) ・安全管理(交通安全に対する意識、 安全対策など)について</p>	<p>「感染症」「日本人の疾病動向と健康管理」 (講座)、「感染症の基礎知識と対応」(資料) など</p> <p>「海外における安全対策(治安・犯罪対 策)」、「海外における交通安全対策」など</p>
修了基準	300点満点の180点以上を合格とする。基準に満たない場合は追試を課す。

(2)SV

講座テストおよびレポートにおいて所定の基準をクリアした場合、訓練修了とする。講座テストの内容は以下のとおり。

単元	参考講座等
<p>1.健康管理(50点) ・狂犬病、予防接種、経口感染症、マ ラリア、デング熱、破傷風、精神衛 生、日本人の疾病動向、生活習慣病</p> <p>2.安全管理(50点) ・安全管理(交通安全に対する意識、 安全対策など)について</p>	<p>「感染症」「日本人の疾病動向と健康管理」 (講座)、「感染症の基礎知識と対応」(資 料)など</p> <p>「海外における安全対策(治安・犯罪対 策)」、「海外における交通安全対策」など</p>
修了基準	100点満点の60点以上を合格とする。基準に満たない場合は追試を課す。

なお、語学については、入所前に要請で求められる活動使用言語のレベルを既にクリアしていることから修了評価項目とはしない。ただし、研修効果を測定するために訓練修了前に確認テストを行う。

(3)訓練修了判定会議

上記(2)の修了評価に基づき、特定の候補者について、ボランティア適性の観点から派遣前訓練修了の可否を個別に判断する必要がある場合、訓練修了判定会議を開催し、関係者で協議の上、最終的な可否を決定する。訓練修了判定会議は「訓練修了判定会議の実

施について」(平成 24 年 4 月 9 日付決裁 JICA(JV)4-09009)に則り開催する。

(4) 訓練記録簿

訓練修了評価結果は、訓練期間中の取組状況(各種委員、課業・朝の集い出欠状況、特記事項)等と合わせて訓練記録簿に記載の上、在外事務所と共有する。訓練記録簿は別添 4 参照のこと。

5. 訓練規則

任国での生活・活動に必要な行動規範及びボランティアとして相応しいマナーと品位等の向上並びに訓練の効果、効率的な運営を図るため、訓練規則を別に定める。

6. その他

(1) 訓練期間中のボランティアの位置付け及び合意書について

訓練期間中の候補者は派遣候補者と位置付け、訓練開始時に訓練所長との間で「派遣前訓練に関する合意書」を締結する。4.の訓練修了評価に基づき、所定のレベルに達し訓練を修了した候補者と青年海外協力隊事務局長との間で「JICA ボランティア派遣に関する合意書」を締結した後、JICA ボランティアとしての身分が確定する。

(2) 面談

① JOCV: 目標管理面談

目標管理面談は入所時、中間時、終了時の 3 回実施する。別途定める「ボランティア適性評価表」に記載される JICA ボランティアに求められる能力・適性について、訓練入所時に候補者が自己評価し、それを元に面談を行う。各段階の面談内容は以下のとおり。

入所時: 候補者が記入した、候補者が弱点と認識しており、派遣前訓練において特に強化したい能力を自己評価し、これについて目標管理面談員(以下、「面談員」という。業務委託契約の要員が務める)と確認する。面談員は候補者の能力を向上させるための具体的な手法等について適切なアドバイスを行う。

中間時: 候補者がこれまでの取り組みを振り返り、弱点の強化の度合いの自己評価を行う。面談員は能力向上の度合いを確認し、必要に応じて計画の修正を促す。

終了時: 候補者と面談員の双方で、訓練期間中を通じた能力向上の度合を確認する。併せて、派遣後の能力強化計画について聴き取り、適切なアドバイスをを行う。

② SV: 個人面談

個人面談は入所時、終了時の 2 回実施する。各段階の面談内容は以下のとおり。

入所時: ボランティア参加の動機と訓練での抱負、訓練や派遣に向けて悩みや不安がないか等を確認する。

終了時: 訓練への取り組み状況の総括、派遣に向けての心構えや任国における活動の抱負、訓練所に対する要望等を確認する。

(3) 在外事務所、支所等への申し送り

日常の訓練生活等を通じ、ボランティア適性等に支障があり、指導が必要と判断された候補者に対し、所長が指導を行い、経過を観察する。観察の結果、訓練未修了の措置に至らない場合、在外事務所、支所等への申し送り事項とする。

以 上

【別添資料】

- 別添1 : 派遣前訓練日程表
- 別添2 : 派遣前訓練講座一覧表
- 別添3 : ボランティア適性評価表
- 別添4-1 : 訓練記録簿(JOCV)
- 別添4-2 : 訓練記録簿(SV)
- 別添5 : 派遣前訓練シラバス

JOCV派遣前訓練日程

日数 曜日	時間			1	2	3	4	5
		月	火	水	木	金	土	日
week1	1時限	08:45-09:35				所長講話①	語学授業1	語学授業3
	2時限	09:50-10:40				派遣前訓練 オリエンテーション②	語学授業2	語学授業4
	3時限	10:50-11:40				語学オリエンテーション	派遣前訓練 オリエンテーション④	語学授業5
	4時限	13:00-13:50			受付	クラス編成テスト	JICAボランティア事業の理念 と目標(局長講話)	目標管理 (ボランティア活動の流れ紹介)
	5時限	14:00-14:50			入所式	クラス編成テスト	JICAボランティア事業の理念 と目標(局長講話)	目標管理 (ボランティア活動の流れ紹介)
	6時限	15:10-16:00			派遣前訓練に関する合意書の 説明	診療室オリエンテーション	自己紹介	体カテスト①
	7時限	16:10-17:00			派遣前訓練 オリエンテーション①	派遣前訓練 オリエンテーション③	自己紹介	体カテスト①
	身辺整理	17:00-18:00			班別ミーティング		自己紹介	
	自主計画時間	19:00-20:00						
	自主計画時間	20:00-21:00						
自主計画時間	21:00-22:30							
備考								
日数		6	7	8	9	10	11	12
曜日		月	火	水	木	金	土	日
week2	1時限	08:45-09:35	語学授業6	語学授業10	語学授業13	語学授業18	語学授業22	語学授業26
	2時限	09:50-10:40	語学授業7	語学授業11	語学授業14	語学授業19	語学授業23	語学授業27
	3時限	10:50-11:40	語学授業8	語学授業12	語学授業15	語学授業20	語学授業24	ボランティアスピリット 意見交換会①
	4時限	13:00-13:50	語学授業9	貿易ゲーム	語学授業16	語学授業21	語学授業25	スポーツ大会
	5時限	14:00-14:50	処遇・制度オリエンテーション	貿易ゲーム	語学授業17	目標管理(目標管理概論)	避難訓練	スポーツ大会
	6時限	15:10-16:00	処遇・制度オリエンテーション	予防接種/語学自習1	派遣の仕組と支援体制 オリエンテーション	目標管理(目標管理概論)	日本人の疾病動向と健康管理	スポーツ大会
	7時限	16:10-17:00	内田クレペリン検査	予防接種/語学自習2	ボランティアポータルシステム オリエンテーション	目標管理(目標管理概論)	日本人の疾病動向と健康管理	スポーツ大会
	身辺整理	17:00-18:00	班別ミーティング					
	自主計画時間	19:00-20:00		1	4	7	10	13
	自主計画時間	20:00-21:00		2	5	8	11	14
自主計画時間	21:00-22:30		3	6	9	12	15	
備考			個人面談実施日	個人面談実施日	個人面談実施日	個人面談実施日		
日数		13	14	15	16	17	18	19
曜日		月	火	水	木	金	土	日
week3	1時限	08:45-09:35	語学授業28	語学授業33	語学授業37	語学授業41	語学授業46	語学授業51
	2時限	09:50-10:40	語学授業29	語学授業34	語学授業38	語学授業42	語学授業47	語学授業52
	3時限	10:50-11:40	語学授業30	語学授業35	語学授業39	語学授業43	語学授業48	語学授業53
	4時限	13:00-13:50	語学授業31	語学授業36	語学授業40	語学授業44	語学授業49	精神衛生
	5時限	14:00-14:50	語学授業32	公用旅券オリエンテーション	JICA事業概要	語学授業45	語学授業50	精神衛生
	6時限	15:10-16:00	地域別・国別ボランティア派遣 概要	予防接種/語学自習3	体力維持講座	コミュニケーション技法 (オリエンテーション)	国際関係と日本の国際協力	コミュニケーション技法 (コミュニケーションの基礎)
	7時限	16:10-17:00	地域別・国別ボランティア派遣 概要	予防接種/語学自習4	体力維持講座	ボランティアスピリット 意見交換会②	国際関係と日本の国際協力	コミュニケーション技法 (コミュニケーションの基礎)
	身辺整理	17:00-18:00	班別ミーティング					
	自主計画時間	19:00-20:00		16	19	22	25	28
	自主計画時間	20:00-21:00		17	20	23	26	29
自主計画時間	21:00-22:30		18	21	24	27	30	
備考								
日数		20	21	22	23	24	25	26
曜日		月	火	水	木	金	土	日
week4	1時限	08:45-09:35	語学授業54	語学授業59	語学授業62	語学授業67	語学授業71	語学授業75
	2時限	09:50-10:40	語学授業55	語学授業60	語学授業63	語学授業68	語学授業72	語学授業76
	3時限	10:50-11:40	語学授業56	語学授業61	語学授業64	語学授業69	語学授業73	語学授業77
	4時限	13:00-13:50	語学授業57	感染症	語学授業65	語学授業70	語学授業74	救急法
	5時限	14:00-14:50	語学授業58	感染症	語学授業66	海外における交通安全	歯科衛生	救急法
	6時限	15:10-16:00	ソーシャルメディア・非違防止 オリエンテーション	感染症	コミュニケーション技法 (ファシリテーションの基礎)	海外における交通安全	婦人科	救急法
	7時限	16:10-17:00	ソーシャルメディア・非違防止 オリエンテーション	医療者特別講座/予防接種	コミュニケーション技法 (ファシリテーションの基礎)	海外における交通安全 (自動二輪)	婦人科	救急法
	身辺整理	17:00-18:00	班別ミーティング					
	自主計画時間	19:00-20:00		31	34	37	40	43
	自主計画時間	20:00-21:00		32	35	38	41	44
自主計画時間	21:00-22:30		33	36	39	42	45	
備考								
日数		27	28	29	30	31	32	33
曜日		月	火	水	木	金	土	日
week5	1時限	08:45-09:35	語学授業78	語学授業81	語学授業84	語学授業89	語学授業93	語学授業97
	2時限	09:50-10:40	語学授業79	語学授業82	語学授業85	語学授業90	語学授業94	語学授業98
	3時限	10:50-11:40	語学授業80	語学授業83	語学授業86	語学授業91	語学授業95	語学授業99
	4時限	13:00-13:50	調査手法オリエンテーション	世界の宗教理解	語学授業87	語学授業92	語学授業96	OV-DAY任国事情
	5時限	14:00-14:50	調査手法(情報収集)	世界の宗教理解	語学授業88	調査手法 (参加型調査手法)	海外における安全対策	OV-DAY任国事情
	6時限	15:10-16:00	調査手法(情報収集)	予防接種/語学自習5	コミュニケーション技法 (プレゼンテーションの基礎)	調査手法 (参加型調査手法)	海外における安全対策	職種別活動セミナー
	7時限	16:10-17:00	調査手法(情報収集)	予防接種/語学自習6	コミュニケーション技法 (プレゼンテーションの基礎)	調査手法 (参加型調査手法)	海外における安全対策	職種別活動セミナー
	身辺整理	17:00-18:00	班別ミーティング					
	自主計画時間	19:00-20:00		46	49	52	55	58
	自主計画時間	20:00-21:00		47	50	53	56	59
自主計画時間	21:00-22:30		48	51	54	57	60	
備考								
日数		34	35	36	37	38	39	40
曜日		月	火	水	木	金	土	日
week6	1時限	08:45-09:35	語学試験(中間)	語学授業101	語学授業105	語学授業108	語学授業113	語学授業118
	2時限	09:50-10:40	語学試験(中間)	語学授業102	語学授業106	語学授業109	語学授業114	語学授業119
	3時限	10:50-11:40	語学試験(中間)	語学授業103	語学授業107	語学授業110	語学授業115	語学授業120
	4時限	13:00-13:50	語学試験(中間)	語学授業104	コミュニケーション技法 (課題発表)	語学授業111	語学授業116	語学授業121
	5時限	14:00-14:50	語学試験(中間)	語学授業105	コミュニケーション技法 (課題発表)	語学授業112	語学授業117	座禅
	6時限	15:10-16:00	目標管理 (活動管理)	予防接種/語学自習7	コミュニケーション技法 (課題発表)	語学自習9	所外活動オリエンテーション	座禅
	7時限	16:10-17:00	目標管理 (活動管理)	語学自習8	コミュニケーション技法 (課題発表振り返り)	語学自習10	派遣前訓練評価会 (中間時)	語学自習11
	身辺整理	17:00-18:00	班別ミーティング					
	自主計画時間	19:00-20:00		61	64	67	70	73
	自主計画時間	20:00-21:00		62	65	68	71	74
自主計画時間	21:00-22:30		63	66	69	72	75	
備考			個人面談実施日	個人面談実施日	個人面談実施日	個人面談実施日		

week7	日数		41	42	43	44	45	46	47
	曜日		月	火	水	木	金	土	日
	1時限	08:45-09:35	語学授業122	語学授業125	語学授業130	語学授業135	野外訓練	野外訓練	
	2時限	09:50-10:40	語学授業123	語学授業126	語学授業131	語学授業136	野外訓練	野外訓練	
	3時限	10:50-11:40	語学授業124	語学授業127	語学授業132	語学授業137	野外訓練	野外訓練	
	4時限	13:00-13:50	演習BafaBafa	語学授業128	語学授業133	語学授業138	野外訓練	野外訓練	
	5時限	14:00-14:50	演習BafaBafa	語学授業129	語学授業134	語学授業139	野外訓練	野外訓練	
	6時限	15:10-16:00	異文化適応概論	語学自習12	語学自習14	野外訓練準備	野外訓練	野外訓練	
	7時限	16:10-17:00	異文化適応概論	予防接種/語学自習13	野外訓練オリエンテーション	野外訓練準備	野外訓練	野外訓練	
		17:00-18:00	班別ミーティング						
	自主計画時間	19:00-20:00	76	79	82	地球のステージ85	88		
	自主計画時間	20:00-21:00	77	80	83	地球のステージ86	89		
	自主計画時間	21:00-22:30	78	81	84	87	90		
	備考								
week8	日数		48	49	50	51	52	53	54
	曜日		月	火	水	木	金	土	日
	1時限	08:45-09:35	語学授業140	語学授業142	語学授業147	所外活動1	語学授業152	語学授業160	
	2時限	09:50-10:40	語学授業138	語学授業143	語学授業148	所外活動1	語学授業153	語学授業161	
	3時限	10:50-11:40	語学授業139	語学授業144	語学授業149	所外活動1	語学授業154	語学授業162	
	4時限	13:00-13:50	語学授業140	語学授業145	語学授業150	所外活動1	語学授業155	語学交流会	
	5時限	14:00-14:50	語学授業141	語学授業146	語学授業151	所外活動1	語学授業156	語学交流会	
	6時限	15:10-16:00	協力活動手法	語学自習15	任国研究	所外活動1	語学自習17	語学交流会	
	7時限	16:10-17:00	協力活動手法	予防接種/語学自習16	任国研究	所外活動1	語学自習18	語学交流会	
		17:00-18:00	班別ミーティング						
	自主計画時間	19:00-20:00	91	94	97	100	103		
	自主計画時間	20:00-21:00	92	95	98	101	104		
	自主計画時間	21:00-22:30	93	96	99	102	105		
	備考								
week9	日数		55	56	57	58	59	60	61
	曜日		月	火	水	木	金	土	日
	1時限	08:45-09:35	語学授業163	語学授業168	語学授業173	所外活動2	語学授業176	語学授業181	
	2時限	09:50-10:40	語学授業164	語学授業169	語学授業174	所外活動2	語学授業177	語学授業182	
	3時限	10:50-11:40	語学授業165	語学授業170	語学授業175	所外活動2	語学授業178	語学授業183	
	4時限	13:00-13:50	語学授業166	語学授業171	学校交流	所外活動2	語学授業179	語学授業184	
	5時限	14:00-14:50	語学授業167	語学授業172	学校交流	所外活動2	語学授業180	語学授業185	
	6時限	15:10-16:00	任国研究	語学自習19	学校交流	所外活動2	所外活動振り返り	社会還元	
	7時限	16:10-17:00	任国研究	予防接種/語学自習20	学校交流	所外活動2	所外活動振り返り	キャリアアビジョン ワークショップ	
		17:00-18:00	班別ミーティング						
	自主計画時間	19:00-20:00	106	109	112	115	118		
	自主計画時間	20:00-21:00	107	110	113	116	119		
	自主計画時間	21:00-22:30	108	111	114	117	120		
	備考								
week10	日数		62	63	64	65	66	67	68
	曜日		月	火	水	木	金	土	日
	1時限	08:45-09:35	語学授業186	語学授業191	語学試験(最終)	特別行事	語学授業196	語学授業201	
	2時限	09:50-10:40	語学授業187	語学授業192	語学試験(最終)	特別行事	語学授業197	語学授業202	
	3時限	10:50-11:40	語学授業188	語学授業193	語学試験(最終)	特別行事	語学授業198	語学授業203	
	4時限	13:00-13:50	語学授業189	語学授業194	語学試験(最終)	特別行事	語学授業199	語学授業204	
	5時限	14:00-14:50	語学授業190	語学授業195	語学試験(最終)	特別行事	語学授業200	語学授業205	
	6時限	15:10-16:00	講座テスト	異文化適応の事例研究	派遣前訓練評価会(終了時)	特別行事	目標管理(振り返り・評価)	体力テスト②	
	7時限	16:10-17:00	講座テスト	予防接種/語学自習21	特別行事 オリエンテーション	特別行事	目標管理(振り返り・評価)	体力テスト②	
		17:00-18:00	班別ミーティング						
	自主計画時間	19:00-20:00	121	124	127	130	133		
	自主計画時間	20:00-21:00	122	125	128	131	134		
	自主計画時間	21:00-22:30	123	126	129	132	135		
	備考			個人面談実施日	個人面談実施日	個人面談実施日	個人面談実施日		
week11	No.		69	70					
	曜		月	火					
	1時限	08:45-09:35	福利厚生・共済会 オリエンテーション	居室点検/表敬訪問オリエンテーショ ン					
	2時限	09:50-10:40	赴任前オリエンテーション	所長講話②					
	3時限	10:50-11:40	派遣に関する合意書の説明	修了式					
	4時限	13:00-13:50	旅行会社オリエンテーション	修了式					
	5時限	14:00-14:50	派遣前健康管理 オリエンテーション	社行会					
	6時限	15:10-16:00	青遺海の会						
	7時限	16:10-17:00	外務省講話						
		17:00-18:00	班別ミーティング						
	自主計画時間	19:00-20:00							
	自主計画時間	20:00-21:00							
	自主計画時間	21:00-22:30							
	備考								

SV派遣前訓練日程

week	日数	時間	曜日					5日			
	曜日		月	火	1水	2木	3金		4土		
week1	1時限	08:45-09:35						所長講話①	語学授業1	語学授業3	
	2時限	09:50-10:40						派遣前訓練 オリエンテーション②	語学授業2	語学授業4	
	3時限	10:50-11:40						語学オリエンテーション	派遣前訓練 オリエンテーション④	語学授業5	
	4時限	13:00-13:50						受付	クラス編成テスト	JICAボランティア事業の 理念と目標(局長講話)	語学授業6
	5時限	14:00-14:50						入所式	クラス編成テスト	JICAボランティア事業の 理念と目標(局長講話)	語学自習1
	6時限	15:10-16:00						派遣前訓練に関する合意書の 説明	診療室オリエンテーション	自己紹介	語学自習2
	7時限	16:10-17:00						派遣前訓練 オリエンテーション①	派遣前訓練 オリエンテーション③	自己紹介	語学自習3
								班別ミーティング		自己紹介	
		自主計画時間	17:00-18:00								
		自主計画時間	19:00-20:00								
	自主計画時間	20:00-21:00									
	自主計画時間	21:00-22:30									
	備考										
week2	日数		6	7	8	9	10	11	12		
	曜日		月	火	水	木	金	土	日		
	1時限	08:45-09:35	語学授業7	語学授業12	語学授業15	語学授業19	語学授業24	語学授業28			
	2時限	09:50-10:40	語学授業8	語学授業13	語学授業16	語学授業20	語学授業25	語学授業29			
	3時限	10:50-11:40	語学授業9	語学授業14	語学授業17	語学授業21	語学授業26	ボランティアスピリット意見 交換会①			
	4時限	13:00-13:50	語学授業10	貿易ゲーム	語学授業18	語学授業22	語学授業27	スポーツ大会			
	5時限	14:00-14:50	語学授業11	貿易ゲーム	語学授業19	処遇・制度オリエンテーション	避難訓練	スポーツ大会			
	6時限	15:10-16:00	語学自習4	予防接種/語学自習6	派遣の仕組と支援体制 オリエンテーション	処遇・制度オリエンテーション	日本人の疾病動向と健康管理	スポーツ大会			
	7時限	16:10-17:00	語学自習5	語学自習7	ポータルシステム オリエンテーション	語学自習8	日本人の疾病動向と健康管理	スポーツ大会			
			17:00-18:00	班別ミーティング							
	自主計画時間	19:00-20:00	1	4	7	10	13				
	自主計画時間	20:00-21:00	2	5	8	11	14				
	自主計画時間	21:00-22:30	3	6	9	12	15				
	備考										
week3	日数		13	14	15	16	17	18	19		
	曜日		月	火	水	木	金	土	日		
	1時限	08:45-09:35	語学授業30	語学授業35	語学授業39	語学授業44	語学授業49	語学授業54			
	2時限	09:50-10:40	語学授業31	語学授業36	語学授業40	語学授業45	語学授業50	語学授業55			
	3時限	10:50-11:40	語学授業32	語学授業37	語学授業41	語学授業46	語学授業51	語学授業56			
	4時限	13:00-13:50	語学授業33	語学授業38	語学授業42	語学授業47	語学授業52	精神衛生			
	5時限	14:00-14:50	語学授業34	公用旅券オリエンテーション	語学授業43	語学授業48	語学授業53	精神衛生			
	6時限	15:10-16:00	地域別・国別ボランティア 派遣概要	予防接種/語学自習9	体力維持講座	語学自習11	語学自習12	ボランティア活動の実際①			
		16:10-17:00	地域別・国別ボランティア 派遣概要	予防接種/語学自習10	体力維持講座	ボランティアスピリット意見 交換会②	語学自習13	ボランティア活動の実際①			
			17:00-18:00	班別ミーティング							
	自主計画時間	19:00-20:00	16	19	22	25	28				
	自主計画時間	20:00-21:00	17	20	23	26	29				
	自主計画時間	21:00-22:30	18	21	24	27	30				
	備考										
week4	日数		20	21	22	23	24	25	26		
	曜日		月	火	水	木	金	土	日		
	1時限	08:45-09:35	語学授業57	語学授業62	語学授業65	語学授業70	語学授業74	語学授業78			
	2時限	09:50-10:40	語学授業58	語学授業63	語学授業66	語学授業71	語学授業75	語学授業79			
	3時限	10:50-11:40	語学授業59	語学授業64	語学授業67	語学授業72	語学授業76	語学授業80			
	4時限	13:00-13:50	語学授業60	感染症	語学授業68	語学授業73	語学授業77	救急法			
	5時限	14:00-14:50	語学授業61	感染症	語学授業69	海外における交通安全	歯科衛生	救急法			
	6時限	15:10-16:00	ソーシャルメディア・非違防止 オリエンテーション	感染症	ボランティア活動の実際②	海外における交通安全	婦人科	救急法			
	7時限	16:10-17:00	ソーシャルメディア・非違防止 オリエンテーション	医療者特別講座/予防接種	ボランティア活動の実際②	語学自習14	婦人科	救急法			
			17:00-18:00	班別ミーティング							
	自主計画時間	19:00-20:00	31	34	37	40	43				
	自主計画時間	20:00-21:00	32	35	38	41	44				
	自主計画時間	21:00-22:30	33	36	39	42	45				
	備考										
week5	日数		27	28	29	30	31	32	33		
	曜日		月	火	水	木	金	土	日		
	1時限	08:45-09:35	語学授業81	語学授業86	語学授業91	語学授業96	語学確認テスト	語学授業101			
	2時限	09:50-10:40	語学授業82	語学授業87	語学授業92	語学授業97	語学確認テスト	語学授業102			
	3時限	10:50-11:40	語学授業83	語学授業88	語学授業93	語学授業98	講座テスト	語学授業103			
	4時限	13:00-13:50	語学授業84	語学授業89	語学授業94	語学授業99	語学自習23	OV-DAY任国事情			
	5時限	14:00-14:50	語学授業85	語学授業90	語学授業95	語学授業100	海外における安全対策	OV-DAY任国事情			
	6時限	15:10-16:00	語学自習15	予防接種/語学自習17	語学自習19	語学自習21	海外における安全対策	職種別活動セミナー			
	7時限	16:10-17:00	語学自習16	語学自習18	語学自習20	語学自習22	海外における安全対策	職種別活動セミナー			
			17:00-18:00	班別ミーティング							
	自主計画時間	19:00-20:00	46	49	52	55	58				
	自主計画時間	20:00-21:00	47	50	53	56	59				
	自主計画時間	21:00-22:30	48	51	54	57	60				
	備考										
week6	日数		34	35							
	曜日		月	火							
	1時限	08:45-09:35	語学自習24	居室点検/表敬訪問オリエン テーション							
	2時限	09:50-10:40	語学自習25	所長講話②							
	3時限	10:50-11:40	赴任前オリエンテーション	修了式							
	4時限	13:00-13:50	福利厚生・共済会 オリエンテーション	壮行会							
	5時限	14:00-14:50	派遣前健康管理 オリエンテーション								
	6時限	15:10-16:00	旅行会社オリエンテーション								
	7時限	16:10-17:00	派遣に関する合意書の説明								
			17:00-18:00	班別ミーティング							
	自主計画時間	19:00-20:00									
	自主計画時間	20:00-21:00									
	自主計画時間	21:00-22:30									
	備考										

派遣前訓練 コース・単元・講座一覧(目安であり、状況に応じて微調整は可能)

コース	単元	講座	JOCV		SV		内容	講師(注)		
			(課業内)	(課業外)	(課業内)	(課業外)				
A 語学	A-1	自主計画時間を使った自習		95		59	語学自習			
	A-2	語学オリエンテーション	1		1		語学学習の進め方、留意点について開始時、中間時、終了時に3回実施			
	A-3	語学授業	205		103		語学クラスごとの授業			
	A-4	語学試験(クラス編成・中間・最終)	12		4		試験			
	A-5	語学自習	21		25		語学自習			
	A-6	語学交流会	4				学習言語を使ったゲストとのコミュニケーション			
		コマ数小計	243	95	133	59				
B 活動手法	B-1	自主計画時間を使った課題発表の準備		15			グループごとの準備活動			
	B-2	目標管理	B-2-1	ボランティア活動の流れ	2			2年間の活動イメージとコンピテンシーの自己評価	●	
			B-2-2	目標管理概論	3			目標シートの考え方、計画～評価までの流れ	●	
			B-2-3	活動管理	2			詳細計画の策定と管理方法	●	
			B-2-4	振り返り・評価	2					
			B-2-5	個人面談		1		1	担当スタッフとの面談	●
	B-3	コミュニケーション技法	B-3-1	コミュニケーション技法オリエンテーション	1			コミュニケーション技法の構成、グループ分け	●	
			B-3-2	コミュニケーションの基礎	2			コミュニケーションの構造	●	
			B-3-3	ファシリテーションの基礎	2			ファシリテーションのコツと演習	●	
			B-3-4	プレゼンテーションの基礎	2			Powerpointスライド作成のポイント	●	
			B-3-5	課題発表・振り返り	4	2		課題発表・プレゼンテーション(日本について)	●	
	B-4	調査手法	B-4-1	調査手法オリエンテーション	1			調査手法の構成、フィールドワーク	●	
			B-4-2	情報収集	3			情報収集のツール	●	
			B-4-3	参加型調査手法	3			視覚ツールの使い方	●	
	B-5	適正技術	B-5-1	協力活動手法				WBT講座		
B-5-2			協力活動手法	2			技術顧問による講座	●		
B-5-3			職種別活動セミナー	2	2	2	OVからの情報収集(一部職種は各OV会による実施あり、課業外)	●		
		コマ数小計	31	20	2	1				
C 健康管理・安全管理	C-1	自主計画時間を使った体力増強活動		(30)			スポーツなどの自主的な体力増強活動 ※朝の時間			
	C-2	体力増強	C-2-1	体力テスト①②	4			体力測定テスト		
			C-2-2	体力維持講座	2		2	体力維持の重要性、ラジオ体操	●	
			C-2-3	スポーツ大会	4		4			
	C-3	健康管理	C-3-1	診療室オリエンテーション	1		1	訓練中の健康管理、診療室利用、予防接種	●	
			C-3-2	派遣前健康管理オリエンテーション	1		1	任地での健康管理	●	
			C-3-3	救急法	4		4	応急措置の方法	●	
			C-3-4	婦人科	2		2	女性が罹りやすい病気の基礎知識	●	
			C-3-5	歯科衛生	1		1	口腔管理の重要性	●	
			C-3-6	日本人の疾病動向と健康管理	2		2	生活習慣病の予防と対策	●	
			C-3-7	精神衛生	2		2	ストレス対処法	●	
			C-3-8	感染症	3		3	感染症の予防と対策	●	
			C-3-9	座禅	2				●	
			C-3-10	医療者特別講座	1		1	医療隊員の活動現場における針刺し事故の対処法	●	
	C-4	安全管理	C-4-1	海外における安全対策	3		3	日本と任国の治安状況の違い	●	
			C-4-2	海外における交通安全	2		2	交通事故防止、交通安全	●	
			C-4-3	海外における交通安全(自動二輪)(対象者のみ)	1			二輪貸与者向けの交通安全	●	
			C-4-4	自動二輪不整地走行練習		(10)			二輪貸与者向け、不整地走行練習	●
			C-4-5	青遺海の会による講話	1				留守家族の気持ち	●
			C-4-6	避難訓練	1		1			
C-5	講座テスト	2			1	健康管理、WBTの理解度を確認				
		コマ数小計	39	0	30	0				
D 社会的多様性理解・活用力	D-1	自主計画時間を使った自主研修講座の準備・実施		20			自主研修講座の企画・準備・実施			
	D-2	JICAボランティア基礎講座	D-2-1	外務省講話	1			日本のODAと公人としてのJICAボランティア		
			D-2-2	戦後日本の国際協力の歩み				WBT講座		
			D-2-3	国際関係と日本の国際協力	2			援助の潮流と日本のODAの基本政策	●	
			D-2-4	JICA事業概要	1			JICA事業の紹介	●	
			D-2-5	青年海外協力隊の歩みと理念				WBT講座		
			D-2-6	JICAボランティア事業の理念と目標(局長講話)	2		2	ボランティアに必要な心構え	●	
			D-2-7	所長講話①②	2		2	ボランティアに必要な心構え	●	
			D-2-8	地域別・国別ボランティア派遣概要	2		2	任国におけるJICA事業の概要	●	
			D-2-9	ボランティアスピリット意見交換会①②	2		2	C/Pの感謝の声や震災でのOVの活動紹介	●	
			D-2-10	エイズ基礎講座				インターネット学習(JICA-Net)		
			D-2-11	ジェンダーと開発				インターネット学習(JICA-Net)		
			D-2-12	環境と開発				インターネット学習(JICA-Net)		
	D-3	社会的多様性理解	D-3-1	貿易ゲーム	2		2	世界の実情を体感する	●	
			D-3-2	任国研究	4			任国の研究・報告書作成(グループワーク)		
			D-3-3	世界の宗教事情				WBT		
			D-3-4	世界の宗教理解	2			世界の宗教について理解を深める	●	
			D-3-5	演習 Bafa Bafa	2			異文化を体感する	●	
			D-3-6	異文化適応概論	2			異文化の中で活動する上の基礎知識を学ぶ	●	
			D-3-7	異文化適応の事例研究	1		0	ある隊員の活動事例を基にしたグループ討論	●	
	D-4	社会的多様性活用力	D-3-8	地球のステージ		2		世界で起こっている出来事についてのコンサート(JOCV参加必須の特別行事)		
			D-3-9	内田クレベリン検査	1			内田クレベリン検査		
			D-4-1	OV-DAY 任国事情	2		2	活動や生活などの任国の情報提供	●	
D-4-2			学校交流	4			地域社会との交流			
D-4-3			所外活動オリエンテーション	1				●		
D-4-4			所外活動①②・振り返り	16			所外活動における調査の実施と振り返り	●		
D-4-5			ボランティア活動の実践①②(SVのみ)			4		●		
D-5	帰国後の進路と社会還元	D-5-1	ボランティア体験と社会還元				WBT			
		D-5-2	社会還元	1			OVを招へいして、帰国後の進路、活動について紹介	●		
		D-5-3	キャリアビジョンワークショップ	1			自身のキャリア設計を学ぶ	●		
		コマ数小計	51	22	16	0				
E 生活班活動	E-1	自主計画時間を使った生活班ミーティング		(10)			野外訓練や生活一般に関するミーティング			
	E-2	課業時間を使った野外訓練準備	2				野外訓練の準備			
	E-3	野外訓練オリエンテーション	1				野外訓練の流れ、留意点	●		
	E-4	野外訓練	14				水、電気がない状況での野外生活	●		
		コマ数小計	17	0	0	0				
F 各種オリエンテーション	F-1	式典	F-1-1	受付・入所式	2		2			
			F-1-2	修了式・壮行会	3		2			
	F-2	派遣前訓練	F-2-1	派遣前訓練に関する合意書の説明	1		1	合意書の説明	●	
			F-2-2	派遣前訓練オリエンテーション(注1) ①生活①、②訓練の目標、ボランティア適性及び評価の視点①、 ③講座①、④関係先紹介①	4		4	訓練全体の構成、コンピテンシー、評価の視点	●	
			F-2-3	自己紹介	2		2	自己紹介		
			F-2-4	派遣前訓練評価会(中間、終了時)	2			派遣前訓練の評価会	●	
	F-3	制度・ガイドライン	F-3-1	派遣の仕組みと支援体制オリエンテーション	1		1	派遣の仕組みと支援体制	●	
			F-3-2	処遇・制度オリエンテーション	2		2	ボランティアの処遇や制度	●	
			F-3-3	福利厚生・共済会オリエンテーション	1		1	福利厚生、共済会	●	
			F-3-4	ボランティアポータルシステムオリエンテーション	1		1	ポータルシステム	●	
			F-3-5	ソーシャルメディア・非違防止オリエンテーション	2		2		●	
	F-4	派遣関連	F-4-1	公用旅券オリエンテーション	1		1	公用旅券	●	
			F-4-2	赴任前オリエンテーション	1		1	公用旅券にかかる注意喚起、赴任旅費の支給、諸手続き	●	
			F-4-3	旅行会社オリエンテーション	1		1	出国当日の日程、集合場所、持ち込み荷物など	●	
	F-5	特別行事・表敬訪問	F-4-4	派遣に関する合意書の説明	1		1	合意書の説明	●	
			F-5-1	特別行事オリエンテーション	1			皇太子御接見の注意事項	●	
F-5-2			特別行事	7			皇太子御接見			
F-5-3			表敬訪問オリエンテーション	1		1	地方自治体への表敬訪問の意義	●		
		コマ数小計	34	0	23	0				
		総合計	415	137	204	60				

(注)講師はモデレーター、ファシリテーターを務める場合も含む

ボランティア適性評価基準表

カテゴリー	JICAボランティアに求められる能力・適性	能力・適性の具体的内容	評価の手段(注)	評価のポイント・視点	評価者	評価配点	最低合格点
1.青年海外協力隊精神の理解および実践力	1-1.JICAボランティアとしての使命感	活動を通じて他者のために何らかの役にたちたいという意欲。 種々の困難に遭遇しても、最後までやり抜く持続する情熱。 JICAボランティアとしての公人意識。	事前学習の取組み状況 訓練・生活全般 所外活動、野外訓練、グループワーク、自主講座への取組姿勢	JICAボランティア事業の理念に沿った目的意識を持っている。 公人として自覚を持った行動ができる。 訓練規則を遵守できる。	Eコースリーダー 班担当	5	6
	1-2.国際協力及びボランティア事業の理解	国際協力の歴史や現状、日本のODAの歴史と現状及びJICA事業・ボランティア事業の理解。	事前学習の取組み状況 講座テスト及びレポート結果	日本のODAの歴史や現状(特にJICAボランティア事業)について理解できている。	Dコースリーダー 班担当	5	
2.ボランティア基礎力	2-1.主体性	様々な問題を自身の問題として捉え、自ら主体的に取り組む意欲、力。 相手や周囲の人々にも働きかけを行う姿勢、実践力。	グループワーク(日本について、任国研究)のプレゼンテーション及び成果品、所外活動、野外訓練、自主講座への取組姿勢 委員会活動への取組み姿勢	訓練全般に積極的に取り組んでいる。 自己の言動に対する説明・結果責任を負うことができる。 各種委員会活動や自主講座等にも積極的に取り組んでいる。	Eコースリーダー 班担当	5	6
	2-2.協調性	チーム(コミュニティ)のルールを遵守し、自身の言動が周囲へ及ぼす影響を理解できる力。 周囲と協調して行動しようとする意志、意欲、実践力。 円滑な人間関係を構築できる力(コミュニケーション能力)。	グループワーク、所外活動、スポーツ大会、野外訓練、生活班活動への取組姿勢	他者を受け入れ、許容する度量がある。 共同生活で他者に迷惑を掛けず、他者を尊重した行動ができる。 グループワークにおいてチームワークを尊重した行動ができる。		5	
3.ボランティア実務能力	3-1.発信力	説明内容を論理的に組み立て相手に分かりやすく説明・提案し、自己の意見を理解させる表現力、説得力。 適切な企画書・レポートを書く力。	グループワークのプレゼンテーション及び成果品 語学授業のプレゼンテーション 自主講座の企画書、提出レポートなど	事実や論拠、仮説を基に、自らの考えを他者に分かり易く説明できる。 伝えたいメッセージを、優先順位を付けて整理できる。 効果的な表現方法とコミュニケーション手法を駆使することができる。 企画書やレポートなどの文書作成能力が身についている。	Bコースリーダー 班担当	5	6
	3-2.マネジメント力	課題を発見するために必要な知識、技能。 適切な目標を設定し、ロードマップを作成する能力。 実施において進捗管理、振り返り、評価、軌道修正する能力。	目標管理シート作成及び達成状況 自主講座等の運営状況 委員会活動等の実施状況	問題発掘能力がある。 問題解決に向け適切な実行計画を策定し、着実に実行できる。 活動の成果を客観的に評価し、つねに改善を心掛けている。		5	
4.異文化(他者)理解・適応力	4-1.異文化理解と適応	異文化社会における行動様式(生活、慣習、宗教、ルール等)を観察、理解、尊重する姿勢。	事前学習の取組み状況 講座テスト及びレポート結果 グループワーク(日本について、任国研究)のプレゼンテーション及び成果品	異文化理解について基礎知識を持っている。 異文化に対し柔軟な対応、思考ができる。	Dコースリーダー 班担当	5	6
	4-2.日本(人)理解	日本の代表として、日本の歴史・社会・文化を紹介できる知識、愛国心。		日本人であることに誇りを持ち、日本(の社会、文化、歴史など)について説明ができる。		5	
5.危機管理能力	5-1.健康管理能力	日本とは異なる自然・生活環境の下でも健康を維持する自己管理能力。 疾病とその予防知識。 ストレスマネジメント力及び基礎体力。	体力測定、訓練中の運動への取組み 課業出欠状況、 訓練中の健康管理への取組み姿勢 講座テスト及びレポート結果	訓練期間を通して健康及び体力の維持・増進に積極的に取り組んでいる。 任地での自己管理方法やJICAの健康管理に対する支援内容を理解している。 困難な問題に直面した時のストレスマネジメントができる。	診療室 Cコースリーダー 班担当	5	6
	5-2.安全管理能力	日本とは異なる交通事情を理解し、交通事故を予防する知識。 防犯対策、テロ対策等の安全管理知識。 安全対策に対する高い意識を維持し、実践する力。	講座テスト及びレポート結果 訓練中の安全管理(居室の施錠、居所の明確化、IDの着用)への取組み状況	海外における交通事情を知り、交通安全の知識が身に付いている。 様々な局面における(活動中の住居、日常生活)危機回避の方法が身に付いている。	Cコースリーダー 班担当	5	
						50	30
6.語学力	5-1.語学コミュニケーション力	任国・配属先での生活・活動に必要な語学力	中間テスト、語学最終試験 語学学習取組姿勢 語学ポートフォリオ、TR	現地における実際の生活や活動に必要な語学力(reading、writing、listening、speaking)を習得している。 訓練期間を通して語学学習に積極的に取り組んでいる。	語学講師 LTS	Level1~8	7以上

評価に関する留意事項

* 評価配点は各項目5段階評価で、5:非常によくできる 4:標準、3:更に改善の余地はあるが派遣に問題ない 2:派遣するためには改善の余地が大いにある 1:問題があり派遣できない
(注)訓練全般への取組姿勢は全ての項目において評価の手段となることから、それ以外で特記すべき評価の手段を記載した。

* 「1」と判断した具体的な事項を「所見」として記載。「1」の判定が一つでもある場合は、派遣前訓練修了判定会議にの検討対象とする。「所見」には必要に応じて、非常に優れたケースも記載。
* 各カテゴリー・項目の最低合格ラインを下回る配点の場合は、訓練修了の可否につき、派遣前訓練修了判定会議において検討協議する。
* これら各カテゴリー・項目の評点を参考に派遣にかかる総合評価としては「A:優良レベル」、「B:可(問題なし)レベル」、「C:追試・再提出があった者」、「D:不可(問題あり)レベル」にて合否を判断。

平成〇〇年度〇次隊訓練記録簿(派遣前訓練、JOCV向け)

秘

(作成年月日:平成〇〇年〇月〇日)

1. ボランティア基本データ

V番号	派遣国	氏名	フリガナ	性	歳	生年月日	職種/指導科目	出身県	婚	身分措置

2. 選考時の記録

人物面接	技術筆記	技術面接 (JOCVのみ)	語学筆記	募集時期	JICA事業参加歴

3. 目標達成状況

(1) 語学

学習言語	
中間テスト	
最終テスト	
評価(注1)	

(注1)1~7Levelまで合格

(2) 講座テスト・提出物など

講座テスト	〇〇点
所外活動	〇〇ダイケアセンター(例)
レポート1	A B C D
レポート2	A B C D
レポート3	A B C D
レポート4	A B C D

(3) ボランティア適性

		評点	合計
1. 青年海外協力隊精神の理解・実践力	1-1. JICAボランティアとしての使命感		0
	1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解		
2. ボランティア基礎力	2-1. 主体性		0
	2-2. 協調性		
3. ボランティア実務能力	3-1. 発信力		0
	3-2. マネージメント力		
4. 異文化(他者)理解・適応力	4-1. 異文化理解と適応		0
	4-2. 日本(人)理解		
5. 危機管理能力	5-1. 健康管理能力		0
	5-2. 安全管理能力		
評価(注2)	〇〇点/50点	0	0
特筆する成果等			

(注2) 10項目×5点で50点満点の30点以上を合格とする。但し、各カテゴリーごとに、一つでも最低合格点に達しない場合は訓練未修了となる。

4. 参考情報

各種委員会等	講座(含む自主講座)	課業欠席(コマ)	朝の集い欠席(回数)

5. 所見

--

【協力隊事務局 記入欄】

総合判定	▼特記事項(健康条件付き終了等の特別な場合につき記載)

平成〇〇年度〇次隊訓練記録簿(派遣前訓練、SV向け)

秘

(作成年月日:平成〇〇年〇月〇日)

1. ボランティア基本データ

V番号	派遣国	氏名	フリガナ	性	歳	生年月日	職種/指導科目	出身県	婚	身分措置

2. 選考時の記録

人物面接	技術筆記	語学筆記	募集時期	JICA事業参加歴

3. 目標達成状況

(1) 語学

学習言語	
確認テスト(注1)	〇〇/100点

(注1)確認テストの点数を以て、訓練修了の可否は判断しない。

(2) 講座テスト及びレポート

講座テスト(注2)	〇〇点/300点
レポート1	A B C D
レポート2	A B C D
レポート3	A B C D

(注2)100点満点の60点以上を合格とする。基準に満たない場合は追試を課す。

4. 参考情報

各種委員会等	講座(含む自主講座)	課業欠席(コマ)	朝の集い欠席(回数)

5. 所見

【協力隊事務局 記入欄】

総合判定

▼特記事項 (健康条件付き終了等の特別な場合につき記載)

派遣前訓練シラバス

JICA ボランティアに求められる適性及び知識

項目	JICA ボランティアに求められる能力・適性	内容
1. 青年海外協力隊精神の理解および実践力	1-1. JICA ボランティアとしての使命感	JICA ボランティア事業の理念、ボランティアによる協力の意義を把握し、公人としての意識を身に付ける。
	1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解	JICA の事業概要を把握し、ボランティア事業の位置付けを理解した上で、ボランティアとしての心構え、ボランティアに必要な要素とは何かを考える。
2. ボランティア基礎力	2-1. 主体性	物事に積極的に取り組む意欲がある。
	2-2. 協調性	社会のルールや人との約束を守り、周囲と円滑な人間関係を構築し、協調して行動する。
3. ボランティア実務能力	3-1. 発信力	自分の考えを分かりやすく伝え、相手の納得を得られる説得力・折衝力がある。
	3-2. マネージメント力	必要な情報を収集・整理・分析し、課題を明らかにすると同時に関係者間で共有化を図り共に考える。
4. 異文化（他者）理解・適応力	4-1. 日本人理解力	日本人であることに誇りを持ち、日本の社会、文化、歴史等について説明できる。
	4-2. 異文化理解の適応	任地での生活や協力活動を円滑に行うために異文化をどのように理解し、自分を適応させたらよいかを学ぶ。
5. 危機管理能力	5-1. 健康管理能力	過去の事例を踏まえ、ボランティアの任国における安全対策を学ぶとともに、異文化不適応に起因する精神衛生等についても理解を促進する。
	5-2. 安全管理能力	過去の事例を踏まえ、凶悪一般犯罪を中心に、政情不安、それに伴う緊急避難、薬物犯罪の傾向と対策、交通事故の主な要因の一つである交通事情や運転マナー等を学習する。

派遣前訓練における「講座」について

講座の分類

派遣前訓練の目的に則り、訓練は 6 つのコースに分類される。そのうち、この資料で扱うのは A. 語学講座を除く 5 コースである。派遣前訓練の講座を通じて、前頁に記載した、JICA ボランティアに求められる能力、適性を強化し、派遣期間中も継続して強化する。各々のコース、単元、講座の詳しい説明は、後述の「コース・単元・講座一覧」に示している。

講座/単元の目的

コース	単元	目的
A 語学	語学授業	現地における実際の生活や活動に必要な語学力を身につけるため、語学授業にて活動に即応できる実践的な能力を養う。所外での学習や、学習言語で専門分野・時事問題等を討議する等、レベルに合わせた内容で実施する。
	語学交流会	派遣予定国及び近隣諸国の人々との交流および専門分野等のプレゼンテーション等を実施する。
B 活動手法	目標管理	派遣 6 か月後に作成する目標管理シートの作成、進捗の管理の仕方、振り返りの方法を実際に経験しながら学ぶ。
	コミュニケーション技法	ボランティアの活動に必須であるコミュニケーションスキルを、知識と職種・分野を基本としたグループ別の課題発表の実践を通して身につける。
	調査手法	現状の把握やニーズ調査などに活用可能な調査手法について学ぶ。
C 健康管理・安全管理	体力増強	任国での活動の基礎となる体力をつけ、それを維持・管理するための方法を学ぶ。
	健康管理	任国で必要となる健康管理に関する知識を身につける。
	安全管理	任国で必要となる安全に関する知識を身につける。
D 社会的多様性理解・活用力	自主計画時間を使った自主研修講座の準備・実施	候補者が自主的に講座を提案する場を設けることで、ボランティアとしての自発性や積極性の醸成、企画・実施・評価の能力強化を目指す。
	JICA ボランティア基礎講座	ボランティアに必要な心構えを身につけると同時に、任国の事情を理解し、現場に対応できるようになる。
	社会的多様性理解	世界の实情、任国の事情、宗教の他、自身の特性などについて理解を深め、異文化の中で活動する上での知識を身につける。
	社会的多様性活用力	地域社会との交流の中で、どのように人々と関わり合い、相手の役に立てるか、実施を通じて考える。
	帰国後の進路と社会還元	帰国後の進路やキャリア設計の他、JICA ボランティア経験をどのように社会還元していくか、学ぶ。
E 生活班活動		派遣前訓練での共同生活、野外訓練等を通して、ボランティアに必要な態度や能力を身につける。
F 各種オリエンテーション		派遣前訓練の概要や規則、手続きを理解する。公用旅券申請などの手続き、赴任前に行う事項の説明などを行い、赴任の準備を整える。

講座受講時の諸注意

【 時間厳守 】	・ 講座開始 5 分前には着席し、講義を聴講できるよう準備すること。
【 座 席 】	・ 講堂での必修講座の場合、座席表の通り着席すること。
【 服 装 】	・ 講師に対して失礼のないよう、T.P.O.をふまえた服装とすること。
【 飲 食 】	・ 食べ物の持ち込みは不可とする。飲み物の持ち込みは、蓋付きで割れない容器（ペットボトルなど）を利用すること。
【 パソコン 】	・ 打鍵音が響くため、講義中のパソコン使用は不可とする。
【 携帯電話 】	・ 講座中は携帯電話の電源を OFF にすること。
【 その他 】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問をする際は、挙手して講師の指名を得てから起立すること。その後、派遣国、職種／指導科目、氏名の順に名乗ってから質問内容を述べること。 ・ 配布されたアンケート用紙は、講座終了後、講堂出入口に設置する回収箱に提出すること。 ・ 講座に関係のない内職等は厳に禁止する。

講座資料の見方

講座の達成目標…この講座の履修により達成すべき目標を簡潔にまとめたもの。

コース-単元-講座の名称

日時、実施場所など

C-3-5 健康管理・安全管理講座-健康管理-歯科衛生

●月●日(●)
15:10~16:00
●●ホール

達成目標 任国における口腔衛生の重要性と歯科疾患予防の知識を身につける

履修要件…各対象者の
○必修/☆指定者必修
/△選択/□自由参加
/×対象外を示している。

評価方法…講座の評
価方法を示している。

対応能力・適性…該当
講座を履修すること
により、伸ばすことが
できる対応能力・適性
を示している。

講師略歴

担当スタッフ…該当講
座の責任者。不明点な
どはこちらまで知らせ
ること。

留意点等…講座毎に個別の注意事項がある場合があるので、必ず確認すること。

講座の内容

任国での歯科相談の内容としては、詰め物の脱落、虫歯、知覚痛、歯周病が多く挙げられている。講座では、これらの対処法や予防法を中心に説明する。また、講座の中でブラッシングの方法を実践することで、任国でも、継続して口腔ケアができるよう訓練中から努めること。

1. 虫歯と予防
2. 歯周病と治療
3. ブラッシング
4. 親知らず、口内炎、顎関節症等

履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る

対応能力・適性

健康 5-1

講師略歴

外部講師

●● ●●氏
●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

***持参物**
日常使用している歯ブラシ(ブラッシングの実践をする)

ストレスマネジメントに関する レポート

提出日
●月●日 (●)
研修棟 講堂

● テーマ

日本とは生活環境が異なる任国で活動する上で、多くのボランティアがストレスを感じ、なかには、心身の不調をきたすボランティアもいる。

ストレスに対する受け止め方には個人差があるが、これからの任国での生活や活動に向けて、自分自身と向き合い、自分なりのストレス対策を実践することが重要となる。

これまでの生活や自分をとりまく人間関係において、自分がどのような時にストレスを感じやすいか、どのように乗り越えてきたかを振り返り、自分自身のストレス対処法などをレポートしておくこと。

● 書式

- 月●日 (●) ワクチン接種時間に配布する所定用紙（手書き）を使用する。
- 記入は必ず黒インクのボールペンを使用する。（鉛筆は不可）。
- 修正液、修正テープの使用は可。

● 提出方法

- ワクチン接種時間に、体育館の提出箱へ提出する。

● レポートの取り扱いについて

- 既往歴があっても申告せず、現地で想像以上にストレスがかかり病気が再発し、帰国するケースも多いことから、正直に記載すること。
- ストレスマネジメントレポートで過去の既往歴について記載があった場合、JICAが派遣の可否について再検討する場合がある。

[担当スタッフ：●●]

B-2 活動手法 目標管理

各講座の日時は
講座毎の日程
を参照のこと

単元の目的

目標管理の単元では派遣 6 か月後に作成する目標管理シートを作成、進捗の管理の仕方、振り返りの仕方を実際に経験しながら学ぶ。

各々が、訓練開始時にボランティアに求められる能力・適性のベースラインを把握した上で、派遣前訓練における目標と活動計画を設定する。訓練の間にはその進捗を確認し、終了時に振り返りを自ら行うことで、目標管理の手法を身に付けることを目的にしている。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力
- 5-2. 安全管理能力

担当スタッフ



● 単元の構成

講座	備考
B-2-1. ボランティア活動の流れ ・2年間の活動イメージ ・ボランティアに求められる能力・適性の自己評価	2コマ、実施：訓練開始時
自主時間計画：目標管理シート（事前）を完成。	
B-2-2. 目標管理概論 ・目標管理のプロセス（目標管理シートの作成、進捗管理、評価方法） ・各段階のやり方、留意点	3コマ、実施：訓練開始時 目標管理シートは●月●日に目標管理面談員まで提出すること。
自主時間計画：目標管理シート(案)を作成。 個人面談(B-2-5.)：目標管理シートを使って目標管理面談員と面談。 自主時間計画：面談結果を踏まえて目標管理シートを完成。	
B-2-3. 活動管理 ・計画策定、実施のプロセス、ツール、留意点 ・目標管理シートの実績値の入力と修正	2コマ、実施：訓練中間時
自主時間計画：目標管理シートの前半期の「活動実績」「達成した成果と根拠」「直面した問題と対処方法」の記入、後半期の活動計画修正。 個人面談(B-2-5.)：前半期の振り返りと後半期の活動について目標管理面談員と面談。 自主計画時間：面談結果を踏まえて目標管理シートを完成。	
B-2-4. 振り返り・評価 ・任地での目標管理シート作成、進捗管理、振り返り ・派遣前訓練の目標管理シートの実績値の入力と振り返り	2コマ 実施：訓練終了時
自主時間計画：目標管理シートの後半期の「活動実績」「達成した成果と根拠」「直面した問題と対処方法」の記入。 個人面談(B-2-5.)：訓練全体の振り返りを目標管理面談員と一緒にいき、派遣後に伸ばす能力・資質を明確にする。	

達成目標

2年間の活動イメージを認識し、ボランティアに求められる能力・適性の自己評価が出来るようになる

 講座の内容

派遣開始から派遣終了まで、2年間の活動が一般的にどのような流れとなっているのか、過去の隊員は具体的にどのような活動をしているのか、成功もしくは失敗した活動の要因について例を紹介する。その上で、現地で高いパフォーマンスをあげるために必要なボランティアの能力について学び、自分の強み・弱みを把握する。

1. 派遣期間中の流れ

- (1) 派遣開始直後のイベント、活動内容
- (2) 派遣半年後のイベント、活動内容
- (3) 派遣1年後のイベント、活動内容
- (4) 派遣1年半後のイベント、活動内容
- (5) 派遣終了時のイベント、活動内容

2. ボランティア活動の種類

- (1) 配属先の類型(技術移転型、教室型、対住民型など)
- (2) 類型別の特徴

3. 成功事例、失敗事例


- (1) ボランティアの成功事例と失敗事例
- (2) どのような行動が成功、失敗に繋がったか

4. ボランティアに求められる対応能力・適性

- (1) 高パフォーマンスをあげるボランティアの対応能力・適性について
- (2) 自己分析(個人演習)

*受講にあたっての留意事項

4.(2)の自己分析結果に基づき、訓練期間中の目標管理シートを作成する。また、ボランティアに求められる能力、資質は派遣前訓練だけでなく、派遣期間中の能力強化を考える際のベースになるものなので、しっかりと理解すること。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

目標管理シート、目標管理単元の振り返りシート記入により、候補者自身が自分の学びを振り返る。また観察シートからの評価も行う。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力

 講師略歴

講師要件：

途上国でのボランティア経験者

途上国でのプロジェクト立案、実施、評価の経験者
能力強化の専門性

[担当スタッフ：●●]

達成目標

目標管理シートの考え方、作成方法、進捗管理、振り返りの仕方を理解する 講座の内容

派遣前訓練や任地で活用する目標管理の考え方とプロセスを学ぶ。目標管理シートの作成、進捗管理、振り返りの手法を身に付けるため、派遣前訓練中に、目標管理プロセスを実践する。そのために、派遣前訓練用の目標管理シートを作成する。

1. 目標管理とは

- (1) 目標管理の考え方
- (2) 目標管理シートの役割

2. 目標管理のプロセス

- (1) 目標管理シートの作成
- (2) 目標管理シートを使った進捗管理方法
- (3) 目標管理シートを使った振り返り方法

3. 派遣前訓練の目標管理シート作成（演習）


- (1) ボランティアに求められる能力、資質についての自己評価を基にした訓練目標の設定
- (2) シラバスに基づく、訓練中の活動計画策定

*受講にあたっての留意事項

派遣前訓練の目標管理シートが時間内に完成しない場合は、自主時間計画を使って完成させ、●月●日までに目標管理面談員に提出すること。目標管理シートと自己診断シートを基に個人面談が行われる。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

目標管理シート、目標管理単元の振り返りシート記入により、候補者自身が自分の学びを振り返る。また観察シートからの評価も行う。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力

 講師略歴

講師要件：

途上国でのボランティア経験者

途上国でのプロジェクト立案、実施、評価の経験者

PCM 手法資格認定保有者

[担当スタッフ：●●]

達成目標

活動を実施する際の、計画策定・実施のプロセス、ツールを説明できるようになる

 講座の内容

ボランティアは現地で、計画に基づいて、カウンターパートや関係者と一緒に活動する。そのため、この科目では、このような環境で活動する際に効果的な計画策定・実施方法について学ぶ。また、派遣前訓練の中間段階において、実際に目標管理シートの達成状況を確認することで現地での進捗管理の練習をする。

1. 活動管理の留意点

- (1) 計画に基づいて、複数の人と活動する際の留意点

2. 計画策定・実施のプロセス、ツール

- (1) 活動内容の洗い出し
 (2) スケジュール作成
 (3) 進捗チェックポイントの設定
 (4) 役割分担、必要な資材の洗い出し
 (5) 意思決定プロセス、情報共有のやり方

3. 派遣前訓練における進捗管理


- (1) コミュニケーション技法の課題発表や、語学の学習進捗、体力テスト等の結果を受け、前半期の「活動実績」「達成した成果と根拠」「直面した問題と対処方法」の記入方法
 (2) 後半期の活動計画など目標管理シートの修正方法

*受講にあたっての留意事項

目標管理シートを、自主時間計画を使って完成させ、●月●日までに目標管理面談員に提出すること。その後、前半期の振り返りと後半期の活動についてと目標管理面談員面談する。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

目標管理シート、目標管理単元の振り返りシート記入により、候補者自身が自分の学びを振り返る。また観察シートからの評価も行う。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
 2-1. 主体性
 2-2. 協調性
 3-1. 発信力
 3-2. マネージメント力

 講師略歴

講師要件：

途上国でのボランティア経験者

途上国でのプロジェクト立案、実施、評価の経験者

PCM 手法資格認定保有者

達成目標

任地での目標管理シート作成、進捗管理、振り返りの仕方を理解する

 講座の内容

任地での現状把握、計画策定（目標管理シート作成）活動の進捗管理、振り返りの考え方と方法を学ぶ。カウンターパートとの作成方法、承認プロセス、リスク管理についても触れる。また、派遣前訓練の終了時において、実際に目標管理シートの達成状況を確認することで現地での振り返りの練習をする。

1. 任地での現状把握・目標管理シート作成

- (1) 現状把握の際の項目、方法
- (2) 目標管理シート作成プロセス、留意点、
(カウンターパート、承認プロセス、リスク管理)

2. 任地での進捗管理・振り返り


- (1) 進捗管理の時期、方法、計画の変更
- (2) 振り返りの方法、留意点

3. 派遣前訓練の振り返り


- (1) グループワーク、所外活動、野外訓練、語学試験、体カテスト等の結果を受け、「活動実績」「後半期の成果」「後半期の直面した問題」の記入

*受講にあたっての留意事項

目標管理シートを、自主時間計画を使って完成させ、●月●日までに目標管理面談員に提出すること。その後、訓練全体の振り返りと派遣後の伸ばすべき対応能力・適性について目標管理面談員と面談する。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

目標管理シート、目標管理単元の振り返りシート記入により、候補者自身が自分の学びを振り返る。また観察シートからの評価も行う。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力

 講師略歴

講師要件：

途上国でのボランティア経験者

途上国でのプロジェクト立案、実施、評価の経験者

PCM 手法資格認定保有者

達成目標

JOCV：目標管理管理面談により自分の強みや弱みを把握する
SV：派遣前訓練への取組状況を把握する

 面談の内容


【JOCV】目標管理面談

対応能力・適性評価記入シートと目標管理シートを使った目標管理相談員との面談を通じ、主観的な自己分析と客観的な自己分析でどのような違いがあるのかを把握する。また、訓練が終わった後に如何なる能力、資質をどんな研鑽を続け、伸ばしていくかについても話し合う。面談は訓練開始時、中間時、終了時の計3回実施する。


*受講にあたっての留意事項
中間時と終了時の面談では、達成した成果の根拠を用意すること。

【SV】個人面談

ボランティア事業への参加の動機、派遣前訓練への取組状況、合同合宿制訓練の感想、睡眠時間等について聴き取りを行う。面談は訓練開始時、終了時の計2回実施する。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

なし

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力
- 5-2. 安全管理能力

[担当スタッフ：●●]

単元の目的

ボランティアの活動に必須であるコミュニケーションスキルについて学んだあと、生活班単位で課題(日本について)を研究し、コミュニケーションスキルを活かした発表をする。

コミュニケーションスキルの習得だけでなく、課題発表の準備を通じたグループ活動で、計画能力や協調性などの対応能力・適性を伸ばすことも目的としている。

対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

担当スタッフ

● 単元の構成

科目	備考
B-3-1. コミュニケーション技法オリエンテーション (F.各種オリエンテーション一覧表 参照) オリエンテーションは、生活班単位で実施する。	
B-3-2. コミュニケーションの基礎 ・コミュニケーションの構造	2 コマ
B-3-3. ファシリテーションの基礎 ・ファシリテーションのコツ ・ワークショップの企画方法	2 コマ
B-3-4. プレゼンテーションの基礎 ・PowerPoint スライド作成のポイント	2 コマ
自主計画時間：生活班ごとに課題（日本について）発表の役割分担、計画、研究、発表準備を行う。	
B-3-5. 課題発表・振り返り ・課題発表は、2 コマ×2 回に分けてプレゼンテーションを行う。 ・課題は『日本について(社会、経済、文化)』とする。	課題発表 4 コマ * 課題発表ではアンケートを取ること。 振り返り 2 コマ(課外) * 課題発表後、自主計画時間を活用して行う。

達成目標

異文化でのコミュニケーションの難しさを理解し、情報発信方法を理解する

📖 講座の内容

伝えたい内容を理論的に整理し、簡潔にわかりやすく、印象深く伝えるための技法を学ぶ。

1. コミュニケーションの理解

- (1) コミュニケーションの構造
(発信→受信→理解→フィードバック)
- (2) 日本型コミュニケーション
(ハイコンテキスト型) の問題点と解決方法

2. 情報の発信 (講義+演習)

- (1) 自分の言いたい事をどのように整理するかについて

3. 情報の受信

- (1) ジェスチャー、視線などの非言語情報について

4. コミュニケーションの実践 (個人演習)

- (1) 学んだスキルを実践してみる。

*受講にあたっての留意事項
学んだスキルを課題発表等で実際に使用するという
ことを意識しながら講義を受けること。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

👉 評価方法

コミュニケーション技法単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また生活班担当による観察シートと課題発表のプレゼンテーション、成果品から評価する。

対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 3-1. 発信力

👤 講師略歴

講師要件：
海外（できれば途上国）での
半年以上の業務経験者
コミュニケーションについて
の講師経験者

[担当スタッフ：●●]

達目標

ファシリテーションをする際のポイントを理解する

📖 講座の内容

ファシリテーターとは、ワークショップやミーティングなどの場で、様々な意見が出るよう工夫したり、合意形成をする手伝いをしたりする人のことである。ファシリテーションは任地の活動で必要なだけでなく、社会人としても必要なスキルであるため、考え方を学んで、派遣前訓練のグループ活動や任地での活動、帰国後に活かすことを目指す。

1. ファシリテーターの役割

- (1) ファシリテーターとは
- (2) ファシリテーターに必要な能力

2. ファシリテーションのポイント

- (1) ファシリテーションの基本的なコツ
- (2) タイムマネジメント
- (3) 紛争解決

3. ミーティング・ワークショップの企画方法

- (1) 目的設定
- (2) 参加者、スケジュール、準備

*受講にあたっての留意事項
学んだスキルを課題発表等で実際に使用するという意識をしながら講義を受けること。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

👁️ 評価方法

コミュニケーション技法単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また生活班担当による観察シートと課題発表の成果品から評価する。

☑️ 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力

👤 講師略歴

講師要件：
ワークショップの企画、実施、ファシリテーションの経験者

※途上国でのワークショップ実施経験者が望ましい

[担当スタッフ：●●]

達成目標 プレゼンテーションを行う際のポイントを理解する

📖 講座の内容

任国での活動中、情報共有や報告など、プレゼンテーションをする機会が多い。そこで、プレゼンテーションをする際のポイント、特にスライドの作成方法を中心にノウハウを学ぶ。

1. 効果的なプレゼンテーション

- (1) 環境に合わせたプレゼンテーション
- (2) 話し方、視線、態度、表情

2. プレゼンテーション資料の作り方

- (1) 資料の分量
- (2) 構成の分かりやすさ
- (3) 視覚的な分かりやすさ

3. PowerPoint スライドの作り方

- (1) 色、フォントサイズ、レイアウト、キーワード、アニメーション、図表。

4. プレゼンテーションの準備

- (1) 必要な準備

*受講にあたっての留意事項

学んだスキルを課題発表等で実際に使用するという意識をしながら講義を受けること。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

👁️ 評価方法

コミュニケーション技法単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また生活班担当による観察シートと課題発表の成果品から評価する。

対応能力・適性

3-1. 発信力

👤 講師略歴

講師要件：

プレゼンテーションについての講師経験者

[担当スタッフ：●●]

達成目標

コミュニケーション技法を活用して課題発表を行い、生活班担当と一緒に振り返ることで学びを得る

 講座の内容

自主時間計画を使って準備をしてきた課題の発表を行う。発表は生活班ごとに行う。

1. 課題発表：日本について(社会、経済、文化)


- (1) 発表時間はアンケート記入も含めて4コマ(2コマ×2回に分け)で実施する。生活班ごとに10分以内で行う。
- (2) 発表していない班は、他のグループの発表を見て、評価を行う。

課題発表後、自主計画時間(2コマ)を活用して、振り返りを行う。振り返りの内容は以下のとおり。


- ・準備から発表までの流れについての自己評価
- ・単元全体を通じた学びの共有
- ・各生活班からのコメント

*受講にあたっての留意事項

他のグループの発表を聞いた後は、発表者の役に立つコメントをアンケートに記入すること。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

コミュニケーション技法単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分達の学びを振り返る。また生活班担当による観察シートと課題発表のプレゼンテーション、成果品から評価する。

 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師

講師は配置しないが、振り返りでは、生活班担当を配置する。

[担当スタッフ：●●]

単元の目的

現状の把握やニーズ調査などに活用可能な調査手法について学ぶ。(D-4-4 所外活動では、本単元で取得した手法を用いて簡易調査を実施し、結果を取りまとめる。)

調査手法の習得だけでなく、簡易調査の準備を通じたグループ活動で、マネージメント能力や協調性などの対応能力・適性を伸ばすことも目的としている。

対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

担当スタッフ



● 単元の構成

科目	備考
B-4-1 調査オリエンテーション：(F. 各種オリエンテーション一覧表 参照) 任国や職種、生活班で固まらないようなグループに分かれる。	
B-4-2. 情報収集 ・アンケート、インタビューなど情報収集ツールの使い方	3 コマ
B-4-3. 参加型調査手法 ・視覚ツールの使い方	3 コマ

達成目標 効果的な情報収集の方法を理解する

 講座の内容

ボランティアが派遣されてまず行うことは現状把握である。現状把握のためには様々な情報を収集する必要があることから、情報収集の方法を学ぶ。

1. 情報収集の種類

- (1) インターネットや文献による情報収集
- (2) 調査手法の種類、メリット、デメリット

2. 調査計画

- (1) 調査計画表の作成方法
- (2) ケースごとの調査計画表例紹介

3. アンケートによる情報収集

- (1) アンケートの作成方法（選択式、自由記述、点数付け）
- (2) ケースごとのアンケート例紹介

4. インタビューによる情報収集


- (1) インタビューの種類
- (2) インタビュー演習（ストラクチャードインタビュー、セミストラクチャードインタビュー）

*受講にあたっての留意事項

学んだスキルを訓練期間中、現地で実際に使用するという意識しながら講座を受けること。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

調査手法単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また担当スタッフによる観察シートと成果品（調査結果）からも評価する。

 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力

 講師略歴

講師要件：
途上国での調査経験者

[担当スタッフ：●●]

達成目標

RRA の視覚ツールを活用できるようになる

 講座の内容

短時間に参加型で調査をするための手法である RRA (Rapid Rural Appraisal) を学ぶ。

1. RRA の概要説明 (講義)

- (1) RRA の概要、プロセス、メリット、デメリット
- (2) 視覚ツールの種類、活用方法

<紹介する視覚ツール>


- ・空間を視覚化するツール (マッピング、見取り図)
- ・時間の流れを視覚化するツール (作物カレンダー、週間スケジュール、日課)
- ・関係性を視覚化するツール (組織関係図、ベン図、フロー図、家系図)
- ・ランキング (投票、総当たりランキング)

2. 視覚ツール演習


- (1) グループで、視覚ツールを作成する。

*受講にあたっての留意事項

学んだスキルを演習で実際に使用することを意識しながら講義を受けること。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

調査手法単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また担当スタッフによる観察シートと成果品 (調査結果) からも評価する。

 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力

 講師略歴

講師要件：

途上国での調査経験者

[担当スタッフ：●●]

単元の目的

ボランティアが活動する際、任地での技術水準やその使われ方は日本とは異なることがほとんどであり、思うように活動できないこともある。

本単元では、途上国特有の環境における活動手法の基礎及び先輩隊員や技術顧問から開発途上国での協力活動を円滑に行うために必要かつ効果的な手法を学び、任地で活かすことを目的としている。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

担当スタッフ



● 単元の構成

科目	備考
B-5-1. 協力活動手法	WBT『青年海外協力隊講座』によるインターネット事前学習
B-5-2. 協力活動手法	2 コマ
B-5-3. 職種別活動セミナー	2 コマ *一部の職種は課業外に各OV会によるセミナーの実施あり

達成目標

ヒト、モノ、カネが不足する開発途上国における協力活動の基本姿勢や活動手法の考え方を学ぶ

 講座の内容


2部構成。音声と映像を視聴し学習する。

第1部

隊員の活動現場に即した活動とは何か、どのような協力手法が求められるのか、西アフリカで活動した栄養士隊員の事例を基に考える。

第2部

国際協力の現場において、現地の社会環境を良く見極めることの必要性、重要性について南部アフリカの複数の国々で実施された簡易コンロの普及活動の事例を比較しながら考える。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 講座のポイント

ボランティア候補者は、選考と技術補完研修を通じて「ボランティアとして必要な技術・技能を有している」と認められ派遣前訓練に参加する。しかし、任地での技術水準やその使われ方は日本とは異なることがほとんどである。本講座では途上国特有の環境における活動手法の基礎を学ぶ

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

達成目標

任国における職種分野別技術水準や適正技術について理解する


 講座の内容

職種分野別のグループに分かれ、担当の技術顧問から開発途上国での協力活動を円滑に行うために必要かつ効果的な手法を学ぶ。


- ・ 対象者の名簿や指定場所等は、後日掲示板で確認（対象者以外は語学自習）
- ・ 講師の判断により、実施しない職種分野あり
- ・ ボランティア要望調査票を持参
- ・ 事前の掲示を必ず確認

■平成 25 年度 技術顧問一覧

担当職種分野	氏名	担当職種分野	氏名
稲作・野菜栽培等	●●	コンピュータ技術等	●●
体育・スポーツ全般	●●	PC インストラクター等	●●
溶接・工作機械等	●●	青少年活動 等	●●
電気・電子機器等	●●	環境教育・林業・森林保全等	●●
自動車整備等	●●	手工芸・婦人子供服等	●●、●●
土木全般	●●	幼児教育	●●
都市計画・建築・造園等	●●	美術・音楽等	●●
看護師・助産師・保健師	●●	感染症・エイズ対策等	●●
作業療法士・養護等	●●	小学校教育等	●●
家政・料理・栄養士等	●●	日本語教師	●●
コミュニティ開発等	●●	算数教育	●●
交通安全等	●●	理科教育	●●
通信インフラ等	●●	動物学等	●●
ジャーナリズム等	●●		

 履修要件


対象者	要件
JOCV	☆ 指定者必修
SV	×

 講座のポイント

ボランティア候補者は、選考と技術補完研修を通じて「ボランティアとして必要な技術・技能を有している」と認められ派遣前訓練に参加する。しかし、任地での技術水準やその使われ方は日本とは異なることがほとんどである。技術顧問から活動成功の秘訣を掴むため、本講座を活用する。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師

協力隊技術顧問・技術専門員・国際協力専門員
 それぞれの職種分野別に委嘱され、JICA ボランティアの選考、任国での活動に対する技術的なアドバイス等を行なっている。

[担当スタッフ：●●]


達成目標

任国における職種分野別の技術水準や円滑な協力活動を行うための情報収集をする

 講座の内容

職種分野別のグループに分かれ、JICA ボランティア OV から開発途上国での協力活動を円滑に行うための情報を収集する。

- ・ 対象者の名簿や指定場所等は、後日掲示板で確認
- ・ ボランティア要望調査票を持参
- ・ 事前の掲示を必ず確認

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 講座のポイント

JOCV 候補者は、選考と技術補完研修を通じて「ボランティアとして必要な技術・技能を有している」と認められ派遣前訓練に参加する。しかし、任地での技術水準やその使われ方は日本とは異なることがほとんどである。先輩隊員たちから引き継がれた「コツ」を掴むため、本セミナーを活用する。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師

JICA ボランティア OV

[担当スタッフ：●●]

単元の目的

体力増強の単元では、任国での活動の基礎となる体力を強化し、その維持に関する知識を身に付ける。訓練開始時のスポーツテスト①で現状を把握し、訓練期間中に朝の集い後のマラソン(若しくはウォーキング)、自主計画時間を使った体力増強活動を通じて強化し、修了時のスポーツテスト②でモニタリングを行う。また、体力維持・増進を図り、協調性、団結力を醸成することを目的にスポーツ大会を実施する。

対応能力・適性

□ 5-1. 健康管理能力

担当スタッフ

●●

● 単元の構成

科目	備考
C-2-1. 体力テスト①②	4 コマ
C-2-2. 体力維持講座	2 コマ
C-2-3. スポーツ大会	4 コマ

体力テスト①②

① ●月●日(●)
●:●~●:●
② ●月●日(●)
●:●~●:●

達成目標

入所時の体力を把握し、訓練期間中に維持・増強し、変化を確認することにより任国での体力維持・管理に役立てる

📖 講座の内容

体力テストでは、入所時の自分の体力を把握したうえで、訓練中に各自のレベルに合わせた体力の維持・増強を実施し、中間時と終了時に変化を確認することで、任国においても健康・体力の維持ができるよう役立てる。

1. 日時

(1) 体力テスト①(入所時)

●月●日(●) ●:●-●:● 場所: ●●

(2) 体力テスト②(終了時)

●月●日(●) ●:●-●:● 場所: ●●

2. 体力テスト項目(20~64歳対象)

(1) 握力

(2) 上体起こし

(3) 長座体前屈

(4) 反復横とび/※もしくは開眼片足立ち

(5) 20m シャトルラン(往復持久走) /※もしくは6分間歩行

(6) 立ち幅跳び/※もしくは10m 障害物歩行

*受講にあたっての留意事項
運動のできる服装で参加すること。

👤 履修要件

対象者	要
JOCV	○
SV	×

👉 評価方法

訓練開始時、中間時、終了時の体力測定結果から、体力の維持・増強への取り組みを評価する。

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

👤 講師

講師なし。訓練スタッフ及び体育委員が中心となって測定を行う。

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

訓練期間及び任国における健康・体力の維持・増進の重要性について実践を通して学ぶ

📖 講座の内容

ウォーミングアップをして体を温め、筋肉や関節の柔軟性を高め、怪我や傷害を防ぎ、スポーツや運動を楽しむ。

1. 柔軟性と敏捷性を高める運動

- (1) 脚、腰を伸ばす運動
- (2) バランスよく脚を伸ばす運動
- (3) 肩、胸、胸部を伸ばす運動
- (4) 肩、脚の柔軟性を保つ運動 等

2. 仲間と楽しく動く運動

- (1) 肩、腕の動きをなめらかにする運動
- (2) 脚、腰、背を伸ばす運動

3. ラジオ体操

ラジオ体操は13の運動で構成されている。日常生活や仕事ではあまり使われていない筋肉や関節をバランスよく動かして、柔軟性や筋力、調整力(バランス感覚やリズムカルに身体を操作する機能、いざという時に素早く身体を反応させ、安全性を高める機能)、全身の血液循環を良くする等、頭から足先まで運動刺激を与え、全ての機能を活性化させることができる。運動一つ一つの意味、そして動作のポイント等について学ぶ。

*受講にあたっての留意事項
運動のできる服装で参加すること。

👤 履修要件

対象者	要
JOCV	○
SV	○

👉 評価方法

体力増強単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

☑️ 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

👤 講師略歴

外部講師

●● ●● 氏
●● ●● 氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

訓練期間及び任国における健康・体力の維持・増進の重要性について実践を通して学ぶ

📖 講座の内容

体力維持・増進を図り、協調性、団結力を醸成する。

ウォーミングアップをして体を温め、筋肉や関節の柔軟性を高め、怪我や傷害を防ぎ、スポーツや運動を楽しむ。

1. 場 所： 訓練所内（グラウンド／体育館等）
2. 実施種目： ドッジボール／ソフトバレーボール、卓球（雨天時）等
3. 日 程： ●●：●● 開会式、準備運動
●●：●● 競技開始
●●：●● 閉会式
●●：●● 清掃、後片付け
4. 組み合わせ、対戦方法： 詳細は別途連絡
5. 競技運営： 競技の運営、開・閉会式の進行は、体育委員が中心になって行う。
 - (1) 開会式： 開会宣言、所長挨拶、特別参加者紹介、諸注意、選手宣誓、準備運動
 - (2) 競技： 前半のリーグ戦と後半のトーナメント戦（順位決定戦）
 - (3) 閉会式： 整理運動、成績発表・表彰、講評、諸連絡、閉会宣言
 - (4) 表彰： 優勝、2、3位チームを表彰

*受講にあたっての留意事項

- ・運動に適した服装で参加すること。
- ・全員で協力し合い、フェアプレーに徹するとともに、ケガ等の事故に遭わないよう注意する。
- ・用具は、試合終了後、元の位置に責任を持って戻し、体育委員を中心に全員で清掃、後片付けを行う。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

📝 評価方法

体力増強単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

👤 講師略歴

体育委員が中心となって運営を行う。

[担当スタッフ：●●]

単元の目的

ボランティアの任地には日本の通常生活では遭遇・経験しないような事故、事件、疾病等のリスクが存在する。中には深刻な被害を及ぼす可能性が高いものがある一方で、途上国の医療サービスレベル・アクセスには制約がある。これらリスクを如何に予防・回避するか、また不幸にしてリスクが具現化した場合、如何に軽減するかはボランティアにとって極めて重要な問題である。

本単元では過去の事例を踏まえ、安全対策を学ぶとともに、異文化不適應に起因する精神衛生等についても理解を促進する。

● 単元の構成

科目	備考
C-3-1. 診察室オリエンテーション	1 コマ
C-3-2. 派遣前健康管理オリエンテーション	1 コマ
C-3-3. 救急法	4 コマ
C-3-4. 婦人科（対象者のみ）	2 コマ
C-3-5. 歯科衛生	1 コマ
C-3-6. 日本人の疾病動向と健康管理	2 コマ
C-3-7. 精神衛生	2 コマ
C-3-8. 感染症	3 コマ
C-3-9. 座禅	2 コマ
C-3-10. 医療者特別講座（対象者のみ）	1 コマ

対応能力・適性

- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力
- 5-2. 安全管理能力

担当スタッフ




達成目標


派遣前訓練中の診療室利用や医療機関の受診など健康管理について理解するとともに赴任にあたり必要な予防接種について理解する。

 講座の内容

1. 訓練中の健康管理について
2. 病気の予防と対策
3. 診療室利用、外部医療機関受診、訓練所顧問医について
4. 予防接種の種類・方法・注意事項

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師

訓練所診療室看護師が行う。

[担当スタッフ：●●]


達成目標

赴任にあたり、任国で必要な健康管理について、現地の医療事情を学び、役立つ予防知識を身につける


 講座の内容

1. 任国での健康管理について

JOCV と SV で分け、派遣前、派遣直後の健康管理上の留意点を説明する。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師

訓練所診療室スタッフ

[担当スタッフ：●●]

達成目標

突発的な事故・負傷に対する応急処置の方法を学び、
事故防止思想と実践で役立つ技術を身につける

📖 講座の内容

この講座は、理論と実践の2部構成となっており、任国での突発的な事故や負傷に際し、応急手当ができるように救急法を学ぶとともに、事故防止思想を身につけ、事故に遭わないボランティアになる心がけを持つことが重要である。

1. 救急法の意義（全体講義）

- (1) 救急法とは何か
- (2) 救急法を学ぶ意義
- (3) 応急手当をする際の注意事項

2. 止血法（実技）

(1) 直接圧迫法

患部を直接圧迫する止血法。効果的な方法と材料、注意点について学ぶ。

(2) 間接圧迫法（指圧止血法）

動脈を押さえることによって血流を止める止血法。どの部位をどのように押さえると効果的か、実践しながら学ぶ。

3. 包帯法（実技）

- (1) 包帯の目的
- (2) 包帯を使用する上での注意
- (3) 三角巾の使用法

4. 心肺蘇生法・AED利用法（実技）

- (1) 心肺蘇生人形を用いた心肺蘇生法
- (2) AED（自動体外式除細動器）の使用法

5. その他（実技）

スポーツ傷害、脱水症状、エコノミー症候群などへの処置

*受講にあたっての留意事項

- ・運動着等の動きやすい服装で受講すること。
- ・筆記用具、ハンカチ・日赤救急法テキスト（訓練所より貸与）を持参すること。
- ・使用するテキスト：日赤救急法テキスト（訓練所より貸与）

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

📝 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

- 5-1. 健康管理能力
- 5-2. 安全管理能力

👤 講師略歴

外部講師

●● ●●氏
●● ●●氏

[担当スタッフ：●●]

達成目標

女性が罹りやすい病気の基礎知識と自己管理のための知識を身につける


 講座の内容

派遣中の主な婦人科疾患である月経不順をはじめ、各疾患や診断において重要となる基礎体温測定の意義を知り、自己管理方法について学ぶ。


1. 基礎知識と派遣中の婦人科疾患

- (1) 女性の生理/基礎体温
- (2) 婦人科の症状と疾患
- (3) 婦人科の診察
- (4) 子宮がん
- (5) 派遣中における婦人科疾患の症例

2. 中高年女性の健康管理

 履修要件


対象者	要件
JOCV	女性○ 男性△
SV	△

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師略歴

JICA 国際協力人材部
健康管理課 婦人科顧問医

●● ●●氏

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

任国における口腔衛生の重要性と歯科疾患予防の知識を身につける


 講座の内容

任国での歯科相談の内容としては、詰め物の脱落、虫歯、知覚痛、歯周病が多く挙げられる。講座では、これらの対処法や予防法を中心に説明する。また、講座の中でブラッシングの方法を実践するので、任国でも、継続して口腔ケアができるよう訓練中から努めること。


1. 虫歯と予防
2. 歯周病と治療
3. ブラッシング
4. 親知らず、口内炎、顎関節症等

*持参物

日常使用している歯ブラシ(ブラッシングの実践をする)

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師略歴

外部講師

●● ●●氏
●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

生活習慣病の予防と対策を学ぶ

 講座の内容

この講座は、運動・食事・禁煙を中心に、生活習慣病の予防法や改善法を説明し、実践に役立ててもらうことがねらい。

日本人の死亡原因と罹患率や生活習慣病の予防と対策を学び、任国のみならず今後の健康管理に役立てる。

1. 日本人の死亡原因と罹患率

- (1) 死亡原因の推移
- (2) がんの部位別死亡率

2. 喫煙と健康について


- (1) 死亡原因と喫煙の関係
- (2) 受動喫煙

3. 生活習慣病と動脈硬化疾患


- (1) メタボリックシンドローム
- (2) 運動療法
- (3) 食事療法

4. 新世代の生活習慣病

5. 健康の自己管理について

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る・

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師略歴

JICA 国際協力人材部

健康管理課 顧問医

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]


達成目標

任国で心身ともに健康で過ごすことの重要性を理解し、任国でのストレス対処法を学ぶ


 講座の内容

心と身体の深い繋がりを理解し、多くのストレスが押し掛かる任国において心身ともに健康で過ごすための知識を学ぶ。この講座を踏まえて、任国ではもちろんのこと、現在の派遣前訓練の環境や日常生活におけるストレス対策の参考とする。

1. メンタルヘルスに関する基礎知識
2. 予防と早期発見
3. ストレスに対処するには
4. 周囲との関係
5. 任国とストレス
6. うつ病について

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師略歴

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

任国の感染症についての知識を深め、予防と罹患時の対処を身にける

 講座の内容

派遣国には日本では流行しない多くの感染症が存在し、医療事情が異なるが、その多くは意識次第で予防が可能である。この講座では、各感染症の基礎知識、予防法、対処法について学び、感染症の理解を深め、健康に活動が出来るよう自己管理能力を高める。

1. 感染症の基礎知識

- (1) 任国での感染症
- (2) 生活上の基本的な注意点

2. 各感染症


- (1) マラリア、デング熱など各疾患
- (2) 症状と対処法
- (3) 予防接種

3. 性感染症

- (1) 性感染症とは
- (2) HIV/AIDS などの各疾患
- (3) 性感染からの予防方法

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師略歴

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

自分を見つめ、安定した心持ち、精神修養を図る。

 講座の内容

日本の伝統的文化を理解し、協力隊活動を効果的に実行するために求められる幅広い分野での教養を深め、自らが経験する隊員生活を今後の人生に活かせるよう導く。

1. 内容

(1) 講話


命をどう使い(使命)、人生をどう使うか、また、講師の人生のテーマや「心」について。

(2) 座禅

禅宗の住職を招き座禅を体験する。無の境地を目指すものとはやや違い、心を落ち着け、訓練への取り組みと任国へ赴任するにあたって改めて自分に問い直す機会とする。

*受講にあたっての留意事項


座禅に参加する人は、講話終了後、座禅しやすい服装に着替えること。また、毛布、枕を各居室から持参すること。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 対応能力・適性

- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力

 講師略歴

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]


達成目標

針刺し事故後の HIV 感染予防対策と対処方法を学ぶ


 講座の内容

「医療者特別講座」では、血液に触れるリスクが高い活動を行う予定の候補者に対し、針刺し事故の予防対策や対処方法を説明する。

1. 針刺し事故の予防
2. スタンダードプリコーションとは
3. 針刺し事故発生状況
4. 感染のリスク
5. 健康の自己管理について

 履修要件


対象者	要件
JOCV	医療関係職種は ○(必修)
SV	その他は□(自由 参加)

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師略歴

JICA 国際協力人材部

健康管理課 顧問医

●● ●●氏

単元の目的

ボランティアの任地には日本の通常生活では遭遇・経験しないような事故、事件、疾病等のリスクが存在する。中には深刻な被害を及ぼす可能性が高いものがある一方で、途上国の医療サービスレベル・アクセスには制約がある。これらリスクを如何に予防・回避するか、また不幸にしてリスクが具現化した場合、如何に軽減するかはボランティアにとって極めて重要な問題である。

本単元では、過去の事例を踏まえ、凶悪一般犯罪を中心に、政情不安、それに伴う緊急避難、薬物犯罪の傾向と対策、交通事故の主な要因の一つである交通事情や運転マナー等を学習する。また、自己管理による安全対策の心構え(セルフ・ディフェンス)や行動規範(三ない主義)を身につける。更に、青遺海の会の講話を通じ、命の尊さを認識し、安全意識の高揚を図る。

● 単元の構成

科目	備考
C-4-1. 海外における安全対策	3 コマ
C-4-2. 海外における交通安全	2 コマ
C-4-3. 海外における交通安全(自動二輪) ※対象者のみ	1 コマ
C-4-4. 自動二輪不整地走行練習	10 コマ(課業外)
C-4-5. 青遺海の会による講話	1 コマ
C-4-6. 避難訓練	1 コマ

対応能力・適性

□ 5-2. 安全管理能力

担当インストラクター



達成目標

日本と派遣国の治安状況の違いを理解し、安全を確保するための基本的な心構えと具体的な方法を学ぶ

📖 講座の内容

海外での犯罪実態を知り、安全対策を学ぶ。

1. 危機管理の重要性と JICA の安全管理
2. 緊急事態への心構えと発生時の対応（自然災害等を含む）
3. テロ（特に爆弾テロ）、大衆運動等のリスク対策
4. 誘拐被害防止対策
5. JICA 関係者の犯罪被害実態
6. 住居の安全対策
7. 屋内犯罪被害と安全対策
8. 屋外犯罪被害と安全対策
9. 性的犯罪被害防止対策
10. 任国外旅行の留意点
11. 薬物犯罪
12. その他

*スケジュール

●:●~●:● 全体講義 (●●ホール)

●:●~●:● 男女別講義

男性 (●●ホール)

女性 (●●ホール)

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

🗨️ 評価方法

安全管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-2. 安全管理能力

👤 講師略歴

JICA 総務部 安全管理室
安全対策アドバイザー

●● ●●氏

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]



達成目標

任国における交通事故防止に必要な安全意識の向上を図るとともに、日本での安全神話意識を払拭させる

講座の内容

JICA ボランティア派遣国の交通事情と交通事故の事例を解説と共に紹介し、日本と開発途上国の交通事情の相違を確認し、派遣国における交通事故防止に必要な安全意識の向上を図る。

C-4-2

1. 交通実態の把握

- (1) 過去における JICA 関係者の事故発生状況
- (2) 任国における交通状況と実態の把握につとめ意識改革を
- (3) 交通事故に遭わないために
- (4) 交通事故に遭わない人とは

2. 歩行と同乗する際の安全

- (1) 歩行する際の安全
- (2) 同乗する際の安全
- (3) 乗車中の安全

3. 自転車・バイク・四輪車の運転

- (1) 自転車
- (2) バイク・四輪車
- (3) 事故事例 (ケーススタディ)

4. シニアの事故防止

- (1) 多発するシニアドライバーの事故
- (2) シニアの交通安全の留意事項

5. 交通事故に遭遇した場合の措置

- (1) 措置要領
- (2) 常時携行品と把握先

C-4-3

6. 自動二輪(バイク) 事故に遭遇しないために

※ バイク貸与予定者のみ

C-4-4

7. 自動二輪(バイク)不整地走行練習 (課業外 10 コマ程度)

※自動二輪(バイク)貸与予定者の中で対象者のみ

履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

評価方法

安全管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-2. 安全管理能力

講師略歴

JICA 総務部 安全管理室
安全対策アドバイザー

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]


達成目標

無事の帰国を願う留守家族の気持ちについて考え、
命の尊さについて再認識する


 講座の内容

青遺海の会は、任期途中で不慮の事故で亡くなられた隊員の遺族の方々の会である。今後会員を1名も増やすことのないようにとの思いから、この講座が設けられている。

家族、友人、同僚、そしてこの訓練所で出会った同期の仲間たち、訓練所を取り巻く市民の方々…。見えるところでも、見えないところでも、沢山の人たちがボランティアの無事の帰国を待ち望んでいる。どうかそのことを忘れずに、任地でも自らの命を大切に過ごしてほしい。また、派遣前訓練修了を目前に逸る気持ちを落ち着かせ、今一度安全への意識や送り出してくれる家族の思いを心に留めてほしい。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

安全管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-2. 安全管理能力

 講師略歴

青遺海の会

●● ●●氏

[担当スタッフ：●●]

講座テストの目的

各種講座等を通じて学んだ国際協力、JICA 事業、JICA ボランティア事業、異文化理解、安全管理、保健衛生等、JICA ボランティアとして活動するにあたり必要な知識の習得度を確認する。

●出題範囲

《JOCV》

テーマ	参考講座等
1. 国際協力、JICA 事業、JICA ボランティア事業 (100 点) <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア事業の概要、事業理念、目標などについて ・ ODA の形態、分類、構造、JICA 事業について ・ JICA の人間の安全保障 (概念、視点など) について ・ 環境、ジェンダー、HIV/エイズ 	「JICA ボランティア事業の理念と目標」「国際関係と日本の国際協力」「JICA 事業概要」など
2. 異文化理解 (100 点) <ul style="list-style-type: none"> ・ 講座「異文化適応概論」「世界の宗教理解」他応用問題 	「異文化適応概論」「世界の宗教理解」など
3. 安全管理 (50 点) <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理 (交通安全に対する意識、安全対策など) について 	「海外における安全対策 (治安・犯罪対策)」「海外における交通安全対策」など
4. 保健衛生 (50 点) <ul style="list-style-type: none"> ・ 狂犬病 ・ 経口感染症 ・ 破傷風 ・ 日本人の疾病動向、生活習慣病 ・ 予防接種 ・ マラリア、デング熱 ・ 精神衛生 	「感染症」「日本人の疾病動向と健康管理」(講座)、「感染症の基礎知識と対応」(資料)など

《SV》

テーマ	参考講座等
1. 健康管理 (50 点) <ul style="list-style-type: none"> ・ 狂犬病、予防接種、経口感染症、マラリア、デング熱、破傷風、精神衛生、日本人の疾病動向、生活習慣病 	「感染症」「日本人の疾病動向と健康管理」(講座)、「感染症の基礎知識と対応」(資料)など
2. 安全管理 (50 点) <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理 (交通安全に対する意識、安全対策など) について 	「海外における安全対策 (治安・犯罪対策)」「海外における交通安全対策」など

●その他

- ▶ 鉛筆、消しゴムを持参すること（マークシートを使用）。
- ▶ 各分野の点数が6割未満の場合、分野ごとに再テストを実施する。

[担当スタッフ：●●]

自主計画時間を使った自主研修 講座の準備・実施

実施可能日時は詳細参
照のこと

1. 実施可能時間、場所

時 間：5：30～22：30 の内、課業時間帯以外

※但し、日程上の課業時間帯以外でも、課業が組まれている日時は除く

場 所：訓練所内で、実施に相応しい場所

2. ね ら い

様々な専門性を持つ候補者同士が、その専門性を活かしながら自主研修講座・自主勉強会を企画実施し、お互いに学び合う。訓練中、自ら企画・準備・実施することで、赴任後の活動に向け経験を積む機会とする。

3. 内 容

- ・候補者の資質向上に資するもの
 - ・主として訓練中の候補者同士が講師となり得るもの
 - ・単なる気分転換を目的とした団体スポーツ等は自主講座として位置付けない
- <過去の実施例>

HIV 講座、マラリア講座、日本語教師研修会、開発計画手法・調査分析法など

4. 実施手順

	内 容	期 限
1	「自主研修講座計画書」提出（別添様式）	実施 1 週間前までに（スタッフルームへ）
2	スタッフよ承認	提出後の 3 日以内 （日直室前ホワイトボードにて計画書の掲示で確認）
3	実施	
4	「自主講座報告書」提出（別添様式）	実施後 1 週間以内（スタッフームへ） □

※計画書の提出後、実施の内容にスタッフが検討した結果、再度内容の変更を求める場合もある。

5. 資機材

- ・講座に必要な資機材は原則として自分たちで調達、購入すること
- ・コピー、貸与可能な機材（プロジェクターなど）は事前に依頼があれば便宜を図る
- ・火気を使用する場合は、別途『火気類使用許可願』をスタッフルームに提出
（用紙はスタッフルーム、または共有フォルダに有り）

自主研修講座実施計画書

氏 名 : _____
派遣予定国 : _____
職種/指導科目 : _____
生活班 : _____ 班

1. 講座名 :
2. 講師名 :
3. 実施日時 :
4. 実施場所 :
5. 目的 :

6. 内容 :

7. 使用備品 :

8. 参加予定者氏名・派遣予定国・職種/指導科目 : (⇒ 多い場合は別紙添付)

(計 名)

9. 火気使用 : する ・ しない
(⇒ 使用する場合は、別途火気類使用許可願を提出)

10. 配布資料 : あり ・ なし
(配布資料の印刷をスタッフに依頼する場合は講座実施の2日前までに申し出ること)

以上

訓練総括	語学スタッフ	生活スタッフ	講座スタッフ	受付

提出期限 : 実施日を含む1週間前の19:00まで

自主研修講座実施報告書

氏 名： _____

派遣予定国： _____

職種/指導科目： _____

生活班： _____ 班

1. 講座名：
2. 講師名：
3. 実施日時：
4. 実施場所：
5. 目的：
6. 内容：

7. 実施成果等（レジュメ、資料等あれば添付のこと）：

8. 参加者氏名・派遣予定国・職種/指導科目（多数の場合は参加者リストを添付）：

（計 名）

訓練総括	語学スタッフ	生活スタッフ	講座スタッフ	受付

単元の目的

ボランティアが国の実施するボランティア事業に参加するにあたり国際協力の変遷、日本の政府開発援助（ODA）の歴史および JICA 事業、ボランティア事業を理解する。第二次世界大戦後、我が国が戦後の混乱と疲弊から立ち直り経済大国へとめざましい発展を遂げた背景には、先進国政府の経済協力、国際機関からの資金供与があった。講座においては、戦後世界経済の変遷と被援助国から援助国へと変貌を遂げた我が国の国際協力の過去、現在、未来を理解するとともに、援助の受け手である開発途上国の抱えている開発課題、グローバルイシュー等についての理解を深め国際協力の必要性を認識する。

また、JICA の事業概要を把握し、JICA 事業におけるボランティア事業の位置付けを理解した上で、ボランティアとしての心構え、ボランティアに必要な要素とは何かを考える。更に、ボランティアが任国の概要、任国の JICA 事業におけるボランティアの位置付けを理解する。

● 単元の構成

科目	備考
D-2-1. 外務省講話	1 コマ
D-2-2. 戦後日本の国際協力の歩み	WBT『青年海外協力隊講座』によるインターネット事前学習
D-2-3. 国際関係と日本の国際協力	2 コマ
D-2-4. JICA 事業概要	1 コマ
D-2-5. 青年海外協力隊の歩みと理念	WBT『青年海外協力隊講座』によるインターネット事前学習
D-2-6. JICA ボランティア事業の理念と目標（局長講話）	2 コマ
D-2-7. 所長講話①②	2 コマ
D-2-8. 地域別・国別ボランティア派遣概要	2 コマ
D-2-9. ボランティアスピリット意見交換会①②	2 コマ
D-2-10. エイズ基礎講座	WBT『JICA-Net』によるインターネット事前学習
D-2-11. ジェンダーと開発	WBT『JICA-Net』によるインターネット事前学習
D-2-12. 開発と環境	WBT『JICA-Net』によるインターネット事前学習

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力

担当スタッフ

達成目標

我が国の ODA の現状を理解し、公人として派遣される JICA ボランティアの意識を高める

📖 講座の内容

日本の ODA と公人としての JICA ボランティアについて学ぶ。

1. ODA における JICA ボランティア
2. 「人間の安全保障」とボランティア活動
 - (1) わが国 ODA 政策における「人間の安全保障」の理解
 - (2) 基本方針と 4 つの協力実践方針
 - (3) MDGs (ミレニアム開発目標)

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

👉 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-2. 日本(人)理解

👤 講師略歴

外務省国際協力局職員

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

戦争で荒廃した日本が様々な国から支援を得ながら
復興していく過程と、その後日本が被援助国から援助
国の立場になっていく経緯と歴史を学ぶ

 講座の内容

3部構成。それぞれの音声と画像を学習した後、各々の主要な事項を記した年表データで詳細を学習する。また、重要な事項についての参考文献やインターネットのリンクを活用し個別に理解を深める。

第1章

戦後焦土からの「再出発期」の歴史について


第2章

援助国への「転換・成長期」の歴史について

第3章

援助大国への「飛躍期」～量から質世界一への「模索時期」について

附録 参考文献の照会とインターネットの関連リンク集

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

対応能力・適性

- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-2. 日本(人)理解

[担当スタッフ：●●]

達成目標

国際社会における援助の潮流と日本のODAの基本政策を理解する

📖 講座の内容

国際協力は何故必要なのだろうか。

第二次世界大戦後、日本は多くの援助を必要としていた。そこから日本はどのように発展し、現在の先進国となったのだろうか。WBT「戦後日本の国際協力の歩み」の学習を前提に、日本が行ってきたODAの変遷と現在の国際援助の潮流について学ぶ。

1. 開発途上国の現状

- (1) 開発途上国の概況
- (2) 人口を巡る状況
- (3) 地球環境を巡る状況
- (4) グローバル化を巡る状況
- (5) 開発援助委員会(DAC)とは

2. 国際的な援助潮流

- (1) 2000年までの援助の潮流
- (2) 2000年以降の援助の潮流

3. 我が国のODAの過去・現在・未来

- (1) 戦後世界経済と日本のODAの変遷
- (2) 日本のODA政策

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

👉 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-2. 日本(人)理解

👤 講師略歴

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

我が国の ODA の現状と JICA 事業を理解し、ODA におけるボランティア事業の位置付けを理解する

 講座の内容

JICA のボランティア事業は、日本の政策に基づく国の事業であり、その大枠となる ODA の概要を学び、その中におけるボランティア事業の位置付けを理解する。


また、ボランティアは JICA の一員であり、JICA におけるボランティア事業の位置付けを理解すると共に、ボランティア活動の幅を広げるため JICA の他の事業・援助形態を理解する。

1. JICA について


- (1) JICA の組織
- (2) JICA の目的・実施方針

2. ODA、JICA におけるボランティア事業の位置付け

- (1) 「人間の安全保障」の視点
- (2) MDGs (ミレニアム開発目標)

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解

 講師略歴

JICA 青年海外協力隊事務局
地域課管理職

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

青年海外協力隊がどのような過程を経て創設され今日に至っているのかを理解し、協力隊の特性を踏まえた意義と理念について考える

 講座の内容

本編 4 章と別章の 5 部構成。音声と画像と動画を視聴して学習する。

第 1 章

協力隊が創設されるまでについて

第 2 章

草創期の協力隊について

第 3 章


拡大期の協力隊について

第 4 章

変革期の協力隊について

別章

帰国隊員の活動について

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-1. 異文化理解と適応
- 日本(人)理解

達成目標

JICA ボランティア事業を理解し、ボランティアに必要な知識と心構えを養う

📖 講座の内容

WBT「青年海外協力隊の歩みと理念」の事前学習を前提に、JICA ボランティア事業の指針や他国のボランティア事業についての理解を深め、ボランティアに必要な知識と心構えを養う。

1. JICA ボランティア事業とは

- (1) JOCV/SV はボランティアか
- (2) 国が実施するボランティア事業とは
- (3) 国際ボランティア 4つの条件
- (4) 国の支援に対する考え方

2. ボランティアによる協力の意義

- (1) 日本の協力の特徴
- (2) ボランティアに期待される役割(新 JICA におけるボランティア事業)

3. 協力活動の実際(現地に学ぶ)

4. 最後に

- (1) 派遣前訓練は、お見合いの 70 日間 (SV 35 日間)
- (2) JICA ボランティアの事業を取り巻く情勢と今後の方向性
- (3) ボランティアへの期待

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

📝 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

👤 講師略歴

独立行政法人国際協力機構
青年海外協力隊事務局長

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

入所時の心構えと、JICA ボランティアの活動についての具体的なイメージを把握し、適切な心構えを培う

 講座の内容

入所時には「70日間(SV 35日間)の訓練を JICA ボランティア候補者としてどのような心構えで過ごすべきか」を、終了時には、JICA ボランティアとして任地での具体的な活動がイメージできるような内容となっている。

1. 所長講話① (入所時) 「入所時の心構え」

2. 所長講話② (終了時) 「JICA ボランティア活動の実践」

(1) 途上国の特徴 (ボランティアが一度は経験する悩み)

- 1) 活動に関連した途上国の特徴
- 2) 途上国が途上国である理由
- 3) 不便な生活とそれを乗り越えるエネルギー
- 4) 脆弱な組織、不確実な技術レベル
- 5) 価値観と行動特性の違い
- 6) 受け入れ側の現状認識の不十分さ
- 7) ボランティアと受け入れ側のギャップ

(2) JICA ボランティアが直面する問題と問題解決の方法


- 1) 生活基盤の確立
- 2) 配属先での活動における問題と活動基盤の確立
- 3) 受け入れ先の問題の本質へのチャレンジ
- 4) 問題解決に対する事務局、事務所関係者の役割

(3) JICA ボランティアの心得 (体験談を踏まえてのまとめ)

- 1) 生活基盤の確立
- 2) 配属先での活動における問題と活動基盤の確立

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師略歴

訓練所長

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●
●]

達成目標

任国及びより広い地域における JICA の協力を踏まえた上で、その中での自身のボランティア派遣の位置付け及び方向性を捉える

 講座の内容

JICA ボランティアが、「どこで」（地域、国、任地）、「何をするか」（課題、分野、職種）という整理のうち、主に前者の切り口で、ボランティア派遣事業を俯瞰する講義である。

各人の派遣国及び当該地域における JICA の協力、ならびにその一つを成すボランティア派遣の基本的な考え方を理解した上で、各人が派遣される案件の位置づけ、及びボランティアの担う役割を大所高所の視点で捉える機会とする。

併せて、地域の共通課題に対する取組み（在外研修等）や、各国で実施されている分野課題別の取組み（分科会活動等）等、ボランティア活動に役立つ情報を提供する。

なお、JICA 事業全般については、別途行う「JICA 事業概要」で触れるため、本講義での説明は最低限にとどめる。

また、各任国の歴史・経済・文化・援助状況や現地の生活の様子等の情報については「任国研究」にて候補者自身で調べるとともに、別途行う「OV-DAY 任国事情」で提供されるため、本講義では扱わない。

1. 任国における JICA 事業、及びボランティア派遣


- (1) JICA の協力の基本的な考え方（重点分野、開発課題等）
- (2) ボランティア派遣の基本的な考え方（派遣の現状、これまでの成果、今後の派遣計画等）
- (3) 他の JICA 事業とボランティア事業の関連性（帰国研修員との協働等）
- (4) グループ型派遣の説明（グループ型派遣の候補者がいる場合）

2. ボランティア活動に役立つ情報


- (1) 地域共通的な取組みの事例（在外研修等）
- (2) 分野課題別の取組み事例（分科会、技術顧問の活用、他機関との連携等）

【配布資料】

- ・「国別ボランティア事業概要」、「ボランティア配置図・リスト」、「前任者情報」、その他の資料（必要に応じ）

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師

JICA 青年海外協力隊事務局
各地域課 国担当職員

[担当スタッフ：●●]

D-2-9 社会的多様性理解・活用力-JICA ボランティア基礎講座-
ボランティアスピリット意見交換会
①②

①●月●日(●)
●:●~●:●
②●月●日(●)
●:●~●:●
●●ホール

達成目標

先輩ボランティアたちの軌跡から JICA ボランティアとしてあるべき姿を考える

 講座の内容

2年間の協力活動のベースとなる、“ボランティアスピリット”について改めて考える機会とする。JICA ボランティアとして途上国で活動する際に求められるもの、立場、取り組み姿勢を、これまでのOVたちの軌跡を通じて、候補者同士で意見交換し理解を深める。

1. ボランティアスピリット意見交換会①


各国から寄せられた JICA ボランティアに対する意見を知ること、任地での取り組み姿勢や JICA ボランティアとしてあるべき姿を考える。

2. ボランティアスピリット意見交換会②

震災ボランティアとして活躍するOVたちの姿を通じて、JICA ボランティアの強みや真のボランティアスピリットは何かを考える。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師

訓練所スタッフ

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

HIV/エイズに関する基礎知識と予防啓発活動を学ぶ

📖 学習コンテンツの内容

1. どうなる、どうする、身近なエイズ

～あなたの赴任国と HIV/エイズ～

「HIV/エイズ」は、性という全ての人に関わる行動に深く関与しており、また、差別・偏見の問題があるため、感染症対策としてだけでなく、セクターを越えた包括的な取り組み強化と全ての人々に正しい理解が求められている。本教材では、HIV/エイズについて正しい理解し、今後の活動に役立てることが目的。理解度テストあり。

2. アーティストになったエイズウィルス感染者

ニカラグアに青少年活動の職種で派遣された協力隊員が、エイズの予防啓発活動と HIV 感染者への精神的支援のために、エイズをテーマにした演劇活動をしている映像を収録。HIV/エイズ対策活動紹介、教育のための啓発演劇、青年海外協力隊の青少年活動体験談、演劇という手法を通して、市民や社会的弱者への精神的な自己の力を引き出すサポートを行う際等に活用することが目的。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	※
SV	※

※アフリカ派遣予定者で技術補完研修を受講していない者は○（必修）。その他は自由学習。

☑️ 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力

達成目標

ジェンダーに係る基礎知識を身に付け、ボランティア活動への活かし方を学ぶ

 学習コンテンツの内容

1. 30分でわかる！開発に役立つジェンダー入門

ジェンダーの基本的な考え方や JICA の方針、事例までの内容をクイズやアニメーションを交えて判り易くまとめている。インターネット環境でなくとも学習の可能な CD-ROM 教材。

2. ジェンダー主流化への取り組みの好例

～イエメン女子教育～

初等教育就学率のジェンダー格差が特に大きい場合、女子教育を推進するためにはどのようなアプローチが可能で、どのような配慮が必要かを、本教材は中東のイエメンで実施された「タイズ州地域女子教育向上計画」を事例として、教育分野におけるジェンダー主流化の取り組みを紹介。

3. ジェンダー主流化への取り組みの好例

～タンザニア KATC2～

「タンザニアキリマンジャロ農業技術者訓練センター画フェーズ 2」におけるジェンダー主流化のための取り組みを紹介。具体例として、女性の参加を促すために研修参加者の男女比を半々に固定し、積極的な女性の参加を求めたこと、改良かまどや家計管理など、女性が関心を持ちやすい研修コースを設けたことなどのポイントがわかりやすく解説されており、他のプロジェクトにおいてジェンダー配慮の視点を取り入れる際の参考として活用することが可能。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

対応能力・適性

- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-1. 異文化理解と適応

達成目標

環境や社会に配慮した開発のあり方について学ぶ

📖 学習コンテンツの内容

1. やってみよう！環境教育-自然との調和を目指して

環境教育を実践する上での重要なポイントをわかりやすくまとめている。

“プログラムの基本”では、すべての活動の基本となる

Plan-do-check-act サイクルをアニメで学び、“環境教育いろいろ”では、自然体験プログラム、エコツーリズム、ビジターセンター、指導者養成研修の事例を映像で学ぶことができる。

2. 日本の3R推進の経験～試行錯誤して見えてきた循環型社会～

この教材の目的は、JICAによる技術協力事業の一環として、開発途上国における廃棄物の3R(Reduce(排出抑制)、Reuse(再利用)、Recycle(再生利用))に関する人材育成に活用することが目的。日本の取り組みと開発途上国のケーススタディを紹介し、3Rの共通理解、啓発普及用の映像型教材。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

対応能力・適性

- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

単元の目的

JICA ボランティアは異文化のなかに飛び込み、慣れない現地の言葉で活動する。このような状況の下、ボランティアは生活や業務上の慣習、ルール等の理解に努め、予見や想定範囲の広げると共に、現地の仲間・良き理解者づくりにも腐心する。

異文化適応とはどういうことか、どんな適応の過程を辿るのか。異文化理解とは辛抱強く試行錯誤を繰り返しながら慣れ親しむもので、その根底にある文化相対主義について学ぶ。講座、事例研究を通じ、人間の行動に及ぼす文化的影響や異なる文化背景を持った人々との意思伝達や人間関係の形成・維持のために必要な心構え、留意点を身につける。特に価値観や行動規範に深い影響を及ぼす宗教については、事前学習からしっかりと学ぶ。併せて、任国の歴史、文化や社会一般事情について、グループで研究し発表の場を設ける。

☑対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

担当スタッフ

● 単元の構成

科目	備考
D-3-1. 貿易ゲーム	2 コマ
D-3-2. 任国研究	4 コマ (課業外 15 コマ)
D-3-3. 世界の宗教事情	WBT『青年海外協力隊講座』によるインターネット事前学習
D-3-4. 世界の宗教理解	2 コマ
D-3-5. 演習 Bafa Bafa	2 コマ
D-3-6. 異文化適応概論	2 コマ
D-3-7. 異文化適応の事例研究	1 コマ
D-3-8. 地球のステージ	2 コマ(課業外)
D-3-9. 内田クレペリン検査	1 コマ

達成目標

世界経済の動きを疑似体験し、
そこに存在する諸問題について考える


 講座の内容

参加型ゲームを通して世界経済の動きを疑似体験し、そこに存在する諸問題について考える。主な狙いは次の3つである。


1. 貿易を中心とした世界経済の基本的な仕組みについて理解する。
2. 自由貿易や経済のグローバル化が引き起こす様々な問題に気づく。
3. 南北格差や環境問題の解決に向けて、国際協力や私たち一人ひとりの行動のあり方について考える。

【講座の流れ】

- ・貿易ゲーム
- ・振り返り…ゲームを体験して気付いたこと、考えたことなどを意見交換し、互いの理解を深める。
- ・種明かし…貿易ゲームの仕組みについて知ることで、その狙いを再確認する。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	△

 評価方法

社会的多様性理解単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 ファシリテーター

担当スタッフ

 お願い

- 貿易ゲームの経験がある方は絶対に内容を明かさなないこと。
- 事前学習の必要はない。何も調べずに参加すること。

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

任国ごとに赴任する国について調べ、まとめることにより、派遣される国についての理解を深める

 **講座の内容**

B-4 の調査手法の講座で学んだことを用いて、派遣国毎にその国の任国事情を調べ、その結果を報告書として取りまとめると共に、その概略を発表する。(一カ国に複数の候補者がいる場合はグループで作業を行う。)

1.調査項目の設定、役割の分担 (グループの場合)

「課外」で割当予定のコマ数(時間)を踏まえ、国毎に調査したい項目を設定する。また、グループの場合は役割分担を行う。なお、以下の項目は調査項目に必ず含めること。また、報告書の形式、体裁、枚数等は国毎に設定する。


- ・地理と風土
- ・歴史、政治、経済
- ・治安状況
- ・日本の協力状況
- ・生活上で注意すべき点(社会習慣、風土病等)

2.資料収集、報告書作成、発表用資料作成


(課外: 50分×15コマ(約12.5時間)を想定)

3.グループ発表 (課内: 50分×4コマ)

原則として地域毎に集まり発表する。各国の発表時間は国数によるが概ね15~20分程度を想定。発表に当っては、B-3で学んだコミュニケーション技法のスキルを活用する。

 **履修要件**


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 **評価方法**

社会的多様性理解単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また生活班担当による観察シートと任国研究のプレゼンテーション、成果品から評価する。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 **講師略歴**

講師は配置しないが、振り返りでは、生活班担当を配置する。

達成目標

派遣国の人々が信仰する宗教の基礎的知識を身につけ、事例を通じて宗教に対する理解を深める

 講座の内容

海外で活動する上で、その地の宗教を理解することは極めて重要である。本講座では、派遣国の人々が信仰する主だった宗教について基本的な知識を身に付けるとともに、実際にボランティアが体験した事例を通して宗教に対する理解を深める。

第1部


ユダヤ教、キリスト教、イスラム教等の一神教、ヒンドゥー教、仏教、シーク教等のインド起源の宗教、儒教、道教、一部の仏教等中国起源の宗教、神道、日本で根付いた仏教等の日本の宗教、その他の宗教に分け、それぞれの宗教の概要を学習する。

第2部

世界の宗教分布図から各宗教の基本情報を閲覧し、学習する。

第3部

協力隊員の派遣国地図からそれぞれの宗教事情を閲覧し、国別の宗教事情に対する理解を深める。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 対応能力・適性

- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

達成目標

世界の宗教について理解を深め、日本人の宗教観を学ぶ

 講座の内容

私たち日本人は「宗教は自分とは無縁なもの」と思っていないだろうか。しかし、世界の大部分の国々では「宗教」は人々の生きる規範となっている。

世界で多くを占める「一神教」について学び、日本人の宗教観を再認識することは、任国での活動や生活に役立つだろう。宗教を通じて異文化への理解を深めることが、活動の第一歩となるかもしれない。

【講義前半】

世界の宗教を概観する。

1. 宗教とは何か（社会学的見地から）
2. ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の成り立ちとその相互関係をどう理解するか

【講義後半】

大半の日本人が持つ宗教観と、それが世界でどう受け止められるのかについて学ぶ。


1. 日本の宗教をどう理解するか
2. 国際社会において、公務に携わる国際人としてどう行動すれば良いか

*受講にあたっての留意点

受講の前に「宗教とは何か」を自分なりに考えて臨むこと。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

社会的多様性理解単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また、観察シートからの評価も行う。

 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師略歴

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

異文化を疑似体験し、異文化理解を深める

📖 講座の内容

任国へ赴任すると、これまでに体験したこともない様々な異文化に出会う。Bafa Bafa は、擬似的な国を作り上げ、その異文化に触れる機会を通じて、どのように感じるか、どのように行動するか認識することを目的としている。

■ グループ分け

後日、グループ分けを掲示するので、各自確認し、実施当日は指定教室に集合すること。掲示でリーダーとなっている人には、Bafa Bafa リーダー会議に出席してもらう。

【Bafa Bafa リーダー会議】

●月●日(●) ●:●~●:●

α国 ●会議室

β国 ●会議室



👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

🗣️ 評価方法

社会的多様性理解単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また、観察シートからの評価も行う。

☑️ 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

👤 ファシリテーター

担当スタッフ

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

異文化理解の意味と適応について学ぶ

📖 講座の内容

文化とは何だろうか。異文化を理解するとはどのようなことだろうか。

異文化・カルチャーショックを体験する「異文化体験シミュレーション Bafa Bafa」に現れた現象や行動、心の動きを解説する。また、その考察を踏まえ、文化が形成される過程に触れ、任地での生活や協力活動を円滑に行うために異文化をどのように理解し、自分を適応させたらよいかを学ぶ。

また、文化人類学的視点、言語学的視点など多岐にわたる方面からのアプローチにより、異文化の本質や異文化に対する心構えについて学ぶ。

1. Bafa Bafa とはどんなゲームだったのか

(1) ローカルルール、規則や文化を決める要素等

2. 「異文化理解」の規則

(1) 規則、武道、アフォードダンス等

3. 「異文化理解」から「他者理解」へ

- (1) 音としての言語、文としての言語
(2) 異文化コミュニケーションの間違い

4. 言語、学術、普遍性

- (1) 異質なものと向き合うこと
(2) 文化相対主義と人類学

5. 実践に生かすために

- (1) 異文化の中に立つ苦しみと快感
(2) カルチャーショック
(3) 逆カルチャーショック

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

📝 評価方法

社会的多様性理解単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また、観察シートからの評価も行う。

☑️ 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
 2-2. 協調性
 3-1. 発信力
 3-2. マネージメント力
 4-1. 異文化理解と適応
 4-2. 日本(人)理解

👤 講師略歴

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標


異文化適応に関する事例から、実際に任地で起こりうる問題や葛藤への対処方法を学ぶ

 事例研究の内容


あるボランティアの活動事例をもとに、異文化の中で起こりうる問題や葛藤について、グループごとに討論する。

※参考講座

- ・「BafaBafa」
- ・「異文化適応概論」
- ・「コミュニケーションスキル」等

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

社会的多様性理解単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また、観察シートからの評価も行う。

 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師概略

JICA ボランティア OV
 訓練所スタッフ

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

紛争、災害、貧困の地の子供達に音楽と映像で近づき、国際協力とは何か、ボランティアとは何かについて迫る。

♪ 公演の内容

世界で起こっている様々な出来事を大画面のビデオ・スライドに映し出し、語りと曲で構成していく「映像と音楽のシンクロ」ステージ。

1994年内戦下のアフリカ・ソマリア、2004年のイラン南東部地震、2009年パレスチナ自治区ガザ・医療支援活動。そして2007年ガーナで出会ったJICAボランティア。

各所で出会った人々との触れ合い、自身の活動を通して国際協力とは何か、ボランティアとは何かについて迫る。

履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

☑対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

👤講師略歴

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

検査結果を通じ、自身の性格・行動特性を知り、異文化適応に役立てる

📖 検査の内容

ボランティア自身の性格・行動特性を知ることができるので、派遣期間において異文化の中で困難に直面した場合、その解決の一助となる。

本検査の所要時間は、約 60 分程度。簡単な一桁の足し算を一定時間連続して行うものであり、検査受験者が意図的に結果を操作しにくく、対策を立てづらい。成人を対象とした本検査は公的機関でも多く採用されており、信頼性が高い。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

対応能力・適性

4-1. 異文化理解と適応

👤 講師略歴

講師無し

[担当スタッフ : ●●]

D-4 社会的多様性理解・活用力 社会的多様性活用力

各科目の日は
科目ごとに
参照のこと

JICA ボランティアは慣れない環境下で、相手の目線に立って最善を尽くさなければならない。しかし、一度は途上国での不慣れた生活や受入側とのギャップ等に悩まされることがあるだろう。

この单元では、ボランティア経験者から任国でのボランティア活動、現地での生活の様子・文化等に関する情報を聞き、円滑な現地活動に役立つ気づきを得ることを目的としている。

また、学校生徒や所外活動先での交流を通じて、普段と違う環境での人々との関わり方やどのように活動を行い、どのように役立てるかを考えることも目的としている。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力
- 5-2. 安全管理能力

担当スタッフ

●●

● 単元の構成

科目	備考
D-4-1. OV-DAY 任国事情	2 コマ
D-4-2. 学校交流	4 コマ
D-4-3. 所外活動オリエンテーション：(F. 各種オリエンテーション一覧表 参照) 任国や職種、生活班で固まらないようなグループに分かれる。	1 コマ
D-4-4. 所外活動①②・振り返り ・調査の実施(7 コマ×2 回) ・振り返り・とりまとめ (2 コマ)	16 コマ * 調査結果は、●月●日(●)までに●棟の廊下へ張り出すこと。
D-4-5. ボランティア活動の実際①②	4 コマ

達成目標


ボランティアの活動、現地の生活の様子等について
 JICA ボランティア経験者から情報を得る

 講座の内容


任国での生活について、滞在経験のある講師から「生の情報」を聞く。講座は、基本的に JOCV 候補者、SV 候補者に分かれて実施する。事前に「質問書」をまとめ、質疑応答をしながら講義を進めていく。

1. 任国情報の例

- (1) 日常の食生活及び外食、飲料水、入手可能な嗜好品
- (2) 衣服について（正装・仕事着・普段着・喜ばれる格好）
- (3) 任国の風習・宗教・文化・習慣
- (4) 任国での人とのつきあい
- (5) 現地の治安状況・安全対策・危機管理として具体的に行っていること
- (6) ボランティアがよく利用する日常の交通手段・現地の交通事情・交通機関の利用料
- (7) 郵便、通信事情
- (8) 日用品等生活物資、家電製品等
- (9) その他留意事項（生活環境関連）
- (10) 語学について（上達方法、努力したこと、学校・教材等）

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

社会的多様性理解単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力
- 5-2. 安全管理能力

 講師

帰国後間もない JICA ボランティア OV、調整員、関係者等

[担当スタッフ：●●]

達成目標

小学校または中学校との交流の機会を通じて開発教育・国際理解教育の意義を学ぶ


 交流の内容

候補者及び学校生徒ともに学校交流前にボランティアの派遣国について事前に学び、学校交流を通じて体験的に派遣国や開発教育・国際理解教育を学ぶことを目的とする。


例：

小学校低学年：ゲームなど体験的な活動を中心に交流を図る。

小学校高学年：知的な活動を取り入れる。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 2-1. 主体性
- 3-1. 発信力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

[担当スタッフ：●●]

達成目標

普段と違う環境でどのように人々と関わり合い、相手の役に立てるかについて実施を通じて考える

📖 講座の内容

【所外活動】

日時：①●月 ●日 (●)

②●月 ●日 (●)

場所：市内社会福祉施設・農家・児童福祉施設
など

- ・所外活動先におけるニーズに合った協力活動の実施
(例：老人介護補助、環境整備、レクリエーション、農作業等)
- ・1回目の所外活動において調査を実施するためのテーマをグループごとに決め、自主計画時間を利用し準備を行う。
- ・2回目の所外活動において、B-4 調査手法で習得した手法を用いてグループごとに簡易な調査を実施する。終了後は、自主計画時間を利用し、簡易調査の結果を取りまとめる。

【振り返り】

日時：●月●日(●) ●:●~●:●

場所：各指定場所

- ・様々な受入先での経験をグループ別に分かれて振り返り、任国での活動に活かせる気づきや学びを共有する。
- ・ボランティアに必要な資質を実践する機会とする。慣れない環境下で、相手の目線に立って最善を尽くす事にこの活動の意義がある。「振り返り」では一連の活動を振り返っての意見や反省を共有し、この活動の意義を深めることを目的とする。
- ・2回目の所外活動で実施した簡易調査について、準備から取りまとめまでの流れについての自己評価を行い、学びを共有する。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

🗨️ 評価方法

調査手法単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。またグループ担当スタッフによる観察シートと成果品(所外活動結果)からも評価する。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

👤 講師

講師は配置しないが、振り返りでは、生活班担当を配置する。

[担当スタッフ：●●]

達成目標

経験者から困難なことへの対処、心構え、コツなど実際の様子を聞き、活動に対する意識を高める

 講座の内容

SV 経験者からボランティア活動を行う際に直面した困難及びその対処法、活動を円滑に行う上での心構え、コツなどを聞き、円滑な現地活動に役立つ気付きを得る。

(1) 途上国の特徴 (ボランティアが一度は経験する悩み)

- 1) 活動に関連した途上国の特徴
- 2) 途上国が途上国である理由
- 3) 不便な生活とそれを乗り越えるエネルギー
- 4) 脆弱な組織、不確実な技術レベル
- 5) 価値観と行動特性の違い
- 6) 受け入れ側の現状認識の不十分さ
- 7) ボランティアと受け入れ側のギャップ

(2) JICA ボランティアが直面する問題と問題解決の方法


- 1) 生活基盤の確立
- 2) 配属先での活動における問題と活動基盤の確立
- 3) 受け入れ先の問題の本質へのチャレンジ
- 4) 問題解決に対する事務局、事務所関係者の役割

(3) JICA ボランティアの心得 (体験談を踏まえてのまとめ)

- 1) 生活基盤の確立
- 2) 配属先での活動における問題と活動基盤の確立

 履修要件


対象者	要件
JOCV	×
SV	○

 評価方法

社会的多様性理解・活用力の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師略歴

シニアボランティア経験者

ボランティアの帰国後の社会還元はJICAボランティア事業の3本柱の一つである。本單元ではWBT『青年海外協力隊講座』による事前学習や、訓練期間中の講座においてボランティアが帰国後、現地での経験を日本社会に還元する手法や事例についての理解を深める。また、帰国後の進路及びキャリア形成、JICAの帰国ボランティアに対する支援制度の概略を理解する。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 3-2. マネージメント力

 担当スタッフ


● 単元の構成

科目	備考
D-5-1. ボランティア体験と社会還元	WBT『青年海外協力隊講座』による事前学習
D-5-2. 社会還元	1 コマ
D-5-3. キャリアビジョンワークショップ	1 コマ

達成目標

帰国後の隊員たちは、それぞれの協力隊体験をどのように日本社会に活かすことができるのか実践例を通して考える

 講座の内容


2部構成。音声、画像、動画で学習する。

第1章


身近なボランティア経験の活かし方について

第2章

実践例の紹介を通した具体的な社会貢献活動について

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

社会的多様性理解・活用力の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 3-2. マネージメント力

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

JICA ボランティアに期待する帰国後の「社会還元」
 について学ぶ

 **講座の内容**

帰国後の進路を考え自分自身にとっての活動経験の目標を明確化する。「社会還元」は JICA ボランティア事業の目標のひとつであり、JICA ボランティアは任国で得た経験や知見を社会一般に還元することが求められる。任国におけるどういった働きかけが自分の未来にどのようにつながるか、より有意義な活動をするために、帰国後のキャリアや社会還元、将来像を具体的にイメージしながら考える。

1. 社会還元 (25分)

社会還元活動とは

2. 帰国後の進路 (25分)

1) 進路の考え方と現状

参加前の経験がベース、2年間の成長と変化（働きかけの成果）、自己分析の意義と将来像

2) 協力隊活動によって経験から得られたことは？

できるようになりたいこと、できるようになったこと

3) 求人組織は協力隊をどのように評価し、帰国隊員に何を期待するか？

就職の際に何が評価されたのか

4) 経験を次につなげるため

任地にいる間にやっておけば良かったこと


3. 自己分析&未来を描く ワーク (50分)

1) 自己分析


弱みを克服し強みをさらに強化する

2) 未来を描く

帰国後のキャリアデザイン

 **履修要件**

対象者	要件
JOCV	☆ 指定者必修
SV	×

 **評価方法**

社会的多様性理解・活用力の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。


対応能力・適性

1-1. JICA ボランティアとしての使命感

1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解

2-1. 主体性

3-2. マネージメント力

 **講師要件**

現在の講師：

JICA 進路相談カウンセラー
 および訓練所スタッフ

新規講師の要件：

異なる分野部門への就職
 や進学した JICA ボランティア OV 数名

JICA ボランティア OV を採用した実績のある企業等の担当者など（スカイプや録画等での講義可）

[担当スタッフ：●●]

達成目標

JICA ボランティアに期待する帰国後の「社会還元」について学ぶ

📖 科目の内容

自身のキャリア設計について学ぶ

1. 「キャリアビジョンの確認のためのワークショップ」(希望者のみ)

(1) 内容: 協力隊参加を自分のキャリアの中でどう位置づけるか、自己分析を通して長期のキャリアビジョン構築

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	△
SV	×

👉 評価方法

社会的多様性理解・活用力の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

☑ 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 3-2. マネージメント力

👤 講師要件

現在の講師:

JICA 進路相談カウンセラー
および訓練所スタッフ

新規講師の要件:

異なる分野部門への就職や進学した JICA ボランティア OV 数名

JICA ボランティア OV を採用した実績のある企業等の担当者など(スカイプや録音等での講義可)

[担当スタッフ: ●●]

E. 生活班活動

各科目の日時は
科目ごとに
参照のこと

派遣前訓練での共同生活、野外訓練等を通して、ボランティアに必要な能力・態度、日本の代表として相応しい振る舞い身に付けるとともに、水や電気等がない、若しくは不足している等の環境でも生活できる能力を身に付けることを目的とする。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応

担当スタッフ



● 単元の構成・内容

科目	内容	備考
E-1. 自主計画時間を使った生活班ミーティング	課業外時間を利用して、各生活班で野外訓練や生活一般に関するミーティングを行う。	10 コマ (課業外)
E-2. 課業時間を使った野外訓練準備	各生活班、野外訓練リーダーを中心とし野外訓練に必要なことを事前に調査したり、献立等を決める。	2 コマ
E-3. 野外訓練オリエンテーション	※ F. 各種オリエンテーション一覧表 参照	1 コマ
E-4. 野外活動	※ 81 ページ 参照	14 コマ

達成目標

普段とは異なる生活環境下においても柔軟に適応する力と、共同作業を行う力を養う


 訓練の内容

野外訓練は、教室や講堂ではなく、屋外・訓練所外において2日間にわたって実施される。JICA ボランティアが派遣される多くの国々では、水や電気がない、もしくは慢性的に不足しているような状況が想定されることから、現地での生活の練習として、野外訓練中は水と電気の使用は、禁止もしくは制限される。野外訓練は、生活班単位で行動するため、各生活班より野外訓練リーダー1名を選出すること。きめられた食材が支給されるので、ニワトリや魚のさばき方の事前調査や献立などを決めておくとよい。また、班別対抗のアクティビティ(例：オリエンテーリング)も行う。


また、野外訓練中には生活班活動のほかに、自主研修講座を行う時間が確保されており、各自の得意分野などを活かした生活技法講座の開講と参加が可能である。講座の内容は、現地ですぐに活用できるような、容易に手に入るものや、持って行くことが可能なものを利用する、あるいは道具をあまり必要としないものが望ましい。自主研修講座については、自主研修講座を参照のこと。

日時	場所	内容
1 日目：●月●日(●) 8:30- 9:00- 11:00- 13:30- 15:30- 19:00-21:00 23:00-	各会場 各会場 各会場	集合、開会式 自主研修講座① 野外炊飯(昼食) 自主研修講座② 野外炊飯(夕食) 自主研修講座③ 消灯・就寝
2 日目：●月●日(●) 6:00- 9:00- -14:30 14:30-15:00 15:00-	訓練所	野外炊飯(朝食・昼食弁当) オリエンテーリング(例) 帰着確認 振り返り 閉講式、片づけ

※詳細内容は生活班ミーティングでの野外訓練リーダーからのアナウンス、また野外訓練オリエンテーションにて説明。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

生活班活動(野外訓練)の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また観察シートでの評価を行う

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応

[担当スタッフ：●●]

F 各種オリエンテーション一覧表 (A～Eのオリエンテーションを含む)

※指定がない限り、全員受講してください

オリエンテーション名	内容	担当
A-2 語学オリエンテーション (全体)	・語学講師紹介 ・語学学習における心構え (中間試験時 8/10、および最終試験時 9/8 も実施)	語学訓練 スパー・ハ・イザー
A-2 語学オリエンテーション (言語別)	・英語・西語・仏語以外の言語は各講師が実施 (英語・西語・仏語はクラス編成試験を実施)	各言語講師
B-3-1 コミュニケーション技法オリエンテーション	・コミュニケーション技法の構成についての説明、グループ分けを行う	講座担当
B-4-1 調査手法オリエンテーション	・調査手法の構成、フィールドワークの概要、説明	講師、講座担当
C-3-1 診療室オリエンテーション	・訓練中の健康管理について ・診療室利用、外部医療機関受診、訓練所顧問医について ・予防接種の種類・方法・注意事項	診療室スタッフ
C-3-2 派遣前健康管理オリエンテーション	・JICAの健康管理支援体制について ・出発までの準備 ・任国での健康管理	診療室スタッフ
D-4-3 所外活動オリエンテーション	・所外活動の構成、概要の説明、留意事項等 ・所外活動先の方々による心構えや内容説明	講座担当スタッフ
E-3 野外訓練オリエンテーション	・野外訓練の流れ、留意点について説明	講座担当スタッフ
F-2-1 派遣前訓練に関する合意書の説明	・派遣前訓練に係る合意書の説明・締結	〇〇 調査役
F-2-2① 生活オリエンテーション	・訓練所での生活における注意事項等 (7/12 も実施)	生活担当スタッフ
F-2-2② 派遣前訓練オリエンテーション	・訓練全体の構成、コンピテンシー、評価の視点等の説明	〇〇訓練総括
F-2-2③ 講座オリエンテーション	・各種講座の目的、内容説明	講座担当スタッフ
F-2-2④ 関係先紹介	・〇〇市の見どころや観光地の案内等 ・〇〇市民と訓練所の関わりについて ・〇〇市が行っている国際協力活動について	〇〇市役所/ 青年会議所
F-2-4 派遣前訓練評価会	・派遣前訓練の中間評価会及び修了時評価会を実施する	〇〇 調査役、班担当
F-3-1 派遣の仕組みと支援体制オリエンテーション	・派遣の流れ及び派遣中の支援体制等についての説明	〇〇調査役
F-3-2 処遇・制度【SV候補者】オリエンテーション	・各種制度、派遣前～帰国時の手続き等について	〇〇調査役
F-3-2 処遇・制度【JOCV候補者】オリエンテーション	※「JICA ボランティアハンドブック」を持参ください	〇〇調査役
F-3-3 福利厚生・共済会オリエンテーション	・JICA ボランティア全員が加入する共済会等、福利厚生 の概要 ※「新総合ハンドブック」(共済会)を持参ください (TV会議システム利用)	JICA 健康管理課 職員
F-3-4 ボランティアポータルシステムオリエンテーション	・ボランティアポータルシステムについての説明 (TV会議システム利用)	協力隊事務局 計画課 職員
F-3-5 ソーシャルメディア・非違防止オリエンテーション	・ソーシャルメディアの指摘利用に関するガイドライン、 広報媒体掲載、肖像権ガイドラインの説明及び過去の 失敗事例の紹介	〇〇調査役
F-4-1 公用旅券オリエンテーション	・公用旅券用のサイン取り付け	各担当旅行会社
F-4-2 赴任前オリエンテーション	・JICA ボランティアの処遇および制度の概要 ・合意書の説明 ・公用旅券の管理 ・赴任経費の支給に係る連絡 ・諸手続き及び留意事項	〇〇調査役
F-4-3 旅行会社オリエンテーション	・公用旅券、航空券の配布 ・出国当日の日程、集合場所等の詳細 ・飛行機持ち込みの荷物や預け荷物について	各担当旅行会社
F-4-4 派遣に関する合意書の説明	・派遣に関する合意書の説明	〇〇調査役
F-5-1 特別行事オリエンテーション【JOCV候補者のみ】	・皇太子御接見当日のリハーサル、注意事項等	〇〇 訓練総括
F-5-3 表敬訪問オリエンテーション	・訓練終了後に行う都道府県や市町村での表敬訪問の 説明	協力隊事務局 参加促進・進路支援課 職員
育てる会オリエンテーション	・「(社)協力隊を育てる会」の活動内容 および支援内 容の紹介	各担当職員
修了時オリエンテーション	・修了時の日程説明、アンケート配布等	生活担当スタッフ

訓練資料

語学関連実施要領

【JOCV】

平成 26 年度第 1 次隊

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

JICA KOMAGANE TRAINING CENTER

目 次

語学について	1
1. 概要	
2. 授業について	
3. 語学クラスについて	
4. 各種教材および教室備品	
5. 自己学習	
6. 語学相談	
7. 語学関連行事について	
語学関連行事一覧	
Half Day Trip	
語学交流会	
各種表	
駒ヶ根訓練所学習言語一覧	9
各言語挨拶一覧	10
語学講師一覧	11
語学教室配置図	12
語学能力自己評価表	13
場面別事例表	14

語学訓練について

1. 概要

(1) 目的

JICA ボランティアの派遣前訓練は、派遣国において現地の人とともに生活し、協力活動を実施する上で必要な知識・能力を身に付けることを目的とする。その一環として実施される派遣前語学訓練では、特に実践的コミュニケーションのための基礎的且つ機能的な知識、及び、その運用力を身につけることを目的とする。

(2) 到達目標

派遣前語学訓練は、「JICA ボランティアとして活動する為に必要な実践力を備えたレベル」を目指すものとする。具体的には、P. 14 語学能力自己評価表のレベル5を目標とする。

なお、「JICA ボランティアとして活動するために最低限必要な能力レベル」として、レベル7を設定している。

(3) 学習に当たっての姿勢

- ①講師から与えられたものを消化することのみならず、積極的に自ら学ぶ姿勢を持つ。声に出してその日の復習、反復練習をすることが不可欠である。
- ②語学学習は教室のみで実施されるものではなく、習ったことを日常的に使用することが上達の鍵となる。教室外でも、学習した表現・会話の積極的な使用を心掛ける。
- ③クラスの雰囲気は、語学訓練の成否を左右する要因ともなり得るため、各自が雰囲気の向上に努める。
- ④既にある程度まで学習言語を習得しているボランティア候補者もクラスの一員として授業に参加し、さらなる語学力の向上に努める。

(4) 評価

最終試験等の結果により、reading、writing、listening、speaking、の4技能を評価する。さらに、授業態度、語学自習への取組み方や自己学習方法・姿勢の確立等を含め、各ボランティア候補者が目標に向かって如何に努力したかを加味し、総合的に評価する。

2. 授業について

(1) 語学時間内訳

語学	時間
1. 語学（授業）	207
2. 語学（自習）	28
3. クラス編成テスト	2
4. 中間試験	5
5. 最終試験	5
合計	247

(2) 服装

語学授業を受けるときは、一般課業用服装（T.P.Oを踏まえた服装）とする。

（※参照 訓練資料；生活関連実施要領 共同生活要領「5. 服装について」）

(3) 授業の欠席

欠席する場合は、事前に所定の手続きを行う（スタッフルームにて、課業欠席届の提出。スタッフルームに来られない場合は、内線電話で連絡し、届け出は後で記入。）

（※参照 訓練資料；生活関連実施要領 共同生活要領「7. 課業欠席について」）

3. 語学クラスについて

(1) ホームクラス編成

①各クラス6名程度を目途に、学習進捗に合わせたクラス編成を基本とする。

入所直後行なわれるクラス編成試験・インタビューにより、暫定クラスを決定する。その後、数日間の調整期間をおき、最終的なホームクラスを決定する。

なお、この調整期間に自分の理解度や語学能力に疑問・不安を感じる場合は、先ず担当講師へ連絡。また、必要に応じてLTSへ相談する。ただし、担当講師の教授法に対する不満や、クラスメートとの相性等は考慮しない。

また、複数クラスが編成されず1言語1クラスのみで、且つ学習進度がクラス内で一致しない場合は、お互いに協力し合って学習を進める。

②各学習言語のクラス編成方法は次の通り。クラス分け表は4月12日（土）の朝6:30迄には2階語学関連ホワイトボードに掲示する。

8:45(1限目の語学授業開始)までに必ず各自で確認すること。

- ・英語：クラス編成テスト（EPテスト：English Placement Test）の結果を基に仮ホームクラスを編成。授業開始後、講師の判断等によりクラス調整する。
- ・西語：事前学習の成果を確認する簡単な筆記試験と語学講師とのインタビューにより仮クラスを編成。授業開始後、講師の判断等によりクラス調整する。
- ・仏語：事前学習の成果を確認する簡単な筆記試験と語学講師とのインタビューにより仮クラスを編成。授業開始後、講師の判断等によりクラス調整する。

- ・ネパール語、シンハラ語、ベンガル語、ロシア語、ウズベク語、キルギス語：
事前学習の確認テストを実施し、言語別に各講師から学習言語のオリエンテーションを行う。

(2) テクニカルクラス

英語、西語及び仏語に於いては、基礎項目を学習するホームクラスとは別に、各ボランティア候補者の専門分野に関する授業としてテクニカルクラスを実施する。

なお、他の言語に関しては、クラスの進捗状況を考慮し、各担当講師の判断に委ねる。

- ・英語：EP テストの結果と派遣形態・職種を基にホームクラスとは別に編成。EP テストの結果によっては、テクニカルクラスを編成せず、ホームクラス内でプレゼンテーション等を実施する場合もある。
- ・西語：中間試験終了後、各ホームクラスに於いて、ボランティア候補者の専門分野に関する授業（タジュール）を実施する。
- ・仏語：訓練後半に、派遣職種とクラスの進捗状況を基にテクニカルクラスを編成し、各ボランティア候補者の専門分野に関する授業（アトリエ）を実施する。
なお、クラスの進捗によっては、テクニカルクラスを編成しない場合もある。

(3) 語学クラスリーダー

各ホームクラスから1名リーダーを選出。別途掲示を参照。主に教室備品の確認と語学関係の行事に関する連絡・調整を行う。

4. 各種教材および教室備品について

(1) 教材

- ①授業で使用する基本的な教材は、訓練所と語学講師が準備する。
- ②授業でよく使用する教材や自己学習等で使用する副教材は、講師に相談のうえ各自で購入（訓練所にて書籍の出張販売あり。※参照 訓練資料；生活関連実施要領 訓練所施設内の利用について「(8)業者の出張販売等について」）。
ただし、訓練開始時は購入が間に合わないため、一部の市販教材などは貸与とする。
貸与された教材は訓練終了前に返却するため、書き込みは禁止。JICA オリジナル教科書は返却の必要はない。貸与教材か否かは講師に確認。
- ③同じ学習言語であっても、全クラスが同じ教材を使用するとは限らない。担当講師が指導に合った教材を選出する。
- ④図書資料室にも語学教材、英語雑誌、その他語学学習関係書籍等がある。

- ⑤英語、西語、仏語については、職種別技術用語集が図書資料室に常備されており、閲覧可能（持ち出し不可）。また、以下のデジタル専門用語集も配置されており、各自でインストール可能（Windowsのみ対応）。

英語：「理数科教師」「コンピュータ技術」「スポーツ部門」

西語：「医療関係」「スポーツ部門」

仏語：「医療関係」

(2) 教室の利用

- ①教室は清潔に保つように心掛け、私物を放置しない。特にPC、金品などの貴重品は放置厳禁。個人で責任を持って管理する。
- ②教室内外の備品を移動、或いは使用する場合は、使用后必ず元の場所に戻す。
- ③掲示物は、ボードを利用する。止むを得ず壁に直接貼る場合は、塗装を痛めないように注意する。セロハンテープは使用禁止。
- ④教室を最後に出る人は窓の施錠を確認し消灯する。入口の扉は必ず開放する。
- ⑤視聴覚機器は必ず電源を切り、コンセントからプラグを抜く。
- ⑥網戸の開閉は禁止。
- ⑦早朝学習は午前5時30分から研修棟にて可能であるが、他のボランティア候補者の迷惑にならないように配慮する。
- ⑧教室は学習する場であることを十分に認識し、他者の学習を妨げるような行為は厳に慎む。語学自習や夕食後の自習時間であっても、他の教室にも聞こえるような音楽や談笑、また、楽器の演奏等は禁止とする。
- ⑨自分のクラス以外の教室への出入りは、盗難・紛失等の問題回避のため、必要がない限り入室を控える。
- ⑩英語・西語・仏語教室前のホワイトボードは、同一言語内で学習効果を高めることを目的に設置しているため、学習言語のみで利用する。

(3) 備品、消耗品

- ①テクニカルクラスにて使う模造紙などの消耗品は、各自で準備する。
- ②授業中に講師が使用する消耗品（ボードマーカー等）は、講師が手配する。
- ③ホワイトボード・イレイサーは、汚れたら水洗い。教室内の美化に努める。
- ④教室内での喫茶は可能であるが、湯のみやお茶等は各クラスで購入する。
- ⑤建物全体の電気容量が限られており、現在設置されている視聴覚機器（テレビ、ビデオ、ラジカセ）やPC、プロジェクター以外の電気機器は教室で使用禁止とする。

(4) 教室内でのPC使用

- ①授業中は、語学講師の指示に従う。
- ②自分のPCを使用し音楽等をスピーカーで流すことは控える。
- ③教室内のLANターミナルは講師用に設置されているため、ボランティア候補者が使用する際は講師の了解を得る。また、無線LAN機器の新たな設置は禁止とする。加えて、既に設置されている機器・アンテナ等は絶対に触れない。

5. 自己学習について

(1) 語学自習時間

- ①語学の授業で学習したことの復習と定着の時間にあてる。
- ②楽器の練習や筋トレ、またスポーツやダンス等のレクリエーション活動等を行わない。語学の学習に専念する。
- ③語学授業時間に準ずるため、緊急時を除き、スタッフルームでの対応は行わない。

(2) 自己学習

言語を習得するためには、自己学習（復習）が重要である。クラス全体の進度に遅れないよう、自己学習に努める。夜の自主計画の時間帯（19:00～22:30）には語学の自己学習を最低2時間は行うようにする。

学習事項の習得に著しい遅れが生じ、訓練の修了が危ぶまれると語学講師及び訓練所スタッフが判断した場合、外出・週末外泊等について制限することもある。

6. 語学相談について

日々進んでいく語学学習の中で生まれる不安について相談する時間を設けている。

日時：水曜日 11:45～12:50（12:30までに入室）

金曜日 11:45～12:50（12:30までに入室）

※祝日、試験当日は除く

場所：よろず相談室

担当： — 語学訓練スーパーバイザー(LTS)

【語学訓練スーパーバイザーより一言】

これから70日間にわたる派遣前訓練が始まります。

ここで学ぶことはそれぞれの任国で生活や活動を行っていくための大きな助けとなるはずです。もちろん語学訓練もその一環としてあります。

皆さんの中には外国語学習が苦手という方もいるかもしれません。しかし、不安や萎縮は外国語習得の妨げになります。語学学習に関する疑問や問題があれば、臆することなく担当講師、語学スタッフに相談してください。我々はより良い学習環境を整えるために皆さんをサポートしていきます。

最後に一つ。語学訓練はそれ自体で完結しているわけではありません。赴任後の現地語学訓練とそれに続く活動のための第一歩と考えて臨んでください。

7. 語学関連行事について

語学関連行事一覧

日付	時間	行事	場所
4月11日(金)	10:50~11:40	入所時語学オリエンテーション	講堂
	13:00~14:50	クラス編成テスト	各指定場所
5月12日(月)	8:45~14:50	中間試験	各指定場所
	15:10~16:00	中間時オリエンテーション	講堂
5月21日(水)	12:30~12:45	第1回語学交流会オリエンテーション	セミナームA
5月30日(金)	12:30~12:45	第2回語学交流会オリエンテーション	セミナームA
5月31日(土)	13:00~16:00	語学交流会	各指定場所
6月13日(金)	8:45~14:50	最終試験	各指定場所
	15:10~16:00	修了時オリエンテーション	講堂
講師申請日	語学授業時間	Half Day Trip	所外

Half Day Trip

講師の申請で実施

狙い

教室での学習内容を踏まえ、所外で生きた会話練習を行うことにより会話能力の向上を目指す。

実施内容・方法

午前3時間（8：45～11：40）、または午後2時間（13：00～14：50）の授業時間の範囲内で、駒ヶ根市または近郊での語学授業を実施。授業の進捗状況を担当講師が判断し計画する。

※ 講師が実施3日前までに申請する。

留意点

- ① クラスの進捗を鑑み、講師の判断、指導のもと実施される。
- ② 出発時および帰所時に JICA 事務室へ報告する。
《出発時：代表者が緊急連絡用の携帯電話番号をスタッフに伝達する。全員居室プレートを「Half Day Trip」の所に移動し、裏返す。》
《帰所時：戻った旨を JICA 事務室に報告する。》
《万が一、帰所時間に間に合わないような場合は代表者が訓練所へ連絡を入れる》
- ③ 交通費等の費用は全て個人負担とする。
- ④ グループから離脱するなど、勝手な行為及びボランティア候補者としての品位を損なうような行為をしない。私服も可とするが、節度ある服装を心がける。
- ⑤ 危険な行為は避け、交通事故等には充分注意し、健康保険証を携行する。
- ⑥ スポーツ・映画・温泉・千畳敷等、学習に不相当と思われる場所の訪問は不可。
- ⑦ 飲酒厳禁。

語学交流会

必修

5月31日(土)
各指定場所

選択

狙い

語学講師と異なるゲストの方々と、学習言語を使って会話することで学習内容の定着を図るとともに、自分の語学能力を再確認し、更なる努力に繋げる機会とする。

📖 行事の内容

13:00~14:50 クラス別交流会

15:00~16:00 言語別交流会

- ◆ 各クラス原則1名のゲストとクラス別で交流を行う。
- ◆ JICA ボランティアを志した動機や任国で行いたいことなどを、ディスカッションする。
- ◆ 訓練第8週目午後の課業時間3時間で実施する。
- ◆ より多くのゲストと交流するため、言語別交流を行う。

任国では様々な発音、言い回し、会話のスピードがある。訓練所では語学講師一名のみと関わる時間が多いため、その違いを体験する機会とする。また、日本人とは異なる考え方、文化、習慣に触れ、赴任前に派遣地域の雰囲気味わうとともに会話の実践練習を行う。

📖 ゲストについて

ネイティブスピーカーである日本在住の社会人や留学生をゲストとして招待する。ゲストは日々のスケジュールの空いた時間を利用して駒ヶ根訓練所に来所するので、喜んで頂けるような有意義な交流会とする。

🎯 理解して頂きたい点

- 必ずしも派遣予定国のゲストが来所するとは限らない。
- ゲストの事情により、当日までゲスト変更の可能性あり。

📅 実施手順

※5月21日(水)

- ・12:30 第一回語学交流会
オリエンテーション

※5月30日(金)

- ・12:30 第二回語学交流会
オリエンテーション

※5月31日(土)

- ・語学交流会当日

★クラスから一名代表者を選出し、その代表者を集め5月21日(水)12:30から「語学交流会オリエンテーション」(場所:セミナームA)を行う。その際に進め方等について詳しく説明する。

駒ヶ根訓練所学習言語一覧

目的：実践的コミュニケーションのための基礎的かつ機能的な知識、およびその運用力をつける。

言語	訓練中学習する言語について	現地語学訓練等について
English	EP テストによるクラス分け後、若干の調整期間を設ける。午前はクラスレベルに併せた授業を行う。午後はテクニカルクラス授業で技術表現・プレゼンテーションを習得する。	派遣国により異なる。 (現地語のみ・英語のみ・現地語+英語)
Spanish	入所時試験後仮クラス設定、若干の調整期間を設ける。中南米公用語のスペイン語を基礎から習得する。 中間試験後、テクニカルクラス（タジェール）を複数回実施する。	引き続き同言語を学習する。
French	入所時試験後仮クラス設定、若干の調整期間を設ける。西・中央アフリカの公用語または第二公用語であるフランス語を基礎から習得する。 中間試験後、テクニカルクラス（アトリエ）を複数回実施する。	派遣国により異なる。 (現地語のみ・フランス語のみ・現地語+フランス語)
Russian	ウズベキスタン・キルギス国公用語を、キリル文字も含め基礎から習得する。	派遣国により異なる。 (ロシア語・ウズベク語・キルギス語)
Bengali	バングラデシュ国標準語を、文字も含め基礎から習得する。	引き続き同言語を学習する。
Nepali	ネパール国標準語を、文字も含め基礎から習得する。	引き続き同言語を学習する。
Sinhalese	スリランカ国標準語を、文字も含め基礎から習得する。	引き続き同言語を学習する。
Uzbek	ウズベキスタン国標準語を、キリル文字も含め基礎から習得する。	引き続き同言語を学習する。
Kyrgyz	キルギス国標準語を、キリル文字も含め基礎から習得する。	引き続き同言語を学習する。

各言語 挨拶一覧

日本語	英語	スペイン語	フランス語	ロシア語	ベンガル語	ネパール語	シンハラ語	ウズベク語	キルギス語
<i>Japanese</i>	<i>English</i>	<i>Spanish</i>	<i>French</i>	<i>Russian</i>	<i>Bengali</i>	<i>Nepali</i>	<i>Sinhalese</i>	<i>Uzbek</i>	<i>Kyrgyz</i>
おはよう Ohayou	Good morning	Buenos días ブエノス デイアス	Bonjour ボンジュール	ド オーフ ラエ ウートラ	アッサラーム アライクム	ナマステ	スバ [°] ウデー [°] サナツ ウエーワー	アッサローム アライクム	クトマント [°] ウー タンゲンク [°] ス メネン
こんにちは (気軽な挨拶) Konnichiwa	Good afternoon (Hello)	Buenas tardes (¡ Hola !) ブエナス タルデス (オラ)	Bonjour (Salut !) ボンジュール (サリュウ)	スト [°] ラースト ブ イチエ	(答える時) ワーアライクム アッサラーム		ア [°] ユーホ [°] ウワン	(答える時) ワーレイキム アッサローム	サラマツク ス [°] ブ [°] ブ [°]
こんばんは Konbanwa	Good evening	Buenas noches ブエナス ノーチェス	Bonsoir ボンソワール	ト [°] フ [°] リイ ヴ [°] エチエル			スバ [°] センテ [°] ワツ ウエーワー		クトマント [°] ウ ケチニース メネン
お元気ですか? (気軽な挨拶) Ogennkidesuka	How are you?	¿Cómo está? コモ イスタ	Comment allez-vous? (ça va ?) コマン タレヴ [°] - (サウ [°] ア)	カク テ [°] イーラ?	アフ [°] ニ? ケモアチエン?	サンツアイ フヌフツア?	セハ [°] サニイ [°] ハ [°] コホマダ [°] (コホマダ [°])	カンタ [°] イス	カンタ [°] イスイス [°]
元気です (あなたは?) Genkidesu	I'm fine thank you (and you?)	Muy bien gracias ムイ ビエン グ [°] ラシアス	Très bien, merci (et vous ?) トレビ [°] アンメルシー (エ ヴ [°] -)	ハラシヨ	アミ [°] ハ [°] ロ [°] アチ (アフ [°] ニ-)	サンチャイ ツウ (タハ [°] イン ニ-?)	ホンダイ	ヤクシ	ジ [°] ヤクシウ
～さん (男性) (女性・既婚) (女性・未婚) ～san	Mr. ～ Mrs. ～ Miss. ～	Señor ～ Señora ～ Señorita ～ セニョール ～ セニョーラ ～ セニョリータ ～	Monsieur ～ Madame ～ Mademoiselle ～ ムッシュー ～ マダム ～ マドモワゼル ～	ガ スハ [°] テ [°] イン～ (男性) ガ スハ [°] ジ [°] ア～ (女性)	～シャハブ [°] (男性のみ) ～アハ [°] (女性)	～ジ [°] (～さん)	～マハツティア [°] (男性) ～ノナ [°] (女性)	ジ [°] ヤノフ [°] ～ (男性) ～ホニム [°] (女性) ～ホ [°] (女性)	～ムルザ [°] (男性) ～アイム [°] (既婚女性) ～クウス [°] (未婚女性)
また会いましょう Mataaimashou	See you again	Hasta la vista アスタ ラ ヴ [°] イスタ	A bientôt アビアント	ハ [°] カー	アハ [°] -ル [°] テ [°] カ ホバ [°]	フェリ ヘ [°] タオン	ハ [°] ツセ ハンブ [°] エム	キョーリン ギ [°] ユンチャ	クーリュシュ ク [°] チュ
おやすみなさい Oyasuminasai	Good night	Buenas noches ブエナス ノーチェス	Bonne nuit ボン ニュイ	スハ [°] コイノイ ノーチイ	シュホ [°] ラツトリ	スハ [°] ラトウリ	スハ [°] ラトウリヤツ ウエーワー	ハイルリトウ	ジ [°] ヤクシウ ジ [°] ヤチウニース [°]
ありがとう Arigatou	Thank you	Gracias グ [°] ラシアス	Merci メルスイ	スハ [°] シーバ [°]	ドンノハ [°] -ド [°]	ダ [°] ンニヤハ [°] -ド [°]	イスツテウティ	ラフマツク	ウラフマトク

平成26年度1次隊 語学講師一覧

Language	Name	RM	Ext No.
Spanish	Mr.	1	501
	Mr.	2	502
	Ms.*	3	503
	Mr.*	4	504
	Ms.	5	505
	Mr.*	6	506
	Mr.*	7	507
	Ms.*	8	508
	Ms.	9	509
	Mr.	10	510
	Ms.	32	532
	Mr.	33	533
English	Ms.	15	515
	Mr.	16	516
	Mr.	17	517
	Mr.	18	518
	Mr.*	19	519
	Ms.*	20	520
	Mr.*	21	521
	Ms.	23	523
	Ms.	24	524
	Mr.	25	525
	Mr.	26	526
French	Ms.	11	511
	Mr.	12	512
	Ms.*	13	513
	Mr.	14	514
	Mr.	28	528
	Ms.	29	529
	Ms.	30	530
	Mr.	31	531

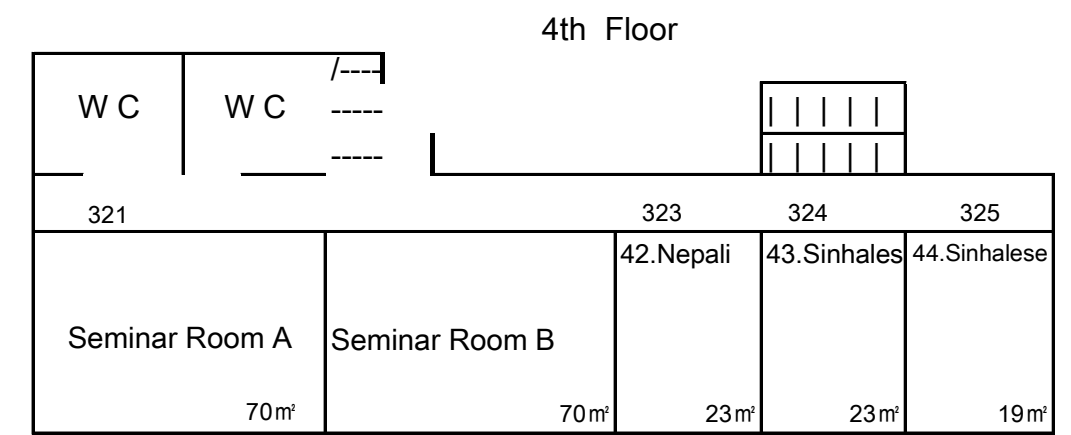
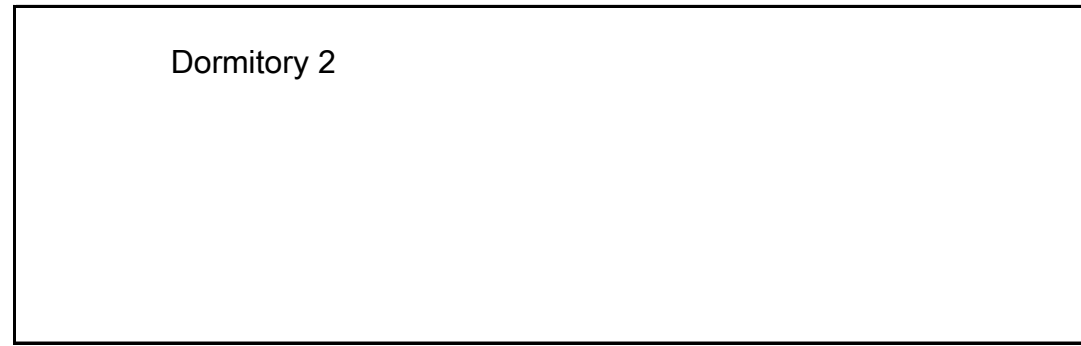
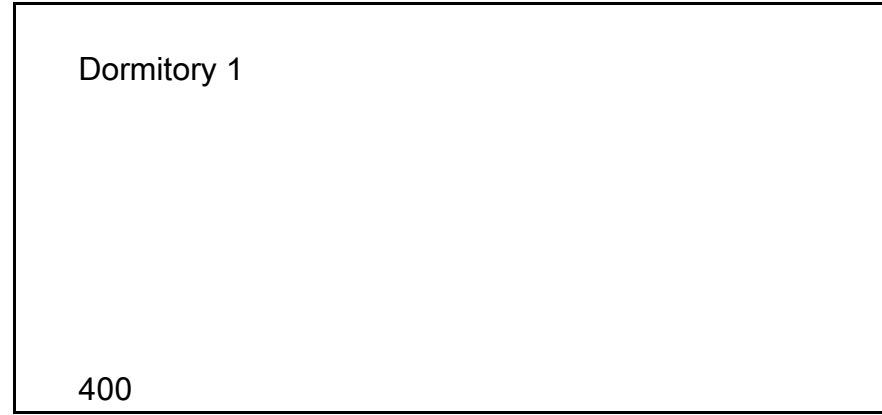
Asterisk (*) beside name indicates he/she is a JICA Directly Contracted Instructor.

Language	Name		RM	Ext No.
Russian	Ms.		37	302
Bengali	Mr.		39	304
Nepali	Ms.		40	305
	Mr.*		41	306
	Mr.		42	323
Shinhalese	Ms.		43	324
	Mr.*		44	325
Uzbek	Mr.		23	523
Kyrgyz	Ms.		38	303

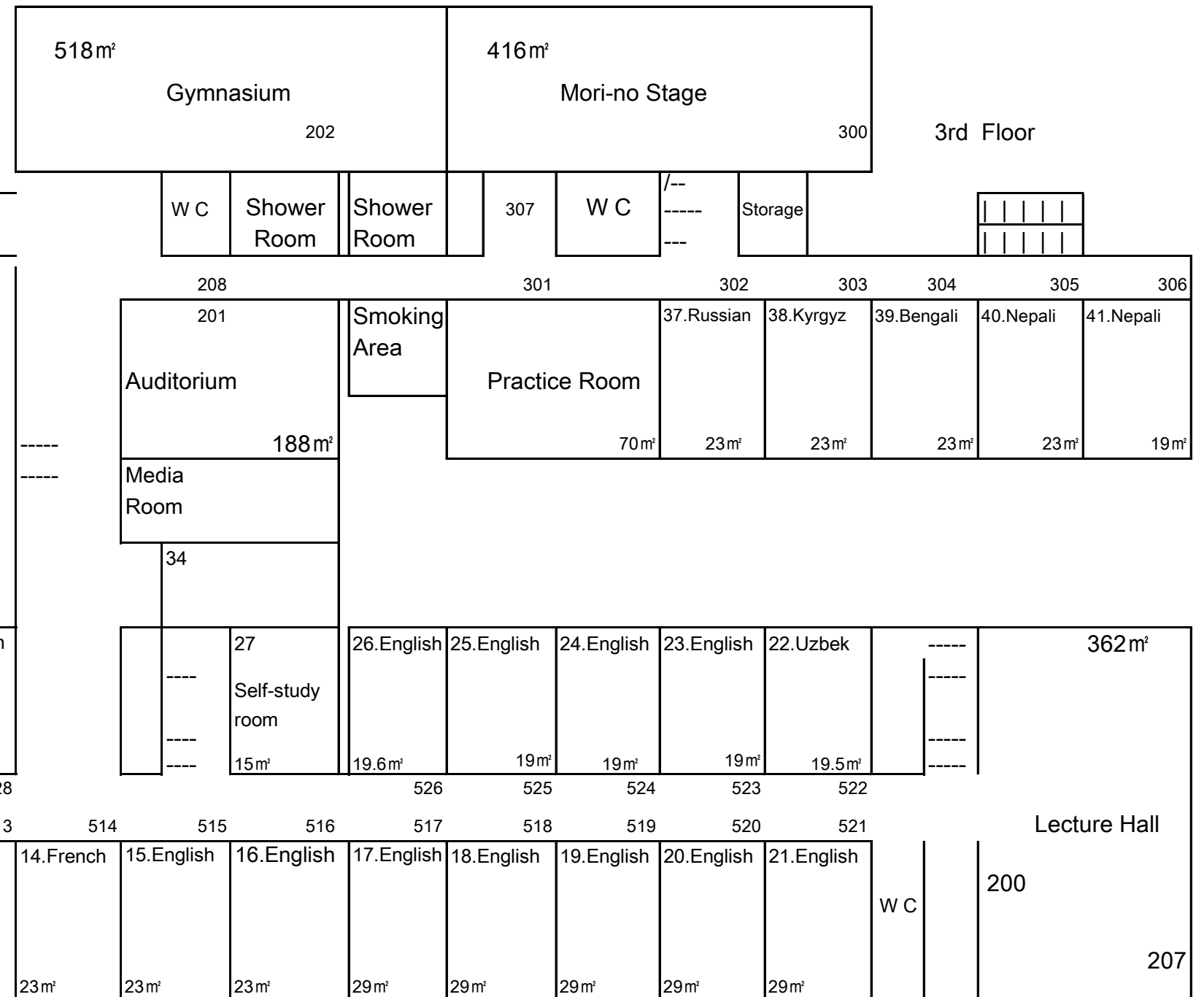
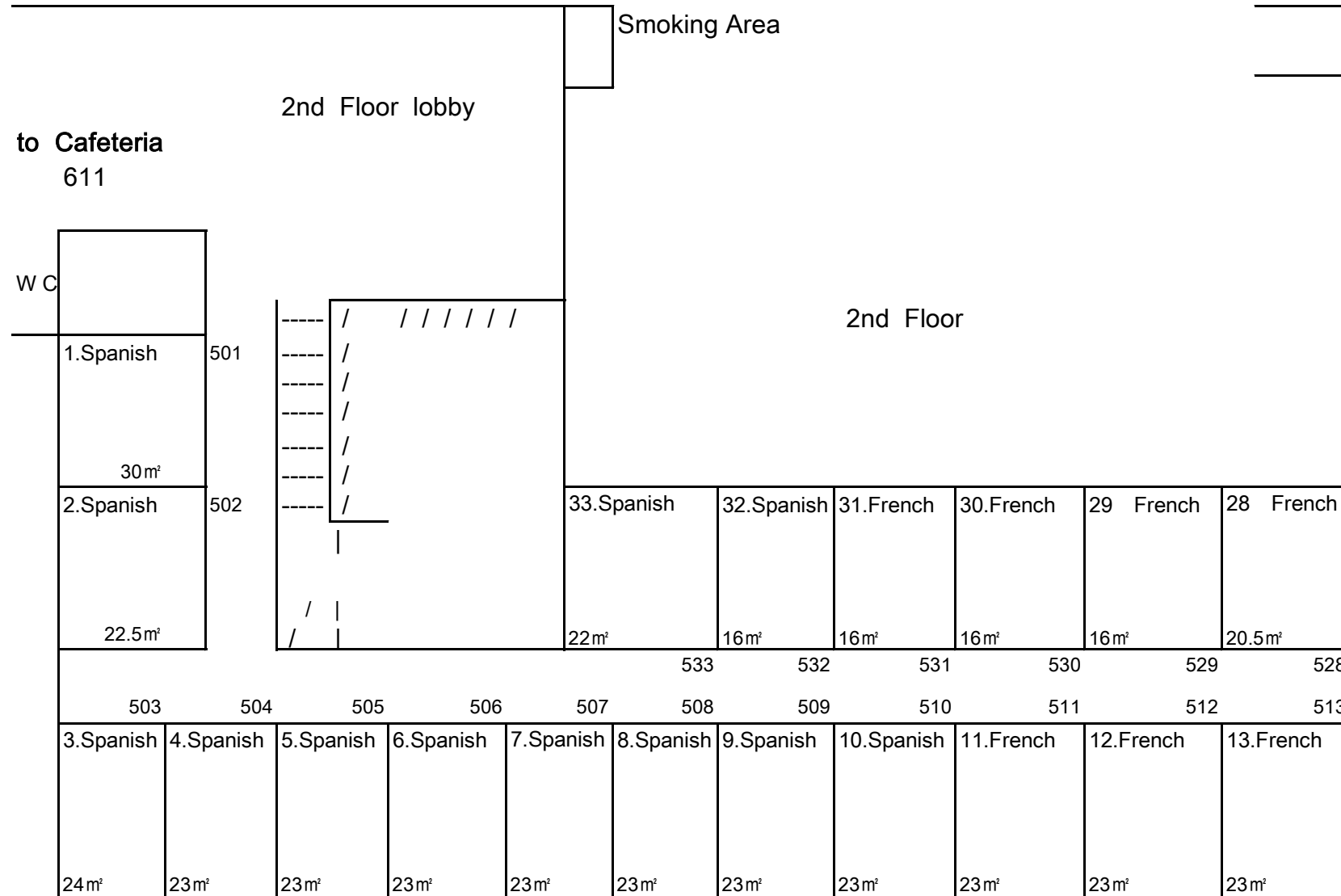
Asterisk (*) beside name indicates he/she is a JICA Directly Contracted Instructor.

Floor Information

1st Group FY2014



13



2F

語学能力自己評価表

レベル	聴く	話す	読む	書く	
上級	1	母語に近い能力がある。	母語に近い能力を持ち、教養のある話し方をすることができる。	母語に近い能力で読むことができる。	母語に近い幅広い知識を持ち、自然で正しい文章を書くことができる。
	2	大学の講義や広範囲な話題を十分に聴きとることができる。	日常の場面や専門分野についてほとんど困難なく、的確・具体的に話すことができる。	専門書・一般雑誌・新聞報道記事・社説などをほぼ正確に読むことができる。理解できる範囲は非常に広い。	文法は十分な知識があり、正しく使いこなせる。報告書を独力で書くことができる。
	3	複雑な内容をもつ討論や講義を除き、会議の進行や伝達事項を正確に聞き取ることができる。	専門分野や興味のあることは、自由に話すことができる。討論や説明も可能である。複雑なことや抽象的な表現はまだ使いこなせない。	自分の分野の専門書や興味のある分野は容易に理解できる。しかし、複雑な表現を理解するには辞書が必要である。	辞書や参考書を用いて専門分野や簡単な報告書を書くことができる。
中級	4	日常や職場での伝達の要旨はほぼ正確に理解できるが、複雑なことは繰り返して言ってもらう必要がある。	一般の事柄については、あまり困難なく話すことができるが、まだ正確さ・滑らかさ・使用語彙の適切さに欠ける。	自分の分野の専門書は多少問題はあるが、ほぼ理解できる。しかし、その他の分野では辞書を必要とする。	文法の知識は十分に持っているが、長い複雑な表現になると使いこなすことができない。
	5	普通の速さで話される日常の会話をほぼ理解できるが、しばしば繰り返して言ってもらったり、説明を求める必要がある。	日常の会話や活動分野については簡単な語句を使って話すことができるが、適切な語彙の使用や流暢さには欠ける。	活動分野の初歩的な文書やビジネス文書を辞書を使用し、時間をかければ理解することができる。	文法の基礎知識はある。文例や辞書などを使って報告書を書くことができるが、語句の使用が適切でないことがある。
	6	普通の速さについて行けなくなるが、日常会話や活動現場での会話は聴きとることができる。	限られた語彙や表現を使い会話はできるが、なめらかではない。	簡単な手紙文やEメールを読みとることができる。	文法の基礎力は弱く、語彙量は少ない。初歩的な文は書くことができる。
初級	7	日常会話の断片的な言葉や、活動現場での限られた指示、命令などの表現は聴きとることができる。	簡単な語句を使って必要最低限の要求を満たす会話をするすることができる。	写真や図が多く平易な単語・文で構成された掲示物・メモなどは読むことができる。	語彙量は乏しく、語順に間違いが多い。単純な文や単語だけのメモ類は書くことができる。
	8	簡単な単語や挨拶などの決まり文句がわかる。	日常の挨拶など、決まり文句は言えるが、ジェスチャーによる表現に頼る。	ごく限られた単語は読むことができる。	文法はほとんど判らない。限られた単語のみ書くことができる。

場面別事例表 (JICAボランティア)

自己診断ポイント 5.十分にできる 4.できる 3.できるが、状況によっては不安を感じることもある 2.少しはできる 1.できない

学習言語:

講師名:

派遣国:

氏名:

項目	目的	場面	必要な語学力	派遣前訓練期間			派遣国	現地語学
				入所時	中間試験後	修了試験後		
日常会話	現地の人々の心情を理解し、共に生活することができる。	ホームステイ先	自分のプロフィール(趣味、家族)や任国に来た目的を説明できる。					
		関係省庁	自分の専門(学歴・職歴)のことや配属先での活動内容、抱負を説明できる。					
		配属先	着任時に自分の活動やJICAボランティア事業の説明ができる。					
		電話	日常生活に必要な、基本的な電話の対応ができる。					
		買い物	生活必需品を市場や小売店で購入することができる。					
		食事	ファーストフード店、レストランで食事ができる。レストランでのマナーを知っている。					
		銀行	銀行口座開設、送金、小切手・外貨の換金をすることができる。					
		交通機関	交通標識の意味を理解し、バス、電車(地下鉄)、タクシーに乗って目的地に行くことができる。					
		病院	病院での受診(軽度な症状)するために必要な表現ができ、ひとりで受診することができる。					
		郵便局	手紙や小包の発送や受け取りをすることができる。					
		情報	テレビ、新聞、ラジオで一般情報や天気予報を理解できる。					
		交渉	住居契約を理解し、家賃の支払い方法、領収書の依頼、クレーム等をすることができる。					
		予約	ホテル、旅行代理店等で予約をすることができる。					
		メディア	自分でインターネットのプロバイダー契約ができる。					
危機管理	緊急時に適切な行動ができる。	緊急時の備え	自分の住んでいる場所を説明できる。また、緊急時の連絡方法と連絡先を現地の人々に説明できる。					
		犯罪・交通事故	自分の身分を説明し、警察に通報、被害の状況を説明することができる。					
		暴動・政変・地震	近所の人から情報を得る。新聞やテレビ、ラジオで情報を入手し、状況を把握することができる。					
隊員活動	配属先の人々との人間関係を構築できる。	着任	自分が来た理由を説明し、2年間の抱負を述べられる。					
		業務開始	同僚、上司の名前を覚えて配属先の組織概要を理解することができる。					
		勤務	休暇、欠勤時の配属先に対する申請や連絡をすることができる。					
		会議	職場の会議に参加して自分の意見を言うことができる。					
	相手のニーズを的確に把握して活動することができる。配属先の人々を巻き込んで活動することができる。	活動計画	職場の関係者と自分の活動計画を立てることができる。					
		交渉	同僚や上司に自分の活動計画を説明し、活動が現実するよう交渉できる。					
		報告	自分の活動状況を口答や文書で配属先に報告することができる。					
		クレーム	問題が生じた特にクレームの方法を知っている。					
		書類・事務処理	自分の活動に必要な簡単な礼状、託状、事務連絡を作成できる。					
		専門知識	任国の言語で自分の専門分野のことを理解し、説明できる。					
文化交流	相手国と日本の歴史、文化の違いを理解して交流できる。	任国の文化	任国の歴史や文化を説明できる。					
		日本の文化	日本の生活習慣や伝統文化(茶道、華道、武道等)について説明したり、披露できる。					
		宗教	任国の宗教を理解し、日本の宗教について説明できる。					

Situational Language Skills: Self-Diagnosis Check List

Self-diagnosis items Criteria : 5. Excellent 4. Good 3. Fair 2. Poor 1. Very poor

				Pre-dispatch training			Upon arrival at host country	After In-country language training
				Upon entrance to KTC	Upon Mid-exam	Upon Final exam		
				Target Language :	Instructor :	host country :	name :	
Item	Objective	Situation	Desired Proficiency Level					
Daily Conversation	Able to understand the feelings of local people and get along with them.	homestay	Can introduce yourself including topics on your family, hobbies, and explain motivation to join the JICA volunteer.					
		government office	Can explain your technical field duties including your educational and professional background and express your aspirations.					
		workplace	Can explain your field of activity and JICA volunteer.					
		telephone dialogue	Can hold basic telephone conversations necessary for daily life.					
		shopping	Can buy daily necessities at markets or stores.					
		restaurant	Can order food at restaurants and know restaurant etiquette and manners.					
		banking	Can open bank accounts, remit checks, convert foreign currencies.					
		transportation	Can understand traffic signs, ride the bus, train or taxi to get to destinations.					
		hospital	Can consult a doctor with appropriate expressions by yourself.					
		post office	Can buy stamps, send and receive letters and parcels.					
		announcement	Can understand announcements or general information and weather forecast on TV, radio, newspaper .					
		negotiation	Can understand residence contract, pay rent, ask for receipt, file complaints.					
		reservation	Can reserve a hotel room and ask at travel agency.					
media	Can sign up with a internet provider by yourself.							
Risk Management	Able to cope with emergent situations and natural disasters.	preparation for emergency	Can explain where you live and how to contact emergency address.					
		crime , traffic accident	Can explain your status, report to police and explain damages.					
		riot, coup detat, earthquake	Can obtain information from neighbors, newspaper,TV or radio and grasp the situation.					
Volunteer Activities	Able to establish relationship with fellow workers. Able to act according to the local people's needs and involve colleagues in your activities.	arrival at your post	Can explain why you are assigned here and speak of your aspiration.					
		starting at workplace	Can remember colleagues' names and understand the hierarchy of the organization.					
		at work	Can apply for time off and vacations.					
		meeting	Can state your opinions in meetings.					
		plans of action	Can make project action plans with your colleagues.					
		negotiation	Can explain and negotiate your own action plans to peers and superiors and implement the plans.					
		report	Can report your activities orally and in writings at the workplace.					
		complaints	Can file a complaint when a problem arises.					
		clerical	Can write the thank you letter, letter of entrust, and letter of administrative information.					
expert	Can understand and explain your technical field duties in the target language.							
Cultural Exchange	Able to understand the differences between the two countries and exchange ideas.	culture of the host country	Can explain the host country history and culture.					
		Japanese culture	Can explain or perform aspect of Japanese culture. (tea ceremony, flower arrangement, martial arts, etc)					
		religions	Can understand the host countrys religions and explain those of Japan.					

訓練資料

語学関連実施要領

【SV】

平成 26 年度第 1 次隊

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

JICA KOMAGANE TRAINING CENTER

目 次

語学について	1
1. 概要	
2. 授業について	
3. 語学クラスについて	
4. 各種教材および教室備品	
5. 自己学習	
6. 語学相談	
7. 語学関連行事について	
語学関連行事一覧表	
Half Day Trip	
各種表	
駒ヶ根訓練所学習言語一覧	7
各言語挨拶一覧	8
語学講師一覧	9
語学教室配置図	10
語学能力自己評価表	11
場面別事例表	12

語学訓練について

1. 概要

(1) 目的

JICA ボランティアの派遣前訓練は、派遣国において現地の人とともに生活し、協力活動を実施する上で必要な知識・能力を身に付けることを目的とする。その一環として実施される派遣前語学訓練では、特に実践的コミュニケーションのための基礎的且つ機能的な知識、及び、その運用力を身につけることを目的とする。

(2) 学習に当たっての姿勢

- ①講師から与えられたものを消化することのみならず、積極的に自ら学ぶ姿勢を持つ。声に出してその日の復習、反復練習をすることが不可欠である。
- ②語学学習は教室のみで実施されるものではなく、習ったことを日常的に使用することが上達の鍵となる。教室外でも、学習した表現・会話の積極的な使用を心掛ける。
- ③クラスの雰囲気は、語学訓練の成否を左右する要因ともなり得るため、各自が雰囲気の向上に努める。
- ④既にある程度まで学習言語を習得しているボランティア候補者もクラスの一員として授業に参加し、さらなる語学力の向上に努める。

(3) 修了時に目指すレベル

活動で使用する言語と生活で使用する言語が異なる場合は生活で使用する言語のサバイバルレベルへの到達を、同一の場合はその言語のブラッシュアップをそれぞれ目指す。

2. 授業について

(1) 語学時間内訳

語学	時間
1. 語学（授業）	103
2. 語学（自習）	32
3. クラス編成テスト	2
4. 最終試験	2
合計	139

(2) 服装

語学授業を受けるときは、一般課業用服装（T.P.O を踏まえた服装）とする。

（※参照 訓練資料（生活関連実施要領；共同生活要領 「5. 服装について」）

(3) 授業の欠席

欠席する場合は、事前に所定の手続きを行う（スタッフルームにて、課業欠席届の提出。

スタッフルームに来られない場合は、内線電話で連絡し、届け出は後で記入。）

（※参照 訓練資料（生活関連実施要領；共同生活要領 「7. 課業欠席について」）

3. 語学クラスについて

ホームクラス編成

①各クラス 6 名程度を目途に、学習進捗に合わせたクラス編成を基本とする。

入所直後行なわれるクラス編成試験・インタビューにより、暫定クラスを決定する。

その後、数日間の調整期間をおき、最終的なホームクラスを決定する。

なお、この調整期間に自分の理解度や語学能力に疑問・不安を感じる場合は、先ず担当講師へ連絡。また、必要に応じて LTS へ相談する。ただし、担当講師の教授法に対する不満や、クラスメートとの相性等は考慮しない。

また、複数クラスが編成されず 1 言語 1 クラスのみで、且つ学習進度がクラス内で一致しない場合は、お互いに協力し合って学習を進める。

②各学習言語のクラス編成方法は次の通り。クラス分け表は 4 月 12 日（土）の朝 6 : 30 迄には 2 階語学関連ホワイトボードに掲示する。

8 : 45 (1 限目の語学授業開始) までに必ず各自で確認すること。

- ・ 英語：クラス編成テスト（EP テスト：English Placement Test）の結果を基に仮ホームクラスを編成。授業開始後、講師の判断等によりクラス調整する。
- ・ 西語、ネパール語、シンハラ語：
事前学習の確認テストを実施し、言語別に各講師から学習言語のオリエンテーションを行う。

4. 各種教材および教室備品について

(1) 教材

- ①授業で使用する基本的な教材は、訓練所と語学講師が準備する。
- ②授業でよく使用する教材や自己学習等で使用する副教材は、講師に相談のうえ各自で購入（訓練所にて書籍の出張販売あり。※参照 訓練資料（生活関連実施要領；訓練所施設内の利用について「(8)業者の出張販売等について」）。

ただし、訓練開始時は購入が間に合わないため、一部の市販教材などは貸与とする。貸与された教材は訓練修了前に返却するため、書き込みは禁止。JICA オリジナル教科書は返却の必要はない。貸与教材か否かは講師に確認。

- ③同じ学習言語であっても、全クラスが同じ教材を使用するとは限らない。担当講師が指導に合った教材を選出する。
- ④図書資料室にも語学教材、英語雑誌、その他語学学習関係書籍等がある。
- ⑤英語、西語、仏語については、職種別技術用語集が図書資料室に常備されており、閲覧可能（持ち出し不可）。また、以下のデジタル専門用語集も配置されており、各自でインストール可能（Windowsのみ対応）。
英語：「理数科教師」「コンピュータ技術」「スポーツ部門」
西語：「医療関係」「スポーツ部門」
仏語：「医療関係」

(2) 教室の利用

- ①教室は清潔に保つように心掛け、私物を放置しない。特にPC、金品などの貴重品は放置厳禁。個人で責任を持って管理する。
- ②教室内外の備品を移動、或いは使用する場合は、使用後必ず元の場所に戻す。
- ③掲示物は、ボードを利用する。止むを得ず壁に直接貼る場合は、塗装を痛めないように注意する。セロハンテープは使用禁止。
- ④教室を最後に出る人は窓の施錠を確認し消灯する。入口の扉は必ず開放する。
- ⑤視聴覚機器は必ず電源を切り、コンセントからプラグを抜く。
- ⑥網戸の開閉は禁止。
- ⑦早朝学習は午前5時30分から研修棟にて可能であるが、他のボランティア候補者の迷惑にならないように配慮する。
- ⑧教室は学習する場であることを十分に認識し、他者の学習を妨げるような行為は厳に慎む。語学自習や夕食後の自習時間であっても、他の教室にも聞こえるような音楽や談笑、また、楽器の演奏等は禁止とする。
- ⑨自分のクラス以外の教室への出入りは、盗難・紛失等の問題回避のため、必要がない限り入室を控える。
- ⑩英語・西語・仏語教室前のホワイトボードは、同一言語内で学習効果を高めることを目的に設置しているため、学習言語のみで利用する。

(3) 備品、消耗品

- ①授業中に講師が使用する消耗品（ボードマーカー等）は、講師が手配する。
- ②ホワイトボード・イレイサーは、汚れたら水洗い。教室内の美化に努める。
- ③教室内での喫茶は可能であるが、湯のみやお茶等は各クラスで購入する。
- ④建物全体の電気容量が限られており、現在設置されている視聴覚機器（テレビ、ビデオ、ラジカセ）やPC、プロジェクター以外の電気機器は教室では使用禁止とする。

(4) 教室内での PC 使用

- ①授業中は、語学講師の指示に従う。
- ②自分のPCを使用し音楽等をスピーカーで流すことは控える。
- ③教室内のLANターミナルは講師用に設置されているため、ボランティア候補者が使用する際は講師の了解を得る。また、無線LAN機器の新たな設置は禁止とする。加えて、既に設置されている機器・アンテナ等は絶対に触れない。

5. 自己学習について

(1) 語学自習時間

- ①語学の授業で学習したことの復習と定着の時間にあてる。
- ②楽器の練習や筋トレ、またスポーツやダンス等のレクリエーション活動等を行わない。語学の学習に専念する。
- ③語学授業時間に準ずるため、緊急時を除き、スタッフルームでの対応を行わない。

(2) 自己学習

言語を習得するためには、自己学習（復習）が重要である。クラス全体の進度に遅れないよう、自己学習に努める。夜の自主計画の時間帯（19:00～22:30）には語学の自己学習を最低2時間は行うようにする。

学習事項の習得に著しい遅れが生じ、訓練の修了が危ぶまれると語学講師及び訓練所スタッフが判断した場合、外出・週末外泊等について制限することもある。

6. 語学相談について

日々進んでいく語学学習の中で生まれる不安について相談する時間を設けている。

日時：水曜日 11：45～12：50（12：30 までに入室）

金曜日 11：45～12：50（12：30 までに入室）

※祝日、試験当日は除く

場所：よろず相談室

担当： 語学訓練スーパーバイザー(LTS)

【語学訓練スーパーバイザーより一言】

これから 36 日間にわたる派遣前訓練が始まります。

ここで学ぶことはそれぞれの任国で生活や活動を行っていくための大きな助けとなるはずですが、もちろん語学訓練もその一環としてあります。

皆さんの中には外国語学習が苦手という方もいるかもしれません。しかし、不安や萎縮は外国語習得の妨げになります。語学学習に関する疑問や問題があれば、臆することなく担当講師、語学スタッフに相談してください。我々はより良い学習環境を整えるために皆さんをサポートしていきます。

最後に一つ。語学訓練はそれ自体で完結しているわけではありません。赴任後の現地語学訓練とそれに続く活動のための第一歩と考えて臨んでください。

7. 語学関連行事について

語学関連行事一覧

日付	時間	行事	場所
4月11日(金)	10:50～11:40	入所時語学オリエンテーション	講堂
	13:00～14:50	クラス編成テスト	各指定場所
5月9日(金)	8:45～11:40	最終試験	各指定場所
講師申請日	語学授業時間	Half Day Trip	所外

Half Day Trip

講師の申請で実施

狙い

教室での学習内容を踏まえ、所外で生きた会話練習を行うことにより会話能力の向上を目指す。

実施内容・方法

午前3時間（8：45～11：40）、または午後2時間（13：00～14：50）の授業時間の範囲内で、駒ヶ根市または近郊での語学授業を実施。授業の進捗状況を担当講師が判断し計画する。

※ 講師が実施3日前までに申請する。

留意点

- ① クラスの進捗を鑑み、講師の判断、指導のもと実施される。
- ② 出発時および帰所時に JICA 事務室へ報告する。
《出発時：代表者が緊急連絡用の携帯電話番号をスタッフに伝達する。全員居室プレートを「Half Day Trip」の所に移動し、裏返す。》
《帰所時：戻った旨を JICA 事務室に報告する。》
《万が一、帰所時間に間に合わないような場合は代表者が訓練所へ連絡を入れる》
- ③ 交通費等の費用は全て個人負担とする。
- ④ グループから離脱するなど、勝手な行為及びボランティア候補者としての品位を損なうような行為をしない。私服も可とするが、節度ある服装を心がける。
- ⑤ 危険な行為は避け、交通事故等には充分注意し、健康保険証を携行する。
- ⑥ スポーツ・映画・温泉・千畳敷等、学習に不相当と思われる場所の訪問は不可。
- ⑦ 飲酒厳禁。

駒ヶ根訓練所学習言語一覧

目的：実践的コミュニケーションのための基礎的かつ機能的な知識、およびその運用力をつける。

言語	訓練中学習する言語について	現地語学訓練等について
English	EPテストによるクラス分け後、若干の調整期間を設ける。午前はクラスレベルに併せた授業を行う。午後はテクニカルクラス授業で技術表現・プレゼンテーションを習得する。	派遣国により異なる。 (現地語のみ・英語のみ・現地語+英語)
Spanish	入所時試験後仮クラス設定、若干の調整期間を設ける。中南米公用語のスペイン語を基礎から習得する。 中間試験後、テクニカルクラス（タジュール）を複数回実施する。	引き続き同言語を学習する。
Nepali	ネパール国標準語を、文字も含め基礎から習得する。	引き続き同言語を学習する。
Sinhalese	スリランカ国標準語を、文字も含め基礎から習得する。	引き続き同言語を学習する。

7

各言語 挨拶一覧

日本語	英語	スペイン語	フランス語	ロシア語	ベンガル語	ネパール語	シンハラ語	ウズベク語	キルギス語
<i>Japanese</i>	<i>English</i>	<i>Spanish</i>	<i>French</i>	<i>Russian</i>	<i>Bengali</i>	<i>Nepali</i>	<i>Sinhalese</i>	<i>Uzbek</i>	<i>Kyrgyz</i>
おはよう Ohayou	Good morning	Buenos días ブエノス デイアス	Bonjour ボンジュール	ド オーフ ラエ ウートラ	アッサラーム アライクム	ナマステ	スバ [°] ウデー [°] サナツ ウエーワー	アッサローム アライクム	クトマント [°] ウー タンゲン [°] グ [°] ス [°] メネン
こんにちは (気軽な挨拶) Konnichiwa	Good afternoon (Hello)	Buenas tardes (¡ Hola !) ブエナス タルデス (オラ)	Bonjour (Salut !) ボンジュール (サリュウ)	スト [°] ラースト ブ イチエ	(答える時) ワーアライクム アッサラーム		ア [°] ユー [°] ホ [°] ウワン	(答える時) ワーレイキム アッサローム	サラマツトウ ス [°] ブ [°] ブ [°] ー
こんばんは Konbanwa	Good evening	Buenas noches ブエナス ノーチェス	Bonsoir ボンソワール	ト [°] フ [°] リイ ヴ [°] エチエル			スバ [°] センテ [°] ワツ ウエーワー		クトマント [°] ウ ケチニ [°] ス [°] メネン
お元気ですか? (気軽な挨拶) Ogenkidesuka	How are you?	¿Cómo está? コモ イスタ	Comment allez-vous? (ça va ?) コマン タレヴ [°] ー (サウ [°] ア)	カク テ [°] イ [°] ーラ?	アフ [°] ニ? ケモアチエン?	サンツアイ フヌフツア?	セハ [°] サニ [°] ーハ [°] コホマダ [°] (コホマダ [°])	カンタ [°] イス	カンタ [°] イスイス [°]
元気です (あなたは?) Genkidesu	I'm fine thank you (and you?)	Muy bien gracias ムイ ビエン グ [°] ラシアス	Très bien, merci (et vous?) トレビ [°] アンメルシー (エ ヴ [°] ー)	ハラシヨ	アミ [°] バ [°] ロ [°] アチ (アフ [°] ニ [°])	サンチャイ ツウ (タハ [°] イン ニ [°] ?)	ホンダイ	ヤクシ	ジ [°] ヤクシウ
～さん (男性) (女性・既婚) (女性・未婚) ～san	Mr. ～ Mrs. ～ Miss. ～	Señor ～ Señora ～ Señorita ～ セニョール ～ セニョーラ ～ セニョリータ ～	Monsieur ～ Madame ～ Mademoiselle ～ ムッシュ [°] ー ～ マダム ～ マド [°] モワゼル ～	ガ スハ [°] テ [°] イン ～ (男性) ガ スハ [°] ジ [°] ア ～ (女性)	～シャハブ [°] (男性のみ) ～アハ [°] (女性)	～ジ [°] (～さん)	～マハツティア (男性) ～ノーナ (女性)	ジ [°] ノフ [°] ～ (男性) ～ホ [°] ニム (女性) ～ホ [°] (女性)	～ムルザ [°] (男性) ～アイム (既婚女性) ～クウス [°] (未婚女性)
また会いましょう Mataaimashou	See you again	Hasta la vista アスタ ラ ヴ [°] イスタ	A bientôt アビ [°] アント	ハ [°] カー	アバ [°] ー ル テ [°] カ ホバ [°]	フェリ ベ [°] タオン	ハ [°] ツセ ハンブ [°] エム	キョーリン ギ [°] ユンチャ	クーリュシュ ク [°] チュ
おやすみなさい Oyasuminasai	Good night	Buenas noches ブエナス ノーチェス	Bonne nuit ボン ニュイ	スハ [°] コイノイ ノーチイ	シュホ [°] ラツトリ	スハ [°] ラトウリ	スハ [°] ラトウリヤツ ウエーワー	ハイルリトウン	ジ [°] ヤクシウ ジ [°] ヤチウニ [°] ス [°]
ありがとう Arigatou	Thank you	Gracias グ [°] ラシアス	Merci メルスイ	スハ [°] シーバ [°]	ドンノバ [°] ー ト [°]	ダ [°] ンニヤバ [°] ー ト [°]	イスツテウティ	ラフマツトウ	ウラフマトウ

平成26年度1次隊 語学講師一覽

Language	Name	RM	Ext No.
Spanish	Mr.	1	501
	Mr.	2	502
	Ms.*	3	503
	Mr.*	4	504
	Ms.	5	505
	Mr.*	6	506
	Mr.*	7	507
	Ms.*	8	508
	Ms.	9	509
	Mr.	10	510
	Ms.	32	532
	Mr.	33	533
English	Ms.	15	515
	Mr.	16	516
	Mr.	17	517
	Mr.	18	518
	Mr.*	19	519
	Ms.*	20	520
	Mr.*	21	521
	Ms.	23	523
	Ms.	24	524
	Mr.	25	525
	Mr.	26	526
French	Ms.	11	511
	Mr.	12	512
	Ms.*	13	513
	Mr.	14	514
	Mr.	28	528
	Ms.	29	529
	Ms.	30	530
	Mr.	31	531

Asterisk (*) beside name indicates he/she is a JICA Directly Contracted Instructor.

Language	Name		RM	Ext No.
Russian	Ms.		37	302
Bengali	Mr.		39	304
Nepali	Ms.		40	305
	Mr.*		41	306
	Mr.		42	323
Shinhalese	Ms.		43	324
	Mr.*		44	325
Uzbek	Mr.		23	523
Kyrgyz	Ms.		38	303

Asterisk (*) beside name indicates he/she is a JICA Directly Contracted Instructor.

語学能力自己評価表

レベル	聴く	話す	読む	書く	
上級	1	母語に近い能力がある。	母語に近い能力を持ち、教養のある話し方をすることができる。	母語に近い能力で読むことができる。	母語に近い幅広い知識を持ち、自然で正しい文章を書くことができる。
	2	大学の講義や広範囲な話題を十分に聴きとることができる。	日常の場面や専門分野についてほとんど困難なく、的確・具体的に話すことができる。	専門書・一般雑誌・新聞報道記事・社説などをほぼ正確に読むことができる。理解できる範囲は非常に広い。	文法は十分な知識があり、正しく使いこなせる。報告書を独力で書くことができる。
	3	複雑な内容をもつ討論や講義を除き、会議の進行や伝達事項を正確に聞き取ることができる。	専門分野や興味のあることは、自由に話すことができる。討論や説明も可能である。複雑なことや抽象的な表現はまだ使いこなせない。	自分の分野の専門書や興味のある分野は容易に理解できる。しかし、複雑な表現を理解するには辞書が必要である。	辞書や参考書を用いて専門分野や簡単な報告書を書くことができる。
中級	4	日常や職場での伝達の要旨はほぼ正確に理解できるが、複雑なことは繰り返して言ってもらう必要がある。	一般の事柄については、あまり困難なく話すことができるが、まだ正確さ・滑らかさ・使用語彙の適切さに欠ける。	自分の分野の専門書は多少問題はあるが、ほぼ理解できる。しかし、その他の分野では辞書を必要とする。	文法の知識は十分に持っているが、長い複雑な表現になると使いこなすことができない。
	5	普通の速さで話される日常の会話をほぼ理解できるが、しばしば繰り返して言ってもらったり、説明を求める必要がある。	日常の会話や活動分野については簡単な語句を使って話すことができるが、適切な語彙の使用や流暢さには欠ける。	活動分野の初歩的な文書やビジネス文書を辞書を使用し、時間をかければ理解することができる。	文法の基礎知識はある。文例や辞書などを使って報告書を書くことができるが、語句の使用が適切でないことがある。
	6	普通の速さについて行けなくなるが、日常会話や活動現場での会話は聴きとることができる。	限られた語彙や表現を使い会話はできるが、なめらかではない。	簡単な手紙文やEメールを読みとることができる。	文法の基礎力は弱く、語彙量は少ない。初歩的な文は書くことができる。
初級	7	日常会話の断片的な言葉や、活動現場での限られた指示、命令などの表現は聴きとることができる。	簡単な語句を使って必要最低限の要求を満たす会話をするすることができる。	写真や図が多く平易な単語・文で構成された掲示物・メモなどは読むことができる。	語彙量は乏しく、語順に間違いが多い。単純な文や単語だけのメモ類は書くことができる。
	8	簡単な単語や挨拶などの決まり文句がわかる。	日常の挨拶など、決まり文句は言えるが、ジェスチャーによる表現に頼る。	ごく限られた単語は読むことができる。	文法はほとんど判らない。限られた単語のみ書くことができる。

場面別事例表 (JICAボランティア)

自己診断ポイント 5.十分にできる 4.できる 3.できるが、状況によっては不安を感じることもある 2.少しはできる 1.できない

学習言語:

講師名:

派遣国:

氏名:

項目	目的	場面	必要な語学力	派遣前訓練期間			派遣国	現地語学
				入所時	中間試験後	修了試験後		
日常会話	現地の人々の心情を理解し、共に生活することができる。	ホームステイ先	自分のプロフィール(趣味、家族)や任国に来た目的を説明できる。					
		関係省庁	自分の専門(学歴・職歴)のことや配属先での活動内容、抱負を説明できる。					
		配属先	着任時に自分の活動やJICAボランティア事業の説明ができる。					
		電話	日常生活に必要な、基本的な電話の対応ができる。					
		買い物	生活必需品を市場や小売店で購入することができる。					
		食事	ファーストフード店、レストランで食事ができる。レストランでのマナーを知っている。					
		銀行	銀行口座開設、送金、小切手・外貨の換金をすることができる。					
		交通機関	交通標識の意味を理解し、バス、電車(地下鉄)、タクシーに乗って目的地に行くことができる。					
		病院	病院での受診(軽度な症状)するために必要な表現ができ、ひとりで受診することができる。					
		郵便局	手紙や小包の発送や受け取りをすることができる。					
		情報	テレビ、新聞、ラジオで一般情報や天気予報を理解できる。					
		交渉	住居契約を理解し、家賃の支払い方法、領収書の依頼、クレーム等をすることができる。					
		予約	ホテル、旅行代理店等で予約をすることができる。					
メディア	自分でインターネットのプロバイダー契約ができる。							
危機管理	緊急時に適切な行動ができる。	緊急時の備え	自分の住んでいる場所を説明できる。また、緊急時の連絡方法と連絡先を現地の人々に説明できる。					
		犯罪・交通事故	自分の身分を説明し、警察に通報、被害の状況を説明することができる。					
		暴動・政変・地震	近所の人から情報を得る。新聞やテレビ、ラジオで情報を入手し、状況を把握することができる。					
隊員活動	配属先の人々との人間関係を構築できる。	着任	自分が来た理由を説明し、2年間の抱負を述べられる。					
		業務開始	同僚、上司の名前を覚えて配属先の組織概要を理解することができる。					
		勤務	休暇、欠勤時の配属先に対する申請や連絡をすることができる。					
		会議	職場の会議に参加して自分の意見を言うことができる。					
	相手のニーズを的確に把握して活動することができる。配属先の人々を巻き込んで活動することができる。	活動計画	職場の関係者と自分の活動計画を立てることができる。					
		交渉	同僚や上司に自分の活動計画を説明し、活動が現実するよう交渉できる。					
		報告	自分の活動状況を口答や文書で配属先に報告することができる。					
		クレーム	問題が生じた特にクレームの方法を知っている。					
		書類・事務処理	自分の活動に必要な簡単な礼状、託状、事務連絡を作成できる。					
		専門知識	任国の言語で自分の専門分野のことを理解し、説明できる。					
文化交流	相手国と日本の歴史、文化の違いを理解して交流できる。	任国の文化	任国の歴史や文化を説明できる。					
		日本の文化	日本の生活習慣や伝統文化(茶道、華道、武道等)について説明したり、披露できる。					
		宗教	任国の宗教を理解し、日本の宗教について説明できる。					

Situational Language Skills: Self-Diagnosis Check List

Self-diagnosis items Criteria : 5. Excellent 4. Good 3. Fair 2. Poor 1. Very poor

				Pre-dispatch training			Upon arrival at host country	After In-country language training
				Upon entrance to KTC	Upon Mid-exam	Upon Final exam		
Target Language :		Instructor :		host country :		name :		
Item	Objective	Situation	Desired Proficiency Level					
Daily Conversation	Able to understand the feelings of local people and get along with them.	homestay	Can introduce yourself including topics on your family, hobbies, and explain motivation to join the JICA volunteer.					
		government office	Can explain your technical field duties including your educational and professional background and express your aspirations.					
		workplace	Can explain your field of activity and JICA volunteer.					
		telephone dialogue	Can hold basic telephone conversations necessary for daily life.					
		shopping	Can buy daily necessities at markets or stores.					
		restaurant	Can order food at restaurants and know restaurant etiquette and manners.					
		banking	Can open bank accounts, remit checks, convert foreign currencies.					
		transportation	Can understand traffic signs, ride the bus, train or taxi to get to destinations.					
		hospital	Can consult a doctor with appropriate expressions by yourself.					
		post office	Can buy stamps, send and receive letters and parcels.					
		announcement	Can understand announcements or general information and weather forecast on TV, radio, newspaper .					
		negotiation	Can understand residence contract, pay rent, ask for receipt, file complaints.					
		reservation	Can reserve a hotel room and ask at travel agency.					
media	Can sign up with a internet provider by yourself.							
Risk Management	Able to cope with emergent situations and natural disasters.	preparation for emergency	Can explain where you live and how to contact emergency address.					
		crime , traffic accident	Can explain your status, report to police and explain damages.					
		riot, coup detat, earthquake	Can obtain information from neighbors, newspaper,TV or radio and grasp the situation.					
Volunteer Activities	Able to establish relationship with fellow workers.	arrival at your post	Can explain why you are assigned here and speak of your aspiration.					
		starting at workplace	Can remember colleagues' names and understand the hierarchy of the organization.					
		at work	Can apply for time off and vacations.					
	Able to act according to the local people's needs and involve colleagues in your activities.	meeting	Can state your opinions in meetings.					
		plans of action	Can make project action plans with your colleagues.					
		negotiation	Can explain and negotiate your own action plans to peers and superiors and implement the plans.					
		report	Can report your activities orally and in writings at the workplace.					
		complaints	Can file a complaint when a problem arises.					
		clerical	Can write the thank you letter, letter of entrust, and letter of administrative information.					
expert	Can understand and explain your technical field duties in the target language.							
Cultural Exchange	Able to understand the differences between the two countries and exchange ideas.	culture of the host country	Can explain the host country history and culture.					
		Japanese culture	Can explain or perform aspect of Japanese culture. (tea ceremony, flower arrangement, martial arts, etc)					
		religions	Can understand the host countrys religions and explain those of Japan.					

訓練資料
講座関連実施要領
【第一部】

平成 26 年度第 1 次隊 駒ヶ根

青年海外協力隊訓練所

JICA KOMAGANE TRAINING CENTER

目 次

JICA ボランティアに求められる能力・適性	1
講座について・諸注意等	2～3
各種オリエンテーション一覧	4～5
講座一覧（コース別）	6～9
講座資料の見方	10
ストレスマネジメントに関するレポートについて	11
講座レポートについて	12～13
講座テストについて	14
WBT および JICA-Net による各インターネット事前学習容	15～19
各講座の目的・内容	20～51、55～73
自主講座について	52、74
「自主講座実施計画書」様式	53、75
「自主講座実施報告書」様式	54、76

JICA ボランティアに求められる能力・適性

項目	求められる対応能力・適性
1. 青年海外協力隊精神の理解および実践力	1-1 JICA ボランティアとしての使命感 1-2 国際協力およびボランティア事業の理解
2. ボランティア基礎力	2-1 主体性 2-2 協調性
3. ボランティア実務能力	3-1 発信力 3-2 マネージメント力
4. 異文化(他者)理解・適応力	4-1 異文化理解と適応 4-2 日本(人)理解
5. 危機管理能力	5-1 健康管理能力 5-2 安全管理能力

派遣前訓練における「講座」について

講座の分類

派遣前訓練の目的に即し、それぞれの講座は大きく 6 つのコースに分類されています。そのうち、この資料で扱うのは語学を除く次の 5 つです。

- 活動手法
- 健康管理・安全管理
- 社会的多様性理解・活用力
- 生活班活動
- 各種オリエンテーション

それぞれについての詳しい説明は、P.6～9 に「講座等一覧表（コース別）」として示されています。この一覧表は本資料の目次としても利用できます。

受講区分

講座はそれぞれの内容に応じて「必修講座」「指定者必修講座」「選択講座」等に分けられます。また、ボランティア活動において有益な情報を提供するセミナー、課外講座等も用意されています。履修要件の対象者区分は「JOCV」「SV」に分けられます。「JOCV」は青年海外協力隊候補者を、「SV」はシニア海外ボランティア候補者を指します。JICA ボランティア経験者については、一部の講座を選択可能とします（詳細はスタッフから連絡）。対象となる「経験者 1」「経験者 2」は下記のとおりです。

・経験者 1

19 年度 3 次隊以降の派遣期間 1 年以上のボランティア経験者

・経験者 2

19 年度 2 次隊までの派遣期間 1 年以上のボランティア経験者で、帰国から 5 年以内の者

公開講座

P.6～9 の「講座等一覧表」で「公開講座」の欄に●印が付いている講座は、一般市民も聴講する講座です。

各講座の目的・内容

各講座の達成目標や内容は、P.15～51、および P. 55～73 に記載していますので、確認してください。

テストとレポート

JICA ボランティアに必要とされる知識を確認するため、講座テスト（全員）を実施し、派遣前訓練レポート（JOCV のみ）を提出していただきます。詳しくは P.12～14 を参照して下さい。

自主講座

課業時間以外の時間帯に「自主講座」を開催することができます。自分の持つ知識や経験を他の候補者に伝えたり、ワークショップ等の企画運営方法を勉強したりするなど、実施者、参加者双方に有益な講座を企画してください。詳しくは P. 52 (P.74) を参照して下さい。

講座受講時の諸注意

- 【時間厳守】 講座開始 5 分前には着席し、講義を聴講できるよう準備してください。
- 【座席】 講堂での必修講座の場合、指示が無い限り座席表の通り着席してください。
- 【受講態度】 講座は真摯な態度で臨み、講師に失礼のない節度ある姿勢を心がけてください。講座に関係のない内職等は厳禁です。
- 【服装】 講師に対して失礼のないよう、T.P.O.をふまえた服装を遵守してください。
- 【飲食】 食べ物の持ち込みは禁止します。飲み物の持ち込みは、蓋付きで割れない容器（ペットボトルなど）を利用してください。
- 【パソコン】 講義中のパソコン使用は禁止します（タブレット型も含む）。
- 【携帯電話】 講座中は携帯電話の電源を OFF にしてください。
- 【撮影・録画】 講義中、デジタルカメラ・ビデオ等による静止画・動画撮影、および IC レコーダー等による録音は禁止します。
- 【その他】 質問をする際は、挙手して講師の指名を得てから起立してください。その後、派遣予定国、職種、氏名の順に名乗ってから質問してください。講座講師へのフィードバックのため、配布されたアンケート用紙は、講座終了後、必ず提出するよう願います。

各種オリエンテーション一覧表 ※指定がない限り、全員受講してください

実施日		実施時間・実施場所		オリエンテーション名	内容	担当	
4/10		入所時日程表参照	講堂	F-2-1	派遣前訓練に関する合意書説明	・派遣前訓練に関する合意書の説明・締結	調査役
				F-2-2	生活オリエンテーション	・訓練所での生活における注意事項等(4/11も実施)	生活担当スタッフ
				F-2-2	総括オリエンテーション	・公人としての心構え、訓練全体の構成、修了評価の説明	訓練総括
4/11				A-2	語学オリエンテーション	・語学学習における心構え、語学講師紹介等(JOVCV候補者は中間時オリ、修了時オリ内でも実施)	語学担当スタッフ
				C-3-1	診療室オリエンテーション	・訓練中の健康管理について ・診療室利用、外部医療機関受診、訓練所顧問医について ・予防接種の種類・方法・注意事項	診療室スタッフ
				F-2-2	関連団体紹介	・駒ヶ根市の紹介 ・駒ヶ根青年会議所の紹介	駒ヶ根市役所 駒ヶ根青年会議所
4/12				F-2-2	講座オリエンテーション	・各種講座の目的、内容説明	講座担当スタッフ
4/16		15:10～16:00	講堂	F-3-5	ソーシャルメディアオリエンテーション/ 「コンプライアンス」と「ハラスメント防止」について	・コンプライアンス(法令等遵守)について ・ボランティアの倫理等ガイドラインについて ・ハラスメントについて ・ソーシャルメディアの私的利用に関するガイドライン ・広報媒体掲載、肖像権ガイドラインの説明及び過去の失敗事例の紹介(TV会議システム利用) ※「JICAボランティアハンドブック」持参	青年海外協力隊事務局 計画課 職員
		16:10～16:35	講堂	F-3-4	ボランティアポータルシステムオリエンテーション	・ボランティアポータルシステムについての説明(TV会議システム利用) ※「JICAボランティアハンドブック」持参	青年海外協力隊事務局 計画課 職員
		16:35～17:00	講堂	F-5-3	表敬訪問オリエンテーション	・訓練修了後に行う都道府県や市町村での表敬訪問の説明	国内協力員
4/23	【JOVCV】	14:10～15:00	講堂	B-3-1 B-4-1	コミュニケーション技法/調査手法オリエンテーション	・コミュニケーション技法の構成についての説明 ・調査手法の構成、およびフィールドワークの概要説明	訓練総括
4/25		17:10～17:45	各指定場所(掲示参照)	F-4-1	公用旅券オリエンテーション	・公用旅券用のサイン取り付け	各担当旅行会社
4/30		15:10～16:00	講堂	F-3-1	派遣の仕組みと支援体制オリエンテーション	・派遣の流れ及び派遣中の支援体制等についての説明 ※「JICAボランティアハンドブック」持参	青年海外協力隊事務局 担当職員
4/30	【SV】	15:10～16:00	講堂	F-3-2	処遇・制度オリエンテーション	・各種制度、派遣前～帰国時の手続き等について ※「JICAボランティアハンドブック」持参	調査役
	【JOVCV】	16:10～17:00					
	※全員	17:10～17:45	講堂	F-2-6	JOCA、育てる会オリエンテーション	・「(公社)青年海外協力協会」の活動内容、支援内容の紹介 ・「(社)協力隊を育てる会」の活動内容、支援内容の紹介	各担当職員

実施日		実施時間・実施場所		リレーション名		内容		担当	
5/6	【JOCV】	15:10～ 16:00	講堂	E-3	野外訓練リレーション	・野外訓練実施に関する諸注意		生活担当スタッフ	
5/12	【SV】	15:10～ 16:00	小講堂	F-3-3	福利厚生・共済会 リレーション	・JICA ボランティア全員が加入する共済会等、福利厚生の概要(TV会議システム利用) ※「新総合ハンドブック」(共済会)持参		JICA 健康管理課職員	
		16:10～ 17:00		C-3-2	派遣前健康管理 リレーション	・JICA の健康管理支援体制について ・出発までの準備 ・任国での健康管理		診療室スタッフ	
	【JOCV】	15:10～ 16:00	講堂	F-2-4	中間時リレーション	・前半の振り返りと後半の取り組み姿勢について		語学訓練スーパーバイザー 訓練総括	
5/13	【SV】	13:00～ 13:50	小講堂	F-4-4	派遣に関する 合意書説明	・派遣に関する合意書の説明		調査役	
		14:00～ 14:50		F-4-2	赴任前リレーション	・JICA ボランティアの処遇および制度の概要 ・合意書の説明、公用旅券の管理 ・赴任経費の支給に係る連絡、諸手続きおよび留意事項			
5/20	【JOCV】	15:10～ 16:00	講堂	D-4-3	所外活動オ リレーション	・所外活動の構成、概要の説明、留意事項等 ・所外活動先の方々による心構えや内容説明		講座担当スタッフ	
6/3	【JOCV】	15:10～ 16:00	講堂	F-3-3	福利厚生・共済会 リレーション	・JICA ボランティア全員が加入する共済会等、福利厚生の概要(TV会議システム利用) ※「新総合ハンドブック」(共済会)持参		JICA 健康管理課職員	
6/11	【JOCV】	13:00～ 13:50	各指定場所 (掲示参照)	F-4-3	旅行会社オ リレーション	・公用旅券、航空券の配布 ・出国当日の日程、集合場所等の詳細 ・飛行機持ち込みの荷物や預け荷物について		各担当旅行会社	
6/13	【JOCV】	15:10～ 16:00	講堂	F-2-5	修了時 リ レーション	・訓練の総括および派遣に向けての心構えについて		語学訓練スーパーバイザー 生活担当スタッフ	
		16:10～ 17:00	森のステージ	F-5-1	特別行事オ リレーション	・皇太子御接見当日のリハール、注意事項等		訓練総括	
6/17	【JOCV】	8:45～ 9:35	講堂	F-4-4	派遣に関する 合意書説明	・派遣に関する合意書の説明		調査役	
		9:50～ 10:40		F-4-2	赴任前 リ レーション	・JICA ボランティアの処遇および制度の概要 ・合意書の説明、公用旅券の管理 ・赴任経費の支給に係る連絡、諸手続きおよび留意事項			
		10:50～ 11:40		C-3-2	派遣前健康管理 リレーション	・JICA の健康管理支援体制について ・出発までの準備 ・任国での健康管理		診療室スタッフ	

講座等一覧表(コース別)

A. 語学

コース	単元	課業・行事	実施日	公開講座	ページ
A・語学	A-1	自主計画時間を使った自習			語学関連実施要領参照
	A-2	語学リエゾン			
	A-3	語学授業			
	A-4	語学試験(クラス編成・中間・最終)			
	A-5	語学自習			
	A-6	語学交流会			

B. 活動手法

コース	単元	講座名	ねらい	実施日	公開講座	ページ	
B・活動手法	B-1	自主計画時間を使った課題発表の準備		-		-	
	B-2	目標管理	B-2-1	ボランティア活動の流れ	2年間の活動イメージを認識し、ボランティアに求められる能力・適性の自己評価が出来るようになる	4月14日	22
			B-2-2	目標管理概論	目標管理の考え方、目標設定と進捗管理、振り返りの実施方法、目標管理シートの意味を理解する	4月14日	23
			B-2-3	活動管理	活動を実施する際の計画策定、実施プロセスを理解し、活動実施における自分の強みと課題も把握する	4月14日	24
			B-2-4	振り返り・評価	訓練中に行ってきた目標管理について互いに発表し、他者評価を行うことで振り返りの場とする	6月14日	70
			B-2-5	個人面談	JOCV：目標管理面談により自分の強みや弱みを把握する SV：自身の派遣前訓練への取組状況を確認する	班担当より別途連絡	25
	B-3	コミュニケーション技法	B-3-1	コミュニケーション技法リエゾン	各種リエゾン一覧表参照(P.4~5)	-	-
			B-3-2	コミュニケーションの基礎	異文化における関係づくりのために、コミュニケーションに求められることを理解し、実践のコツをつかむ	4月23日	34
			B-3-3	ファシリテーションの基礎	多様な人が参加しやすい場づくりと、ファシリテーションの実践を通して、ポイントを理解する	4月28日	40
			B-3-4	プレゼンテーションの基礎	自分の知恵や経験、考えをまとめ、発表するためのプレゼンテーションの進め方を理解する		39
			B-3-5	課題発表・振り返り	コミュニケーション技法を活用して課題発表を行い、生活班担当と一緒に振り返ることで学びを得る	5月26日	64
	B-4	調査手法	B-4-1	調査手法オリ	各種リエゾン一覧表参照(P.4~5)	-	-
			B-4-2	情報収集	情報を収集するときに重要なことを理解する	5月19日	58
			B-4-3	参加型調査手法	参加型計画の基礎を学び、任地での活動の一助とする		59
	B-5	適正技術	B-5-1	協力活動手法(WBT)	ヒト、モノ、財が不足する開発途上国における、協力活動の基本姿勢や活動手法の考え方を学ぶ	-	15
			B-5-2	協力活動手法	任国における職種分野別の技術水準や適正技術について理解する	6月2日	66
			B-5-3	職種別活動セミナー	任国における職種分野別の技術水準や円滑な協力活動を行うための情報収集をする	5月10日	50

C. 健康管理・安全管理

コース	単元	講座名	ねらい	実施日	公開講座	ページ	
C・健康管理・安全管理	C-1	自主計画時間を使った体力増強活動		-	-	-	
	C-2	体力増強	C-2-1	体力テスト	入所時の体力を把握し、訓練期間中に維持・増強し、変化を確認することにより任国での体力維持・管理に役立てる	4月21日 6月10日	31
			C-2-2	体力維持講座	訓練期間及び任国における健康・体力の維持増進の重要性について実践を通して学ぶ	4月17日	26
			C-2-3	スポーツ大会	訓練候補者との交流を深めながら、体力向上の一助とする	4月19日	30
	C-3	健康管理	C-3-1	診療室リエンション	各種リエンション一覧表参照（P.4～5）	-	-
			C-3-2	派遣前健康管理リエンション		-	-
			C-3-3	救急法	突発的な事故・負傷に対する応急処置の方法を学び、事故防止思想と実践で役立つ技術を身につける	4月26日	38
			C-3-4	婦人科(対象者のみ)	女性が罹りやすい病気の基礎知識と自己管理のための知識を身につける	5月2日	43
			C-3-5	歯科衛生	任国における口腔管理の重要性と歯科疾患予防の知識を身につける	4月22日	33
			C-3-6	日本人の疾病動向と健康管理	生活習慣病の予防と対策を学ぶ	5月9日	48
			C-3-7	精神衛生	任国で心身ともに健康で過ごすことの重要性を理解し、任国でのストレス対処法を学ぶ	5月3日	44
			C-3-8	感染症	任国の感染症についての知識を深め、予防と罹患時の対処法を身につける	4月25日	36
			C-3-9	医療者特別講座(対象者のみ)	針刺し事故後のHIV感染予防対策と対処法を学ぶ	4月25日	37
			C-3-10	坐禅	自己を見つめ、安定した心持ち、精神修養を図る	6月9日	69
	C-4	安全管理	C-4-1	海外における安全対策	日本と派遣国の治安状況の違いを理解し、安全を確保するための基本的な心構えと具体的な方法を学ぶ	5月8日	47
			C-4-2	海外における交通安全対策	任国における交通事故防止に必要な安全意識の向上を図るとともに、日本での安全神話意識を払拭させる	4月24日	35
			C-4-3	海外における交通安全対策(バイク貸与予定者のみ)			
			C-4-4	自動二輪不整地走行練習(対象者のみ)	別途連絡		
			C-4-5	青遺海の会による講話	無事の帰国を願う留守家族の気持ちについて考え、命の尊さについて再確認する	-	73
			C-4-6	避難訓練	-	-	-
C-5	講座テスト	各種講座等を通じて学んだ国際協力、JICA事業、JICAボランティア事業、異文化理解、安全管理、保健衛生等、JICAボランティアとして活動するにあたり必要な知識の習得度を確認する		SV 5月12日 JOCV 6月7日		14	

D. 社会的多様性理解・活用力

コース	単元	講座名	ねらい	実施日	公開講座	ページ	
D・社会的多様性理解・活用力	D-1	自主計画時間を使った自主研修講座の準備・実施		-		-	
	D-2 JICA ボランティア 基礎講座	D-2-1	外務省講話	我が国のODAの現状を理解し、公人として派遣されるJICAボランティアの意識を高める	6月17日		72
		D-2-2	戦後日本の国際協力の歩み(WBT)	戦争で荒廃した日本が様々な国から支援を得ながら復興していく過程と、その後日本が被援助国から援助国の立場になっていく経緯と歴史を学ぶ	-		15
		D-2-3	国際関係と日本の国際協力	国際社会における援助の潮流と日本のODAの基本政策を理解する	5月14日		55
		D-2-4	JICA事業概要	我が国のODAの現状とJICA事業を理解し、ODAにおけるボランティア事業の位置付けを理解する	4月30日		41
		D-2-5	青年海外協力隊の歩みと理念(WBT)	青年海外協力隊がどのような過程を経て創設され今日に至っているのかを理解し、協力隊の特性を踏まえた意義と理念について考える	-		16
		D-2-6	JICAボランティア事業の理念と目標(局長講話)	JICAボランティア事業を理解し、ボランティアに必要な知識と心構えを養う	4月22日		32
		D-2-7	所長講話	訓練の心構えと、JICAボランティアの活動についての具体的なイメージを把握し、適切な心構えを培う	4月11日 SV 5月14日 JOCV 6月18日		20
		D-2-8	国別・地域別ボランティア派遣概要	任国におけるJICA事業の概要および協力プログラムについて理解する	5月7日		46
		D-2-9	ボランティアズ・リット意見交換会	JICAボランティアに参加した動機を再確認し、ボランティア精神とは何かを考える	5月5日		45
		D-2-10	エイズ基礎講座(JICA-Net)	HIV/AIDSに関する基礎知識と予防啓発活動を学ぶ	-		16
		D-2-11	ジェンダーと開発(JICA-Net)	ジェンダーに係る基礎知識を身につけ、ボランティア活動への活かし方を学ぶ	-		17
		D-2-12	環境と開発(JICA-Net)	環境や社会に配慮した開発のあり方について学ぶ	-		18
	D-3 社会的多様性理解	D-3-1	貿易ゲーム	世界経済の動きを疑似体験し、そこに存在する諸問題について考える	5月1日		42
		D-3-2	任国研究	任国ごとに赴任する国について調べ、まとめることにより、派遣される国についての理解を深める	4月18日		29
			日本(人)研究	日本や日本人の特徴について調べ、まとめることにより、自文化についての理解を深める	-		27 28
		D-3-3	世界の宗教事情(WBT)	派遣国の人々が信仰する宗教の基礎知識を身に付け、事例を通じて宗教に対する理解を深める	-		19
		D-3-4	世界の宗教理解	世界の宗教について理解を深め、日本人の宗教観を学ぶ	5月30日		65
		D-3-5	演習 Bafa-Bafa	異文化を疑似体験し、異文化理解を深める	5月23日		62
		D-3-6	異文化適応概論	異文化理解の意味と適応について学ぶ	5月24日		63
		D-3-7	異文化適応の事例研究	異文化適応に関する事例から、実際に任地で起こりうる問題や葛藤への対処方法を学ぶ	6月4日		67
		D-3-8	地球のステージ	紛争、災害、貧困の地の子供達に音楽と映像で近づき、国際協力とは何か、ボランティアとは何かについて迫る	5月14日		56
	D-3-9	内田クペリク検査	検査結果を通じ、自身の性格・行動特性を知り、異文化適応に役立てる	4月12日		21	
	D-4 社会的多様性活用力	D-4-1	任国事情	ボランティアの活動、現地の生活の様子等についてボランティア経験者から情報を得る	5月10日		49
		D-4-2	学校交流	地域の生徒との交流を通して、学校現場での国際理解教育に協力すると共に、自らも体験する	6月6日		68
		D-4-3	所外活動リレーション	各種リレーション一覧表参照(P.4~5)	-		-
		D-4-4	所外活動	普段と違う環境でどのように人々と関わり合い、相手の役に立てるかについて実践を通じて考える	5月22日 5月28日 5月29日		60 61
			ボランティア活動の実際(SVのみ)	経験者から困難なことへの対処、心構え、ツなど実際の様子を聞き、活動に対する意識を高める	5月10日		51
	D-5 帰国後の社会還元	D-5-1	ボランティア体験と社会還元(WBT)	帰国後の隊員たちは、それぞれの協力隊体験をどのように日本社会に活かすことができるのか実践例を通して考える	-		19
		D-5-2	帰国後の進路と社会還元	JICAボランティアに期待する帰国後の「社会還元」について学ぶ	6月17日		71

E. 生活班活動

コース	単元	講座名	ねらい	実施日	公開講座	ページ
E・生活班活動	E-1	自主計画時間を使った生活班ミーティング		-		-
	E-2	野外訓練準備		5月15日		-
	E-3	野外訓練オリエンテーション		各種オリエンテーション一覧表参照 (P.4~5)		
	E-4	野外訓練	普段とは異なる生活環境下においても柔軟に適應する力と、共同作業を行う力を養う	5月16日 5月17日		57

F. 各種オリエンテーション

コース	単元	講座名	ねらい	実施日	公開講座	ページ			
F・各種オリエンテーション	F-1	式典	F-1-1	受付・入所式	4月10日		-		
			F-1-2	修了式・壮行会	SV 5月14日 JOCV 6月18日		-		
	F-2	派遣前訓練	F-2-1	訓練合意書に関する合意書の説明	-		-		
				派遣前訓練オリエンテーション	-		-		
				生活	各種オリエンテーション一覧表参照 (P.4~5)	-		-	
			F-2-2	総括	-		-		-
				講座	-		-		-
				関係先紹介	-		-		-
			F-2-3	自己紹介	赴任後の自分に待ち受ける多くの出会いを想定して、自分自身を表現する	4月12日		-	
	F-2-4	中間時オリエンテーション		-		-			
	F-2-5	修了時オリエンテーション		-		-			
	F-2-6	JOCA・育てる会オリエンテーション		-		-			
	F-3	制度・ガイドライン	F-3-1	派遣の仕組みと支援体制オリエンテーション	-		-		
			F-3-2	処遇・制度オリエンテーション	-		-		
			F-3-3	福利厚生・共済会オリエンテーション	-		-		
			F-3-4	ボランティアポータルシステムオリエンテーション	各種オリエンテーション一覧表参照 (P.4~5)	-		-	
			F-3-5	ソーシャルメディア利用/「コンプライアンス」と「ハラスメント防止」について	-		-		
	F-4	派遣関連	F-4-1	公用旅券オリエンテーション	-		-		
			F-4-2	赴任前オリエンテーション	-		-		
			F-4-3	旅行会社オリエンテーション	-		-		
			F-4-4	派遣に関する合意書の説明	-		-		
	F-5	特別行事・表敬訪問	F-5-1	特別行事オリエンテーション	-		-		
			F-5-2	特別行事	6月16日		-		
F-5-3			表敬訪問オリエンテーション	各種オリエンテーション一覧表参照 (P.4~5)	-		-		

講座資料の見方

達成目標…この講座で達成ポイントを簡潔にまとめたもの。

コース-単元-講座名称

日時、実施場所など

C-2-2 健康管理・安全管理-体力増強-体力維持講座 4月17日(木)
15:10~17:00
玄関前駐車場

達成目標 訓練期間及び任国における健康・体力の維持増進の重要性について実践を通して学ぶ

講座の内容

ウォーミングアップ…柔軟性を高め、怪我を予防する。

1. 柔軟性と敏捷性を高める運動

(1)脚、腰を伸ばす運動
(2)バランスよく脚を伸ばす運動
(3)肩、胸部を伸ばす運動
(4)肩、脚の柔軟性を保つ運動

2. 仲間と楽しく動く運動

(1)肩、腕の動きをなめらかにする運動
(2)脚、腰、背を伸ばす運動

3. ラジオ体操

ラジオ体操は13の運動で構成されている。日常生活や仕事ではあまり使われていない筋肉や関節をバランスよく動かして、柔軟性や筋力、調整力（バランス感覚やリズムミカルに身体を操作する機能、いざという時に素早く身体を反応させ、安全性を高める機能）、全身の血液循環を良くする等、頭から足先まで運動刺激を与え、全ての機能を活性化させることができる。運動一つ一つの意味、そして動作のポイント等について学ぶ。

運動のできる服装で参加すること
雨天時は「森のステージ」で実施

履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	○必修

対応能力・適性

危機管理能力

講師

氏

留意点等…講座ごとに個別の注意事項がある場合があるので、必ず確認すること。

履修要件…各対象者の○必修／△選択可／☆指定者必修／×対象外を示している。

対応能力・適性…該当講座を履修することにより、伸ばすことができる対応能力・適性を示している。

講師略歴

担当スタッフ…該当講座の責任者。不明点などはこちらまで知らせること。

[担当スタッフ:]

ストレスマネージメント に関するレポート（候補者全員対象）

提出期限
4月29日（火）
17:00 まで

●テーマ

日本とは生活環境が異なる任国で活動する上で、多くのボランティアがストレスを感じ、なかには、心身の不調をきたすボランティアもいます。

ストレスに対する受け止め方には個人差がありますが、これからの任国での生活や活動に向けて、自分自身と向き合い、自分なりのストレス対策を実践することが重要となります。

これまでの生活や自分をとりまく人間関係において、自分がどのような時にストレスを感じやすいか、どのように乗り越えてきたかを振り返り、自分自身のストレス対処法などをレポートしてください。

●書式

- ・ 所定用紙（手書き）を使用する。
- ・ 記入は必ず黒インク・ボールペンを使用する（鉛筆は不可）。
- ・ 修正液、修正テープの使用は可。

●用紙

- ・ 用紙は4月22日（火）の班会議で配布する。

●提出方法

- ・ 4月29日（火）予防接種時間、講堂内に回収箱を設置するので提出してください。

●レポートの取り扱いについて

- ・ 既往歴があっても申告せず、現地で想像以上にストレスがかかり病気が再発し、帰国するケースも多いことから、正直に記載願います。
- ・ ストレスマネージメントレポートで過去の既往歴について記載があった場合、JICAが派遣の可否について再検討する場合があります。

[担当スタッフ:診療室スタッフ]

派遣前訓練レポート【JOCV 候補者】

提出期限
6月9日(月)
8:45まで

●テーマ

テーマ	参考講座等
<p>以下の内容を、所定の字数にまとめ、提出。</p> <p>(1) 異文化理解・適応【400～800字】 異文化適応各種講座を踏まえ、任国で迎えるであろう異文化 適応の経路、プロセスを記述。</p> <p>(2) 安全管理【①②合わせて400～800字】 以下の項目について記し、自分がどんな安全管理を心がけるか記述。 ① 任国の治安状況 ②任国の交通状況</p> <p>(3) 健康管理【①②合わせて400～800字】 以下の項目について記述。 ① 任国でかかる可能性のある病気、その予防策と対策法 ② 生活環境や活動内容から想定されるストレスについての自己対策</p> <p>(4) 国際協力／ボランティア事業【800～1200字】 国際協力やボランティア事業の理念等の講座を踏まえ、自分が目指すJICA ボランティア像を記述。</p>	<p>任国事情 異文化適応概論 所外活動 他</p> <p>海外における交通安全対策 海外における安全対策</p> <p>各種健康管理関連講座</p> <p>JICA ボランティア事業の理念と目標 国際関係と日本の国際協力 ボランティアスピリット 意見交換会 他訓練全般</p>

●書式

- ・用紙サイズ：A4 サイズ
- ・余白左側は綴じ代として2cm とる。

手書きの場合

- ・記入は必ず黒インク・ボールペンを使用（鉛筆は不可）。
- ・修正液、修正テープの使用は可。

ワープロソフト使用の場合

- ・本文フォント12 以下、行数30/頁以上。
- ・宿泊棟共有フォルダにフォームあり。

●提出方法および留意点

- ・講座「異文化適応の事例研究」(6/4(水))実施後から提出のこと。
- ・記述内容・量が不十分な場合は、スタッフより再提出を求める場合がある。

電子メールで提出の場合

- ・データ形式：Microsoft Office Word 形式
- ・データ名：【派遣予定国・氏名】
- ・メール件名：【派遣前訓練レポート 生活班・派遣予定国・氏名】
- ・アドレス：jicakjv-kouza-v@jica.go.jp に添付して送信

用紙で提出の場合

- ・スタッフルーム前、班別BOXへ提出。
- ・クリップを使用すること(ホッチキスは使用しない)。
- ・提出後、返却はしないので、各自必要に応じてコピーをとること。

クリップ位置(用紙で提出の場合)

年 月 日提出
平成 26 年度 1 次隊 派遣前訓練レポート
派遣予定国 及び 職種/指導科目 氏名
(1) 異文化理解・適応【●●字】 ：
(2) 安全管理【●●字】 ①任国の治安状況 ②任国の交通状況 ：
(3) 健康管理【●●字】 ①任国でかかる可能性のある病気、その予防策と対策法 ②生活環境や活動内容から想定されるストレスについての自己対策 ：
(4) 国際協力/ボランティア事業【●●字】 ：

左側は綴じ代にスペースをとる(2cm)

[担当スタッフ:]

講座テスト（全員対象）

下記参照

● 目的

各種講座等を通じて学んだ国際協力、JICA 事業、JICA ボランティア事業、異文化理解、安全管理、保健衛生等、JICA ボランティアとして活動するにあたり必要な知識の習得度を確認する。

- 実施日時・会場 【S V 候補者】 5/12（月） 14:10～15:00@A 会議室
【JOCV 候補者】 6/7（土） 15:10～17:00@講堂

- 出題範囲 JOCV 候補者:テーマ 1～4、SV 候補者:テーマ 3～4

テーマ	参考講座等
1. 国際協力、JICA 事業、JICA ボランティア事業（100点） <ul style="list-style-type: none">・ ボランティア事業の概要、事業理念、目標などについて・ ODA の形態、分類、構造、JICA 事業について・ JICA の人間の安全保障（概念、視点など）について・ 環境、ジェンダー、HIV/エイズ	「JICA ボランティア事業の理念と目標」「国際関係と日本の国際協力」「JICA 事業概要」など
2. 社会的多様性理解（100点） <ul style="list-style-type: none">・ 講座「異文化適応概論」「世界の宗教理解」他応用問題	「異文化適応概論」「世界の宗教理解」など
3. 安全管理（50点） <ul style="list-style-type: none">・ 安全管理（交通安全に対する意識、安全対策など）について	「海外における交通安全対策」「海外における安全対策」など
4. 保健衛生（50点） 狂犬病、経口感染症、マラリア、デング熱、破傷風 予防接種、日本人の疾病動向、生活習慣病、歯科衛生 精神衛生	「感染症」「日本人の疾病動向と健康管理」（講座）、「感染症」（資料）など

※JICA ホームページ、事前学習指示内容等も参考に、講座テストに備えること。

● その他

- ▶ 鉛筆、消しゴムを持参（マークシートを使用）。
- ▶ 各分野の点数が 60%未満の場合、分野ごとに再テストを実施する。

[担当スタッフ：]

B-5-1 活動手法-適正技術- 協力活動手法

WBTによるインターネット事前学習

達成目標

ヒト、モノ、カネが不足する開発途上国における、協力活動の基本姿勢や活動手法の考え方を学ぶ

📖 講座の内容

2部構成。音声と映像を視聴し学習する。

第1部

隊員の活動現場に即した活動とは何か、どのような協力手法が求められるのか、西アフリカで活動した栄養士隊員の事例を基に考える。

第2部

国際協力の現場において、現地の社会環境をよく見極めることの必要性、重要性について南部アフリカの複数の国々で実施された簡易コン口の普及活動の事例を比較しながら考える。

D-2-2 社会的多様性理解・活用力-JICA ボランティア基礎講座- 戦後日本の国際協力の歩み

WBTによるインターネット事前学習

達成目標

戦争で荒廃した日本が様々な国から支援を得ながら復興していく過程と、その後日本が被援助国から援助国の立場になっていく経緯と歴史を学ぶ

📖 講座の内容

3部構成。それぞれの音声と画像を学習した後、各々の主要な事項を記した年表データで詳細を学習する。また、重要な事項についての参考文献やインターネットのリンクを活用し個別に理解を深める。

第1章 戦後焦土からの「再出発期の歴史について

第2章 援助国への転換「成長期」の歴史について

第3章 援助大国への「飛躍期」～量から質世界一への「模索時期」について

達成目標

青年海外協力隊がどのような過程を経て創設され今日に至っているのかを理解し、協力隊の特性を踏まえた意義と理念について考える

📖 講座の内容

本編 4 章と別章の 5 部構成。音声と画像と動画を視聴して学習する。

- 第 1 章 協力隊が創設されるまでについて
- 第 2 章 草創期の協力隊について
- 第 3 章 拡大期の協力隊について
- 第 4 章 変革期の協力隊について
- 別章 帰国隊員の活動について

達成目標

HIV/AIDS に関する基礎知識と予防啓発活動を学ぶ

📖 講座の内容

1. どうなる、どうする、身近なエイズ

～あなたの赴任国と HIV/AIDS～

「HIV/エイズ」は、性という全ての人に関わる行動に深く関与しており、また、差別・偏見の問題があるため、感染症対策としてだけではなく、セクターを越えた包括的な取り組み強化と全ての人々に正しい理解が求められている。本教材では、HIV/エイズについて正しく理解し、今後の活動に役立てることが目的。理解度テストあり。

2. アーティストになったエイズウィルス感染者

ニカラグアに青少年活動の職種で派遣された協力隊員が、エイズの予防啓発活動と HIV 感染者への精神的支援のために、エイズをテーマにした演劇活動をしている映像を収録。HIV/エイズ対策活動紹介、教育のための啓発演劇、青年海外協力隊の青少年活動体験談、演劇という手法を通して、市民や社会的弱者への精神的な自己の力を引き出すサポートを行う際等に活用することが目的。

達成目標

ジェンダーに係る基礎知識を身につけ、ボランティア活動への活かし方を学ぶ

 講座の内容

1. 30分でわかる！開発に役立つジェンダー入門

ジェンダーの基本的な考え方や JICA の方針、事例までの内容をクイズやアニメーションを交えて分かりやすくまとめてある。インターネット環境でなくとも学習の可能な CD-ROM 教材。

2. ジェンダー主流化への取り組みの好例

～イエメン女子教育～

初等教育就学率のジェンダー格差が特に大きい場合、女子教育を推進するためにはどのようなアプローチが可能で、どのような配慮が必要かを、本教材は中東のイエメンで実施された「タイズ州地域女子教育向上計画」を事例として、教育分野におけるジェンダー主流化の取り組みを紹介。

3. ジェンダー主流化への取り組みの好例

～タンザニア KATC2～

「タンザニアキリマンジャロ農業技術者訓練センター計画フェーズ2」におけるジェンダー主流化のための取り組みを紹介。具体例として、女性の参加を促すために研修参加者の男女比を半々に固定し、積極的な女性の参加を求めたこと、改良かまどや家計管理など、女性が関心を持ちやすい研修コースを設けたことなどのポイントがわかりやすく解説されており、他のプロジェクトにおいてジェンダー配慮の視点を取り入れる際の参考として活用することが可能。

達成目標

環境や社会に配慮した開発のあり方について学ぶ

 講座の内容

1. やってみよう！環境教育－自然との調和を目指して 環境教育を実践する上での重要なポイントをわかりやすくまとめている。“プログラムの基本”では、すべての活動の基本となる Plan-do-check-act サイクルをアニメで学び、ビジターセンター、指導者養成研修の事例を映像で学ぶことができる。
2. 日本の 3R 推進の経験～試行錯誤して見えてきた循環型社会～
この教材の目的は、JICA による技術協力事業の一環として、開発途上国における廃棄物の 3R(Reduce(排出抑制)、Reuse(再利用)、Recycle(再生利用))に関する人材育成に活用することが目的。日本の取り組みと開発途上国のケーススタディを紹介し、3R の共通理解、啓発普及用の映像型教材。

達成目標

派遣国の人々が信仰する宗教の基礎知識を身に付け、事例を通じて宗教に対する理解を深める

講座の内容

海外で活動する上で、その他の宗教を理解することは極めて重要である。本講座では、派遣国の人々が信仰する主だった宗教について基本的な知識を身に付けるとともに、実際にボランティアが体験した事例を通して対する理解を深める。

第1部

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教等の一神教、ヒンドゥー教、仏教、シーク教のインド起源の宗教、儒教、道教、一部の仏教等中国起源の宗教、神道、日本で根付いた仏教等の日本の宗教、その他の宗教に分け、それぞれの宗教の概要を学習する。

第2部

世界の宗教分布図から各宗教の基本情報を閲覧し、学習する。

第3部

協力隊員の派遣国地図からそれぞれの宗教事情を閲覧し、国別の宗教事情に対する理解を深める。

達成目標

帰国後の隊員たちは、それぞれの協力隊体験をどのように日本社会に活かすことができるのか実践例を通して考える

交流の内容

2部構成。音声、画像、動画で学習する。

第1章 身近なボランティア経験の活かし方について

第2章 実践例の紹介を通じた具体的な社会貢献活動について

達成目標

①訓練の心構え ②任国での活動のイメージ作りと
赴任にあたっての心構え

📖 講座の内容

入所時には「70 日間 (SV35 日間) の訓練を JICA ボランティア候補者としてどのような心構えで過ごすべきか」を、修了時には、JICA ボランティアとして任地での具体的な活動がイメージできるような内容となっている。

1. 所長講話① (入所時 4/11 8:45~9:15)

「訓練の心構え」

- (1)訓練の目的や訓練所の機能を理解
- (2)訓練の心構え

2. 所長講話② (修了時 SV 候補者:5/14、JOCV 候補者:6/18)

※実施時間・場所は別途修了時日程表で確認のこと

「JICA ボランティア活動の実践」

- (1)途上国の特徴を理解
- (2)課題対応の実践をイメージ
- (3)赴任にあたっての心構え

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	

☑ 対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化 (他者) 理解・適応力

👤 講師

所長
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

[担当スタッフ:]

達成目標

検査結果を通じ、自身の性格・行動特性を知り、異文化適応に役立てる

📖 検査の内容

ボランティア自身の性格・行動特性を知ることができるので、派遣期間において異文化の中で困難に直面した場合、その解決の一助となる。

本検査の所要時間は、60分程度。成人を対象とした本検査は公的機関でも多く採用されており、信頼性が高い。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

対応能力・適性

- 異文化（他者）理解・適応力

[担当スタッフ：]

達成目標

2年間の活動イメージを認識し、ボランティアに求められる能力・適性の自己評価ができるようになる

 講座の内容


派遣開始から派遣終了まで、2年間の活動が一般的にどのような流れとなっているのか、時系列でイメージする。その上で、現地で高いパフォーマンスをあげるために必要なボランティアの能力について学び、自分の強み・弱みを把握する。

1. 派遣期間中の流れ

- ・ 赴任直後から活動終了時までの流れ、活動イメージを時系列に沿って紹介

2. ボランティアに求められる対応能力・適性


- ・ 活動を円滑に進めるために必要なボランティアの対応能力・適性について

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	△選択可

 対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化(他者)理解・適応力

 講師

訓練総括

[担当スタッフ:]

達成目標

目標管理の考え方、目標設定と進捗管理、振り返りの実施方法、目標管理シートの意味を理解する

📖 講座の内容

任地で効果的なボランティア活動を行うには、目標を設定し、その目標を達成するように活動する必要がある。目標設定と進捗管理、ふりかえりを派遣前訓練での実践を通して身につけるために必要な知識と手法を学ぶ。それを踏まえ、派遣前訓練用の目標管理シートを作成する。

1. 目標の設定方法 (1)目標設定が必要な理由
(2)組織・チームの目標と個人目標の連動
(3)目標の設定方法
2. 演習「任地で達成したい目標と自分のやるべきことを整理する」

ワークシート「マイビジョンシート」をつかって、実際に自分のビジョンを描いてみる。ビジョンを描き、それを実現するためにどんな行動を起こさなくてはいけないか、自分が何をしなくてはいけないか、を具体的に考えてみる。シート記入後に、隣の人と共有する。

3. 目標達成のための管理手法 (1)目標と現状の違いから課題抽出する (2)課題解決への取り組み方
(3)PDCA サイクルの必要性
(4)効果的なふりかえりの方法
4. 派遣前訓練の目標管理シート作成
自分なりに気づいたこと、わからないことを途中で共有する時間を設ける。

目標管理シートが時間内に完成しない場合は、自主計画時間を使って完成させ、個人面談当日に持参、班担当に提出すること。目標管理シートを基に個人面談が行われる。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	△選択可

☑ 対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力

👤 講師

氏

[担当スタッフ:]

達成目標

活動を実施する際の計画策定、実施プロセスを理解し、活動実施における自分の強みと課題も把握する

📖 講座の内容

ボランティア活動は計画に基づいて、カウンターパートや関係者と一緒に活動をする。効果的な活動を行うために必要な計画策定・チーム運営・実施管理について学ぶ。また、任地で効果的な活動を行うために、派遣前訓練期間に学ぶべきこと、そのために取り組むべきことを考え、活動計画を立案する。

1. 目標を実現する活動のポイント
計画に基づき、チームとして活動する
2. 効果的な活動の進め方
 - (1)目標達成につながる活動計画の作成方法
 - (2)活動内容の洗い出しと体系化
 - (3)スケジュール作成と進捗管理
 - (4)チーム運営とリーダーシップ
 - (5)情報共有の大切さと行い方
3. 派遣前訓練における活動計画の作成 任地での活動に向けて、自分の課題を乗り越えるための活動計画を作成する
4. 派遣前訓練における活動管理の実践

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	△選択可

☑ 対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力

👤 講師

氏

[担当スタッフ:]

達成目標

JOCV：目標管理面談により自分の強みや弱みを把握する
SV：自身の派遣前訓練への取組状況を確認する

 面談の内容


【JOCV】目標管理面談

目標管理シートを使った班担当スタッフとの面談を通じ、主観的な自己分析と客観的な自己分析でどのような違いがあるのかを把握する。また、訓練が終わった後にいかなる能力、資質をどんな研鑽を続け、伸ばしていくかについても話し合う。面談は入所時、中間時、修了時の計3回実施する。

中間時と修了時の面談では、達成した成果の根拠を留意すること。

【SV】個人面談

ボランティア事業への参加の動機、派遣前訓練への取り組み状況、合同合宿制訓練の感想、睡眠時間等について報告する。入所時、修了時の計2回実施する。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	

 対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化（他者）理解・適応力
- 危機管理能力

[担当：各班担当スタッフ]

達成目標

訓練期間及び任国における健康・体力の維持
増進の重要性について実践を通して学ぶ

📖 講座の内容

ウォーミングアップをして体を温め、筋肉や関節の柔軟性を高め、怪我や傷害を防ぎ、スポーツや運動を楽しむ。

1. 柔軟性と敏捷性を高める運動

(1)脚、腰を伸ばす運動 (2)バランスよく脚を伸ばす運動 (3)肩、胸部を伸ばす運動 (4)肩、脚の柔軟性を保つ運動等

2. 仲間と楽しく動く運動

(1)肩、腕の動きをなめらかにする運動
(2)脚、腰、背を伸ばす運動

3. ラジオ体操

ラジオ体操は 13 の運動で構成されている。日常生活や仕事ではあまり使われていない筋肉や関節をバランスよく動かして、柔軟性や筋力、調整力（バランス感覚やリズムカルに身体を操作する機能、いざという時に素早く身体を反応させ、安全性を高める機能）、全身の血液循環を良くする等、頭から足先まで運動刺激を与え、全ての機能を活性化させることができる。運動一つ一つの意味、そして動作のポイント等について学ぶ。

運動のできる服装で参加すること
雨天時は「森のステージ」で実施

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	

対応能力・適性

危機管理能力

👤 講師

氏

[担当スタッフ：]

達成目標

日本や日本人の特徴について調べ、まとめることにより、自文化についての理解を深める

📖 講座の内容

- ・本研究は、生活班の中でグループ(6~7名)をつくり、訓練期間を通して自主計画時間等に研究し、最終発表を行うものである。
 - ・本研究を通じて、日本(人)の文化や特性について様々な考え方や捉え方があることを知り、それによって①自文化理解を深める、②自文化との対比により、任国理解を深める、③任国で日本(人)について尋ねられた時の回答の参考とする、こととする。
 - ・研究を進めるにあたっては、「活動手法」コースで学んだ手法をできるだけ活用する。
 - ・長期的には、日本や日本人について知ること、帰国後、ボランティア経験をどう社会に還元していくかを考える際の一助とする。
- * 訓練中という様々な制限がある中で、(任国での活動同様)自分たちができる範囲で研究活動を行うこと。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化（他者）理解・適応力

※講師は配置しないが、生活班担当がアドバイザーとなる。

[担当スタッフ：]

目 研究の流れ

日時		実施内容
4月18日(金)	15:10~16:00	【日本(人)研究】オリエンテーション(講堂) グループ分け、リーダー決め
4月22日(火)	19:40~20:30	生活班ミーティング グループ毎にテーマ、研究計画について話し合い
4月24日(木)	8:45	「日本(人)研究企画書」提出締切 (スタッフルーム内、回収箱)
5月6日(火)	19:40~20:30	生活班ミーティング グループ毎に研究を進める
5月20日(火)	19:40~20:30	生活班ミーティング 発表方法・内容の調整
5月21日(水)	15:10~16:00	【日本(人)研究】発表方法の最終決定、機材確認
5月23日(金)	8:45	発表データ 提出締切(共有フォルダ)
5月26日(月)	13:00~17:00	【日本(人)研究】課題発表 ※詳細は「課題発表」の頁を参照
5月27日(火)	19:40~20:30	生活班ミーティング 振り返り

目 研究テーマ(例)

1) 大きなテーマ

「なぜ、日本人は勤勉か?」、「なぜ、日本人はあいまいな返事をするのか?」、「なぜ、日本は戦後復興を果たせたのか?」などの問いを設定し、その理由を探る。

2) 具体的なテーマ

「帰国子女が日本では英語をわざと下手な発音でしゃべるのはなぜか」、「なぜ、電車が時刻通りに動くのか」、「なぜ、日本はガラパゴス化するのか」、「なぜ、日本人は相手と挨拶する時にペコペコ頭をさげるのか」、「なぜ、日本のポップカルチャーが外国で人気があるのか」などの疑問から、そのバックグラウンドを探る。

3) 日本を代表するもの・こと

それがなぜ日本を代表するものなのか、他国にはない日本独特のものなのかを検討。

4) 外国からみた、日本(人)の変なところ、日本(人)の賞賛されるところを題材に、その理由や背景を検討する。

5) ある日本人研究者のおもしろい視点や分析を紹介する。

6) ある分野(「農業」、「福祉」、「高齢者介護」、「地方と都市」等)での日本の特徴を検討し、所外活動等で現場の意見を踏まえて、日本の現状として発表する。

7) ある分野(「スポーツ」、「医療」、「保守操作」等)での日本の特徴を調査し、日本の強みと弱みを発表する。

達成目標

任国ごとに赴任する国について調べ、まとめることにより、派遣される国についての理解を深める

📖 講座の内容

①5/10(土)に実施される講座「任国事情」で講師に質問すべきポイントを考える。

*「質問書」提出締切 4/24(木) 8:45

②過去のボランティアのレポートや各種調査報告書、図書資料、JICA や外務省のホームページ等を参考に、それぞれの派遣国の任国事情を研究し、まとめる。

*「任国研究レポート」提出締切 4/24(木) 8:45
A4 1~2枚程度。書式自由。

【研究事項】

- ・任国の基本情報：人口、政治体制、民族、言語、宗教、教育、気候等
- ・任国の歴史
- ・任国の経済：経済概況（GNI、経済成長率等）、主要産業、貿易等
- ・任国の文化：社会習慣、タブー等
- ・援助状況：日本の援助実績、他国からの援助状況

【参考 URL】

外務省：<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>

JICA（各国における取り組み）：

<http://www.jica.go.jp/regions/index.html>

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	△選択可

☑ 対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化（他者）理解・適応力

[担当スタッフ：]

達成目標

訓練候補者との交流を深めながら
体力向上の一助とする

📖 講座の内容

体力維持増進を図り、協調性、団結力を醸成する。ウォーミングアップをして体を温め、筋肉や関節の柔軟性を高め、怪我や傷害を防ぎ、スポーツや運動を楽しむ。

1. 場 所：訓練所内（グラウンド／体育館等）
2. 実施種目(例)：大縄跳び/二人三脚/ドッジボール等
3. 当日の流れ：①開会式、準備運動
②競技開始
③閉会式
④清掃、後片付け
4. 組み合わせ、対戦方法：詳細は別途連絡
5. 競技運営：競技の運営、開・閉会式の進行は、体育委員が中心になって行う。
(1)開会式：開会宣言、諸注意、選手宣誓、準備運動 (2) 競 技：班別対抗等 (3)閉会式：整理運動、成績発表・表彰、講評、閉会宣言 (4)表 彰：優勝、2、3位チームを表彰

- ・運動のできる服装で参加すること。
- ・全員で協力し合いフェアプレーに徹するとともに、ケガ等の事故に遭わないよう注意する。
- ・用具は、試合終了後、元の位置に責任を持って戻し、体育委員を中心に全員で清掃、後片付けを行う。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	

対応能力・適性

危機管理能力

👤 進行役

各生活班体育委員

[担当スタッフ：]

C-2-1 健康管理・安全管理-体力増強-
体力テスト①②

①4月21日(月)
②6月10日(火)
15:10~17:00

達成目標

入所時の体力を把握し、訓練期間中に維持・増強し、変化を確認することにより任国での体力維持・管理に役立てる

📖 講座の内容

体力テストでは、入所時の自分の体力を把握した上で、訓練中に各自のレベルに合わせた体力の維持・増強を実施し、修了時に変化を確認することで、任国においても健康・体力の維持ができるよう役立てる。

1. 日時

(1)体力テスト①(入所時)

4月21日(月) 15:10-17:00 場所:各指定場所

(2)体力テスト②(修了時)

6月10日(火) 15:10-17:00 場所:各指定場所

2. 体力テスト項目

(1)握力 (2)上体起

こし (3)長座体前

屈 (4)反復横とび

(5)20m シャトルラン(往復持久走)

(6)立ち幅跳び

運動のできる服装で参加すること。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

対応能力・適性

危機管理能力

👤 進行役

各生活班体育委員

[担当スタッフ:]

達成目標

JICA ボランティア事業を理解し、ボランティアに必要な知識と心構えを養う

講座の内容

WBT「青年海外協力隊の歩みと理念」の事前学習を前提に、JICA ボランティア事業の指針や他国のボランティア事業についての理解を深め、ボランティアに必要な知識と心構えを養う。

1. JICA のボランティア事業とは

- (1) JOCV/SV はボランティアか
- (2) 国が実施するボランティア事業とは
- (3) 国際ボランティアの4つの条件
- (4) 国の支援に対する考え方

2. ボランティアによる協力の意義

- (1) 日本の協力の特徴
- (2) ボランティアに期待される役割（新 JICA におけるボランティア事業）

3. 協力活動の実際（現地に学ぶ）

4. 最後に

- (1) 派遣前訓練は、お見合いの70日間（SV 35日間）
- (2) JICA ボランティア事業を取り巻く情勢と今後の方向性
- (3) ボランティアへの期待

履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	

☑ 対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化（他者）理解・適応力

講師

局長
青年海外協力隊事務局

[担当スタッフ:]

達成目標

任国における口腔管理の重要性と
歯科疾患予防の知識を身につける

📖 講座の内容

- ◆ 虫歯と予防
- ◆ 歯周病と治療
- ◆ ブラッシング
- ◆ 親知らず、口内炎、顎関節症等

「かむ」ことは生活習慣病をも予防する

よくかむことは、胃腸での消化・吸収を促進します。さらに、唾液の分泌が高まり、その中に含まれる酵素の働きで、虫歯や歯周病の原因となる歯垢が歯につきにくくなります。また、よくかんでゆっくり食事を摂ると満腹感が得られ、肥満の予防、ひいては生活習慣病の予防にも繋がります。よくかめる健康な歯を長く維持するために、日頃から口腔ケアに努めましょう。

- ◆ 持参物
日常使用している歯ブラシ
(ブラッシングの実践をする)

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	

対応能力・適性

危機管理能力

👤 講師略歴

氏

[担当スタッフ：診療室スタッフ]

達成目標

異文化における関係づくりのために、コミュニケーションに求められることを理解し、実践のコツをつかむ

📖 講座の内容

任地での関係づくりにはコミュニケーションが大切である。しかし、異文化コミュニケーションでは、意志疎通がうまくいかず、誤解やトラブルが生じることも少なくない。自分と相手の「当たり前」が異なる状況でコミュニケーションを行う方法を理解し、演習を通して実践のコツをつかむ。

1. コミュニケーションの前提 (1)「当たり前」
「善意」は人によって異なる (2)「違う」から相手に関心をもてる (3)コンテキストの違いを知る
2. 演習「コンセプトを分かち合う」
抽象的なコンセプトから連想する言葉をあげてもらい、(連想ゲームの要領で)他のグループ・メンバーがその言葉を当てる。そのうえで、わかりやすかったもの、わかりづらかったものについて、なぜわかりやすさに違いが生じるか、話し合う。
3. コミュニケーションのスキル
(1)相手を受け容れる
(2)アクティブに聴く
(3)違うこと、わからないことを明確にする
(4)「なぜ？」と問いかける
4. 演習「言葉の背景の違いを理解し合う」
候補者も多様な背景、価値観、思いを持っている。同じ言葉に対しても、異なるイメージを持っている。では、その違いはどこから来ているのか？ 2人1組となり、「青年海外協力隊」に対して持っていたイメージの異同について、なぜそう考えたのか、考えを深めるために話し合う。

学んだスキルを課題発表等で実際に使用するという
ことを意識しながら講義を受けること。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	△選択可

☑ 対応能力・適性

- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力

👤 講師

氏

[担当スタッフ:]

C-4-2 健康管理・安全管理-安全管理-
海外における交通安全対策
C-4-3、C-4-4 健康管理・安全管理-安全管理-
海外における交通安全対策
(自動二輪、不整地走行練習)

4月24日(月)
14:10~16:00
講堂
※バイク貸与予定者
は引き続き
16:10~17:00

達成目標

任国における交通事故防止に必要な安全意識の向上を図るとともに、日本での安全神話意識を払拭させる

講座の内容

JICA ボランティア派遣国の交通事情と交通事故の事例を解説と共に紹介し、日本と開発途上国の交通事情の相違を確認し、派遣国における交通事故防止に必要な安全意識の向上を図る。

C-4-2

1. 交通実態の把握

- (1) 全世界における JICA 関係者の交通事故発生状況
- (2) JICA 関係者の交通死亡事故事例
- (3) 安全確保が難しい派遣国の交通事情と交通事故事例

2. 歩行中の交通事故防止

- (1) 歩行中の交通事故事例
- (2) 斜め横断、車の陰からの横断、背面歩行の危険
- (3) 歩行中の交通事故防止対策

3. 自転車乗用中の交通事故防止

- (1) 自転車乗用中の交通事故事例
- (2) 自転車乗用中の交通事故防止対策

4. 同乗中の交通事故防止

- (1) 同乗中の交通事故事例
- (2) 乗車する車・ドライバー選択のポイント

5. 運転中の交通事故防止

- (1) 運転中の交通事故事例
- (2) 安全運転のポイント

6. 交通事故当事者の措置

- (1) 原則は現場保存、連絡先は JICA 事務所
- (2) 安易に書類への署名はしない

C-4-3

6. バイクを安全に乗るために (16:10~17:00)

※ バイク貸与予定者のみ

C-4-4

7. 自動二輪 (バイク) 不整地走行練習 (課外)

※自動二輪 (バイク) 貸与予定者の中で対象者のみ

履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	

対応能力・適性

危機管理能力

講師略歴

氏

JICA 総務部 安全管理室
交通安全対策アドバイザー

技術顧問

協力隊技術顧問

[担当スタッフ:]

達成目標

任国の感染症についての知識を深め、
予防と罹患時の対処法を身につける

 講座の内容

感染症の基礎知識


- ◆ 任国での感染症
- ◆ 生活上の基本的な注意点

各感染症

- ◆ マラリア、デング熱など各疾患
- ◆ 症状と対処法
- ◆ 予防接種

性感染症


- ◆ 性感染症とは
- ◆ HIV/AIDSなどの各疾患
- ◆ 性感染からの予防方法

 履修要件

対象者	要件
JOCV	<input type="radio"/> 必修
SV	

対応能力・適性

危機管理能力

 講師略歴

氏

JICA 国際協力人材部 健康
管理課 感染症顧問医


[担当スタッフ：診療室スタッフ]

達成目標

針刺し事故後の HIV 感染予防対策と対処法を学ぶ

 講座の内容


- ◆ 針刺し事故の予防
- ◆ 針刺し事故発生状況
- ◆ 針刺し事故後の対応（ガイドラインについて）

 履修要件

対象者	要件
JOCV	医療関係職種 ○必修
SV	その他 △選択可

対応能力・適性

危機管理能力

 講師略歴

氏

JICA 国際協力人材部 健康
管理課 感染症顧問医

* 医療関係職種以外の方の受講希望は、2F 掲示板の
「講座希望表」に記入。
締め切り：4月22日（火）13:00

[担当スタッフ：診療室スタッフ]

達成目標

突発的な事故・負傷に対する応急処置の方法を学び、
事故防止思想と実践で役立つ技術を身につける

📖 講座の内容

◆救急法概論（全体講義）

◆止血法（実技）

① 直接圧迫法

患部を直接圧迫する止血法。効果的な方法と材料、注意点について学ぶ。

② 間接圧迫法（指圧止血法）

動脈を押さえることによって血流を止める止血法。どの部位をどのように押さえると効果的か、実践しながら学ぶ。

◆三角巾の使用法（実技） 三角巾固定法とそのポイント、三角巾の多様な使い方などを学ぶ。

◆心肺蘇生法・AED 利用法（実技）

① 心肺蘇生人形を用いた心肺蘇生法。

② AED（自動体外式除細動器）の使用法。

運動着等の動きやすい服装で受講すること。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	

対応能力・適性

危機管理能力

👤 講師略歴

氏

[担当スタッフ：]

達成目標

自分の知恵や経験、考えをまとめ、発表するためのプレゼンテーションのポイントを理解する

📖 講座の内容

任地での活動では、情報共有や報告など、プレゼンテーションを行う機会が多い。しかし、自分の言いたいことを言うだけがプレゼンテーションではない。コミュニケーションとしての「伝わる」プレゼンテーションのポイント、実施方法を学ぶ。

1. 伝わるプレゼンテーションとは？
 - (1) メッセージを明確にする
 - (2) エピソードを活かす
 - (3) 状況に最もあった伝え方をする
 - (4) 聞き手のことを考える
2. プレゼンテーションの作り方
 - (1) 対象者を考える
 - (2) 構成を考える
 - (3) 素材をあげ、整理する
 - (4) 資料をまとめる
3. プレゼンテーションの実施のコツ
 - (1) 実施時の心構え
 - (2) 実施時の話し方、視線、態度、表情
4. 演習「自分の「得意なこと・できること」の魅力を伝える」

学んだスキルを課題発表等で実際に使用するというこ
とを意識しながら講義を受けること。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	△選択可

☑ 対応能力・適性

- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力

👤 講師

氏

[担当スタッフ:]

達成目標

多様な人が参加しやすい場づくりと、ファシリテーションの実践を通して、ポイントを理解する

📖 講座の内容

ファシリテーターとは、ワークショップやミーティングなどの場で、参加者から意見が出るように工夫したり、合意形成をする手伝いをしたりする人のことである。ファシリテーションは任地の活動で必要なだけでなく、社会人としての必要なスキルであるため、考え方を学び、実践することで派遣前訓練のグループ活動や任地での活動、帰国後に活せるようにする。

1. 場づくりとファシリテーターの役割 (1)多様な人が参加できる場づくりの必要性 (2)ファシリテーターの役割
2. ファシリテーションの基礎 (1)ファシリテーションスキル及び基本的なコツ (2)議論の構成を考える
3. 対立している時の場づくり
(1)対立のポイントを考える
(2)合意形成を進める方法
4. 演習①
「派遣前訓練でファシリテーションが必要となるのは？」
演習②
「生活班活動をもっと効果的にするためには？」

学んだスキルを課題発表等で実際に使用するという
ことを意識しながら講義を受けること。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	△選択可

☑ 対応能力・適性

- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力

👤 講師

氏

[担当スタッフ:]

達成目標

我が国のODAの現状とJICA事業を理解し、ODAにおけるボランティア事業の位置付けを理解する

📖 講座の内容

日本のODAとJICA事業の概要について学ぶ。

1. ODAにおけるJICA

- (1) JICAの組織（組織図、協力対象国数、事務所数）
- (2) JICAの業務
- (3) JICA予算の推移
- (4) JICAの技術協力の地域・分野配分実績

2. JICAの取組方針

- (1) 地域別・国別アプローチ
- (2) 国別事業実施方針
- (3) 要請から案件検討までの流れ
- (4) JICAの援助形態
- (5) ボランティア事業のプログラム化

3. 「人間の安全保障」とボランティア活動

- (1) わが国ODA政策における「人間の安全保障」の理解
- (2) 基本方針と4つの協力実践方針
- (3) MDGs（ミレニアム開発目標）

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	

対応能力・適性

青年海外協力隊精神の理解
および実践力

👤 講師

青年海外協力隊事務局

[担当スタッフ:]

達成目標

世界経済の動きを疑似体験し、そこに存在する諸問題について考える

📖 講座の内容

参加型ゲームを通して世界経済の動きを疑似体験し、そこに存在する諸問題について考える。主な狙いは次の3つである。

1. 貿易を中心とした世界経済の基本的な仕組みについて理解する。
2. 自由貿易や経済のグローバル化が引き起こす様々な問題に気づく。
3. 地域間格差や環境問題の解決に向けて、国際協力や私たち一人ひとりの行動のあり方について考える。

【講座の流れ】

- ・ 貿易ゲーム
- ・ 振り返り…ゲームを体験して気付いたこと、考えたことなどを意見交換し、互いの理解を深める。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	△選択可

☑ 対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化（他者）理解・適応力

👤 進行役

訓練所スタッフ

🙏 お願い

- 貿易ゲームの経験がある方は内容を明かさな
いこと

[担当スタッフ:]

達成目標

女性が罹りやすい病気の基礎知識と自己管理のための知識を身につける

📖 講座の内容

- ◆ 婦人科疾患の基礎
 - ・ 月経について／生殖器の解剖
 - ・ 基礎体温及び基礎体温のつけ方
 - ・ 清潔と不潔の概念
- ◆ 婦人科疾患の各論（赴任して多い婦人科疾患）
- ◆ 婦人科受診のノウハウ
- ◆ 更年期とは／更年期障害の症状
- ◆ 婦人科癌疾患

男性にも意義ある講座

保健衛生講座は自己健康管理の知識の習得を目的としているため、婦人科講座については、そのねらいと内容から、男性は必須受講としていません。しかしながら、女性のパートナーとしての男性の役割を考えると、男性にとっても意義のある講座です。

*SV(男女とも)およびJOCV 男性の受講の希望は、
2F 掲示板の「講座希望表」に記入。
締め切り：4月29日(火) 13:00

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	女性 ○必修
	男性 △選択可
SV	△選択可

対応能力・適性

危機管理能力

👤 講師略歴

氏


[担当スタッフ：診療室スタッフ]

達成目標

任国で心身ともに健康で過ごすことの重要性を理解し、任国でのストレス対処法を学ぶ

 講座の内容


- ◆ メンタルヘルスに関する基礎知識
- ◆ 予防と早期発見
- ◆ ストレスに対処するには
- ◆ 周囲との関係
- ◆ 任国とストレス
- ◆ うつ病について

 履修要件

対象者	要件
JOCV	<input type="radio"/> 必修
SV	

対応能力・適性

危機管理能力

 講師略歴

氏

[担当スタッフ：診療室スタッフ]

達成目標

JICA ボランティアに参加した動機を再確認し、
ボランティア精神とは何かを考える

📖 講座の内容

2年間の協力活動のベースとなる、“ボランティアスピリット”について改めて考える機会とする。

JICA ボランティアに参加した動機を各自が再確認し、訓練に取り組む意識を高める。また JICA ボランティアとして途上国で活動する際に求められるもの、立場、取り組み姿勢を、一般的な国内でのボランティア活動との比較などを通じて、候補者同士で意見交換し理解を深める。

【テーマ】

- ① JICA ボランティアに参加したきっかけ、動機について発表する。
- ② 一般的に考えられる「ボランティア活動」について、候補者同士の意見交換を行う。その議論を踏まえ、「JICA ボランティア」とは何かについて考える。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	<input type="radio"/> 必修
SV	

対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力

👤 進行役

訓練所スタッフ

[担当スタッフ:]

達成目標

任国及びより広い地域における JICA の協力を踏まえた上で、その中での自身のボランティア派遣の位置付け及び方向性を捉える

 講座の内容

JICA ボランティアが、「どこで」(地域、国、任地)、「何をするか」(課題、分野、職種)という整理のうち、主に前者の切り口で、ボランティア派遣事業を俯瞰する講義である。

各人の派遣国及び当該地域における JICA の協力、ならびにその一つを成すボランティア派遣の基本的な考え方を理解した上で、各人が派遣される案件の位置づけ、及びボランティアの担う役割を大所高所の視点で捉える機会とする。

併せて、地域の共通課題に対する取組み(在外研修等)や、各国で実施されている分野課題別の取組み(分科会活動等)等、ボランティア活動に役立つ情報を提供する。


なお、JICA 事業全般については、別途行う「JICA 事業概要」で触れるため、本講義での説明は最低限にとどめる。

また、各任国の歴史・経済・文化・援助状況や現地の生活の様子等の情報については「任国研究」にて候補者自身で調べるとともに、別途行う「任国事情」で提供されるため、本講義では扱わない。

1. 任国における JICA 事業、及びボランティア派遣
 - (1) JICA の協力の基本的な考え方
(重点分野、開発課題等)
 - (2) ボランティア派遣の基本的な考え方
(派遣の現状、これまでの成果、今後の派遣計画等)
 - (3) 他の JICA 事業とボランティア事業の関連性
(帰国研修員との協働等)
 - (4) グループ型派遣の説明
(グループ型派遣の候補者がいる場合)
2. ボランティア活動に役立つ情報
 - (1) 地域共通的な取組みの事例
(在外研修等)
 - (2) 分野課題別の取組み事例
(分科会、技術顧問の活用、他機関との連携等)

【配布資料】

- ・「国別ボランティア事業概要」、「ボランティア配置図・リスト」、「前任者情報」、その他の資料(必要に応じ)

 履修要件

対象者	要件
JOCV	<input type="radio"/> 必修
SV	

対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化(他者)理解・適応力

 講師

青年海外協力隊事務局
 各地域課 国担当職員

- 各自の派遣国で指定された時間以外は語学自習時間となります。

[担当スタッフ:]

達成目標

日本と派遣国の治安状況の違いを理解し、安全を確保するための基本的な心構えと具体的な方法を学ぶ

📖 講座の内容

海外での犯罪実態を知り、安全対策を学ぶ。

- 1.危機管理の重要性と JICA の安全管理
- 2.緊急事態への心構えと発生時の対応（自然災害等を含む）
- 3.テロ（特に爆弾テロ）、大衆運動等のリスク対策
- 4.誘拐被害防止対策
- 5.JICA 関係者の犯罪被害実態
- 6.住居の安全対策
- 7.屋内犯罪被害と安全対策
- 8.屋外犯罪被害と安全対策
- 9.性的犯罪被害防止対策
- 10.任国外旅行の留意点
- 11.薬物犯罪
- 12.その他

13:00~15:10 全体講義（講堂）

15:20~16:00 男女別講義

女性（講堂） 男性（森
のステージ）

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	

対応能力・適性

危機管理能力

👤 講師略歴

氏

JICA 総務部 安全管理室
安全対策アドバイザー

氏

JICA 総務部 安全管理室
安全対策アドバイザー

[担当スタッフ：]

達成目標

生活習慣病の予防と対策を学ぶ

📖 講座の内容

- ◆ 日本人の死亡原因と罹患率
 - ・死亡原因の推移
 - ・がんの部位別死亡率
- ◆ 喫煙と健康について
 - ・死亡原因と喫煙の関係
 - ・受動喫煙
- ◆ 生活習慣病と動脈硬化疾患
 - ・メタボリックシンドローム
 - ・運動療法／食事療法
- ◆ 新世代の生活習慣病
- ◆ 健康の自己管理について

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	

対応能力・適性

危機管理能力

👤 講師略歴

氏

JICA 国際協力人材部
健康管理課 内科顧問医

「メタボリックシンドローム」とは

- ① 腹部肥満（腹囲）
男性：85cm 以上
女性：90cm 以上
- ② 中性脂肪（トリグリセリド）
150mg/dl 以上
- ③ HDL(善玉)コレステロール
40mg/dl 未満
- ④ 血圧
130/85mmHg 以上
- ⑤ 空腹時血糖 110mg/dl

以上の①に加え、②以下で2つ以上当てはまれば、
あなたはメタボリックシンドロームの状態です！

[担当スタッフ：診療室スタッフ]

達成目標

ボランティアの活動、現地の生活の様子等について
ボランティア経験者から情報を得る

📖 講座の内容

任国での生活について、滞在経験のある講師から「生の情報」を聞く。講座は、基本的に JOCV 候補者、SV 候補者に分かれて実施する。事前に「質問書」をまとめ、質疑応答をしながら講義を進めていく。

任国情報の例

- (1) 日常の食生活及び外食、飲料水、入手可能な嗜好品
- (2) 衣服について（正装・仕事着・普段着・喜ばれる格好）
- (3) 任国の風習・宗教・文化・習慣
- (4) 任国での人とのつきあい
- (5) 現地の治安状況・安全対策・危機管理として具体的に
行っていること
- (6) ボランティアがよく利用する日常の交通手段・現地の
交通事情・交通機関の利用料
- (7) 郵便、通信事情
- (8) 日用品等生活物資、家電製品等
- (9) その他留意事項（生活環境関連）
- (10) 語学について（上達方法、努力したこと、学校・教材等）

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	

☑ 対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- 異文化（他者）理解・適応力
- 危機管理能力

👤 講師

JICA ボランティア経験者、
調整員等在外事務所経験者

[担当スタッフ：]

📅 当日までの流れ・アンケート提出について

日 時	実施内容
4月17日(木) 12:30~12:50	国別リーダー会議（講堂）
4月24日(木) 8:45	「任国事情質問書」提出締切
	「任国研究レポート」提出締切
5月10日(土) 13:00~15:10	「任国事情」当日
5月12日(月) 8:45	「アンケート」提出締切

達成目標

任国における職種分野別の技術水準や円滑な協力活動を行うための情報収集をする

📖 講座の内容

職種分野別のグループに分かれ、JICA ボランティア経験者から開発途上国での協力活動を円滑に行うための情報を収集する。

※グループ別の名簿や指定場所等は後日掲示するので、必ず確認すること。グループ変更を希望する場合は、担当スタッフへ伝えること。

📅 当日までの流れ・アンケート提出について

日時		実施内容
4月23日 (水)	12:30~ 12:50	職種別活動セミナー(仮)リーダー会議(A会議室)
4月29日 (火)	8:45	・「計画書」提出締切 (スタッフルーム内、回収箱) ・グループ変更締切 (担当スタッフへ)
5月10日 (土)	15:30~ 17:00	「職種別活動セミナー」当日
5月12日 (月)	8:45	「アンケート」提出締切 (スタッフルーム内、回収箱)

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

☑ 対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化(他者)理解・適応力

👤 講師

青年海外協力隊経験者

[担当スタッフ:]

達成目標

経験者から困難なことへの対処、心構え、コツなど実際の様子を聞き、活動に対する意識を高める

📖 講座の内容

SV 経験者からボランティア活動を行う際に直面した困難及びその対処法、活動を円滑に行う上での心構え、コツなどを聞き、円滑な現地活動に役立つ気付きを得る。

(1) 途上国の特徴 (ボランティアが一度は経験する悩み)

- 1) 活動に関連した途上国の特徴
- 2) 途上国が途上国である理由
- 3) 不便な生活とそれを乗り越えるエネルギー
- 4) 脆弱な組織、不確実な技術レベル
- 5) 価値観と行動特性の違い
- 6) 受け入れ側の現状認識の不十分さ
- 7) ボランティアと受け入れ側のギャップ

(2) JICA ボランティアが直面する問題と問題解決の方法

- 1) 生活基盤の確立
- 2) 配属先での活動における問題と活動基盤の確立
- 3) 受け入れ先の問題の本質へのチャレンジ
- 4) 問題解決に対する事務局、事務所関係者の役割

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	×
SV	○必修

対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化(他者)理解・適応力

👤 講師

シニア海外ボランティア経験者

[担当スタッフ]

「自主講座」について

希望日時
訓練所内各所

1. ね ら い

様々な専門性を持つ候補者同士が、その専門性を活かしながら自主講座・自主勉強会を企画実施し、お互いに学び合う。訓練中、自ら企画・準備・実施することで、赴任後の活動に向け経験を積む機会とする。

2. 実施可能時間、場所

時 間：5：30～22：30 の内、課業時間帯以外

※但し、日程上の課業時間帯以外でも、課業が組まれている日時は除く

※月～金の19：00～22：30 は語学自習に最低2時間充てること

場 所：訓練所内で、実施に相応しい場所

3. 内 容

- ・候補者の資質向上に資するもの
- ・主として訓練中の候補者同士が講師となり得るもの
- ・気分転換を目的とした団体スポーツ、フェスティバル等は自主講座として認めない

＜過去の実施例＞

日本語教師研修会、開発計画手法、PC 講座、教育系隊員による模擬授業など

4. 実施手順

	内 容	期 限
1	「自主講座計画書」提出（別添様式）	実施1週間前までに（スタッフルームへ）
2	スタッフより承認	提出後の3日以内 (全体日直室前にて承認済計画書の掲示で確認)
3	実施	
4	「自主講座報告書」提出（別添様式）	実施後1週間以内（スタッフルームへ）

※計画書の提出後、実施の内容についてスタッフが検討した結果、再度内容の変更を求める場合もある

5. 資機材

- ・講座に必要な資機材は原則として自分たちで調達、購入すること
- ・資料のコピー、貸与可能な機材（プロジェクターなど）は事前に依頼があれば便宜を図る
- ・火気を使用する場合は、別途『火気類使用許可願』をスタッフルームに提出
(用紙はスタッフルーム、または共有フォルダに有り)

自主講座実施計画書

氏 名 : _____
 派遣予定国 : _____
 職種/指導科目 : _____
 生活班 : _____ 班

1. 講座名 :
2. 講師名 :
3. 実施日時 :
4. 実施場所 :
5. 目的 :
6. 内容 :

7. 参加予定者氏名・派遣予定国・職種/指導科目 : (☑多い場合は別紙添付)

(計 名)

8. 火気使用 : する ・ しない

(☑使用する場合は、別途火気類使用許可願を提出)

9. 使用備品・教材 (数量も記載すること) :

10. 配布資料 : あり ・ なし

(配布資料の印刷をスタッフに依頼する場合は講座実施の2日前までに申し出ること)

以 上

訓練総括	訓練 1 班	訓練 2 班	訓練 3 班	受付

※受取後、自主講座担当→スタッフ回覧→自主講座担当

自主講座実施報告書

氏 名： _____
派遣予定国： _____
職種/指導科目： _____
生活班： _____ 班

1. 講座名：
2. 講師名：
3. 実施日時：
4. 実施場所：
5. 目的：
6. 内容：

7. 実施成果等（レジユメ、資料等あれば添付のこと）：

8. 参加者氏名・派遣予定国・職種/指導科目（多数の場合は参加者リストを添付）：

（計 名）

訓練総括	訓練 1 班	訓練 2 班	訓練 3 班	受付

※受取後、自主講座担当→スタッフ回覧→自主講座担当

訓練資料
講座関連実施要領
【第二部】

平成 26 年度第 1 次隊 駒ヶ根

青年海外協力隊訓練所

JICA KOMAGANE TRAINING CENTER

目 次

JICA ボランティアに求められる能力・適性	1
講座について・諸注意等	2～3
各種オリエンテーション一覧	4～5
講座一覧（コース別）	6～9
講座資料の見方	10
ストレスマネジメントに関するレポートについて	11
講座レポートについて	12～13
講座テストについて	14
WBT および JICA-Net による各インターネット事前学習容	15～19
各講座の目的・内容	20～51、55～73
自主講座について	52、74
「自主講座実施計画書」様式	53、75
「自主講座実施報告書」様式	54、76

達成目標

国際社会における援助の潮流と日本のODAの基本政策を理解する

📖 講座の内容

国際協力は何故必要なのだろうか。第二次世界大戦後、日本は多くの援助を必要としていた。そこから日本はどのように発展し、現在の先進国となったのだろうか。日本が行なってきたODAの変遷と現在の国際援助の潮流について学ぶ。

1. 開発途上国の現状

- (1) 開発途上国の概況
- (2) 人口を巡る状況
- (3) 地球環境を巡る状況
- (4) グローバル化を巡る状況
- (5) 開発援助委員会 (DAC) とは

2. 国際的な援助潮流

- (1) 2000年までの援助の潮流
- (2) 2000年以降の援助の潮流

3. 我が国のODAの過去・現在・未来

- (1) 戦後世界経済と日本のODAの変遷
- (2) 日本のODA政策

共有フォルダ→訓練資料→講座関連内に格納予定の事前資料に目を通して出席のこと。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- 異文化（他者）理解・適応力

👤 講師略歴

氏

[担当スタッフ:]

達成目標

紛争、災害、貧困の地の子供達に音楽と映像で近づき、国際協力とは何か、ボランティアとは何かについて迫る

♪ 公演の内容

世界で起こっている様々な出来事を大画面のビデオ・スライドに映し出し、語りと曲で構成していく「映像と音楽のシンクロ」ステージ。

国際協力を始めるきっかけになったフィリピン、1994年内戦下のアフリカ・ソマリア、2004年のイラン南東部地震、そして東日本大震災とその後の心のケアの活動。

各所で出会った人々との触れ合い、自身の活動を通して国際協力とは何か、ボランティアとは何かについて迫る。

TPO を踏まえた服装で出席のこと。

履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	△選択可

対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- 異文化（他者）理解・適応力

演奏者

氏

[担当スタッフ：]

達成目標

普段とは異なる生活環境下においても柔軟に適應する力と、共同作業を行う力を養う

📖 訓練の内容

野外訓練は、座学ではなく、屋外において2日間にわたって実施される。野外訓練では生活班と異なる新たなチーム編成を行い、2日間生活を共にする。各生活班より選出された野外訓練委員2名が各チームに入り活動を進めるサポート等をする。野外訓練中は、限られた食材と備品で工夫して炊事を行う。また、JICA ボランティアが派遣される多くの国々では、何日間も断水や停電が続く生活環境が多いことから、任国での生活の練習として水や電気の使用は禁止または制限される。

野外訓練中にはチーム活動のほかに、任国で役立つ技術を学ぶ生活技法実習やチームビルディング等の実施を予定している。

※詳細内容は生活班ミーティングでの野外訓練委員からのアナウンス、また野外訓練オリエンテーションにて説明。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

☑ 対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力

[担当スタッフ:]

達成目標 情報収集の重要性と収集方法について理解する

📖 講座の内容

ボランティアが派遣されてまず行うことは現状把握である。現状把握のためにはさまざまな情報を収集する必要があることから、情報収集の方法を学ぶ。

1. 情報収集に関して (1)
情報収集の必要性 (2)
情報収集の流れ
(3)情報源・情報収集の主な例 (文献レビュー、直接観察、インタビュー、質問票等)
(4)情報収集方法のメリットとデメリット
2. グループワーク

学んだスキルを、実際に現地で使用するという意識しながら講義を受けること。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

☑ 対応能力・適性

- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力

👤 講師

[担当スタッフ:]

達成目標


参加型調査ツールを学び、任地でどのように活かせるか具体的にイメージできるようになる

 講座の内容

講義および演習を通じて参加型調査手法の基礎を学び、任地での活動の一助とする。

1. 参加型とは【講義】 (1)なぜ参加型を重視するのか (2)参加型調査ツールの紹介 (3)参加型調査手法のメリットとデメリット
2. 参加型調査ツールを用いた実践【演習】

学んだスキルを、実際に現地で使用するという意識しながら講義を受けること。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

対応能力・適性

- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力

 講師

[担当スタッフ:]

D-4-4 社会的多様性理解・活用力-社会的多様性活用力
所外活動①②・振り返り

①5月22日(木)
②5月28日(水) 振り返り
5月29日(木)
16:10~17:00

達成目標

普段と違う環境でどのように人々と関わり合い、相手の役に立てるかについて実践を通じて考える

📖 講座の内容

【所外活動】 ボランティアに必要な資質を実践する機会となる。普段と異なる環境に適応し、活動先のニーズに合った活動を実践する。

【振り返り】 様々な受け入れ先での二日間の活動や経験をグループ別に分かれて振り返り、任国での活動に活かせる気づきや学びを共有する。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化（他者）理解・適応力

[担当スタッフ：]

目 当日の流れ～物品返却について

日時		実施内容
4月15日(火)	8:45	希望票提出締切 (スタッフルーム前の回収箱)
5月20日(火)	15:10～16:00	所外活動オリエンテーション(講堂)
5月22日(木)	8:30～17:00	所外活動 1日目
5月28日(水)	8:30～17:00	所外活動 2日目
5月29日(木)	16:10～17:00	振り返り(講堂・小講堂・森のステージ) アンケート・報告書提出

物品貸出・民族衣装貸出 関連

貸出	返却	貸出物品
5月20日(火) 17:10～17:40	6月2日(月) 17:10～17:40	物品(長靴・つなぎ・ゴム手袋・エプロン) (ピロティ倉庫にて)
5月27日(火) 12:30～12:50	5月29日(木) 12:30～12:50	民族衣装(必要な方のみ) (生活技法室にて)

※物品はきれいに洗濯、洗浄し乾かして返却。

※民族衣装は洗濯しないで返却。

※破損などがある場合は、スタッフに報告。

目 所外活動先業種

活動先業種	事業概要(抜粋)	活動内容(例)
高齢者施設	特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、 認知症高齢者グループホーム	利用者の話し相手・交流、環境 整備、レクリエーション、散歩、 スタッフの手伝い
障がい者 福祉施設	知的障がい者福祉施設、障がい者 支援施設、福祉共同作業所	
児童福祉施設	保育園、幼稚園、児童館	子供との交流、スタッフの手伝 い、掃除、任国の紹介
図書館	図書館	棚整理、カウンター業務、内容 入力、ラベル貼り
花卉栽培	花卉栽培	花手入れ、草取り、ハウス内作 業、肥料やり、ポット片づけ
野菜栽培・ 農業全般	野菜栽培、椎茸栽培、稲作	畑手入れ、草取り、肥料やり、 残渣の片づけ

演習 Bafa Bafa (異文化体験シミュレーション)

5月23日(金)
15:10~17:00
各指定教室

達成目標

異文化を疑似体験し、異文化理解を深める

講座の内容

任国へ赴任すると、これまでに体験したこともない様々な異文化に出会う。Bafa Bafa は、擬似的な国を作り上げ、その異文化に触れる機会を通じて、どのように感じるか、どのように行動するか認識することを目的としている。

■グループ分け

後日、グループ分けを掲示するので、各自確認し、実施当日は指定教室に集合すること。掲示でリーダーとなっている人には、Bafa Bafa リーダー会議に出席してもらう。

【Bafa Bafa リーダー会議】

5月21日(木) 19:00~20:00 (セミナールームA・B)

履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

☑ 対応能力・適性

- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化(他者)理解・適応力

👤 進行役

訓練所スタッフ

お願い

- BafaBafa の経験がある方は内容を明かさないと

[担当スタッフ:]

達成目標

異文化理解の意味と適応について学ぶ

📖 講座の内容

文化とは何だろうか。異文化を理解するとはどのようなことだろうか。

異文化・カルチャーショックを体験する「異文化体験シミュレーション Bafa Bafa」に現れた現象や行動、心の動きを解説する。また、その考察を踏まえ、文化が形成される過程に触れ、任地での生活や協力活動を円滑に行うために異文化をどのように理解し、自分を適応させたらよいかを学ぶ。

また、文化人類学的視点、言語学的視点など多岐にわたる方面からのアプローチにより、異文化の本質や異文化に対する心構えについて学ぶ。

1. Bafa Bafa とはどんなゲームだったのか
ローカルルール、規則や文化を決める要素等
2. 「異文化理解」の規則
規則、武道、アフォーダンス等
3. 「異文化理解」から「他者理解」へ
 - (1) 音としての言語、文としての言語
 - (2) 異文化コミュニケーションの間違い
4. 言語、学術、普遍性
 - (1) 異質なものと向き合うこと
 - (2) 文化相対主義と人類学
5. 実践に生かすために
 - (1) 異文化の中に立つ苦しさや快感
 - (2) カルチャーショック
 - (3) 逆カルチャーショック

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

☑ 対応能力・適性

- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化(他者)理解・適応力

👤 講師

氏

[担当スタッフ:]

達成目標

コミュニケーション技法を活用して課題発表を行い、生活班担当と一緒に振り返ることで学びを得る

📖 講座の内容

自主計画時間等を使って研究してきた課題について、発表を行う。発表は、質疑応答を含め各グループ 13 分間で行う。

課題発表：日本（人）について

(1)日時

5月26日(月) 13:00~17:00

(2)会場

講堂または森のステージ（2会場に分かれて実施）

(3)他のグループの発表を見て、発表者の役に立つ感想やアドバイスをコメント用紙に記入し、フィードバックする。

「振り返り」については、課題発表翌日の5月27日（火）19:40~20:30の生活班ミーティングにて実施する。振り返りの内容は以下のとおり。

- ・ 準備から発表までの流れについての自己評価
- ・ 発表時の反応や、コメント用紙から得られた他者評価
- ・ 単元全体を通じて得られた学びの共有
- ・ 生活班担当からのコメント

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

☑ 対応能力・適性

- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化（他者）理解・適応力

※講師は配置しないが、生活班担当を配置する

[担当スタッフ：]

達成目標

世界の宗教について理解を深め、日本人の宗教観を学ぶ

📖 講座の内容

私たち日本人は「宗教は自分とは無縁なもの」と思っていないだろうか。しかし、世界の大部分の国々では「宗教」は人々の生きる規範となっている。

世界で多くを占める「一神教」について学び、日本人の宗教観を再認識することは、任国での活動や生活に役立つだろう。宗教を通じて異文化への理解を深めることが、活動の第一歩となるかもしれない。

【講義前半】

世界の宗教を概観する。

1. 宗教とは何か（社会学的見地から）
2. ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の成り立ちとその相互関係をどう理解するか

【講義後半】

大半の日本人が持つ宗教観と、それが世界でどう受け止められるのかについて学ぶ。

1. 日本の宗教をどう理解するか
2. 国際社会において、公務に携わる国際人としてどう行動すれば良いか

受講の前に「宗教とは何か」を自分なりに考えて臨むこと。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

対応能力・適性

- ボランティア基礎力
- 異文化（他者）理解・適応力

👤 講師

氏

[担当スタッフ：]

達成目標

任国における職種分野別の技術水準や
適正技術について理解する

📖 講座の内容

職種分野別のグループに分かれ、担当の技術顧問から開発途上国での協力活動を円滑に行うために必要かつ効果的な手法を学ぶ。

- ・ 対象者の名簿や指定場所等は、後日掲示で確認（対象者以外は語学自習）
- ・ 講師の判断により、実施しない職種分野あり
- ・ 事前の掲示を必ず確認
- ・ リーダー会議：5/23（金）12：30～@講堂
※リーダーと指定された方は必ず参加してください

■平成26年度 技術顧問一覧

平成26年度 技術顧問・技術専門員・国際協力専門員

担当職種分野	氏名	担当職種分野	氏名
稲作・野菜等		コンピューター技術等	
コミュニティ等		PCインストラクター等	
コミュニティ等		家政・生活改善等	
漁業生産・養殖・水産資源管理等		環境教育等	
自動車整備等		手工芸等	
自動車整備等		幼児教育	
土木全般		美術	
建築全般		日本語教育	
看護師・助産師・保健師		小学校教育等	
理学/作業療法士等		理数・数学教育等	
障害児・者支援等		体育/スポーツ全般	
感染症・IIT*対策等		青少年活動 等	

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	指定者 ○必修
SV	×

☑ 対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化（他者）理解・適応力

👤 講師

協力隊技術顧問・技術専門委員・国際協力専門員

それぞれの職種分野別に委嘱され、JICA ボランティアの選考、任国での活動に対する技術的なアドバイスなどを行なっている。

[担当スタッフ：]

達成目標

異文化適応に関する事例から、実際に任地で起こりうる問題や葛藤への対処方法を学ぶ

📖 事例研究の内容

あるボランティアの活動事例をもとに、異文化の中で起こりうる問題や葛藤について、またその対処方法についてグループごとに討論する。

※ 参考講座

- ・ 「BafaBafa」
- ・ 「異文化適応概論」
- ・ 「コミュニケーションスキル」等

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

☑ 対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化（他者）理解・適応力

👤 進行役

訓練所スタッフ

[担当スタッフ：]

達成目標

地域の生徒との交流を通して、学校現場での国際理解教育に協力するとともに、その意義について学ぶ

講座の内容

小・中学校を訪問し、生徒・児童と交流を図る。内容の詳細については、下記の日程で打ち合わせ等を行い協議することとなる。

(過去の実施例)

- JOCV を志した動機についての発表
- 派遣国について調べた事の発表
- クイズやレクリエーションの実施

児童・生徒の国際協力に対する理解や支援を促進し、さらに地域における JICA ボランティア事業の認知度向上にも資する活動である。

任国へ赴任してからは、メールや文通等で交流を続けることも視野に入れてほしい。

履修要件

対象者	要件
JOCV	△選択可
SV	×

対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力
- 異文化(他者)理解・適応力

[担当スタッフ:]

準備日程

日 時		実施内容
4月24日(木)~4月29日(火)		交流希望者募集
5月15日(木)	12:30~12:50	ブリーフィング(講堂)(参加者は全員出席)
5月19日(月)	18:15 集合	学校側との打ち合わせ(講堂) 各学校の交流学級の担任が来所し、参加者と交流の進め方、内容等の打ち合わせを行う。 (参加者は全員出席)
	18:20 開始	
6月5日(木)	12:30~12:50	民族衣装 貸出(生活技法室)
6月6日(金)	13:00~17:00	学校交流
6月9日(月)	8:45	報告書、アンケート提出締切
	12:30~12:50	民族衣装 返却(生活技法室)

達成目標 自己を見つめ、安定した心持ち、精神修養を図る

📖 講座の内容

日本の伝統的文化を理解し、協力隊活動を効果的に実行するために求められる幅広い分野での教養を深め、自らが経験する隊員生活を今後の人生に活かせるよう導く。

内容

(1)講話

日本の文化と精神について禅の立場から講話を行い、日本人の考え方の理解に役立てる。

(2)坐禅

禅宗の住職を招き坐禅を体験する。無の境地を目指すものとはやや違い、心を落ち着け、訓練への取り組みと任国へ赴任するにあたって改めて自分に問い直す機会とする。

坐禅を組むため、足が窮屈にならない服装に着替えて参加すること。坐禅は裸足で実施します。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

対応能力・適性

危機管理能力

👤 講師

氏

[担当スタッフ:]

達成目標

訓練中に行ってきた目標管理について互いに発表し、他者評価を行うことで振り返りの場とする

📖 講座の内容

目標管理シートを基に、訓練中に行ってきた自身の目標管理のプロセスと成果、およびこれにより得た学びについて振り返る。さらに他者からの評価・コメントを受けることで、目標管理の実施状況を、客観的視点を含めて総括する。

1. 振り返りのポイント 目標管理シートの活用プロセスと成果、及び実施する中で得られた学びについて振り返る。
2. 他者評価の留意点 評価やコメントは、具体的事実（言動）を基に伝える。
3. 任国での活動に向けての抱負 派遣前訓練のグループワークとしては最後の場となることから、それぞれの「任国での活動」に向けての抱負を発表し合う。
4. 活動中の目標管理の留意点

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

☑ 対応能力・適性

- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力

👤 進行役

訓練所スタッフ

[担当スタッフ:]

達成目標

JICA ボランティアに期待する帰国後の「社会還元」について学ぶ

📖 講座の内容

帰国後の進路を考え自分自身にとっての活動経験の目標を明確化する。「社会還元」は JICA ボランティア事業の目標のひとつであり、JICA ボランティアは任国で得た経験や知見を社会一般に還元することが求められる。任国におけるこういった働きかけが自分の未来にどのようにつながるか、より有意義な活動をするために、帰国後のキャリアや社会還元、将来像を具体的にイメージしながら考える。

1. 社会還元 (25分)

社会還元活動とは

2. 帰国後の進路 (25分)

1) 進路の考え方と現状

・参加前の経験がベース、2年間の成長と変化(働きかけの成果)、自己分析の意義と将来像

2) 協力隊活動によって経験から得られたことは?

・できるようになりたいこと、できるようになったこと

3) 求人組織は協力隊をどのように評価し、帰国隊員に何を期待するか?

・就職の際に何が評価されたのか

4) 経験を次につなげるため

・任地にいる間にやっておけば良かったこと

3. 自己分析&未来を描く ワーク (50分)

1) 自己分析 弱みを克服し強みをさらに強化する

2) 未来を描く 帰国後のキャリアデザイン

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

☑ 対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- ボランティア基礎力
- ボランティア実務能力

👤 講師

JICA 進路相談センター

および青年海外協力隊事務局 参加促進・進路支援課職員


[担当スタッフ:]

達成目標

我が国の ODA の現状を理解し、公人として派遣される JICA ボランティアの意識を高める

 講座の内容

日本の ODA と公人としての JICA ボランティアについて学ぶ。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

対応能力・適性

- 青年海外協力隊精神の理解および実践力
- 異文化（他者）理解・適応力

 講師

外務省国際協力局職員

[担当スタッフ：]

達成目標


無事の帰国を願う留守家族の気持ちについて考え、命の尊さについて再確認する

 講座の内容


青遺海の会は、任期途中で不慮の事故で亡くなられた隊員の遺族の方々の会である。今後会員を1名も増やすことのないようにとの思いから、この講座が設けられている。

家族、友人、同僚、そしてこの訓練所で出会った同期の仲間たち、駒ヶ根市の方々…。見えるところでも、見えないうところでも、沢山の人がボランティアの無事の帰国を待ち望んでいる。どうかそのことを忘れずに、任地でも自らの命を大切にしてください。

派遣前訓練修了を目前に逸る気持ちを落ち着かせ、今一度安全への意識や送り出してくれる家族の思いを心に留めてほしい。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○必修
SV	×

 講師略歴

[担当スタッフ：]

「自主講座」について

希望日時
訓練所内各所

1. ね ら い

様々な専門性を持つ候補者同士が、その専門性を活かしながら自主講座・自主勉強会を企画実施し、お互いに学び合う。訓練中、自ら企画・準備・実施することで、赴任後の活動に向け経験を積む機会とする。

2. 実施可能時間、場所

時 間：5：30～22：30 の内、課業時間帯以外

※但し、日程上の課業時間帯以外でも、課業が組まれている日時は除く

※月～金の19：00～22：30 は語学自習に最低2時間充てること

場 所：訓練所内で、実施に相応しい場所

3. 内 容

- ・候補者の資質向上に資するもの
- ・主として訓練中の候補者同士が講師となり得るもの
- ・気分転換を目的とした団体スポーツ、フェスティバル等は自主講座として認めない

＜過去の実施例＞

日本語教師研修会、開発計画手法、PC 講座、教育系隊員による模擬授業など

4. 実施手順

	内 容	期 限
1	「自主講座計画書」提出（別添様式）	実施1週間前までに（スタッフルームへ）
2	スタッフより承認	提出後の3日以内 （全体日直室前にて承認済計画書の掲示で確認）
3	実施	
4	「自主講座報告書」提出（別添様式）	実施後1週間以内（スタッフルームへ）

※計画書の提出後、実施の内容についてスタッフが検討した結果、再度内容の変更を求める場合もある

5. 資機材

- ・講座に必要な資機材は原則として自分たちで調達、購入すること
- ・資料のコピー、貸与可能な機材（プロジェクターなど）は事前に依頼があれば便宜を図る
- ・火気を使用する場合は、別途『火気類使用許可願』をスタッフルームに提出
（用紙はスタッフルーム、または共有フォルダに有り）

自主講座実施計画書

氏 名 : _____
 派遣予定国 : _____
 職種/指導科目 : _____
 生活班 : _____ 班

1. 講座名 :
2. 講師名 :
3. 実施日時 :
4. 実施場所 :
5. 目的 :
6. 内容 :

7. 参加予定者氏名・派遣予定国・職種/指導科目 : (☑多い場合は別紙添付)

(計 名)

8. 火気使用 : する ・ しない

(☑使用する場合は、別途火気類使用許可願を提出)

9. 使用備品・教材 (数量も記載すること) :

10. 配布資料 : あり ・ なし

(配布資料の印刷をスタッフに依頼する場合は講座実施の2日前までに申し出ること)

以 上

訓練総括	訓練 1 班	訓練 2 班	訓練 3 班	受付

※受取後、自主講座担当→スタッフ回覧→自主講座担当

自主講座実施報告書

氏 名： _____
派遣予定国： _____
職種/指導科目： _____
生活班： _____ 班

1. 講座名：
2. 講師名：
3. 実施日時：
4. 実施場所：
5. 目的：
6. 内容：

7. 実施成果等（レジユメ、資料等あれば添付のこと）：

8. 参加者氏名・派遣予定国・職種/指導科目（多数の場合は参加者リストを添付）：

（計 名）

訓練総括	訓練 1 班	訓練 2 班	訓練 3 班	受付

※受取後、自主講座担当→スタッフ回覧→自主講座担当

訓練資料

生活関連実施要領

平成 26 年度第 1 次隊 駒ヶ根

青年海外協力隊訓練所

JICA KOMAGANE TRAINING CENTER

目 次

派遣前訓練について	1
訓練課業時間配分表	8
日程表	10
日課表	16
共同生活要領	18
訓練運営上の組織および任務	26
全体日直業務	28
朝の集いについて	29
図書資料室の利用	30
メディアルームについて.....	31
ネットワーク・プリンタの利用	32
診療室関連	34
スタッフ一覧	39
国/班担当スタッフ一覧	40
JICA 環境方針	41
別添資料	
派遣国別名簿	42
班別名簿	46
宿泊棟部屋割り表	51
派遣国順 座席表	52

派遣前訓練について

1. ボランティア事業の目的

青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、日系社会青年ボランティア、日系社会シニア・ボランティア（以下、「JICA ボランティア」又は「ボランティア」という。）事業は、独立行政法人国際協力機構法第13条第1項第4号の「開発途上地域の住民を対象として当該開発途上地域の経済及び社会の開発又は経済の復興に協力することを目的とする国民等の協力活動を促進し、及び助長する」に基づき展開している事業である。

JICA ボランティア活動の基本姿勢は「現地の人々と共に」という言葉に集約され、JICA ボランティアは派遣された国々の人々と共に生活し、彼らの言葉を話し、相互理解を深め、彼らの自助努力を促す形で協力活動を行うことを目的としている。

2. 訓練の目的

青年海外協力隊（以下、「JOCV」という。）及びシニア海外ボランティア（以下、「SV」という。）は、日本とは異なる自然・社会条件のもとで、現地の人々と協力活動を展開するために、「JICA ボランティアに必要な能力・適性を身に付ける」必要がある。

JICA は、応募者の選考を行い、①ボランティアとしての適性、②心身の健康、③技術・技能、ならびに④語学訓練を受けるために必要な素養を有していると認められた者（以下、「ボランティア候補者」又は「候補者」という。）に対し、派遣前訓練を実施する。ボランティア候補者は派遣前訓練を通じ、「JICA ボランティアに必要な能力・適性を身に付ける」ものとする。具体的には、“青年海外協力隊精神”の理解および実践力、異文化（他者）理解・適応力、社会人基礎能力とマネジメント力、危機管理能力を身に付けることとする。

3. 訓練の方法

（1）集団合宿制訓練

上記2. の目的を達成するため、集団合宿制による集中的、効率的な訓練を実施する。集団合宿制訓練の実施により以下の訓練効果が期待される。

- 1) 任国で必要となる言語の習慣化及び規則正しい生活
- 2) 集団生活による相互研鑽を通じた人間関係の構築、ボランティアに相応しい姿勢

（2）合同訓練

訓練は JOCV と SV が合同で行うこととする。合同訓練実施の背景及び目的は、以下のとおり。

2 つのボランティア事業は、その成り立ちが違うことから、制度上の違いはあるが、その目的とするところは同じである。すなわち、開発途上地域の住民と一体となって当該国の経済及び社会の発展、復興に協力したいという奉仕の精神を持ち、協力活動に参加することである。

派遣前訓練を通じ、開発途上地域でボランティア活動を行う者同士、寝食を共にして、訓練期間中に相互に良い意味での刺激を受け、切磋琢磨することで訓練効果の向上、更には、在外での協働作業がより円滑になることが期待できるため、合同で訓練を実施する。

4. 訓練の構成

派遣前訓練は以下の6つのコースから構成される。各コースの概要・目的は以下のとおりであり、この目的を達成するために、それぞれのコースの下に「単元」、そして、その下に必要な「講座」を設けている。

コース	概要・目的
A. 語学	任地で活動するために必要となる語学の基礎的知識と実践力を身に付ける。
B. 活動手法	活動する際に活用できる手法を学び、学んだ内容をグループワークや所外活動等で実践することで、任地で活用できるようになることを目指す。
C. 健康管理・安全管理	任地での活動の基礎となる体力、健康管理と安全管理に関する知識を身に付ける。
D. 社会的多様性理解・活用力	ボランティアに必要な心構えを身に付けると同時に、任地の事情を理解し、現場に適応できるようになることを目指す。
E. 生活班活動	派遣前訓練での共同生活を通して、ボランティアに必要な態度や心構えを身に付ける。
F. 各種オリエンテーション	訓練所の概要や規則、手続きを理解する。赴任手続き、赴任前に行う各種行事の説明などを行い、赴任の準備を整える。

5. 訓練修了評価

(1) JOCV

1) 評価項目

評価は、JICA ボランティア事業の理念に則り、派遣国におけるボランティア活動の実施の可否の観点から、訓練中の能力向上の度合い、必要な知識の習得状況等を語学、ボランティア適性及び講座テスト(提出物等を含む)により測定、評価する。具体的には語学、ボランティア適性、講座テストについて、所定のレベルに到達した者を訓練修了とする。

2) 訓練修了評価項目及び基準

評価項目及び修了基準は以下のとおりである。

① 語学

語学の修了基準については、原則としてレベル 7(ボランティアとして派遣するのに必要な基礎力を備えたレベル)以上とする。

② ボランティア適性

1. 青年海外協力隊精神の理解および実践力
2. ボランティア基礎力
3. ボランティア実務能力
4. 異文化(他者)理解・適応力
5. 危機管理能力

③ 講座テスト

1. JICA ボランティア基礎講座
2. 社会的多様性理解
3. 安全管理
4. 保健衛生

(2)SV

次の講座テストにおいて所定の基準をクリアした場合、訓練修了とする。

1. 安全管理 ・ 保健衛生

6. 訓練規則

派遣国での生活・活動に必要な行動規範およびボランティアとして相応しいマナーと品位等の向上、並びに訓練の効果的運営を図るため、以下のとおり訓練規則を定める。なお、以下の規則が守られない場合は、退所を含む措置をとることがある。

- (1) 円滑な訓練を妨げる行為、ならびに共同生活の秩序を乱す行為の禁止
(細目は、別に定める「共同生活要領(P.18～)」を参照)
- (2) ボランティアの倫理等ガイドラインに抵触する行為の禁止
- (3) 所内への酒類の持ち込みおよび所内での飲酒の禁止
- (4) 無断外出・外泊および無断課業欠席の禁止

7. 確認事項

ボランティア応募後、名字および本籍の変更、婚姻関係等に変更が生じたが、JICA に報告していないボランティア候補者は、配偶者呼び寄せ制度、赴任に関する書類作成に影響が生じるため、速やかにスタッフまで連絡する。

8. 【生活班活動】生活班ミーティング

(1) 生活班ミーティングについて

- ・本ミーティングは、①班長会議での連絡事項の共有の場、班長会議で協議してもらいたい事項を協議する場、②課業で学習したスキルを実践し、内容を深める場、③自主計画時間を中心に研究するグループ別「日本(人)研究」の場、とする。
- ・原則として、全生活班員の参加を前提とする。ただし、SV 候補者については、「生活班ゼミ」および「日本(人)研究」のセッションは任意とする。
- ・生活班ミーティングには、訓練スタッフ（班担当）は「生活班アドバイザー」として参加し、ディスカッションが円滑にいくため、また、議論を深めるために、経験者としての具体的な体験例や参考事例を伝える。

(2) 実施日時【基本形】

毎火曜日

19:00～19:15 班長会議からの連絡事項

19:15～19:30 班内での協議事項

毎週火曜日交互に実施

19:40～20:30 生活班ゼミ(ディスカッション)＜SV 候補者は任意＞

19:40～20:30 生活班分科会(「日本(人)研究」)＜SV 候補者は任意＞

(3) 進行方法及び進行上のポイント

①班会議（19:00～19:30）

班長会議からの連絡事項及び協議については、班長または副班長が司会進行を務める。生活上の改善事項については、候補者全体を一つのコミュニティと考え、積極的に問題解決にあたるようにする。

②生活班ゼミ（19:40～20:30）

導入期は訓練スタッフが主導するが、段階的に全体の進行およびディスカッション等の進行は班員が行う。

- ・ ディスカッションのテーマ⇒活動事例、講座の学習項目の振り返り、ワークショップ、等。
- ・ 各種スキルの実践⇒各講座で習得した知識・技術を実践し、身に付ける。
例) 目標管理、コミュニケーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、調査手法、等。

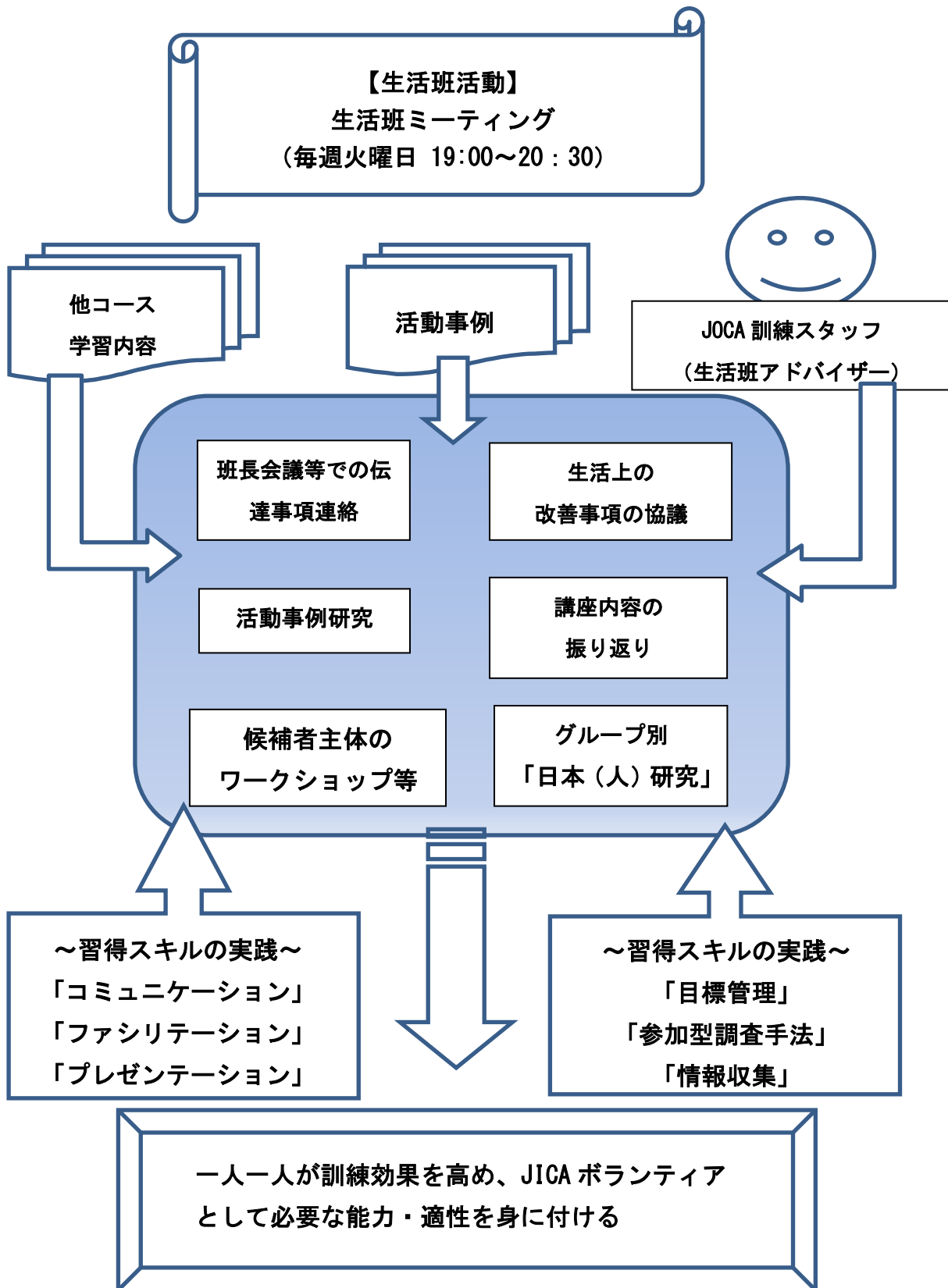
③生活班分科会（19：40～20：30）

班の中で3つの小グループを作り、テーマを設けて「日本（人）研究」を進めるものであり、隔週火曜日の19：40～20：30で実施する。

詳細については4月18日（金）の課業内でオリエンテーションを行う。

(4) 期待する効果

一人一人が訓練効果を高め、JICA ボランティアとして必要な能力・適性を身に付ける。



9. 緊急時の対応について

訓練期間中には地震・火事・急病人等の突発的な事態が発生することもあり得ることから、緊急時には以下の通り、すべてのスタッフ・ボランティア候補者が安全管理・避難誘導等に対応する。

(1) 緊急時連絡先

- ① スタッフルーム(内線 140)に連絡する。
- ② 内線 140 が不在の場合は、守衛室(内線 600)に連絡する。

(2) 火災・地震発生時

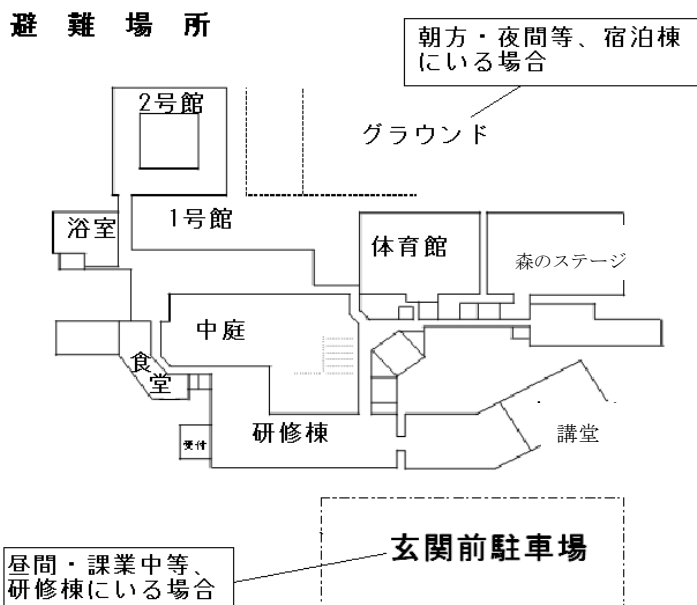
- ① 避難訓練のとおり、放送をよく聞き、迅速かつ的確に行動する。
- ② 避難場所に集合次第、班長は、班員の人員確認を行う。
- ③ 消防署への通報は、TBS スタッフ(訓練所管理業者)が行う。
- ④ 地震の場合は、特に指示がある場合を除いて、訓練所内で待機とする。

(3) 夜間急病人発生時

- ① 急病人が発生した場合は、まず症状・容態を迅速に把握する。
- ② 意識の有無。
- ③ 疾病の部位・程度。
- ④ 動かせる状態、もしくは自分で動ける状態か等について確認。
- ⑤ スタッフルーム(内線 140)に連絡。不在時は守衛室(内線 600)に連絡。

(4) 救急用具設置場所

- ① 担架 1階ロビー/1号館1階北側階段/2号館ロビー
- ② AED 1階ロビー/体育館前 / 1A 談話室前 / 4B 談話室前



261訓練課業時間配分表（JOCV候補者）

A. 語学	JOCV	
	回数	コマ
語学オリ	1	1
語学授業	-	207
言語別交流会	1	1
語学試験（クラス編成・中間・最終）	3	12
語学自習	-	28
合計	-	249

B. 活動手法	JOCV	
	回数	コマ
ボランティア活動の流れ	1	1
目標管理概論	1	2
活動管理	1	1
振り返り・評価	1	2
コミュニケーション技法/情報収集オリ	1	1
コミュニケーションの基礎	1	2
ファシリテーションの基礎	1	2
プレゼンテーションの基礎	1	2
課題発表・振り返り	2	4
情報収集	1	2
参加型調査手法	1	2
協力活動手法	1	2
職種別活動セミナー	1	2
合計	14	25

C. 健康管理・安全管理	JOCV	
	回数	コマ
体力テスト①②	2	4
体力維持講座	1	2
スポーツ大会	1	4
診療室オリ	1	1
派遣前健康管理オリ	1	1
救急法	1	4
婦人科（対象者のみ）	1	2
歯科衛生	1	1
日本人の疾病動向と健康管理	1	2
精神衛生	1	2
感染症	1	3
医療者特別講座（対象者のみ）	1	1
座禅	1	2
海外における安全対策	1	3
海外における交通安全	1	2
海外における交通安全（自動二輪対象者のみ）	1	1
避難訓練	1	1
講座テスト	1	2
合計	19	38

分野別配分	コマ	%
A. 語学	249	60.3
B. 活動手法	25	6.1
C. 健康管理・安全管理	38	9.2
D. 社会的多様性理解・活用力	48	11.6
E. 生活班活動	17	4.1
F. 各種オリ	31	7.5
身辺整理	5	1.2
合計	413	100.0

D. 社会的多様性理解・活用力	JOCV	
	回数	コマ
外務省講話	1	1
国際関係と日本の国際協力	1	2
JICA事業概要	1	1
JICAボランティア事業の理念と目標（局長講話）	1	2
所長講話①②	2	2
国別ボランティア派遣概要	1	2
ボランティアスピリット意見交換会	1	2
貿易ゲーム	1	2
任国研究、日本（人）研究	3	3
世界の宗教理解	1	3
演習 Bafa-Bafa	1	2
異文化適応概論	1	2
異文化適応の事例研究	1	2
地球のステージ	1	2
内田クレペリン検査	1	1
任国事情	1	2
所外活動①②・振り返り	3	15
ボランティア活動の実際（SVのみ）	-	-
帰国後の進路と社会還元	1	2
合計	23	48

E. 生活班活動	JOCV	
	回数	コマ
野外訓練準備	1	2
野外訓練オリ	1	1
野外訓練	2	14
合計	4	17

F. 各種オリ	JOCV	
	回数	コマ
受付	1	1
入所式	1	1
修了式・壮行会	1	3
訓練合意書に関する合意書の説明	1	1
派遣前訓練オリ	4	4
自己紹介	1	2
派遣の仕組みと支援体制オリ	1	1
処遇・制度オリ	1	1
福利厚生・共済会オリ	1	1
ボランティアポータルシステムオリ	1	0.5
ソーシャルメディア・非違防止オリ	1	1
公用旅券オリ	1	1
赴任前オリ	1	1
旅行会社オリ	1	1
派遣に関する合意書の説明	1	1
特別行事オリ	1	1
特別行事	1	7
表敬訪問オリ	1	0.5
中間時・修了時オリエンテーション	2	2
合計	23	31

その他	JOCV	
	回数	コマ
身辺整理	3	5

261訓練課業時間配分表（SV候補者）

A. 語学	SV	
	回数	ｺﾞﾗ
語学オリ	1	1
語学授業	-	103
語学交流会	-	-
語学試験（クラス編成・中間・最終）	2	4
語学自習	-	33
合計	-	141

B. 活動手法	SV	
	回数	ｺﾞﾗ
ボランティア活動の流れ	-	-
目標管理概論	-	-
活動管理	-	-
振り返り・評価	-	-
コミュニケーション技法オリ	-	-
コミュニケーションの基礎	-	-
ファシリテーションの基礎	-	-
プレゼンテーションの基礎	-	-
課題発表・振り返り	-	-
情報収集	-	-
参加型調査手法	-	-
協力活動手法	-	-
職種別活動セミナー	-	-
合計	0	0

C. 健康管理・安全管理	SV	
	回数	ｺﾞﾗ
体力テスト①②	-	-
体力維持講座	1	2
スポーツ大会	1	4
診療室オリ	1	1
派遣前健康管理オリ	1	1
救急法	1	4
婦人科（対象者のみ）	1	2
歯科衛生	1	1
日本人の疾病動向と健康管理	1	2
精神衛生	1	2
感染症	1	3
医療者特別講座（対象者のみ）	1	1
座禅	-	-
海外における安全対策	1	3
海外における交通安全	1	2
海外における交通安全（自動二輪対象者のみ）	-	-
避難訓練	1	1
講座テスト	1	1
合計	15	30

分野別配分	ｺﾞﾗ	%
A. 語学	141	68.8
B. 活動手法	0	0.0
C. 健康管理・安全管理	30	14.6
D. 社会的多様性理解・活用力	13	6.3
E. 生活班活動	0	0.0
F. 各種オリ	19	9.3
身辺整理	2	1.0
合計	205	100.0

D. 社会的多様性理解・活用力	SV	
	回数	ｺﾞﾗ
外務省講話	-	-
国際関係と日本の国際協力	-	-
JICA事業概要	1	1
JICAボランティア事業の理念と目標（局長講話）	1	2
所長講話①②	2	2
国別ボランティア派遣概要	1	2
ボランティアスピリット意見交換会	1	2
貿易ゲーム	-	-
任国研究、日本（人）研究	-	-
世界の宗教理解	-	-
演習 Bafa-Bafa	-	-
異文化適応概論	-	-
異文化適応の事例研究	-	-
地球のステージ	-	-
内田クレペリン検査	-	-
任国事情	1	2
所外活動①②・振り返り	-	-
ボランティア活動の実際（SVのみ）	1	2
帰国後の進路と社会還元	-	-
合計	8	13

E. 生活班活動	SV	
	回数	ｺﾞﾗ
野外訓練準備	-	-
野外訓練オリ	-	-
野外訓練	-	-
合計	0	0

F. 各種オリ	SV	
	回数	ｺﾞﾗ
受付	1	1
入所式	1	1
修了式・壮行会	1	2
訓練合意書に関する合意書の説明	1	1
派遣前訓練オリ	4	4
自己紹介	1	2
派遣の仕組みと支援体制オリ	1	1
処遇・制度オリ	1	1
福利厚生・共済会オリ	1	1
ボランティアポータルシステムオリ	1	0.5
ソーシャルメディア・非違防止オリ	1	1
公用旅券オリ	1	1
赴任前オリ	1	1
旅行会社オリ	-	-
派遣に関する合意書の説明	1	1
特別行事オリ	-	-
特別行事	-	-
表敬訪問オリ	1	0.5
中間時・修了時オリエンテーション	-	-
合計	18	19

その他	SV	
	回数	ｺﾞﾗ
身辺整理	1	2

平成26年度第1次隊 日程表(JOCV用)

	日付	曜	8:45～11:40	13:00～13:50	14:00～14:50	15:10～16:00	16:10～17:00	17:00～	
			1・2・3時限	4時限目	5時限目	6時限目	7時限目		
1	4/10	木		受付	訓練に関する合意書の説明	入所式	派遣前訓練オリ(生活①)		
2	4/11	金	所長講話/総括オリ/語学オリ/診療室オリ	クラス編成テスト		派遣前訓練オリ(生活②)	駒ヶ根市・駒ヶ根JC紹介	入所時懇親会	
3	4/12	土	語学授業	内田ケレリン検査	派遣前訓練オリ(講座)14:10～	自己紹介			
4	4/13	日							
5	4/14	月	語学授業	ボランティア活動の流れ	目標管理概論		活動管理	入所時個人面談	
6	4/15	火	語学授業	語学授業	語学授業	予防接種/語学自習	予防接種/語学自習	入所時個人面談	
7	4/16	水	語学授業	語学授業	語学授業	ソーシャルメディア・コンプライアンス、ハラスメント防止	ホームレス訪問オリ/表敬訪問オリ	入所時個人面談	
8	4/17	木	語学授業	語学授業	語学授業	体力維持講座		入所時個人面談	
9	4/18	金	語学授業	語学授業	語学授業	日本(人)研究	任国研究	入所時個人面談	
10	4/19	土	語学授業	スポーツ大会					
11	4/20	日							
12	4/21	月	語学授業	語学授業	語学授業	体力テスト①		入所時個人面談	
13	4/22	火	語学授業	JICAボランティア事業の理念と目標		歯科衛生	予防接種/語学自習	入所時個人面談	
14	4/23	水	語学授業	語学授業	コミュニケーション技法オリ(14:10～)	コミュニケーションの基礎			
15	4/24	木	語学授業	語学自習	海外における交通安全(14:10～)		バイク貸与予定者向け講義		
16	4/25	金	語学授業	感染症			医療者特別講座(対象者のみ)	公用旅券オリ	
17	4/26	土	語学授業	救急法					
18	4/27	日							
19	4/28	月	語学授業	プレゼンテーションの基礎		ファンクションの基礎			
20	4/29	火	語学授業	語学授業	語学授業	語学自習	予防接種/語学自習		
21	4/30	水	語学授業	JICA事業概要	派遣の仕組みと支援体制オリ	語学自習	処遇・制度オリ	JOCA・育てる会オリ	
22	5/1	木	語学授業	語学授業	語学授業	貿易ゲーム			
23	5/2	金	語学授業	語学授業	語学授業	婦人科			
24	5/3	土	語学授業	精神衛生		身辺整理			
25	5/4	日							
26	5/5	月	語学授業	語学授業	語学授業	ボランティアスピリット意見交換会①	ボランティアスピリット意見交換会②	中間時個人面談	
27	5/6	火	語学授業	語学授業	語学授業	野外訓練オリ	予防接種/語学自習	中間時個人面談	
28	5/7	水	語学授業	国別ボランティア派遣概要		語学自習	語学自習	中間時個人面談	
29	5/8	木	語学授業	海外における安全対策			語学自習	中間時個人面談	
30	5/9	金	語学授業	語学授業	語学授業	日本人の疾病動向と健康管理		中間時個人面談	
31	5/10	土	語学授業	任国事情		職種別活動セミナー			
32	5/11	日							
33	5/12	月	中間試験			中間時オリ	語学自習		
34	5/13	火	語学授業	語学授業	語学授業	予防接種/語学自習	予防接種/語学自習		
35	5/14	水	語学授業	語学授業	語学授業	国際関係と日本の国際協力		19:00～21:00 地球のステージ	

平成26年度第1次隊 日程表(JOCV用)

	日付	曜	オリエンテーション/各種委員会等	提出物関連
1	4/10	木	各種委員会(19:00～)	
2	4/11	金		
3	4/12	土		
4	4/13	日		
5	4/14	月	【生活】よろず相談	【生活】一般旅券回収(17:10～講堂、対象者)
6	4/15	火	各種委員会(17:10～)	【講座】「所外活動」希望票提出締切(8:45)
7	4/16	水	英文医療免許(12:30～講堂) 【語学】よろず相談(11:45～12:50)	
8	4/17	木	【講座】国別リーダー会議(12:30～)講堂 【生活】よろず相談	
9	4/18	金	【語学】よろず相談(11:45～12:50)	
10	4/19	土		
11	4/20	日		
12	4/21	月	隊歌係説明(17:10～1A談話室) 【生活】よろず相談	
13	4/22	火	各種委員会(17:10～)	【講座】「医療者特別講座」講座希望表記入締切(13:00)
14	4/23	水	【語学】よろず相談(11:45～12:50)、【講座】職種別活動セミナーリーダー会議(12:30～)A会議室	【生活】証明写真配布(17:10～講堂)
15	4/24	木		【講座】「任国事情」質問書、「任国研究レポート」、「日本(人)研究企画書」提出締切(8:45) 【生活】証明写真提出締切(13:00)
16	4/25	金	【語学】よろず相談(11:45～12:50) 【生活】よろず相談	
17	4/26	土		
18	4/27	日		
19	4/28	月	【生活】よろず相談	
20	4/29	火	各種委員会(17:10～) 【語学】よろず相談(11:45～12:50) 【診療室】「ストレスマネジメントについて」レポート提出締切	【講座】「職種別活動セミナー」計画書・グループ変更締切(8:45) 【講座】「婦人科」講座希望表記入締切(13:00)、
21	4/30	水	【語学】よろず相談(11:45～12:50)	
22	5/1	木	【生活】よろず相談	
23	5/2	金	【語学】よろず相談	
24	5/3	土		
25	5/4	日		
26	5/5	月	【生活】よろず相談	
27	5/6	火	各種委員会(17:10～)	
28	5/7	水	【語学】よろず相談(11:45～12:50) 【講座】野外訓練シュラフ・ロールマット貸出(12:05～12:25)	
29	5/8	木	【生活】よろず相談	
30	5/9	金	【語学】よろず相談(11:45～12:50)	
31	5/10	土		
32	5/11	日		
33	5/12	月	【生活】よろず相談	
34	5/13	火	各種委員会(17:10～)	
35	5/14	水	【語学】よろず相談(11:45～12:50)	

平成26年度第1次隊 日程表(JOCV用)

	日付	曜	8:45~11:40	13:00~13:50	14:00~14:50	15:10~16:00	16:10~17:00	17:00~	
			1・2・3時限	4時限目	5時限目	6時限目	7時限目		
36	5/15	木	語学授業	語学授業	語学授業	野外訓練準備	野外訓練準備		
37	5/16	金	野外訓練						
38	5/17	土	野外訓練						
39	5/18	日							
40	5/19	月	語学授業	情報収集	情報収集	参加型調査手法			
41	5/20	火	語学授業	語学授業	語学授業	所外活動あり	予防接種 /語学自習		
42	5/21	水	語学授業	語学授業	語学授業	語学自習	日本(人)研究		
43	5/22	木	所外活動①						
44	5/23	金	語学授業	語学授業	語学授業	Bafa-Bafa			
45	5/24	土	語学授業	異文化適応概論			身辺整理		
46	5/25	日							
47	5/26	月	語学授業	日本(人)研究 課題発表					
48	5/27	火	語学授業	語学授業	語学授業	語学自習	予防接種 /語学自習		
49	5/28	水	所外活動②						
50	5/29	木	語学授業	語学授業	語学授業	語学自習	所外活動 振り返り		
51	5/30	金	語学授業	世界の宗教理解				語学自習	
52	5/31	土	語学授業	語学授業 (クラス別語学交流)		言語別語学交流	語学自習		
53	6/1	日							
54	6/2	月	語学授業	語学授業	語学授業	協力活動手法		修了時個人面談	
55	6/3	火	語学授業	語学授業	語学授業	福利厚生 ・共済会あり	予防接種 /語学自習	修了時個人面談	
56	6/4	水	語学授業	語学授業	語学授業	異文化適応の事例研究		修了時個人面談	
57	6/5	木	語学授業	語学授業	語学授業	語学自習	語学自習	修了時個人面談	
58	6/6	金	語学授業	学校交流/語学自習					修了時個人面談
59	6/7	土	語学授業	語学授業	語学授業	講座テスト			
60	6/8	日							
61	6/9	月	語学授業	語学授業	語学授業	坐禅			
62	6/10	火	語学授業	語学授業	語学授業	体力テスト②			
63	6/11	水	語学授業	語学授業	語学授業	旅行会社あり	語学自習		
64	6/12	木	語学授業	語学授業	語学授業	語学自習	語学自習		
65	6/13	金	最終試験	最終試験	最終試験	修了時あり	特別行事あり		
66	6/14	土	語学授業	語学授業	語学授業	目標管理振り返り・評価			
67	6/15	日							
68	6/16	月	特別行事						
69	6/17	火	合意書説明/赴任前オリ /派遣前健康管理あり	帰国後の進路と社会還元			外務省講話	身辺整理	
70	6/18	水	居室点検/所長講話②	修了式・壮行会	修了式・壮行会				

平成26年度第1次隊 日程表(JOCV用)

	日付	曜	オリエンテーション/各種委員会等	提出物関連
36	5/15	木	【講座】「学校交流」ブリーフィング(12:30～)講堂 【生活】よろず相談	
37	5/16	金		
38	5/17	土		
39	5/18	日		
40	5/19	月	【講座】「学校交流」学校側との打ち合わせ(18:15～)講堂 【生活】よろず相談	
41	5/20	火	各種委員会(17:10～) 【講座】「所外活動」物品貸出(17:10～)ピロティ倉庫	
42	5/21	水	【語学】よろず相談(11:45～12:50)、語学交流会オリエンテーション(12:30～)【講座】「BafaBafa」リーダー会議(19:00～)セミナールM・B	【講座】野外訓練シュラフ・ロールマット返却(12:05～12:25)
43	5/22	木	【生活】よろず相談	
44	5/23	金	【講座】協力活動手法リーダー会議(12:30～)講堂 【語学】よろず相談(11:45～12:50)	【講座】「日本(人)研究」発表データ 提出締切(共有フォルダ)(8:45)
45	5/24	土		
46	5/25	日		
47	5/26	月	【生活】よろず相談	
48	5/27	火	各種委員会(17:10～) 【講座】「所外活動」民族衣装貸出(12:30～)生活技法室	
49	5/28	水		
50	5/29	木	【講座】「所外活動」民族衣装返却(12:30～)生活技法室 【生活】よろず相談	
51	5/30	金	【語学】よろず相談(11:45～12:50) 【語学】語学交流会オリエンテーション(12:30～)	
52	5/31	土		
53	6/1	日		
54	6/2	月	【講座】「所外活動」物品返却(17:10～)ピロティ倉庫 【生活】よろず相談	
55	6/3	火	各種委員会(17:10～)	
56	6/4	水	【語学】よろず相談(11:45～12:50)	
57	6/5	木	【講座】「学校交流」民族衣装貸出(12:30～)生活技法室 【生活】よろず相談	
58	6/6	金	【語学】よろず相談(11:45～12:50)	
59	6/7	土		
60	6/8	日		
61	6/9	月	【講座】「学校交流」民族衣装返却(12:30～)生活技法室 【生活】よろず相談	【講座】レポート提出締切(8:45) 【講座】「学校交流」報告書(8:45)
62	6/10	火	【委員会】図書委員会(12:30～)図書資料室 各種委員会(17:10～)	
63	6/11	水	【語学】よろず相談(11:45～12:50)	
64	6/12	木	【生活】よろず相談	
65	6/13	金		
66	6/14	土		
67	6/15	日		
68	6/16	月	【生活】よろず相談	
69	6/17	火		
70	6/18	水		

平成26年度第1次隊(SV用)

日付	曜	8:45～11:40	13:00～13:50	14:00～14:50	15:10～16:00	16:10～17:00	17:00～	
		1・2・3時限	4時限目	5時限目	6時限目	7時限目		
1	4/10	木	受付	訓練に関する合意書の説明	入所式	派遣前訓練オリ(生活①)		
2	4/11	金	所長講話/総括オリ/語学オリ/診療室オリ	クラス編成テスト		派遣前訓練オリ(生活②)	駒ヶ根市・駒ヶ根JC紹介	入所時懇親会
3	4/12	土	語学授業	語学授業	派遣前訓練オリ(講座)	自己紹介		
4	4/13	日						
5	4/14	月	語学授業	語学自習	語学自習	語学自習	語学自習	入所時個人面談
6	4/15	火	語学授業	語学授業	語学授業	予防接種/語学自習	予防接種/語学自習	入所時個人面談
7	4/16	水	語学授業	語学授業	語学授業	ソーシャルメディア・コンプライアンス、ハラスメント防止	ホーカルシステムオリ/表敬訪問オリ	入所時個人面談
8	4/17	木	語学授業	語学授業	語学授業	体力維持講座		入所時個人面談
9	4/18	金	語学授業	語学授業	語学授業	語学自習	語学自習	入所時個人面談
10	4/19	土	語学授業	スポーツ大会				
11	4/20	日						
12	4/21	月	語学授業	語学授業	語学授業	語学自習	語学自習	
13	4/22	火	語学授業	JICAボランティア事業の理念と目標		歯科衛生	予防接種/語学自習	
14	4/23	水	語学授業	語学授業	語学自習	語学自習	語学自習	
15	4/24	木	語学授業	語学授業	海外における交通安全(14:10～)		語学自習	
16	4/25	金	語学授業	感染症			医療者特別講座(対象者のみ)	公用旅券オリ
17	4/26	土	語学授業	救急法				
18	4/27	日						
19	4/28	月	語学授業	語学自習	語学自習	語学自習	語学自習	
20	4/29	火	語学授業	語学授業	語学授業	予防接種/語学自習	語学自習	
21	4/30	水	語学授業	JICA事業概要	派遣の仕組みと支援体制オリ	処遇・制度オリ	語学自習	JOCA・育てる会オリ
22	5/1	木	語学授業	語学授業	語学授業	語学自習	語学自習	
23	5/2	金	語学授業	語学授業	語学授業	婦人科		
24	5/3	土	語学授業	精神衛生		身辺整理		
25	5/4	日						
26	5/5	月	語学授業	語学授業	語学授業	ボランティアスピリット意見交換会①	ボランティアスピリット意見交換会②	中間時個人面談
27	5/6	火	語学授業	語学授業	語学授業	予防接種/語学自習	語学自習	中間時個人面談
28	5/7	水	語学授業	国別ボランティア派遣概要		語学自習	語学自習	中間時個人面談
29	5/8	木	語学授業	海外における安全対策			語学自習	中間時個人面談
30	5/9	金	最終試験	最終試験	最終試験/語学自習	日本人の疾病動向と健康管理		中間時個人面談
31	5/10	土	語学授業	任国事情		ボランティア活動の実際		
32	5/11	日						
33	5/12	月	語学授業	語学授業	講座テスト	福利厚生・共済会オリ	派遣前健康管理オリ	
34	5/13	火	語学授業	派遣に関する合意書の説明	赴任前オリ	予防接種/語学自習	予防接種/語学自習	
35	5/14	水	居室点検/所長講話②	修了式・壮行会				

平成26年度第1次隊(SV用)

	日付	曜	オリエンテーション/各種委員会等	提出物関連
1	4/10	木		
2	4/11	金		
3	4/12	土		
4	4/13	日		
5	4/14	月	【生活】よろず相談	【生活】一般旅券回収(17:10～講堂、対象者)
6	4/15	火		
7	4/16	水	【語学】よろず相談(11:45～12:50)	
8	4/17	木	【講座】国別リーダー会議(12:30～)講堂 【生活】よろず相談	
9	4/18	金	【語学】よろず相談(11:45～12:50)	
10	4/19	土		
11	4/20	日		
12	4/21	月	【生活】よろず相談	
13	4/22	火		【講座】「医療者特別講座」講座希望表記入締切(13:00)
14	4/23	水	【語学】よろず相談(11:45～12:50) 【生活】証明写真配布(17:10～講堂)	
15	4/24	木		【講座】「任国事情」質問書提出締切(8:45)、「任国研究レポート」提出締切(8:45)*選択者のみ 【生活】証明写真提出締切(13:00)
16	4/25	金	【語学】よろず相談(11:45～12:50) 【生活】よろず相談	
17	4/26	土		
18	4/27	日		
19	4/28	月	【生活】よろず相談	
20	4/29	火		【講座】「婦人科」講座希望表記入締切(13:00)、【診療室】「ストレスマネジメントについて」レポート締切(予防接種時に提出)
21	4/30	水	【語学】よろず相談(11:45～12:50)	
22	5/1	木	【生活】よろず相談	
23	5/2	金	【語学】よろず相談(11:45～12:50)	
24	5/3	土		
25	5/4	日		
26	5/5	月	【生活】よろず相談	
27	5/6	火		
28	5/7	水	【語学】よろず相談(11:45～12:50)	
29	5/8	木	【生活】よろず相談	
30	5/9	金	【語学】よろず相談(11:45～12:50)	
31	5/10	土		
32	5/11	日		
33	5/12	月	【生活】よろず相談	
34	5/13	火		
35	5/14	水		

日 課 表 (月曜日～金曜日)

時間	日 課	場 所	実施項目・留意事項	外出	浴室	洗濯機 乾燥機	面会	
5:30 \$	自主計画 時間	研修棟 宿泊棟 所外	早朝学習(5:30～研修棟利用可) 共用部分等の清掃・整理 運動(ウーキング、ジョギングなど) 6:10館内放送(集い場所連絡)	5:30				
				6:20				
6:30 \$ 7:10	朝の集い 朝の運動	玄関前 又は 森のステージ	6時30分人員確認 時間厳守、 人員報告、国旗掲揚、連絡事項、 ラジオ体操、ランニング (隊歌練習)			6:00		
7:20 \$ 8:20	朝 食	食 堂	8:10食事提供終了 8:20までに退室		朝の運動終了後～ シャワーのみ 利用可			
7:15 \$ 8:25	食事当番	食 堂 (厨房)	食器洗浄等					
8:35	帰寮門限	玄関ロビー	外出者はプレートを裏返す	8:35		8:30		
8:45 \$ 11:40	課 業	指定場所	1時限目：8:45～9:35 2時限目：9:50～10:40 3時限目：10:50～11:40					
11:40 \$ 12:45	昼 食	食 堂	前半グループは12:15までに退出 後半グループは12:45までに退出	11:40		12:30	11:40	
12:50	帰寮門限	玄関ロビー	外出者はプレートを裏返す	12:50			12:50	
13:00 \$ 17:00	課 業	指定場所	4時限目：13:00～13:50 5時限目：14:00～14:50 6時限目：15:10～16:00 7時限目：16:10～17:00					
17:00	身 辺 整 理	各種会合、オリ等		17:00	17:00	17:00	17:00	
17:45 \$ 18:45		夕 食	食 堂	18:35食事提供終了 18:45までに退室 (土曜日は17:45～18:30)				
17:40 \$ 18:50		食事 当番	食 堂	食器洗浄等	時間内に夕食を摂り、退出 17:45～18:45			
19:00		帰寮 門限	玄関ロビー	外出者はプレートを裏返す 全体日直係による帰寮確認	19:00			
19:00 \$ 22:30	自主計画 時間	研修棟 宿泊棟	語学自習、職種関連学習、自主講座 等 *最低2時間の語学関連の自習時間を 必ず設けること 22:30に研修棟から宿泊棟へ移動 就寝準備				22:00	
22:40 \$ 22:50	所在確認	宿泊棟	班毎に所在確認(班長・副班長は全 体日直室へ報告)					
23:00	消 灯	各居室	就寝(自室外での活動は不可)					

窓口業務	
スタッフ ルーム (6:00～9:30は1 ～2名のスタッフ 在室)	月～金曜日 9:30～19:00
	土曜日 9:30～18:00
	夜間、日曜日 緊急時連絡は、守衛室(600)へ
診療室	月～金曜日 8:30～17:45 ※ 土・日曜は閉室(緊急時は守衛対応)
JICA事務室	月～金曜日 8:30～17:45 昼 11:40～13:00

日 課 表 (土曜日)

時 間	日 課	場 所	実施項目・留意事項	外出	浴室	洗濯機 乾燥機	面会
5:30 § 17:00	課業他		平日と同じ		7:20~8:30 シャワー可	月 § 金と 同様	
17:00 §	身辺整理		課業終了後より外出可	17:00	17:00		17:00
17:45 § 18:30	夕 食 (希望喫食)		食事希望調査表にサインする 18:30までに退出 食事当番(食事を摂る方の中から 有志で行ってください)	時間内に夕食を摂り退出			
22:00	帰寮門限		22:00までに帰寮者はプレートを裏返す	22:00		同 月 § 金と 同	22:00
22:00 § 22:30	身辺整理	研修棟 宿泊棟	研修棟から宿泊棟へ移動 就寝準備				
22:40	所在確認	宿泊棟	22:50までに各班員の所在確認、全 体日直へ報告		22:30		
23:00	消 灯	各居室	就寝。自室外での活動禁止				

※5/3(土)、5/24(土)は5時限目課業終了後から外出可能です。

日 課 表 (日曜日)

時 間	日 課	場 所	実施項目・留意事項	外出	浴室	洗濯機 乾燥機	面会
5:30 §	5:30~ 外出可		外出者は玄関ロビーのプレート を裏返す	5:30		6:00	6:00
7:20 § 8:10	朝 食 (希望喫食)	食 堂	食事希望調査表にサインする 8:10までに退出 食事当番は有志で行うこと		7:20~8:30 シャワー可		
11:40 § 12:20	昼 食 (希望喫食)	食 堂	食事希望調査表にサインする 12:20までに退出 食事当番は有志で行うこと				
17:45 § 18:30	夕 食 (希望食)	食 堂	食事希望調査表にサインする 18:30までに退出 食事当番は有志で行うこと	時間内に夕食を摂り退出			
22:00	帰寮門限		22:00までに玄関ロビーのプレート が元に戻っていること	22:00			22:00
22:00 § 22:30	身辺整理	研修棟 宿泊棟	研修棟から宿泊棟へ移動 就寝準備				
22:40	所在確認	宿泊棟	22:50までに各班員の所在確認、全 体日直へ報告		22:30	22:30	
23:00	消 灯		就寝 (他の居室への出入り、談話室で の談笑は不可)				

・週末外泊者は土曜日の22:00までに訓練所から出発し、日曜日の5:30以降帰寮してください。
(土曜日22:00~日曜日5:30の訓練所出入りは禁止)

共同生活要領

訓練所では、お互いが快適に過ごすためだけでなく、派遣国での生活・活動を見据え、共同生活を通して訓練期間中に習慣化すべきことを規則(決まり)として定めている。

訓練生活を通して「JICA ボランティアの品位と節度」を身につけること。

なお、青年海外協力隊及びシニア海外ボランティアの候補者については、以下候補者と表する。

1. 安全管理について

(1) ID の着用(→ID の携行)

ID カードは、訓練所内において身分証明となるものなので、常時、見えやすい位置に着用する。

(2) 居室の施錠(→住居の戸締り)

居室を離れる際は、部屋のカーテンを閉じ、必ず窓およびドアの施錠をする。また、在室中も忘れずに施錠し、訪問者に対しては、必ず確認してから開扉する。

(3) 所在の報告(→安否確認)

毎夜および朝の集い時、班長への所在報告を忘れずに行う。また、居室を離れる際も周りの候補者に行き先・帰宅時間を伝え、自分の所在を明確にしておく。

(4) 私物の管理(→旅券や貴重品の管理)

自己責任において管理を徹底し、共用スペース等に放置しない。

2. 時間厳守について(5 分前集合)

課業等を効率よく実施するためだけでなく、余裕をもって行動する事が派遣国においても各々の安全対策につながることから、時間厳守を徹底する。

3. 挨拶の励行について

コミュニケーションの基本となる挨拶をお互いに自ら進んで励行する。

4. 自主ルール作りについて

毎日の生活を円滑に進めるため、生活班内において自主ルール(談話室の使用方法、情報の共有化等)を作る。なお、候補者全体にかかわること(食堂の使用、洗濯機の使用

等)に関しては、班長会議で話し合う。

5. 服装について

派遣国の慣習・価値観等の尊重、更には候補者が公人として派遣される立場から、TPO に配慮した身嗜みを心がけ、奇抜な服装、髪型、装飾品等は控える。

(1) 公式行事時および指示がある場合は「公式行事用服装」とする。

男性	支給ブレザー(JOCV)、スーツ(SV)、スラックス、無地ワイシャツ(白)、ネクタイ、革靴(黒)
女性	支給ブレザー(JOCV)、スーツ(SV)、スカートまたはスラックス、襟付き無地ブラウス(白)、革靴(黒)、ストッキング(ベージュ系)

(2) 授業時(8:45~17:00 および夜間の講座等)は、講師に失礼のないよう、TPO をふまえた服装を心掛ける。ジーパン、Tシャツ、パーカー、サンダル等ラフな格好は不可。

男性 (例)	スラックスまたはチノパン、ワイシャツ(色・柄の派手ではないもの)
女性 (例)	膝丈スカート、スラックスまたはチノパン、襟付きブラウス(色・柄の派手ではないもの)

(3) 朝の集いは、運動のできる服装。ただし国旗掲揚を行うので、ハーフパンツ、サンダル、クロックス等は不可(パンツは、足首が隠れる長さを基準とする)。

(4) 授業時間帯以外についても、TPO をふまえた服装を心掛ける。
宿泊棟以外でのスリッパ使用は不可。

6. 食事について

(1) 月曜日の朝食から土曜日の昼食は、必ず食堂で摂る(ただし、月曜から金曜日の夕食は、6日前の13:00までに「欠食届」を提出する事で欠食可)。

(2) 食中毒防止のため、飲食物の食堂からの持ち出し、および持ち込み厳禁。

(3) 週末食事(土曜夕食、日曜3食)の申し込みは、毎週木曜日13:00までに食堂横ホワイトボードにて週末希望食調査表に記入(締切り後の取消・追加は、業者との契約上、対応不可)。

(4) 週末の食事当番は、食事を摂る候補者が協力して行う。

7. 課業欠席について

- (1) 体調不良等で課業を欠席する場合は、スタッフルームに一報するとともに(内線でも可)事前に「欠席願」をスタッフルームへ提出(本人が提出できない場合、代理を通じて提出可)。
- (2) 朝の集い、朝の運動を欠席する場合は、事前に班長(班長が欠席する場合は副班長)へ連絡、スタッフルームへ「欠席願」を提出(朝食の有無も報告)。自分で「欠席願」を提出できない場合は、班長の代筆にての提出可。
- (3) 朝の集いを遅刻した場合は、朝の運動終了後、スタッフルームにて状況を報告。

8. 外出・外泊について

外出時および帰所時には、必ず居室プレートを裏返す(夜間、徒歩で外出する際は、「懐中電灯」を使用し、「蛍光たすき」を着用)。

外出可能時間

月曜日～ 金曜日	5:30～ 6:30	11:40～12:50	17:00～19:00 (17:45～18:45 の間に 必ず食事を摂る)
土曜日	集い、運動終了後 ～8:35	(昼食は必ず摂る)	17:00～22:00 (食事を申し込んだ人は時間内で 必ず摂る)
日曜日	5:30～22:00(食事を申し込んだ人は時間内で必ず摂る)		

赴任準備のために土曜日の課業終了後 17:00 から日曜日 22:00 まで申請により週末外泊が可能。ただし、語学学習などの遅れが目立つ場合は、承認しないこともある。

- (1) 「週末外泊届」は、毎週金曜日 13:00 までにスタッフルームに提出。宿泊施設や交通機関(高速バス等)は予約を済ませてから必要事項を記入。
- (2) 「週末外泊届」を提出した後に外泊予定を取り消す場合には、必ず事前にスタッフ及び全体日直に報告。スタッフ不在時は守衛室に報告。
- (3) 原則として指定された日時以外の外出・外泊は認めない。やむを得ない事情(病院受診、2親等内の家族の慶弔等)の場合、スタッフに相談。
- (4) 特別外出・外泊もしくは課業時間内に外来受診に行く場合は、出発時と帰所時に、必ずスタッフルーム(不在の場合、守衛室)に報告。なお、特別外出・特別外泊の際は、指定場所(下段)へ居室プレートの移動。

9. 所内連絡について

スタッフから 2 階ロビー(連絡・案内)及び、食堂前ホワイトボードにて通知。
候補者間:全体日直室前ホワイトボードを使用(壁への貼紙禁止)。

10. 各種提出物について

各種届け出(レポートを除く)は、全て黒又は青のペンで記入し鉛筆書きは不可とする。パソコン等で入力し印刷した物を提出する場合でも、氏名は必ず本人が手書きで記入。

11. 広報活動などへの協力について

訓練所は、派遣前訓練だけではなく、他の JICA 事業も行っており、外部の利用者も多数訪れる。また広報活動のために、候補者の協力(インタビューや寄稿等)を依頼することがある。また訓練中に記録のために写真を撮影し、広報用(パンフレット、機関誌等)に転用する場合もある。なお、写真使用に関して支障のある方は、事前にスタッフへ相談。

12. よろず相談室について

訓練中に直面するストレスや赴任にあたっての心配事・悩みなどを抱えている候補者に対する個別相談。希望者は相談室前の予約表に印をする。

■ 訓練生活全般

植木 温子

日 時: 原則として毎週月／木曜日 18:00～21:00

※生活関連実施要領の日程表 P.11、13 及び P.15 で来所日を確認すること。

場 所: よろず相談室

13. セクシャル・ハラスメント相談の窓口について

訓練所内で起きたセクシャル・ハラスメントに関し、以下の相談窓口を設けている。

■ 窓口

加藤訓練総括(内線 130) / 診療室 椎名スタッフ(内線 157)

14. 訓練所施設内の利用について

(1) 宿泊棟

- ① 部屋や共有部分は毎日清掃。
- ② 談話室(1号館)、洗濯場(2号館)の掃除用具は、随時使用可。
- ③ 節電・節水に心がける。
- ④ 異性の居室には入室しない。

居 室	<ul style="list-style-type: none"> ・火気厳禁 ・暖房器具、ドライヤーの使用は禁止 ・ドアや壁に資料等を貼らない ・電球等の交換は守衛室へ ・シーツ交換は毎週火曜日、各自で交換
談話室 トイレ 廊下	<ul style="list-style-type: none"> ・火気厳禁 ・壁や窓への貼り紙不可 ・暖房用の放熱板の上に荷物を置いたり、座らない ・マナーを守り、美化に努め、私物は放置しない ・ゴミは、「ごみの正しい分け方・出し方」を参考に分類する ・雑誌、段ボールはピロティ倉庫専用置場へ
洗濯室 乾燥室	<ul style="list-style-type: none"> ・使用後は、すぐに片づけ、他の候補者に迷惑をかけない ・乾燥室の除湿機は、常にスイッチを入れた状態にしておく
浴室	<ul style="list-style-type: none"> ・浴室使用後は洗面器やイスを元の場所に戻し、整理整頓に努める ・脱衣所に私物を放置しない ・ドライヤーの使用は原則脱衣所のみ

(2) 研修棟

- ① 私物は放置せず、必ず持ち帰る。
- ② 節電を心がける。

教室	・最終退出者は、窓の施錠・消灯・電気製品のプラグ抜きを確認し、ドアを開けた状態にする
生活技法室	・備え付けの食器や調理器具は使用可。ただし室外への持出し禁止 ・使用後は洗浄・乾燥後、原状復帰 ・火気(IHヒーター等)を使用する場合「火気類使用許可願」を事前提出(授業で使用する場合は担当講師が申請する。) ・使用の際には予約優先(スタッフルームに予約簿有)
セミナールーム	・使用の際には予約優先(スタッフルームに予約簿有)
体育館	・体育館用シューズを着用(入口下駄箱の利用可) ・使用後はモップで清掃 ・使用の際には予約優先(スタッフルームに予約簿有)
講堂	・使用後は机・椅子を整理する(椅子は引いた状態に戻す) ・使用の際には予約優先(スタッフルームに予約簿有)
小講堂	・ガラス、ピアノ破損防止のため、硬いボールの使用禁止 ・使用後、整理整頓、原状復帰 ・使用の際には予約優先(スタッフルームに予約簿有)
森のステージ	・ガラス、ピアノ破損防止のため、硬いボールの使用禁止 ・使用後はモップで掃除 ・ロフト部分にトレーニングマシン有 ・使用の際には予約優先(スタッフルームに予約簿有)
その他	・グラウンド、テニスコートも利用可(倉庫内の整理整頓)

(3) 設備の不具合等について

- ① 居室・語学教室備品、自動販売機、コピー機は守衛室へ連絡。
- ② 談話室プリンター、体育用品、自転車はスタッフルームへ連絡。

(4) コピー機について

2階ロビーに設置(用紙切れの際は守衛室へ連絡)。

(5) 喫煙所について

- ① 喫煙場所は1階ロビー裏、森のステージ前のみ。
- ② 喫煙所使用時間は5:30~22:30

(6) 新聞設置場所について

1号館 1階 A 談話室

(7) 郵便物・荷物等の受取及び発送について

- ① 受取り
 - ・通常郵便物は、全体日直室前の各班郵便ボックスから受取る。
 - ・小包は、守衛室にて受取る。
 - ・書留扱いの郵便物はスタッフルームで受取る。
 - ・クール便、着払い、代金引換等の対応不可。
 - ② 郵便等の発送は1階ロビー設置の郵便ポスト。
 - ③ 切手、葉書、絵葉書、現金書留封筒、レターパック(360円/510円)はスタッフルームにて販売。
- ※郵便物に氏名明記の無いものは受付にて受領せず、発送元へ返送しますのでご注意ください。

(8) 業者の出張販売等について(行事・業者の都合により変更あり)

- ① 販売日：火曜日 書籍・クリーニング
金曜日 書籍・クリーニング・雑貨・文具
証明写真の焼増しが必要な場合はスタッフルームへ申し出ること。
- ② 時間：12:20～12:55
- ③ 場所：小講堂

(9) 物品の貸し出しについて

- ① 全体日直室内の物品は使用可(寄贈品のため、補充不可)。使用の際は、全体日直室内の物品貸し出し簿に記入。
- ② 国旗を使用の際は、スタッフルーム内貸し出し簿に記入。
- ③ ピロティ倉庫内の物品(調理器具・食器・木工用品等)を使用の際は、スタッフルームにて鍵を受取り、物品を持出し、スタッフルーム内貸し出し簿に記入。
- ④ プロジェクター等のAV機器の貸し出しについてはスタッフルームへ。

(10) 反射たすき、エコバッグについて

- ① 暗くなってから外出する場合はスタッフルーム前および全体日直室に設置してある反射たすきを必ず利用すること。(夜間歩行時の事故防止のため)
- ② スタッフルーム前に設置してあるエコバッグは自由に利用可能。利用後は元の場所へ必ず返却すること。

(11) 自転車について

- ① 1階中庭軒下に自転車置き場あり。
- ② 全体日直室内の自転車使用簿に必要事項を記入し、鍵とヘルメットを借用する。
- ③ 利用前に自転車に破損や不具合がないかを確認すること。
- ④ 利用後は鍵とヘルメットを返却し、自転車使用簿に必要事項を記入する。
- ⑤ 破損や不具合がある場合は、速やかにスタッフルームへ報告すること。
- ⑥ 日をまたいでの貸出は禁止。

(12) 火気の使用について

- ③ 火気(オーブンレンジ・IHヒーター・ガスコンロ)を使用する場合は、スタッフルームに「火気類使用許可願」を提出(使用日の前日 17:30 までに提出。但し、日・月曜日使

用の場合は金曜日 17:30 までに提出)。

- ④ グラウンドなどの建物の外で煙が発生する火気使用の場合(改良かまど・燻製など)、上記許可願のほかに消防署へ提出する書類が必要となることから、実施 1 週間前までにスタッフルームへ相談。
- ⑤ 火気使用の当日、開始前後には守衛室(内線 600)へ連絡。

(13) 面会について

日課表にある面会時間のみ可。場所は原則として 2 階ロビーのみ。訓練所内を案内する場合は、事前に相談(課業時間中及び宿泊棟は不可)。

(14) 忘れ物について(毎週水曜日に処分)

全体日直室の「忘れ物ボックス」に入れる。貴重品はスタッフルームへ届ける。

15. 危険を伴うスポーツ等について

怪我をする可能性が高いスポーツ等は、万が一怪我を負った場合に、派遣延期および中止につながる為、訓練中に行うことは自粛する。また、車やバイク等の運転についても自粛する。

なお、千畳敷に関しては、「千畳敷散策届」を出発前までにスタッフルーム前「千畳敷散策届提出ボックス」に提出する。

16. JICA 環境方針について

JICA は国際協力に取り組む組織の社会的責任として、また、開発途上国の人々の生活の安全保障につながるものとして、環境保全、環境配慮に取り組んでいる。「JICA 環境方針」(P.41 参照)を読み、主旨を理解する。また、「JICA エコオフィスプラン」を策定し、省エネ活動(節電・節水)やゴミの分別などにも取り組んでいるので、訓練期間中はこれらに積極的に取り組む。

17. JICA ロゴについて

候補者が JICA ロゴを使用する場合は、デザインを変えたり、縦横の比率などを変えたりしないこと。

訓練運営上の組織および任務

1. 生活班の役割について

訓練中の共同生活を円滑に運営するために、班員は協力しあって訓練を有意義なものとする。

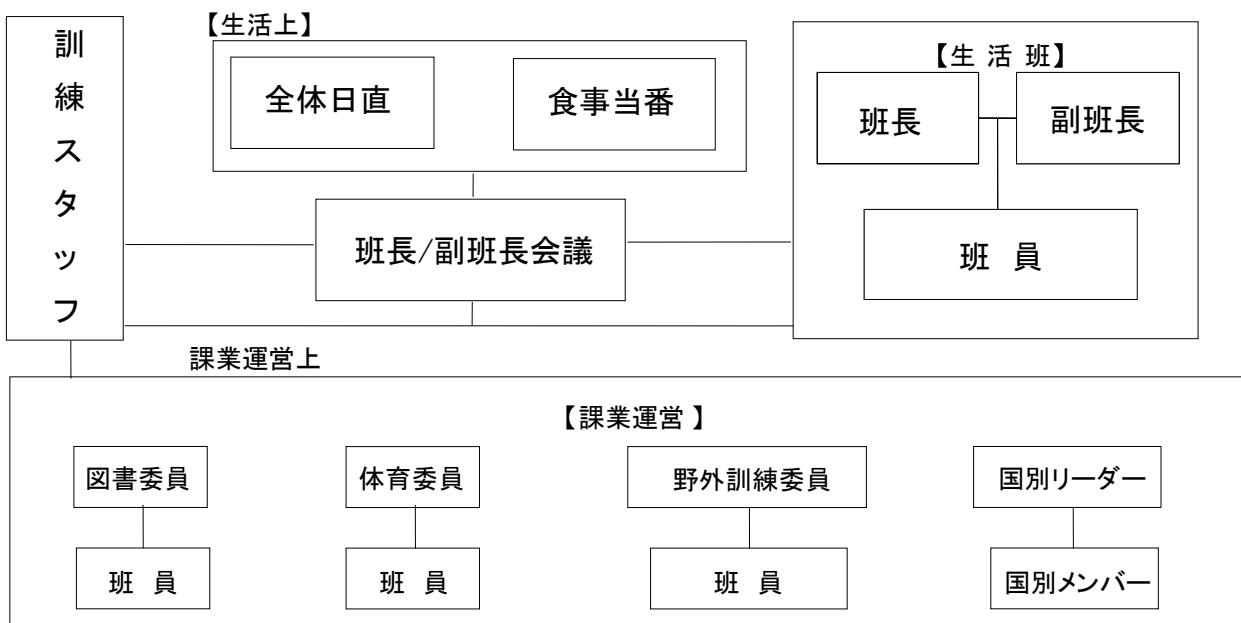
2. 訓練運営上の組織について

(1) 各班に以下の係りを置き、お互いに協力し合い円滑に訓練運営を行う。

- | | | | |
|----------|-------------|----------|-------------|
| ① 班長 | (生活班毎に 1 名) | ⑤ 体育委員 | (生活班毎に 1 名) |
| ② 副班長 | (生活班毎に 1 名) | ⑥ 全体日直 | (生活班毎に輪番制) |
| ③ 図書委員 | (生活班毎に 1 名) | ⑦ 食事当番 | (生活班毎に輪番制) |
| ④ 野外訓練委員 | (生活班毎に 2 名) | ⑧ 国別リーダー | (各派遣国に 1 名) |

※都合により、担当業務を実施できない場合は、必ず代理の人に行ってもらおう。

(2) 訓練運営上の組織



(3) 各種委員・係りの業務内容

委員・係・当番	主な担当	役割及び内容
班長 副班長	班長・副班長会議	・各班員の意見を班長間で調整し、円滑な訓練生活を図る ・毎週火曜日 17:10 より セミナールーム A にて開催
	班会議	・班会議の司会を務め、班員の意見を調整 ・班長・副班長会議での連絡事項を班員に伝達 ・原則として火曜日の班長会議後の夜間に実施する
	人員確認・災害時の避難誘導	・班員確認のため、朝・夜に人員確認を行うほか、災害時や緊急時にも班員を誘導し、人員確認を実施
	取りまとめ	・全体集合写真の注文・集金 ・救急法教本注文・集金 ・JOCV グッズ注文・集金 ・その他
体育委員	体育委員会	・原則として毎週火曜日 17:10 より、A 会議室にて開催
	講座関連	・体力測定、スポーツ大会、救急法講座、などの準備、運営、進行
野外訓練委員	野外訓練委員会	・原則として毎週火曜日 17:10 より 小講堂にて開催
	講座関連	・野外訓練の準備、運営 ・生活技法、グループ活動などの企画・運営
図書委員	図書委員会議	・図書資料室業務調整のための会議実施 ・不定期(日程表参照)に図書資料室にて開催
	図書貸出・返却	・図書資料の貸出、返却業務
	図書整理	・訓練スタッフの指示のもと、資料等の整理
国別リーダー	国別関連調整	・任国事情、国別ボランティア派遣概要の講師対応
全体日直	朝の集い・日直業務	・円滑な訓練生活を進められるよう各業務を担当 ・原則 1 週間の当番制
食事当番(朝・夕)	食器洗浄等	・食事後の片付けを行う(各当番班から 3 名、計 6 名) ・原則として 7 日ごとの当番制 ・週末の希望食においては、有志で実施

全体日直業務

1. 全体日直の役割について

候補者が円滑な訓練生活を進められるよう、各種担当業務を行う。

2. 主な役割分担

朝の集い、朝の運動業務・郵便関連・館内放送・週末希望食確認・帰寮確認・人員確認

3. 業務の流れ

時間	担当	業務内容
6:05～	全員	・集い場所決定、準備 (通常は玄関前、悪天候時は森のステージ)
	全体指揮	・スタッフからの連絡事項確認及び、人員確認表
6:10	新聞係	・新聞配布
	放送・記録	・朝の放送(日付・集い開催場所)
～6:30	全体指揮 放送・記録	・班長より人員報告を受ける
6:30～	全体指揮	・朝の集いを開始、人員報告
	放送・記録	・全体日直日誌に必要事項を記入
	国旗係	・国旗の紹介及び掲揚(日曜日も含)
7:10	全体指揮 放送・記録	・出席簿及び、全体日直日誌の提出
12:00	日直業務	・郵便物受け取り、配布、放送 ・たすき、エコバッグ確認 ・週末希望食確認(日曜日)
17:00	国旗係	・国旗降納
	日直業務	・郵便物受け取り、配布
17:45～	日直業務	・週末希望食確認(土曜日・日曜日)
19:00	日直業務	・帰寮確認、報告 (月曜日～金曜日)
22:00	日直業務	・帰寮確認、報告 (土曜日・日曜日)
22:40～	日直業務	・班長、副班長より報告を受け、守衛(内線 600)へ報告

朝の集い/運動について

1. 朝の集いの目的について

人員確認、規則正しい生活の習慣化、全体連絡を目的として実施。課業として、毎朝 6 時 30 分から朝の集いを行う(日曜日を除く)。また、体力向上を目的として継続的に運動を実施する。

2. 実施内容について

(1) 人員確認

- ① 集い開始前に班長が班員の人員を確認
- ② 班長は、全体日直係へ報告
- ③ 全体日直係がスタッフへ報告

(2) 国旗の説明および掲揚

- ① 平成 26 年度第 1 次隊の派遣対象国国旗(37 カ国)の説明および掲揚
(訓練修了日は日本国)
- ② 服装を整え、脱帽し、姿勢を正す(直立不動)

(3) ラジオ体操及び朝の運動

ラジオ体操第 1・2 を行った後、7 時 10 分までの約 30 分間ランニングを行う。

(4) 連絡事項

- ① 訓練日程・連絡を全体日直がまとめ、全体へ周知
- ② スタッフからの連絡事項

(5) 隊歌練習

・訓練 3 週目より、協力隊隊歌「若い力」の練習を実施

3. 国旗掲揚時の注意点

- (1) 諸外国においては自国の国旗や国歌に対する意識は非常に高く、敬意の念をもって厳粛に取り扱われている。
- (2) 国際人のマナーとして、国旗や国歌に関する作法を身につけるため、派遣前訓練でも同様に扱う。

図書資料室の利用

1. 開館期間 4月10日(火)～6月18日(金)
2. 開館時間 毎日 5:30～22:30
3. 貸出可能期間 4月14日(月)12:10～6月7日(土)12:50
(最終返却日は6月1日(土)12:50。以降は
閲覧のみ可能)
4. 貸出・返却受付時間 月曜日～土曜日
(昼)12:10～12:50/(夕方)17:10～18:00 図書委員対応
※ただし以下の時間帯はカウンター受付を行いません。
 - ・土曜日(夕方)、日曜日(終日)
 - ・野外訓練、所外活動および特別行事の日(終日)
 - ・中間試験および最終試験の日(昼)
 - ・課業後に講座、オリ等が実施される日(夕)
5. 利用要領及び注意事項

(1) 図書資料の貸出・返却手続きはカウンター受付時間のみ。

(2) 貸出・返却時には以下に示す期間と冊数に注意。

資料名	数量	貸し出し期間	資料名	数量	貸し出し期間
一般図書	3冊	1週間以内	語学テープ/CD	2本	1週間以内
地図	1種	1週間以内	DVD/ビデオ	2本	1週間以内

※ 「禁帯出」のシールが貼ってあるもの・定期刊行物は館内閲覧のみ可能。

メディアルームについて

1. 開館期間 4月10日(木)～6月18日(水)

2. 開館時間 毎日 5:30～22:30

3. ボランティア活動報告書

(1) 報告書の閲覧

報告書については、メディアルーム内に設置されている【HP Compaq Elite8300 Conbortible Microtower】(黒いタワー型 PC)ボランティア報告書検索システム内に保管されており、自由に閲覧可能。

(2) ボランティア報告書の検索システム

1. 使用する際は、設置されている使用手順を熟読した上で、電源の管理等、責任をもって使用し、トラブルが起こった場合は速やかに JICA 事務室(内線 122 及び 123)まで連絡。
※PC 横に置いてある使用手順を参照。

2. 同システムに格納されていない報告書の閲覧を希望する場合は、スタッフルームにある報告書閲覧申請書に必要事項を記入の上、提出。

(3) 報告書の複写について

1. 複写(データのコピー)は不可。
2. 印刷については、報告書(PDF)を直接開き印刷を実行する。
紙は各自で用意すること。
(ボランティア報告検索システムの印刷ボタンでは出来ません)
3. データの持ち出しは禁止。

- (4) その他不明な点は JICA 事務室(内線 122 及び 123)に相談。

4. その他

各国の映像による情報が視聴可能。また、設置されている PC も利用可能。
(無線 LAN 利用可能)
視聴覚用機器利用に関する詳細はメディアルームにあるマニュアルを参照。

ネットワーク・プリンタの利用

1. 利用目的について

訓練期間中の専門職種関連情報及び、任国情報の収集についてインターネットを介して補完することにより、任国での円滑な活動遂行の一助とすることを目的にネットワーク回線が利用可能。

※なお、当訓練所のネット環境下では、利用状況により繋がりにくいまたは繋がらないことが多々あります。

2. 利用できる施設及び設備について

(1) 無線 LAN について

1. 宿泊棟…各談話室にて無線 LAN の利用が可能。
2. 研修棟…語学教室も無線 LAN の利用が可能。
3. 但し、利用状況により繋がりにくいまたは繋がらないこともあり。有線 LAN も接続可能だが、LAN ケーブルに関しては講師の了解を得て使用。

(2) 共有フォルダへのアクセス方法

候補者の皆さんは訓練所ネットワーク内から接続可能な共有フォルダの利用が可能。

手順

1. エクスプローラーもしくはインターネットエクスプローラーを開く。
2. アドレスもしくは URL に下記アドレスを入力しエンターキーを押す。
¥192.168.1.220
3. 下記の 2 つのフォルダがあるか確認する。
ktcdorm-01 および ktcdorm-02
4. フォルダ「ktcdorm-01」には、各種提出書類様式・講座資料等、訓練所から提供するデータが格納されており、このフォルダは書き込み・削除ができない設定となっている。必要な様式を各自コピーして使用すること。
5. フォルダ「ktcdorm-02」には制限を設けておらず、ボランティア間の共有フォルダとして使用可能(容量:約 250GB)。

3. プリンタの利用について

用紙は各自の負担。インク切れまたはトラブルが発生した際は、スタッフルームまで報告。
プリンタ設置状況

設置場所	プリンタ
2A 談話室	XEROX DocuPrint3100
5B 談話室	XEROX DocuPrint3100

診療室関連

1. 訓練中の健康管理について

1) JICA ボランティア健康管理システム(別添参照)

JICA では、各ボランティアが派遣期間を通じて心身ともに健康な状態で業務を遂行できるように、様々な側面からボランティアの健康を支援しています。

JICA 健康管理課は、健康管理支援を統括して行っていますが、重要なことは「健康は自分自身で自己管理し守ること」です。

2) 訓練所診療室の役割

候補者の健康管理を支援

- (1) 派遣に向けての支援（健康相談・予防接種・保健衛生講座・健康管理オリエンテーション等）
- (2) 訓練中に発生した病気や怪我の対応、協力隊事務局との連絡・調整を行う。

2次選考の時点で、健康に問題がなく合格となった方でも、以下の状況になった時は派遣が不可と判断されることもあります。

- ・入所前または訓練中に発生した病気や怪我の治療が長引く場合。
- ・選考時に提出した「健康診断」及び入所前に送付した「予防接種および健康に関する問診票」に虚偽の申告をしていた場合。
- ・未申告の疾患があった場合、その既往歴に由来する問題が発生した場合。

残念ながら、健康問題で派遣が延期になったり、中止になったりする候補者が多いです。訓練中に外部受診をして、ある程度のデータや診断が出た時点で、協力隊事務局に報告をし、その報告を元に JICA 健康管理課顧問医が派遣に関する判断を行います。顧問医は開発途上国で2年間活動できるかということを基準に判断しますので、外部受診の結果と違ってくることもあります。

しかし、派遣の延期・中止に関しては、「顧問医の判断をふまえて協力隊事務局が決定する」ということを、理解して下さい。

3) 健康管理のポイント

- (1) 訓練生活のリズムをつかむ（適切な睡眠と休養、時間の使い方の工夫）
- (2) ストレスとうまくつきあう（ストレスは当たり前。気分転換し、頑張り過ぎない）
- (3) 病気や怪我の予防と早めの手当て（自己管理の徹底、結果を予測しての行動）
- (4) 自身の健康状態を把握し、基礎体力を増進、維持する（体温測定）

2. 病気の予防と早めの対処

1) 予防について

- ・各洗面所にはイソジンガーグル（うがい薬）が常備してあります。積極的にうがいと手洗いを行いましょう。

- ・ 集団生活のため、風邪やインフルエンザなどが蔓延する恐れがあります。状況に応じてマスクの着用をお願いいたします。
- ・ 各居室にある加湿器は添付資料を確認の上、使用してください（備品の紛失にご注意下さい）。
- ・ 感染性胃腸炎対策として、外出後及び食事前に石鹸を使った手洗いを励行してください。
- ・ アイスノンは談話室冷凍庫に配置してあるので、必要に応じて使用してください。
- ・ アレルギーのため、食事に制限のある方は、（予防接種および健康に関する問診票に申告した以外に）診療室まで申し出てください。
- ・ 自分には効果がある薬でも、他の人にも効果があるとは限らず、逆にアレルギーを起こす等の事故の可能性があるため、他人への薬の譲渡は慎んでください。
- ・ 体調について、気になることがある方は早めにご相談ください。

2) 救急箱の利用：下記の談話室

宿泊棟 1 号館	1 階	1-A 談話室
宿泊棟 2 号館	4 階	4-B 談話室

- ・ 各々の医薬品は添付文書等を参考に使用期限、用量、用法を確認した上で、正しく服用しましょう（添付文書を紛失しないこと）。
- ・ 薬が残り少なくなったら、診療室に申し出てください（補充します）。

3) 診療室の利用

診療室利用時間 月曜日～金曜日 8:30～17:45（13:00～13:45 は昼休み）

診療室スタッフは原則として土・日は不在

- ・ 救急箱の医薬品では対応できない場合、救急箱の医薬品を利用したが体調が改善しない場合は、診療室まで相談してください。
- ・ 診療室スタッフ不在時に急病人が発生した場合、状態を確認し訓練所スタッフまたは、守衛に連絡願います。

4) 訓練所顧問医への相談

顧問医来所時間 火曜日 16:00～17:45

- ・ 顧問医の来所時間は限られているため、相談希望者は早めに診療室に申し出てください。

5) 病気、怪我（歯科治療含む）による課業欠席及び外部医療機関の受診

- (1) 体調不良で課業を欠席する場合、「課業欠席願」を診療室または訓練所スタッフへ提出してください。
- (2) 外部医療機関の受診（以下「外部受診」）は、原則として課業時間外にお願いします（緊急時、顧問医の指示等による受診は例外となります）。
- (3) 課業時間内に外部受診をする時は、診療室にて「外来受診届」の手続き後、受診してください。再受診についても、同様の手続きが必要となります。
- (4) 夜間、休日に緊急に外部受診をする場合、本人または同行する方が、事前に守衛に連絡をしてください。

3. 予防接種について

別添「ボランティアの予防接種について」にて、予防接種についての内容を確認し、自分自身でワクチンの必要性および副反応を理解した上で、予防接種を受けるようにしてください。

- 1) 予防接種の種類と日程 別添「訓練中予防接種スケジュール」参照
 - ・派遣国の感染症流行状況に応じて一部、国別に勧奨している予防接種が異なります。
 - ・予防接種については、過去の予防接種歴や血液検査（B型肝炎抗体価検査）の結果により接種不要と判断されることがあります。その場合（予防接種が不要となる方）には、診療室スタッフから個別に通知をします。
- 2) 予防接種同意書の提出
 - ・別添「ボランティアの予防接種について」の内容を確認後、「予防接種同意書」に記入し、4月12日（土）の自己紹介の際に、提出してください。
- 3) 予防接種の方法
 - ・原則的には毎週火曜日 16:10 から講堂または診療室で実施します。実施前に「訓練中予防接種スケジュール」を確認してください。
 - ・毎回、MEDICAL INFORMATION を持参し、予防接種に関する情報を記入してください。
 - ・予防接種時の服装は、「腕まくりをして肩が完全に出る」様にしてください。「シャツ等が望ましいですが、前後の授業、着替えの時間等を考慮し各自で選択してください。
- 4) 予防接種に関する注意点
 - (1) 以下に該当する場合は、必ず当日の昼休み終了までに相談願います。
予防接種毎の間診は行わないため、必ず自己申告してください。
 - ・今までに予防接種をして、副反応、アレルギー反応を起こしたことがある。
 - ・予防接種当日に体調不良である。
 - ・発熱（37.2℃以上）がある。
 - ・現在、（予防接種および健康に関する問診票に申告した以外に）服用中の薬がある。
継続して内服治療中の方は、必ず主治医にご相談願います。
 - (2) 予防接種後の注意点
 - ・予防接種後は、激しい運動を避け安静にし、長湯は避ける。
 - ・飲酒は控える。
 - ・予防接種後に副反応が見られた場合には、診療室に報告する。
 - (3) 副反応については、別添「ボランティアの予防接種について」を参照してください。

4. 保健衛生講座について

（講座等実施要領「保健衛生講座」参照）

日本とは異なる自然・生活環境においても、健康を維持する自己管理能力を備えるため、以下の講座を実施します。

- 「歯科衛生」「精神衛生」「日本人の疾病動向と健康管理」「感染症」
- 「医療者特別講座（医療職種対象）」「婦人科（JOCV女性対象）」

5. 派遣前健康管理オリエンテーションについて

派遣前の健康管理オリエンテーションは、健康管理の支援制度の違いから、シニア海外ボランティアと青年海外協力隊とは別々に実施します。

オリエンテーション内容は、JICA の健康管理支援体制および赴任に向けての準備、訓練終了後から派遣までの健康管理の留意点、海外生活での健康管理の留意点、予防接種等について説明があります。

6. エピペンについて

蜂に刺され、ハチ毒によっておこる「アナフィラキシーショック」を一時的に緩和する緊急対応薬「エピペン（自己注射用アドレナリン注射液）」という医薬品があります。

森林、果樹、花卉、養蜂等に携わる職種の候補者がエピペンの処方希望する場合、その費用を JICA が補填します（交通費は自己負担になります）。

該当者には診療室から個別に連絡します。

7. 基礎体温の測定について（JOCV 女性対象）

基礎体温測定は、健康管理及び婦人科系に問題があるかどうかを判定する目的がありますので、測定は入所後も引き続き行ってください。

測定結果について、提出の必要はありませんが、測定内容について相談のある方は診療室にお越し下さい。

8. 各国の医療情報

全派遣国ではありませんが、任国の医療事情や医薬品等に関する情報が掲載されています。

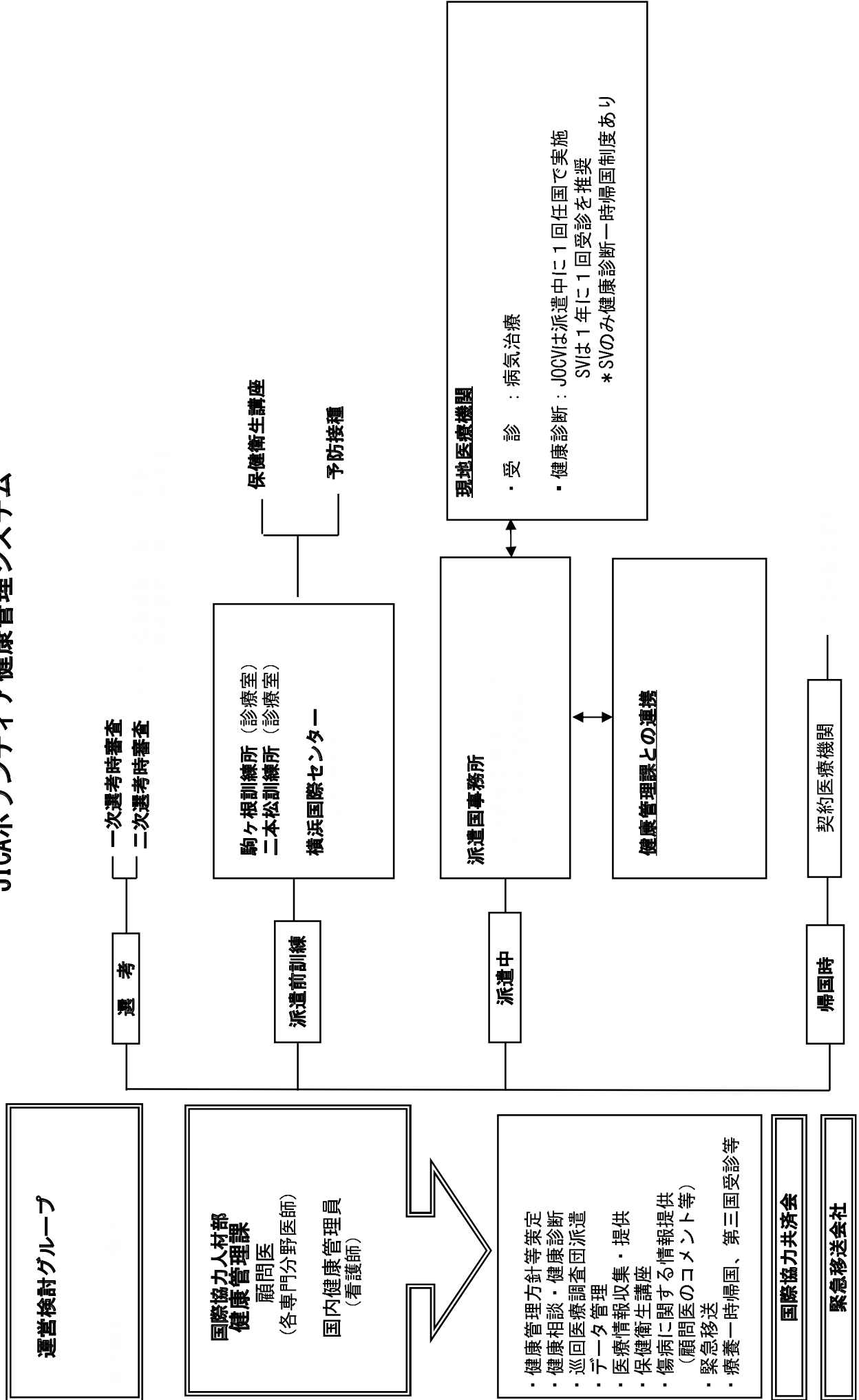
・ JICA ホームページ <http://www.jica.go.jp/>

事業・プロジェクト⇒JICA 図書館ポータル⇒国別医療事情

・ 検疫所 海外渡航者のための感染症情報 <http://www.forth.go.jp/>

以上

JICAボランティア健康管理システム



運営検討グループ

国際協力人材部
健康管理課
顧問医
(各専門分野医師)
国内健康管理員
(看護師)

- ・ 健康管理方針等策定
- ・ 健康相談・健康診断
- ・ 巡回医療調査団派遣
- ・ データ管理
- ・ 医療情報収集・提供
- ・ 保健衛生講座
- ・ 傷病に関する情報提供
(顧問医のコメント等)
- ・ 緊急移送
- ・ 療養一時帰国、第三国受診等

国際協力共済会

緊急移送会社

スタッフ一覧

	氏名	担当業務（役職）	海外勤務経験（ボランティアを含む）	JOCV 隊次／職種
J I C A ・ 支 援 職 員		所長		
		所長代理		
		業務課調査役		
		経理		
		診療室		
		診療室		
		語学訓練スーパーバイザー		
		市民参加協力・ 草の根・研修		
		市民参加協力・広報		
		庶務・文書関連		
		語学関連業務補助		
		国内協力員		
		国内協力員		
	国内協力員			
	IT 環境運用管理支援			
	車両管理			
	訓練総括			
	訓練 1 班 (生活班活動コース/健康 管理・安全管理コース)			
	訓練 2 班 (活動手法コース)			
	訓練 3 班 (社会的多様性理解)			
	総括責任者			
	主任業務調整員			
	訓練所顧問医			
	相談員			
	庁舎管理総括			
	調理主任			
	清掃主任			
	電気主任			
	機械主任			

国/班担当スタッフ一覧

訓練所では、訓練全般のコーディネーターとして下記の通り班別に担当スタッフを配置している。スタッフとの面談やグループワークなどを通じ、生活上の問題や課業上の問題を調整し、訓練生活を有意義に過ごせるようにする。また、事務局・国担当との連携を図れるよう担当スタッフを設ける。

班	女性	男性	合計	班担当スタッフ
1	13	9	22	
2	13	9	22	
3	12	9	21	
4	12	9	21	
5	13	9	22	
6	12	9	21	
7	13	9	22	
8	13	9	22	
9	13	9	22	
10	12	10	22	
計	126	91	217	

派遣国名	JOCV	SV	民運 ボ短	合計	訓練所内担当スタッフ	事務局国担当
	2	1	0	3		
	5	0	0	5		
	3	0	0	3		
	8	0	0	8		
	8	2	0	10		
	13	2	0	15		
	9	1	0	10		
	6	0	0	6		
	3	1	0	4		
	2	1	0	3		
	1	0	0	1		
	3	0	0	3		
	1	4	0	5		
	10	0	0	10		
	2	1	1	4		
	1	0	0	1		
	0	1	0	1		
	1	0	0	1		
	8	1	0	9		
	6	0	0	6		
	2	0	0	2		
	4	3	0	7		
	2	0	0	2		
	2	0	0	2		
	16	0	0	16		
	1	0	0	1		
	10	0	0	10		
	10	0	0	10		
	4	0	0	4		
	1	0	0	1		
	10	0	0	10		
	4	0	0	4		
	8	0	0	8		
	9	0	0	9		
	14	0	0	14		
	4	0	0	4		
	5	0	0	5		
合計	19	18	1	21		

1. 基本理念

この豊かな地球環境を次の世代へ引き継いでいくことは、私たち地球に生きる者全員に課せられた重大な責務です。

現在、この地球では人類の活動範囲・規模の拡大、内容の多様化に伴い、温暖化やオゾン層の破壊、大気・水・土壌の汚染、森林の減少、砂漠化など、人類の存亡にかかわる深刻な環境問題が生じています。

独立行政法人 国際協力機構（JICA）は、世界の一員として、社会の繁栄や持続的発展との調和を図りながら、人類や全ての生命にとって有益な地球環境の保全へ向けて最善を尽くします。

2. 基本方針

私たちは、独立行政法人国際協力機構法に明記された「開発途上地域の経済及び社会の開発若しくは復興又は経済の安定に寄与することを通して、国際協力の促進ならびにわが国及び国際経済社会の健全な発展に資する」という使命に基づき、環境関連の法規制を遵守しながら地球環境保全に貢献するとともに、自らの活動により生じる環境負荷を予防・低減するために、環境マネジメントシステムの活用を通じ、継続的にこれを改善していきます。

（1）国際協力を通じた環境対策の推進

政府開発援助（ODA）の実施機関として、我が国の援助政策を踏まえ、環境の保全や改善に貢献する協力を推進します。

- 開発途上国における環境保全に貢献する国際協力の推進
- 環境社会配慮ガイドラインの遵守による、開発事業等が引き起こす可能性のある環境影響の緩和

（2）環境啓発活動の推進

環境に関する知識・情報を集積し、人々の環境意識の向上を図ります。

- JICA の環境への取り組みの紹介等を通じた啓発・教育活動の展開
- 環境問題についての継続的な調査・研究の実施及び提言
- セミナー開催、オリエンテーションの実施等による、JICA 役職員、JICA 業務に従事する者に対する継続的な研修・訓練の実施

（3）オフィス及び所有施設における環境配慮活動の推進

事務・事業の活動から生じる環境負荷の軽減に向けて、環境に配慮した活動を推進します。

- 廃棄物の削減、省資源、省エネルギー、資源リサイクル活動の推進
- グリーン購入法等に基づく環境配慮物品の調達促進

（4）環境法規制等の遵守

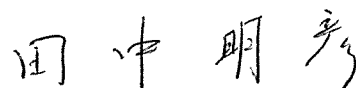
JICA が適用を受ける環境法規制等を遵守します。

この環境方針は全役職員及び関係者に周知徹底し、一般に公開します。

平成24年4月1日

独立行政法人国際協力機構

理事長



平成 26 年度 1 次隊 国別名簿

派遣国名	区分	氏名	氏名 (カナ)	性	職種/指導科目	隊員番号	班	居室
	JOCV						2	116
	JOCV						5	129
	SV						4	410
	JOCV						9	423
	JOCV						4	415
	JOCV						1	514
	JOCV						2	610
	JOCV						5	442
	JOCV						10	643
	JOCV						5	128
	JOCV						4	637
	JOCV						8	615
	JOCV						5	438
	JOCV						3	225
	JOCV						9	426
	JOCV						6	533
	JOCV						10	645
	JOCV						7	510
	JOCV						1	329
	JOCV						10	312
	JOCV						6	531
	JOCV						3	542
	JOCV						8	235
	JOCV						4	417
	JOCV						7	511
	JOCV						5	403
	JOCV						2	611
	SV						1	327
	SV						9	207
	JOCV						5	122
	JOCV						2	603
	JOCV						7	303
	JOCV						1	518
	JOCV						10	642
	JOCV						8	233
	JOCV						1	520
	JOCV						4	631
	JOCV						4	632
	JOCV						10	316
	JOCV						3	549
	JOCV						5	402
	JOCV						9	431
	SV						2	112
	SV						9	425
	JOCV						8	231
	JOCV						2	114
	JOCV						6	529
	JOCV						1	326
	JOCV						4	414
	JOCV						3	544
	JOCV						9	427
	JOCV						7	509
	JOCV						5	126
	SV						10	320

平成 26 年度 1 次隊 国別名簿

派遣国名	区分	氏名	氏名(カナ)	性	職種/指導科目	隊員番号	班	居室
	JOCV						10	311
	JOCV						7	507
	JOCV						6	218
	JOCV						3	546
	JOCV						1	523
	JOCV						2	121
	JOCV						6	530
	JOCV						3	227
	JOCV						4	638
	SV						6	215
	JOCV						1	328
	JOCV						7	309
	SV						4	409
	JOCV						1	525
	JOCV						2	601
	JOCV						1	515
	JOCV						7	308
	JOCV						4	630
	SV						8	614
	SV						7	504
	SV						2	606
	SV						3	229
	JOCV						5	124
	JOCV						2	115
	JOCV						3	223
	JOCV						6	534
	JOCV						8	234
	JOCV						3	545
	JOCV						8	620
	JOCV						10	650
	JOCV						9	208
	JOCV						6	221
	JOCV						7	505
	民連術短						8	618
	JOCV						9	205
	SV						5	437
	JOCV						9	429
	SV						8	333
	JOCV						3	550
	JOCV						3	539
	JOCV						4	411
	JOCV						2	605
	JOCV						5	440
	JOCV						10	647
	JOCV						1	526
	JOCV						9	211
	JOCV						6	220
	SV						7	302
	JOCV						4	629
	JOCV						6	535
	JOCV						10	317
	JOCV						7	512
	JOCV						2	612
	JOCV						8	625
	JOCV						8	619
	JOCV						9	212

平成 26 年度 1 次隊 国別名簿

派遣国名	区分	氏名	氏名(カナ)	性	職種/指導科目	隊員番号	班	居室
	JOCV						8	617
	JOCV						7	506
	JOCV						7	305
	JOCV						9	433
	SV						5	125
	SV						10	318
	SV						3	230
	JOCV						9	206
	JOCV						5	404
	JOCV						9	421
	JOCV						10	646
	JOCV						8	232
	JOCV						10	314
	JOCV						5	441
	JOCV						1	324
	JOCV						7	304
	JOCV						1	519
	JOCV						6	216
	JOCV						6	217
	JOCV						2	117
	JOCV						3	548
	JOCV						9	430
	JOCV						4	636
	JOCV						8	332
	JOCV						10	648
	JOCV						9	209
	JOCV						2	120
	JOCV						4	413
	JOCV						4	627
	JOCV						5	436
	JOCV						5	439
	JOCV						1	517
	JOCV						7	508
	JOCV						8	621
	JOCV						3	228
	JOCV						2	613
	JOCV						9	432
	JOCV						6	538
	JOCV						1	321
	JOCV						4	412
	JOCV						10	641
	JOCV						3	226
	JOCV						1	522
	JOCV						4	633
	JOCV						6	536
	JOCV						8	623
	JOCV						7	513
	JOCV						8	626
	JOCV						2	602
	JOCV						5	123
	JOCV						1	323
	JOCV						6	537
	JOCV						10	639

平成 26 年度 1 次隊 国別名簿

派遣国名	区分	氏名	氏名(カナ)	性	職種/指導科目	隊員番号	班	居室
	JOCV						10	313
	JOCV						6	528
	JOCV						1	322
	JOCV						8	616
	JOCV						3	543
	JOCV						2	609
	JOCV						10	644
	JOCV						8	330
	JOCV						5	401
	JOCV						1	524
	JOCV						6	527
	JOCV						3	224
	JOCV						4	634
	JOCV						9	210
	JOCV						5	434
	JOCV						6	213
	JOCV						1	516
	JOCV						2	608
	JOCV						8	331
	JOCV						7	307
	JOCV						4	635
	JOCV						10	319
	JOCV						7	501
	JOCV						4	628
	JOCV						9	204
	JOCV						1	521
	JOCV						7	306
	JOCV						3	547
	JOCV						2	118
	JOCV						5	130
	JOCV						8	624
	JOCV						5	435
	JOCV						10	640
	JOCV						3	222
	JOCV						7	503
	JOCV						3	541
	JOCV						9	422
	JOCV						2	604
	JOCV						1	325
	JOCV						9	428
	JOCV						4	416
	JOCV						10	315
	JOCV						6	219
	JOCV						8	622
	JOCV						2	119
	JOCV						7	502
	JOCV						2	607
	JOCV						6	214
	JOCV						10	649
	JOCV						3	540
	JOCV						9	424
	JOCV						6	532
	JOCV						5	127
	JOCV						7	310

平成 26 年度 1 次隊 班別名簿

班	区分	居室	氏名	氏名(カナ)	性	派遣国	職種/指導科目	隊員番号
1	JOCV	321						
	JOCV	515						
	JOCV	516						
	JOCV	322						
	JOCV	517						
	JOCV	518						
	JOCV	323						
	JOCV	324						
	JOCV	325						
	JOCV	326						
	JOCV	519						
	JOCV	520						
	SV	327						
	JOCV	521						
	JOCV	514						
	JOCV	328						
	JOCV	522						
	JOCV	523						
	JOCV	524						
	JOCV	329						
JOCV	525							
JOCV	526							
2	JOCV	601						
	JOCV	602						
	JOCV	603						
	SV	112						
	JOCV	114						
	JOCV	604						
	JOCV	115						
	JOCV	605						
	SV	606						
	JOCV	607						
	JOCV	608						
	JOCV	116						
	JOCV	609						
	JOCV	117						
	JOCV	610						
	JOCV	118						
	JOCV	611						
	JOCV	612						
	JOCV	119						
	JOCV	613						
JOCV	120							
JOCV	121							

平成 26 年度 1 次隊 班別名簿

班	区分	居室	氏名	氏名(カナ)	性	派遣国	職種/指導科目	隊員番号
3	JOCV	539						
	JOCV	540						
	JOCV	222						
	JOCV	541						
	JOCV	223						
	JOCV	224						
	JOCV	225						
	JOCV	542						
	JOCV	543						
	JOCV	544						
	JOCV	226						
	JOCV	545						
	JOCV	546						
	JOCV	547						
	JOCV	548						
	JOCV	549						
	JOCV	227						
	JOCV	228						
	SV	229						
	JOCV	550						
SV	230							
4	JOCV	627						
	JOCV	628						
	JOCV	411						
	JOCV	629						
	JOCV	630						
	JOCV	412						
	JOCV	413						
	JOCV	414						
	JOCV	415						
	JOCV	416						
	JOCV	631						
	SV	409						
	JOCV	632						
	JOCV	633						
	JOCV	634						
	JOCV	635						
	JOCV	417						
	SV	410						
	JOCV	636						
	JOCV	637						
JOCV	638							

平成 26 年度 1 次隊 班別名簿

班	区分	居室	氏名	氏名(カナ)	性	派遣国	職種/指導科目	隊員番号
5	JOCV							
	JOCV							
	JOCV							
	JOCV							
	JOCV							
	JOCV							
	SV							
	JOCV							
	JOCV							
	JOCV							
	SV							
	JOCV							
	JOCV							
	JOCV							
	JOCV							
	JOCV							
	JOCV							
	JOCV							
	JOCV							
	6	JOCV						
JOCV								
JOCV								
JOCV								
JOCV								
JOCV								
JOCV								
JOCV								
JOCV								
SV								
JOCV								
JOCV								
JOCV								
JOCV								
JOCV								
JOCV								
JOCV								
JOCV								
JOCV								
JOCV								

平成 26 年度 1 次隊 班別名簿

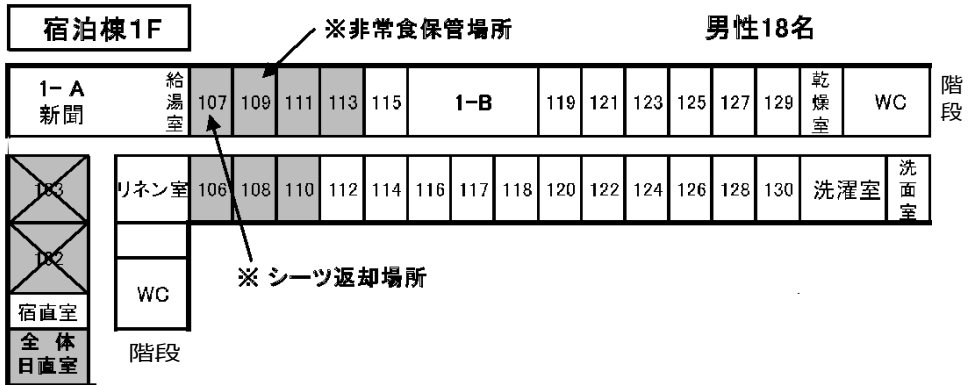
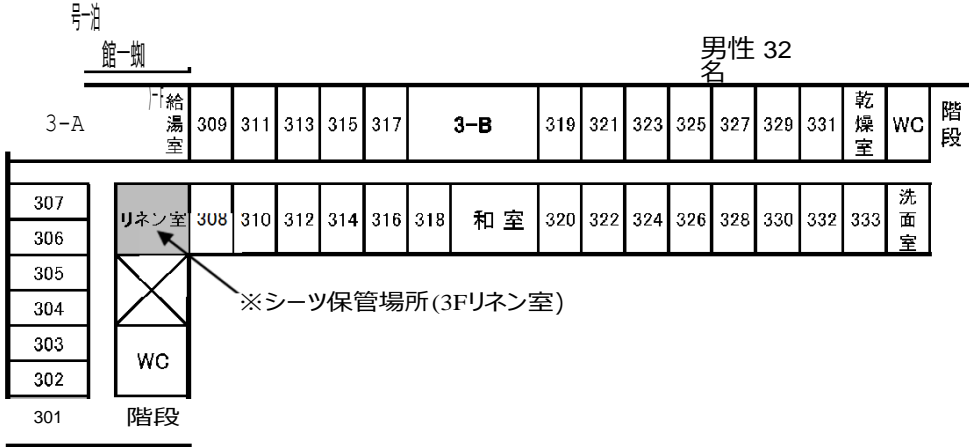
班	区分	居室	氏名	氏名(カナ)	性	派遣国	職種/指導科目	隊員番号
7	JOCV	501						
	JOCV	502						
	JOCV	503						
	SV	504						
	SV	302						
	JOCV	303						
	JOCV	505						
	JOCV	506						
	JOCV	304						
	JOCV	507						
	JOCV	305						
	JOCV	508						
	JOCV	509						
	JOCV	306						
	JOCV	307						
	JOCV	510						
	JOCV	511						
	JOCV	308						
	JOCV	512						
	JOCV	513						
JOCV	309							
JOCV	310							
8	JOCV	231						
	SV	614						
	JOCV	232						
	JOCV	615						
	JOCV	616						
	JOCV	617						
	民連水短	618						
	JOCV	233						
	JOCV	234						
	JOCV	619						
	JOCV	235						
	JOCV	330						
	JOCV	331						
	JOCV	620						
	JOCV	332						
	JOCV	621						
	JOCV	622						
	SV	333						
	JOCV	623						
	JOCV	624						
JOCV	625							
JOCV	626							

平成 26 年度 1 次隊 班別名簿

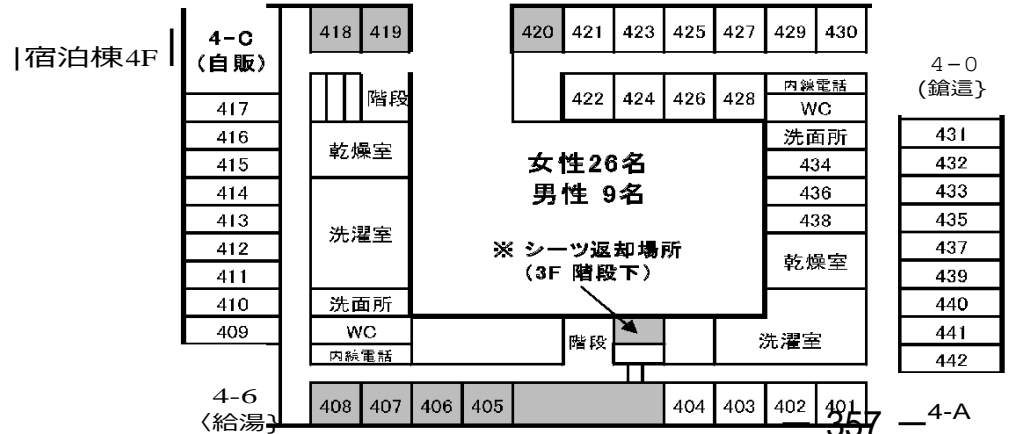
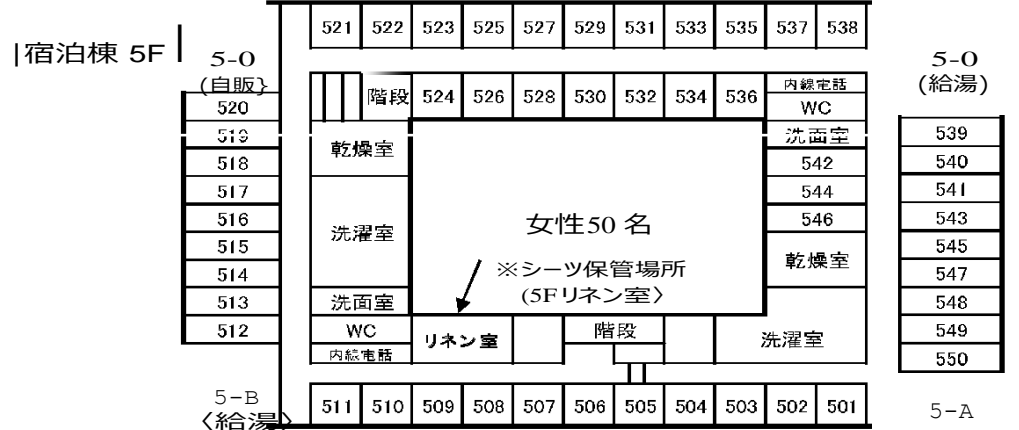
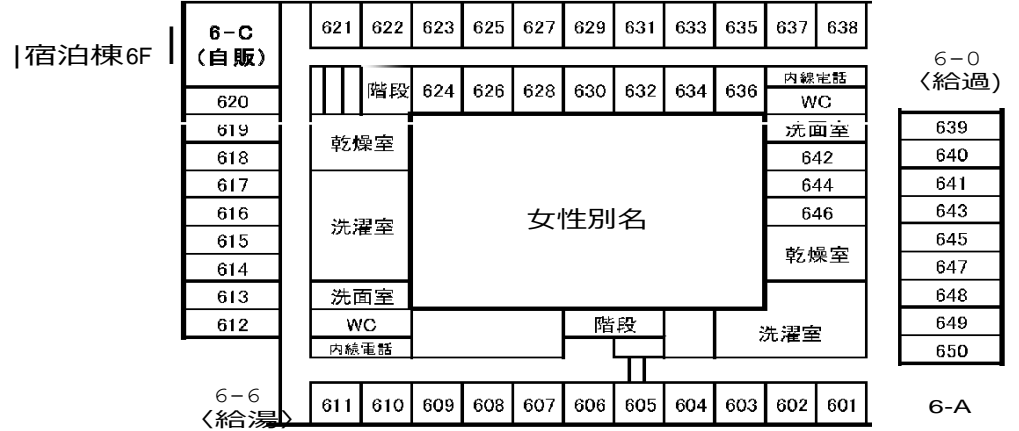
班	区分	居室	氏名	氏名(カナ)	性	派遣国	職種/指導科目	隊員番号
9	JOCV	421						
	JOCV	422						
	JOCV	423						
	JOCV	424						
	SV	425						
	JOCV	204						
	JOCV	426						
	JOCV	205						
	JOCV	427						
	JOCV	428						
	JOCV	429						
	JOCV	430						
	JOCV	431						
	JOCV	206						
	SV	207						
	JOCV	208						
	JOCV	209						
	JOCV	210						
	JOCV	432						
	JOCV	211						
JOCV	433							
JOCV	212							
10	JOCV	311						
	JOCV	639						
	JOCV	312						
	JOCV	313						
	JOCV	640						
	JOCV	314						
	JOCV	641						
	JOCV	642						
	JOCV	643						
	JOCV	644						
	JOCV	315						
	JOCV	645						
	JOCV	316						
	JOCV	646						
	JOCV	647						
	JOCV	317						
	SV	318						
	JOCV	648						
	JOCV	649						
	JOCV	650						
JOCV	319							
SV	320							

平成 26 第 1 次隊駒ヶ根訓練所宿泊棟部屋割り表

← 番号



< 2号館 >



訓練所への事前提出書類 チェックリスト

派遣前訓練に参加する青年海外協力隊(JOCV)

氏名:	受入予定国:	JOCV
職種:	本用紙発送日: 月 日 ()	
○をつけてください 二本松訓練所入所者 / 駒ヶ根訓練所入所者		
平日昼間連絡が取れる電話番号: - - 携帯・自宅・職場・その他 ()		

-注意-

- ・事前提出書類は、この【チェックリスト】とともに **6月13日(金) 必着**で、送付してください。
- ・指定期日に間に合わない書類がある場合は、ご自身が入所する訓練所の事前提出書類担当へ必ず電話連絡し、送付予定日をチェックリストに記入してください。 駒ヶ根訓練所 TEL:0265-82-6157、二本松訓練所 TEL:0243-24-3200
- ・全ての提出書類は、必ず A4 サイズの用紙を使用し、折り曲げないように提出ください。
- ・全ての書類の裏面左上に受入予定国・職種・氏名を鉛筆で記入してください。また封筒にも同様に記入してください。

同封する書類のみ、確認のチェック(✓)を記入してください。

	確認 (✓)	書類名
全員		1 この「事前提出書類チェックリスト」
		2 戸籍抄本
		3 派遣前訓練・研修 入退所赴任 旅費算出データ
		4 予防接種および健康に関する問診票

対象者		5 一般旅券 (パスポート) コピー (A4 用紙にコピー) (不所持の際は×を記入)	
	必ず ウェブ サイトで 提出	6 国内手当支給申請書	人件費補てんを取りやめて手当を支給申請する場合は、青年海外協力隊事務局計画課派遣班宛に送付ください。
		7 平成 26 年分給与所得者の扶養控除等 (異動) 申告書	公務員で「自己啓発等休業」措置で参加の方は 3 枚提出。
		8 帰国社会復帰手当支給申請書 (6月13日までに提出できない場合 月 日送付予定 最終締切 出発日)	
		9 退職証明書 (6月13日までに提出できない場合 月 日送付予定 最終締切 8月8日必着)	
		10 無給証明書 (6月13日までに提出できない場合 月 日送付予定 最終締切 8月8日必着)	
		11 英文各種証明書 (同封する書類を全て○で囲んでください) 英文卒業証明書、英文履修証明書 (専門)、英文成績証明書、英文専門医証明書、 教員免許状授与証明書 (英文翻訳付)、推薦状、その他 () (6月13日までに提出できない場合 月 日送付予定)	
		* 受入予定国によっては全員提出が必要な書類があります。必ずウェブサイト上で確認してください。 * 受入予定国事務所へ事前に英文証明書について何らかの照会をした方で、その際英文証明書提出は不要と指示があった方はその旨本紙余白に記載してください。	
		12 医療関係免許証コピー/英文医療免許証	
		13 平成 26 年分給与所得の源泉徴収票 (原本) (6月13日までに提出できない場合 月 日送付予定 最終締切 8月8日必着)	

(注1)「履歴書記入用紙」及び「履歴書用写真 JPEG データ」は、送付先が異なりますので、間違えて訓練所へ送付しないようご注意ください。

(注2) 全ての書類の裏面左上に受入予定国・職種・氏名を鉛筆で記入しましたか？また封筒にも同様に記入してください。

この用紙を同封し一番上にして提出ください。

訓練所への事前提出書類 チェックリスト

派遣前訓練に参加するシニア海外ボランティア(SV)

氏名：	受入予定国：	SV
職種：	本用紙発送日： 月 日 ()	
○をつけてください 二本松訓練所入所者 / 駒ヶ根訓練所入所者		
平日昼間連絡が取れる電話番号： - - 携帯・自宅・職場・その他 ()		

-注 意-

- ・事前提出書類は、この【チェックリスト】とともに **6月13日(金) 必着**で、送付してください。
- ・指定期日に間に合わない書類がある場合は、ご自身が入所する訓練所の事前提出書類担当へ必ず電話連絡し、送付予定日をチェックリストに記入してください。 駒ヶ根訓練所 TEL:0265-82-6157、二本松訓練所 TEL:0243-24-3200
- ・全ての提出書類は、必ず A4 サイズの用紙を使用し、折り曲げないように提出ください。
- ・全ての書類の裏面左上に受入予定国・職種・氏名を鉛筆で記入してください。また封筒にも同様に記入してください。

同封する書類のみ、確認のチェック(✓)を記入してください。

	確認 (✓)	書類名
全員		1 この「事前提出書類チェックリスト」
		2 戸籍抄本 (ご家族を随伴予定の SV は戸籍謄本)
		3 派遣前訓練・研修 入退所赴任 旅費算出データ
		4 予防接種および健康に関する問診票

対象者		5 一般旅券 (パスポート) コピー (A4 用紙にコピー) (不所持の際は×を記入)	
	必ず セットで 提出	6 国内手当支給申請書	人件費補てんを取りやめて手当を支給申請する場合は、青年海外協力隊事務局選考課派遣班に送付ください。
		7 平成 26 年分給与所得者の扶養控除等 (異動) 申告書	公務員で「自己啓発等休業」措置で参加の方は 3 枚提出。
		8 退職証明書 (6月13日までに提出できない場合 月 日送付予定 最終締切 8月8日必着)	
		9 無給証明書 (6月13日までに提出できない場合 月 日送付予定 最終締切 8月8日必着)	
		10 英文各種証明書 (同封する書類を全て○で囲んでください) 英文卒業証明書、英文履修証明書 (専門)、英文成績証明書、英文専門医証明書、 教員免許状授与証明書 (英文翻訳付)、推薦状、その他 () (6月13日までに提出できない場合 月 日送付予定)	
		* 受入予定国によっては全員提出が必要な書類があります。必ずウェブサイト上で確認してください。 * 受入予定国事務所へ事前に英文証明書について何らかの照会をした方で、その際英文証明書提出は不要と指示があった方はその旨本紙余白に記載してください。	
		11 医療関係免許証コピー/英文医療免許証	
		12 シニア海外ボランティア扶養親族の派遣前研修調書 (参加希望者のみ)	

(注1) 「履歴書記入用紙」及び「履歴書用写真 JPEG データ」は、送付先が異なりますので、間違えて訓練所へ送付しないようご注意ください。

(注2) 全ての書類の裏面左上に受入予定国・職種・氏名を鉛筆で記入しましたか？また封筒にも同様に記入してくだ

この用紙を同封し一番上にして提出ください。

自己評価シート

氏名:	派遣国:	職種:		入所時 自己評価 (5段階)	中間時 自己評価 (5段階)	修了時 自己評価 (5段階)
カテゴリ	JICAボランティアに 求められる能力・適 性	能力・適性の具体的内容	主な 該当コース	記入日	記入日	記入日
1.青年海外協 隊精神の理解 および実践力	1-1.JICAボランティア としての使命感	活動を通じて他者のために何らかの役にた ちたいという意欲。種々の困難に遭遇しても、最 後までやり抜く持続する情熱。 JICAボランティアとしての公人意識。	B.活動手法 D:社会的多様 性理解・活用力 E.生活班活動			
	1-2.国際協力及びボ ランティア事業の理解	国際協力の歴史や現状、日本のODAの歴史 と現状及びJICA事業・ボランティア事業の理 解。				
2.ボランティア 基礎力	2-1.主体性	様々な問題を自身の問題として捉え、自ら主 体的に取り組む意欲、力。 相手や周囲の人々にも働きかけを行う姿勢、 実践力。	B.活動手法 D:社会的多様 性理解・活用力 E.生活班活動			
	2-2.協調性	チーム(コミュニティ)のルールを遵守し、自身の言 動が周囲へ及ぼす影響を理解できる力。 周囲と協調して行動しようとする意志、意欲、 実践力。 円滑な人間関係を構築できる力(コミュニケー ション能力)。				
3.ボランティア 実務能力	3-1.発信力	説明内容を論理的に組み立て相手に分かりや すく説明・提案し、自己の意見を理解させよう 表現力、説得力。 適切な企画書・レポートを書く力。	B.活動手法 D:社会的多様 性理解・活用力 E.生活班活動			
	3-2.マネージメント力	課題を発見するために必要な知識、技能。 適切な目標を設定し、ロードマップを作成する 能力。 実施において進捗管理、振り返り、評価、軌道 修正する能力。				
4.異文化(他者) 理解・適応力	4-1.相手国理解と適 応	異文化社会における行動様式(生活、慣習、宗 教、ルール等)を観察、理解、尊重する姿勢。	B.活動手法 D:社会的多様 性理解・活用力			
	4-2.日本(人)理解	日本の代表として、日本の歴史・社会・文化を 紹介できる知識、愛国心。				
5.危機管理能力	5-1.健康管理能力	日本とは異なる自然・生活環境の下でも 健康を維持する自己管理能力。 疾病とその予防知識。 ストレスマネージメント力及び基礎体 力。	C.健康管理・安 全管理			
	5-2.安全管理能力	日本とは異なる交通事情を理解し、交通 事故を予防する知識。 防犯対策、テロ対策等の安全管理知識。 安全対策に対する高い意識を維持し、実 践する力。				
* 評価は各項目5段階評価			計			

ボランティア適性 5段階評価基準

～「目標管理シート」の有効活用のために～

【評価段階の選択のポイント】

段階	判断のポイント
5	申し分なくできている ・率先垂範し、水準以上の適性を有している ・他者への模範になっている
4	良くできている ・生活、受講態度など立派で優れた適性を有している ・独力で出来ている
3	ほぼできている ・完全ではない、独力で出来ていない、多少のミスがあった ・概ねで来ているが、何か改善点がある
2	あまりできていない ・「出来ていない」状況が「出来ている」状況よりも多い ・ミスが多く、他者の支援が必要 ・改善には意識して取り組む必要がある
1	できていない ・能力、適性がまだ十分に備わっていないので、かなりの努力 が望まれる

【目標管理シート運用方法】

- 10項目について自己分析をし、そのうち3項目について、目標管理を行って行く。また、個人面談においては、自己評価、目標、計画等を訓練スタッフに説明する。
- 『自己評価』の欄には、入所時、中間時、修了時の3回の評価を記入する(5段階評価基準を基に評価する)。10項目の『JICAボランティアに求められる能力・適性』がどのレベルなのか評価する(計画の達成度を評価するのではない)。
- 入所時個人面談までに、『入所時自己評価』、『入所時評価の根拠』、『訓練修了時の最終目標』、『中間時までの行動計画』を記入する。
- 書き方のポイント
 - ①『最終目標』は、「訓練修了時にどんな状態になりたいか」を具体的に。
 - ②『行動計画』は、行動・数値で評価可能なものを設定。
 - ③『事実の積み上げ』は、実際に実施した、或いは達成したことのみならず、実施できなかった、或いは達成できなかった原因等を記入することも可。

以上

目標管理シート

氏名: 派遣国: 職種:

伸ばしたい適性・能力 記入日	入所時評価の根拠 記入日	訓練修了時の最終目標 記入日	中間時までの行動計画 記入日	中間時までの事実の積み上げ	修了時までの行動計画 記入日	修了時までの事実の積み上げ